

第二十七條 支出官經費支拂上被詐取ノ事實ヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ詳記シ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ缺損金ヲ補填スル必要アルトキハ缺損補填金支拂要求書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第四章 國有財產

第二十八條 大林區署長ハ國有林野ニ屬スルモノヲ除ク外毎年一回國有財產ノ實地檢査ヲ行フヘシ増減變更ノ場合亦同シ

第二十九條

大林區署長國有財產法第四條但書ニ依リ公用財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ農商務大臣ニ經何スヘシ但期間三箇年ヲ超エサルモノハ大林區署長ニ於テ之ヲ處理シ其ノ旨ヲ報告スヘシ
第三十條 大林區署長ハ國有林野ニ屬スルモノヲ除ク外國有財產臺帳ノ總括各二通及毎年度間ニ於ケル國有財產増減報告書三通ヲ翌年度六月二十日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第三十一條

大林區署長ハ國有林野ニ屬スルモノヲ除ク外毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財產現在額報告書三通ヲ其ノ年七月二十日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第三十二條

國有財產法施行令第三十五條ノ國有財產増減計算書ハ計算證明規程第六十九條ニ依リ調製シ左ノ期日迄ニ大林區署長ヨリ直ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ
四月乃至九月分 十月三十一日限
十月乃至三月分 翌年度四月三十日限
前項ノ計算書ニ添附スヘキ證據書類ハ左ニ掲クルモノニ限

リ計算證明規程第七十三條ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
一 貸付及準貸付ニ付テハ面積一町歩ヲ超エサルモノ
二 賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約並保管、委託及部分林設定ニ付テハ面積五町歩ヲ超エサルモノ
三 營林財產ヲ雜種財產ニ、雜種財產ヲ營林財產ニ變更シタルモノ
四 營林財產及國有林野タル雜種財產ヲ公用財產、公共用財產及他省主管ノ雜種財產ニ管理換ヲ爲シタルモノ
五 脫落地ヲ國有林野ニ編入シタルモノ

第五章 物 品

第三十三條 物品ノ出納ハ出納命令官ノ命令ニ依リ物品會計官又ハ林產物品會計官吏之ヲ行フヘシ但シ買入後直ニ消費スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 保管轉換、贈與、賣拂等ニ依ル拂出ニ付テハ決議書ヲ以テ前條ノ命令ニ代フルコトヲ得

第三十五條 物品ハ左ノ類別ニ依リ之ヲ取扱フヘシ
一 保存品
二 消耗品
三 事業材料品
四 林產物品

第三十六條 左ニ掲クル物品ハ特別用文具トシテ供用セシムルコトヲ得
一 國有財產臺帳用及製圖用ノ筆、ペン先、ペン軸、鉛筆、墨、朱墨、文鎮、定木、尺度、烏口、コンパス、留針、字消ゴム
二 簿記製表用ノペン先、ペン軸、インキ、押紙、丸定木

第四十一條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長物品ノ買入、修繕又ハ不用物品ノ賣拂ヲ爲シタルトキハ其ノ署物品取扱主任ヲ以テ受入又ハ拂出ノ手續ヲ爲サシメ連署ヲ以テ大林區署長ニ報告スヘシ但シ買入後直ニ消費スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
出納命令官ハ前項ノ報告書ヲ以テ出納命令書ニ代ヘ物品會計官吏ヲシテ出納ノ手續ヲ爲サシムヘシ
第四十二條 物品ノ修繕ヲ要スルトキハ物品取扱主任ノ保管ニ屬スルモノニ付テハ物品取扱主任其ノ他ノモノニ付テハ物品會計官吏之ヲ出納命令官ニ請求スヘシ
第四十三條 物品會計官吏圖書ヲ貸付セムトスルトキハ借覽者ヨリ圖書借覽證書ヲ徵スヘシ但シ各課、小林區署及公有林野官行造林署ノ常用ニ供スル圖書ハ各課長又ハ當該林區署長ヨリ之ヲ徵スヘシ
前項本文ノ場合ニ於テハ其ノ貸付期間ハ三十日以内トス但シ公務旅行ノ爲携帶ヲ要スル圖書ニ付テハ其ノ出張期間内トス
前項貸付期間經過後繼續シテ貸付セムトスルトキハ更ニ第一項ノ手續ヲ爲スヘシ
第四十四條 前條第一項但書ノ場合ニ於テ課長又ハ當該林區署長交替シタルトキハ後任者ハ圖書ノ引繼ヲ受ケ其ノ授受報告書ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ此ノ場合ニ於テハ該報告書ヲ以テ後任者ノ借覽證書ト看做ス
第四十五條 物品會計官吏圖書ノ還付ヲ受ケタルトキハ其ノ借覽證書ヲ返付スヘシ但シ前條ニ依リ引繼アリタル圖書ノ還付ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ交付スヘシ
第四十六條 物品取扱主任交替シタルトキハ後任者ハ物品ノ

三 辭令書用ノ筆、墨
四 複寫版用ノ筆、インキ、海綿
五 議事用及野帳筆記用ノ鉛筆
六 標柱記載用ノ筆、墨、硯石
第三十七條 物品會計官吏又ハ林產物品會計官吏納入ノ命令ヲ受ケタルトキハ現品受領ノ手續ヲ爲シ其ノ買入ニ係ルモノハ關係書類ニ出納簿記入年月日ヲ附記シテ支出官ニ之ヲ送付シ、保管轉換、寄贈及返納等ニ係ルモノハ領收證書ヲ發送スヘシ
第三十八條 物品取扱主任物品ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ保存品及事業材料品ニ付テハ其ノ都度、消耗品ニ付テハ毎三箇月ノ所要數量ヲ概算シ出納命令官ニ請求スヘシ
小林區署及公有林野官行造林署ニ於テ常時使用スル消耗品ニ付テハ出納命令官ハ前項ノ請求ヲ俟タズ豫メ半箇年度ノ所要數量ヲ概算シ拂出命令ヲ發スルコトヲ得
第三十九條 物品會計官吏又ハ林產物品會計官吏拂出命令ヲ受ケタルトキハ現品ヲ受取人ニ交付シ其ノ領收證書ヲ徵スヘシ
小林區署又ハ公有林野官行造林署其ノ他遠隔ノ地ニ於テ物品ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ領收證書ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ
第四十條 物品會計官吏ヨリ受領シタル物品不用ニ歸シタルトキハ其ノ物品ノ受領者ハ物品會計官吏ヲ經テ其ノ返納書ヲ出納命令官ニ差出スヘシ
小林區署又ハ公有林野官行造林署其ノ他遠隔ノ地ニ在ル物品不用ニ歸シタルトキハ其ノ物品ノ受領者其ノ處分ニ付テ出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ但シ當該林區署長ノ權限ニ屬スルモノニ付テハ其ノ指揮ヲ受クヘシ

引繼ヲ受ケ前任者ト連署シテ其ノ旨ヲ物品會計官吏ニ報告スヘシ

第四十七條 物品取扱主任物品ヲ使用セムトスル者ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ記入捺印セシメ現品ヲ交付スヘシ但シ領收證書ヲ徴シタルトキハ帳簿ニ相當ノ記入ヲ爲スヘシ

物品取扱主任物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ其ノ旨ヲ記入シ領收證書ヲ徴シタルモノハ之ヲ返付スヘシ

第四十八條 事業材料品ヲ以テ事業用ノ物品ヲ作製シタルトキハ物品取扱主任又ハ物品會計官吏連署ナク其ノ旨ヲ出納命令官ニ報告スヘシ

第四十九條 物品取扱主任ハ公務旅行者、保護區詰員、擔當區詰員及事業場詰員ノ請求ニ依リ郵便切手類ノ概算渡ヲ爲スコトヲ得

郵便切手類ノ概算渡ヲ受ケタル者ハ公務旅行者ニ在リテハ歸署後三日以内ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ翌月三日迄ニ明細書ヲ調製シ精算ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十條 物品取扱主任ハ毎年三月末日保管物品ノ狀況、使用ノ適否及現在數ヲ検査シ其ノ調書ヲ翌月五日迄ニ物品會計官吏ヲ經由シ出納命令官ニ提出スヘシ

第五十一條 物品會計官吏、林産物品官吏及物品取扱主任ハ各其ノ保管スル物品ニ付保管ノ責任ニ任ス但シ使用者ニ交付シタル物品ニ付テハ監督ヲ怠リタル場合ノ外其ノ責任ニ任セ

第五十二條 故意又ハ怠惰ニ因リ物品ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ物品又ハ代價ヲ以テ之ヲ辨償スヘシ

第五十三條 物品ノ亡失又ハ毀損アリタルトキハ各保管者連署シテ其ノ事實ヲ出納命令官ヲ經由シテ大林區署長ニ具申スヘシ

第六十條 工率ノ請負契約ヲ結フ場合ニ於テ保全期間ヲ定ムル必要アルトキハ該期間契約保證金ノ全部又ハ一部ヲ留保スヘキコトヲ契約スヘシ

第六十一條 建築又ハ土木等ノ工事ニ付特ニ監督又ハ検査ヲ命セラレタル者ナキ場合ニ於テハ其ノ契約ヲ結ビタル林區署長之ヲ監督シ工事竣功シタルトキハ請負人ヨリ其ノ竣功ハ承認書ヲ交付シテ物件ヲ受領スヘシ

第六十二條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長物件ノ賣買又ハ工事ノ請負ヲ競争ニ付スル必要アリト認ムルトキハ公告案、契約書案、豫定價格調査、注文書、設計書、任譯書等ヲ添ヘ大林區署長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ其ノ權限ニ屬スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長契約ヲ結ビタルトキハ遲滞ナク關係書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

第六十四條 大林區署長土地及建物ノ借入又ハ造林用苗木購入ノ爲豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ結ハムトスルトキハ土地及建物ノ借入ニ付テハ五箇年以内、苗木購入ニ付テハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ土地及建物ノ借料又ハ苗木購入代ノ次年度以降各年度ニ於ケル年額カ契約ヲ結フ年度ノ豫算定額又ハ認可ヲ受ケタル豫定案總括表ニ記載セル金額ニ超過セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十六條 借入タル物件ノ貸主ニ變更アリタルトキハ當該林區署長ハ其契約ヲ更改スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貸主ノ請書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

第六十七條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長地上權又ハ地役權ノ設定ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ大林區署長ニ具申スヘシ貸借ノ登記ヲ要スルトキ亦同シ

第六十八條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長借入物件ヲ返還シタルトキハ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ但シ其ノ權限ニ屬セサルモノニ付テハ領收證書ヲ添付スヘシ

第六十九條 附箋ニ依リ又ハ餘白ニ記載シテ契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ契約者雙方ノ捺印ヲ要ス

第七十條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十一條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十二條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十三條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十四條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十五條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十六條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十七條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十八條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第七十九條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

第八十條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ大林區署長遲滞ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

出納官吏ニ對シ私訴ヲ提起シタルトキハ訴狀ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ判決確定シタルトキ亦同シ

第七十一條 分任收入官吏ハ出納官吏事務規程第二十四條第一項ノ現金拂込仕譯書ヲ翌月一日迄ニ主任收入官吏ニ送付スヘシ分任收入官吏現金出納ヲ爲ササルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第七十二條 分任收入官吏ハ計算證明規程第五十條ノ書式ニ準シ現金出納計算書ヲ調製シ證書類及檢定書ヲ添ヘ翌年度四月十五日迄ニ之ヲ主任收入官吏ニ送付スヘシ

第七十三條 主任收入官吏交替アリタルトキハ分任收入官吏ハ其ノ交替當日迄ニ取扱ヒタル出納ニ付十五日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ分任收入官吏交替シタルトキ亦同シ

第七十四條 資金前渡官吏前渡金ノ支拂ヲ請求スルトキハ其ノ科目ヲ明記スヘシ

第七十五條 資金前渡官吏誤拂過渡ヲ發見シタルトキハ遲滞ナク回收ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條 出納官吏事務規程第三條但書ニ依リ預託シタル保管金ニ對スル利子ヲ生シタルトキハ資金前渡官吏之ヲ歳入ニ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十七條 歳入歳出外現金出納官吏ハ計算證明規程第五十條ニ依リ歳入歳出外現金出納計算書ヲ調製シ證書類及檢定書ヲ添ヘ翌年度四月十五日迄ニ大林區署長ニ送付スヘシ歳入歳出現金出納官吏交替シタルトキハ十五日以内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

大林區署長前項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢査シ檢査成績報告書ヲ調製シ十五日以内ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第八章 帳簿

前二項ノ規定ハ入札保證金其ノ他一時ノ取扱ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

第七十八條 大林區署長ハ林産物品ニ付テハ毎年度第一期トシ其ノ他ノ物品ニ付テハ四箇年度第一期トシ其ノ次期ノ初メニ於テ檢査員ヲシテ其ノ物品並前期間ニ於ケル帳簿及證書類ヲ檢査セシメ其ノ調書ヲ提出セシムヘシ

第七十九條 大林區署長ハ翌年度四月三十日迄ニ物品出納簿ニ依リ林産物品外ノ物品出納ヲ檢査シ出納簿ノ末尾ニ檢査ノ旨及其ノ年月日ヲ記載シ記名捺印スヘシ

第八十條 大林區署長ハ前二條ニ依リ檢査ヲ完了シタルトキハ檢査成績報告書ヲ調製シ十五日以内ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第八十一條 物品會計官吏又ハ林産物品會計官吏交替シタルトキハ大林區署長ハ三十日以内ニ前三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八十二條 歳入徴收官ハ徴收簿ノ外左ノ帳簿ヲ設ケ收入ノ計算ヲ整理スヘシ

一 歳入調定原簿
二 歳入年額臺帳
三 收入延納臺帳

第八十三條 支出官ハ支出簿ノ外左ノ帳簿ヲ設ケ經費ノ計算ヲ整理スヘシ

一 經費支出内譯簿
二 資金前渡金整理簿
三 概算支出金整理簿

第八十四條 出納官吏ハ現金出納簿ノ外現金出納内譯簿ヲ設ケ現金出納ノ計算ヲ整理スヘシ

第八十五條

大林區署ノ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ物品ノ出納ヲ整理スヘシ

一 物品出納簿
二 保用品、消耗品及事業材料品ニ類別シ各別冊トス
三 供用品人別簿
四 圖書目錄簿
五 圖書貸付簿
六 製材所ノ物品會計官吏ハ物品出納簿ノ外左ノ帳簿ヲ設ケ物品ノ受拂ヲ整理スヘシ

一 消耗品受拂簿
二 事業材料品受拂簿
三 郵便切手受拂簿

第八十六條 林産物品會計官吏ハ林産物品出納簿ヲ設ケ其ノ出納ヲ整理スヘシ但シ國有林野事業規程第四十六條第二號乃至第四號ノ製品受拂及第三號ノ原料受拂ニ關スル實行簿ヲ以テ出納簿ニ代フルコトヲ得

第八十七條 物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ設ケ物品ノ受拂ヲ整理スヘシ

一 保用品受拂簿
二 消耗品受拂簿
三 事業材料品受拂簿
四 郵便切手受拂簿

第八十八條 保管有價證券取扱主任官ハ保管有價證券受拂簿ヲ設ケ政府ノ保管ニ係ル有價證券ノ受拂ヲ整理スヘシ

第八十九條 大林區署長ハ左ノ帳簿ヲ設ケ借入物件ノ増減ヲ整理スヘシ

一 民有土地借入臺帳
二 民有建物借入臺帳

第九十條

小林區署長及公有林野官行造林署長ハ左ノ帳簿ヲ設ケ收入及經費ノ計算並借入物件ノ増減ヲ整理スヘシ

一 歳入徴收額整理簿
二 收入年額臺帳
三 收入延納臺帳
四 經費整理簿
五 民有土地借入臺帳
六 民有建物借入臺帳

第九章 雜則

第九十一條 保管有價證券取扱主任官ノ保管ニ係ル國債カ政府ノ所得ニ歸シタルトキハ大林區署長ハ國債買入銷却方ヲ農商務大臣ニ請求スヘシ

第九十二條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長建物ノ營繕ヲ要スルモノアルトキハ其ノ箇所ノ仕様及工費ノ概要ヲ調査シ圖面ヲ要スルモノハ之ヲ添ヘ毎年度四月十日迄ニ之ヲ大林區署長ニ具申スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルモノニ付テハ其ノ都度當業者ノ見積書ヲ添附シテ具申スヘシ

第九十三條 明治三十八年農商務省令第二十八號ニ依リ不動産ヲ擔保トシテ提供セシムル場合ニ於テハ登記請求書ニ通シ但シ不動産ノ價格ハ時價ノ七割ヲ以テ算定スヘシ

第九十四條 本規程ニ依ル書類及帳簿ノ様式ハ山林局長之ヲ定ムヘシ

附則
本規則ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
大林區署長ハ大正十一年四月一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書三通ヲ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ農商務大臣ニ

提出スヘシ
(別記)

大正何年度歳入徴收額集計書 (何年何月分)

科 目	一 廉金額	面積	材積	件數	金額
經常部					
官業及官有財産收入					
森林收入					
木竹拂下代	千圓未満				
	五百圓以上				
	三百圓以上				
	百圓以上				
	百圓未満				
林野拂下代	千圓未満				
	七百圓以上				
	五百圓以上				
	三百圓以上				
	百圓以上				
	百圓未満				
地所貸下料	百圓未満				
辨 價	千圓未満				

備考	盜難品賠償	金 金	誤伐	償金	土地	償金	却金	毀損	其品	臨時部	官有物拂下代	物品拂下代
斫伐製品拂下代、製材所製品拂下代ハ木竹拂下代ノ例ニ依リ、雜種物拂下代ハ同例ノ内材積ヲ除キ、違約金(入札保證金、契約保證金、產物搬出延期違約金、其ノ他)及雜收(砂鐵採取料、臺帳謄本料、其ノ他)等ハ辨償金ノ例ニ依ル											五百圓ヲ超	エサルモノ

● 營林局署旅費規則

大正十四年十一月
農林省訓令第五號

〔沿革〕 昭和五年五月農林省訓令第五號改正
第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル用務ニ依リ營林局員其ノ管

内ヲ旅行シ又ハ營林署員其ノ管外ヲ旅行スルトキハ甲號表ノ日額ヲ支給ス但シ沖繩及小笠原營林署管内ノ旅行、在勤廳所在市町村ト用務地市町村間ノ旅行、滞在ヲ要スル用務地市町村間ノ旅行若ハ用務地市町村間ノ一旅行ニシテ陸路三里以上、鐵道二十六料以上、水路十海里以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 存廢區別又ハ處分調査
二 測量又ハ境界査定
三 施業案ノ編成又ハ檢訂
四 土木ノ事業又ハ其ノ設計
五 公有林野官行造林候補地ノ實査
六 造材、斫伐又ハ收穫豫定案ノ編成又ハ實行
七 開墾適地ノ調査

第二條 營林署員其ノ管内ヲ旅行シ其ノ行程二里以上ニ互ルトキ又ハ行程二里未満ナルモ其ノ行程一里以上ノ地ニ宿泊ヲ要スルトキハ甲號表ノ日額ヲ支給ス但シ鐵道、軌道法ニ依リ軌道又ハ水路ノ旅行ヲ爲シタルトキハ内國旅費規則ニ準シ乘車賃、船賃ヲ、營林局長必要アリト認ムルトキハ車馬賃ノ實費ヲ増給ス

營林署員ノ旅行ニシテ前項ニ該當セサル場合ニ在リテハ内國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依リ費用支給規程ヲ準用スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ擔當區詰員ノ旅行ヲ除クノ外沖繩及小笠原營林署管内ノ旅行ニ之ヲ適用セス

第三條 營林署員左ノ各號ノ一ニ該當スル用務ニ依リ其ノ管
一 内ヲ旅行スルトキハ前條ノ規定ヲ適用セス
二 訴訟ノ爲又ハ證人、參考人、鑑定人トシテ裁判所ニ出廷スルトキ

二 裁判所又ハ檢事局ノ命令又ハ要求ニ依リ現場ニ出張スルトキ

三 刑事被告人又ハ被疑者ヲ護送スルトキ

四 營林局長前條ノ金額ヲ以テ旅費ヲ支辨シ能ハスト認ムルトキ

第四條 營林署員其ノ駐在地市町村及受持區域内ニ於テ用務ニ從事スルトキハ用務上ノ必要ニ依リ行程一里以上ノ地ニ宿泊シタル場合ニ限リ甲號表ノ日額ヲ支給ス

第五條 森林鐵道ノ傭人機關車ヲ運轉シ又ハ鐵道ノ用務ノ爲其ノ沿線ヲ旅行スルトキハ用務上ノ必要ニ依リ宿泊シタル場合ニ限リ甲號表ノ日額ヲ支給ス

第六條 森林主事教練規則ニ依リ林務教習又ハ補習ノ爲教練地ニ滞在中ハ一日ニ付一圓五十號ヲ支給ス

第七條 囑託員ニ第一條又ハ第二條ニ該當スル旅行ヲ命シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ甲號表ノ日額ヲ支給ス

一 在官ノ者ニハ其ノ官相等ノ額
二 常時一定ノ手當ヲ給スル囑託員ニシテ前號ニ該當セサル者ニ在リテハ手當月額百七十圓以上ノ者(日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス)ハ一等、同上百十圓以上百七十圓未満ノ者ハ二等、同上五十五圓以上百十圓未満ノ者ハ三等、同上五十五圓未満ノ者ハ七等ノ額

三 前二號ニ該當セサル者ニ在リテハ有爵者、從六位、勳六等及功五級以上ノ者ハ一等、正七位、從七位、勳七等及功六級ノ者ハ二等、正八位以下勳八等及功七級ノ者ハ三等、位勳功級ヲ有セサル者ハ七等ノ額

第四條 移轉料及赴任手當ハ營林局ノ管内外ヲ通シ乙號表ノ額ヲ支給ス

第九條 營林局長ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ内國旅費規則、内

國旅費規則ニ依ル特定及協定旅費規程、内國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程及本則ニ依ル旅費ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得
二以上ノ營林署管轄區域ニ互リ事業ヲ經營シ又ハ他ノ營林局署管内ニ常時出張ヲ要スル場合ニ於テハ營林局長ハ一營林局長ノ管内ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

甲號表

等	級	日額	
		宿泊セザ宿泊シタルトキ	宿泊シタルトキ
一等	奏任官	三圓六圓	三圓
二等	營林署長	三圓四十錢	四圓八十錢
三等	五級俸以上	三圓二十五錢	四圓五十錢
四等	判任官 六級俸以下	二圓四圓	二圓
五等	擔當區詰員(八重山島及小笠原島所在ノ擔當區詰員ヲ除ク) 斫伐擔當員	一圓二十五錢	二圓五十錢
六等	八重山島及小笠原島所在ノ擔當區詰員	一圓六十錢	三圓二十錢
七等	雇員	一圓十錢	二圓二十錢
八等	傭人	七十五錢	一圓五十錢

乙號表

●營林局署給與規程

明治四十三年七月
農商務省訓令第二十一號

〔沿革〕

大正三年三月農商務省訓令第四號、同五年十二月同第一三號、同六年八月同第六號、同十一年五月同第七號、同十四年十一月林訓第六號改正

第一章 俸給

第一條 營林局署員ノ俸給ハ受給者ノ請求ヲ俟タズ俸給支給
定日ニ營林局ニ於テ之ヲ支給スヘシ
營林局所在地外ニ在ル受給者ノ俸給ハ支給定日ニ於テ其ノ在勤地若ハ出張地ニ在ル受給者ノ俸給ハ其ノ請求ニ依リ居住地ニ送付スヘシ但シ運輸通信ノ不便ナル地ニ在リテ其ノ月中ニ到達シ能ハスト認ムルモノハ支給定日以前ニ於テ之ヲ送付スルコトヲ得

第二條

俸給支給定日以後ニ於テ増俸ノ者アルトキハ辭令到達又ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條

他職ニ轉任、轉勤又ハ退官、死亡ノ場合ニ於テハ受給者ノ請求ヲ俟タズ辭令到達又ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ在職中ノ俸給ヲ營林局ニ於テ支給スヘシ但シ受給者ノ請求アルトキハ其ノ在勤地若ハ居住地ニ送付スヘシ前項轉任又ハ轉勤ノ場合ニ於テ支給濟ノ俸給ニ過渡アルトキハ十五日以内ニ於テ相當ノ期間ヲ定メ返納告知書ヲ發シ之ヲ返納セシムヘシ
休職ノ場合ニ於テ支給濟ノ俸給ニ過渡アルトキハ翌月ノ俸給ニ於テ差引整理スルコトヲ得但シ會計年度ヲ異ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 旅費

第四條

營林局長部下ノ官吏ニ旅行ヲ命スルトキハ豫メ其ノ日數及順路ヲ指定スヘシ
旅行ノ順路ハ出發地ト目的地トノ間ニ於ケル最近ノ線路ニ依ルモノトス

最近線路ニアラサルモ特ニ便利ナル線路アルトキハ最近線路(陸路、鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ陸路ニ換算ス)又ハ之カ旅費支給額ニ比較シ五割ヲ超エサルモノニ限リ其ノ線路ヲ指定スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ最近線路ノ一部ニ代ヘテ比較スルモノナルトキハ其ノ起點終點間ノ路程又ハ旅費額ニ依ルモノトス

第五條

旅行ノ路程ハ左ノ區分ニ依リ計算スヘシ
一 陸路ハ郵便線路圖ニ記載アル里數ニ依ル之ニ記載ナキモノハ市町村ヲ一區域トシ其ノ原標間ノ里數ニ依ル

旅行行程	移轉料			赴任手當
	勅任官	奏任官	判任官	
一日	百五十圓	百圓	七十圓	三十圓
二日	百八十圓	百二十圓	八十圓	四十圓
三日以上	三百二十圓	百五十圓	百圓	五十圓

第六條

公務旅行ノ命ヲ受ケタル者ハ第四條ノ日數及路程ニ基キ左ノ區分ニ依リ旅費概算ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但シ他職ニ赴任又ハ出張ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 管内旅行ハ出發ヨリ歸著迄ニ相當スル金額但シ六十日以上ニ渉ル旅行ハ之ヲ數回ニ分テ每回六十日以内トス
二 管外旅行ハ目的地迄ノ往復及滞在日數ニ相當スル金額ヨリ新任地迄ニ相當スル金額
三 管外旅行ハ目的地迄ノ往復及滞在日數ニ相當スル金額ヨリ新任地迄ニ相當スル金額
營林署員ノ日額旅費ハ一箇月所要ノ金額ヲ限リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第七條

旅費概算渡ノ請求ハ臨時至急ヲ要スルモノノ外出發ノ三日以前ニ次回以後ハ前回概算金ノ精算ト同時ニ其ノ請求書ヲ差出スヘシ但シ旅行中精算ヲ爲シ能ハサル事情アルトキハ其事由ヲ具シ前回概算金ニ對スル豫定期日經過ノ後次回ノ概算渡ヲ請求スルコトヲ得

第八條

旅費ハ用務終了又ハ在勤地ニ歸著(一時ノ歸職ヲ除ク)ノ翌日ヨリ七日以内ニ精算シ其ノ精算書ヲ差出スヘシ

前項ノ期間ハ第六條第一項第一號但書ニ依リ概算渡ヲ受ケタル者ニ付テハ毎回豫定期日經過ノ日、管林署員ノ日額旅費ニ付テハ翌月一日、旅行ノ兩會計年度ニ跨ル場合ニ於テ其ノ前年度分ニ於テハ該年度經過ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九條 旅費概算渡ノ精算ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ概算金ノ全部ニ對シ過不足ヲ計算スヘシ但シ第七條但書ニ依リタルモノハ數回ノ概算金ヲ通シテ計算スヘシ

第十條 旅費ハ受給者ノ請求ニ依リ臨時至急ヲ要スルモノノ外左ノ期間ハ管林局ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者管林局所在地外ニ在ルトキハ其ノ在勤地、出張地若ハ居住地ヘ送付スヘシ

一 概算旅費ハ請求ヲ受ケタル日ヨリ三日以内
二 精算旅費ハ請求ヲ受ケタル日ヨリ五日以内
管林局長必要アリト認ムルトキハ管林署員ノ旅費ハ管林署資金前渡官吏ヲシテ前項ノ規定ニ準シ之ヲ支給セシムルコトヲ得

第十一條 旅費概算渡ニ對シ精算上過剩ヲ生シタルモノハ十五日以内ニ於テ相當ノ期間ヲ定メ返納告知書ヲ發シ之ヲ返納セシムヘシ概算旅費ヲ受取タル後公務旅行ヲ免セラレタルトキ亦同シ但シ管林署員日額旅費ノ精算上過剩ヲ生シタルモノハ翌月ニ繰越スコトヲ得

第三章 諸 給

第十二條 死亡賜金ハ受給者ノ請求ヲ俟タス當該豫算ノ令達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ管林局ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者管林局所在地外ニ在ルトキハ其ノ居住地ヘ送付スヘシ

第十三條 死傷手當及療治料ハ其ノ原因並傷痕ノ輕重等ヲ調

査シ醫師ノ診斷書及實費ノ計算書ヲ徵シ遲滞ナク豫算ノ増額ヲ農林大臣ニ請求シ其ノ令達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ管林局ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者管林局所在地外ニ在ルトキハ其ノ在勤地若ハ居住地ヘ送付スヘシ

第十四條 雇員ノ月給ハ文官俸給支給細則ノ例ニ準據シ日給ハ勤務日數ニ應シ之ヲ支給スルモノトス

左記各號ノ一ニ該當スル日數ハ之ヲ前項ノ勤務日數ニ算入ス但シ第一號及第三號ノ場合ニ於テ病氣又ハ私事ノ故障ニ因リ當該日ノ前後トモ缺勤シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 公暇日
二 賜暇アリタルトキハ其ノ日數
三 父母ノ祭日
四 父母配偶者ハ七日以内其ノ他ハ三日以内ノ忌引缺勤
五 職務ニ因リ傷疾疾病中ノ缺勤
六 傳染病ノ爲交通遮斷又ハ隔離法施行中ノ缺勤
七 徵兵検査又ハ簡閱點呼ノ當日及之ニ要スル往復日數
八 裁判所ノ召喚ニ依リ職務ニ關シ證人、參考人又ハ鑑定人トシテ出廷ノ當日及之ニ要スル往復日數
九 雇員ノ日給ハ受給者ノ請求ヲ俟タス左ノ區分ニ依リ管林局ニ於テ之ヲ支給スヘシ

一 前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ日給ハ其月二十三日(二十一日以後休暇アレハ順延トス)
二 三月二十一日以後ノ日給ハ翌月五日以内
三 解免又ハ死亡ノ場合ハ辭令發付若ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内

管林局外ニ在ル雇員ノ日給ハ管林署長又ハ之ヲ使用シタル官吏ノ證明シタル勤務日數ノ報告ニ依リ其ノ月二十三日ヨリ末日迄ニ其ノ在勤地若ハ出張地ヘ送付スヘシ

第十五條 雇員ノ月俸及年額又ハ月額ヲ以テ支給スル囑託員手當ノ支給手續ハ第一條乃至第三條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 管林局員ノ宿直食料ハ受給者ノ請求ヲ俟タス支給日ニ管林局ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者轉任、轉勤、休職、退官、解免又ハ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ三日以内ニ之ヲ支給スヘシ

第四章 雜 則

第十七條 管林局ニ於テ支給スル給與ニシテ受給者管林局ニ出頭シ能ハサルトキハ相當ノ代理人ヲ差出スヘシ但シ受給者公務旅行又ハ許可ヲ得テ旅行中ナルトキハ其ノ請求ニ依リ滞在在地ヘ送付スルコトヲ得

第十八條 總代人ヲ以テ俸給又ハ給料ヲ受取ラムトスル者ハ豫メ之ヲ撰定シ連署捺印シテ其ノ旨ヲ管林局長ニ届出ツヘシ

第十九條 受給者管林局ニ於テ小切手ヲ受取タルトキハ直ニ其ノ領收證ヲ差出シ遞送拂ニ係ル支拂通知書ヲ受取タルトキハ之ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ日本銀行ニ交付スヘシ

第二十條 管林署員ノ旅費請求書及精算書ハ管林署長ヲ經由スヘシ此場合ニ於テ管林署長ハ之ヲ審理シ其ノ正確ヲ證スヘシ

第二十一條 本規程ニ因ル書類ノ様式ハ山林局長之ヲ定ムヘシ

第二十二條 本規程ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス左ノ訓令及達ハ之ヲ廢止ス
附 則
林區署給與順序

●營林局署現業員勤勉手當支給規程

大正十四年十二月二十五日
農林省訓令第七號
營林局署

營林局署現業員勤勉手當支給規程左ノ通定メ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第一條 營林局署ノ列任官、囑託員(高等官待遇)、雇員、傭人及職工營林局長ノ指定ニ依リ職務時間外一時間以上左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ現業ニ從事シ勤勉ナル者ニハ勤務手當ヲ支給ス

一 伐木、造材、運材、製材、貯材及林産製造並收穫豫定案ノ編成
二 造林及土木
三 施業案ノ編成及檢訂
四 境界査定及周圍測量
五 處分調査

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ勤勉手當ヲ支給セ

明治二十三年九月丙林第三四一號達
明治二十三年十一月林第九五一號達
明治二十六年三月農商務省訓令第六號
明治二十七年十一月戊第一八九號達
明治三十四年八月林發第三八六號達

第四章 共濟組合

林野現業員共濟組合令

大正八年六月二十四日 勅令第三百六號

〔沿革〕

大正九年十二月勅令第五七八號、昭和三年六月同

- 第一條 農商務省所管國有林野ノ事業及公有林野官行造林事業ニ從事スル職員以下ノ現業員ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス
- 第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス
- 第三條 農商務大臣ハ農商務部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第四條 第一條ノ事業ニ從事スル職員ハ同條ノ現業員ニ非サルモ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス
- 第五條 (削除)

附 則 本令ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

林野現業員共濟組合規

大正八年六月二十八日 農商務省令第二十五號

〔沿革〕

大正九年六月農商務省令第七號、同十年一月同第一號、同十二年五月同第一號、同三年八月同第一號、同六年八月同第二三號改正

第一章 總 則

- 第一條 本組合ハ林野現業員共濟組合ト稱ス
 - 第二條 本組合ノ事務ハ農林大臣之ヲ統理シ營林局長之ヲ執行ス
 - 第三條 本組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
 - 第四條 計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタル場合ノ取扱ニ付テハ國庫出納金端數計算法ヲ準用ス
 - 第五條 組合員ヨリ營林局長又ハ審査會ニ提出スル文書ハ各其ノ關係營林局長ヲ經由スヘシ
 - 第六條 本組合ノ事務取扱ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二章 組合員
- 第七條 營林局署ノ職員、巡視、自動車運轉手、電話手、給仕、小使、職工、定夫及一年以上又ハ毎年一定期間國有林野ノ現業員又ハ公有林野官行造林ノ現業員ニ從事スル者ハ林野現業員共濟組合令第一條ノ現業員トス但シ營林局長ニ於テ現業員ニ從事セスト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 第八條 國有林野ノ事業又ハ公有林野官行造林ノ事業ニ從事スル職員ニシテ前項ノ現業員以外ノ者組合ニ加入セムトスルコトハ第九條第五號但書ノ場合ヲ除クノ外營林局長ノ承認ヲ受クヘシ
 - 第九條 組合員ハ掛金トシテ毎月給料月額ノ千分ノ三十ヲ支給スヘシ但シ前項第二號ニ依ル組合員ハ千分ノ四十三トス月ノ中途ニ於テ組合ニ加入又ハ脱退シタルトキハ日割計算

- ニ依リ掛金ヲ支給フヘシ毎年一定期間勤務スル者ニシテ勤務ノ初ノ月又ハ終ノ月ニ於テ其ノ月ノ全日數ヲ勤務セサルトキ亦同シ
- 特別ノ勞務又ハ缺勤其ノ他臨時ノ事故ニ依リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルモ掛金額ヲ増減セス
- 掛金ハ給料仕拂ノ際之ヲ徴收ス
- 第九條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ脱退ス
 - 一 死亡シタルトキ
 - 二 退官又ハ退職シタルトキ
 - 三 休職トナリタルトキ
 - 四 營林局署以外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
 - 五 現業員以外ノ職ニ轉シタルトキ但シ繼續シテ組合員タルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 日給ヲ受クル組合員陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレ缺勤ノ期間六箇月ヲ超ユルトキ
 - 七 第七條第二項ニ依ル組合員ニ在リテハ加入又ハ第五號但書ニ依ル資格繼續ノ時ヨリ一箇年ヲ經過シ脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ
- 第十條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ本則ノ定ムル救済金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 日給ヲ受クル組合員ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ以テ給料月額トシ月給ヲ受クル組合員ニ在リテハ月給ノ十分ノ一ヲ以テ給料日額トス
- 稼高又ハ就業時間ニ依リ給料ヲ定ムル組合員ニ在リテハ前就業日數ノ三十日分、前就業日數ノ三十日ニ滿タサルトキハ就業全日數ノ給料日額ノ平均ヲ以テ其ノ日給トス
- 共同作業ヲ爲スニ依リ各自ノ給料ノ割合不明ナルモノ其ノ他前項ニ依リ給料日額ヲ定ムルコト能ハサルモノニ付テハ

營林局署長之ヲ定ム

第三章 救 濟

- 第十二條 救済金ハ左ノ六種トス
 - 一 公傷給與金
 - 二 疾病給與金
 - 三 死亡給與金
 - 四 脱退給與金
 - 五 年功給與金
 - 六 罹災給與金
- 第十三條 公傷給與金ハ障害扶助料及遺族扶助料ノ二種トシ組合員業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ之ヲ給與ス但シ療養開始後三年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四條 障害扶助料ハ傷痍又ハ疾病治療シタルトキニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スルトキ左ノ等級ニ從ヒ之ヲ給與ス但シ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ニ依リ打切扶助料ヲ受クヘキ場合ニ於テ治療後仍障害ヲ存スヘシト認メタルトキハ打切扶助料ヲ給與スヘキトキニ之ヲ給與スルコトヲ得
- 第十五條 終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者
 - 一等 終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者 九百日分
 - 二等 終身勞務ニ服スルコト能ハサル者 六百六十日分
 - 三等 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサル者、健康舊ニ復スルコト能ハサル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者 給料日額 三百日分以上四百

四等 身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者 給料日額 六十分以上二百

負傷シ又ハ疾病ニ罹リ前項ノ給與ヲ受ケタル者當該傷痕又ハ疾病ノ再發ニ依リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ給與シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給與ス

第十四條ノ二 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給與ス但シ前條第一項ノ規定ニ依リ一等又ハ二等ノ障害扶助料ノ給與ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ之ヲ給與セス

第十五條 疾病給與金ハ療養料及休業扶助料ノ二種トシ業務上ノ事由ニ因ルニ非スシテ組合員疾病ニ罹リ又ハ負傷シ引續キ六日以上勞務ニ服スルコト能ハサルトキ之ヲ給與ス但シ陸海軍ニ召集中ノ疾病若ハ負傷又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因ル疾病若ハ負傷ニ付テハ之ヲ給與セス

加入前ニ生シタル疾病又ハ負傷ニ因ル休業ニシテ加入後三箇月ヲ經過シタル日ヲ以テ前項ノ休業ノ日ト看做ス

第十六條 死亡給與金ハ業務上ノ事由ニ因ルニ非スシテ組合員死亡シタルトキ之ヲ給與ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第十七條 前二條ノ給與金ハ毎年一定期間勤務スル組合員ニ付テハ疾病給與金ニ在リテハ疾病又ハ負傷カ勤務期間内ニ生シ之カ爲勤務期間内ニ休業ヲ始メタル時ニ限リ之ヲ給與シ死亡給與金ニ在リテハ死亡カ勤務期間内ニ生シタル疾病又ハ負傷ニ因リ勤務期間内又ハ勤務期間内休業ノ初日、休業セサルトキハ發病又ハ負傷ノ日ヨリ起算シテ六十日以内ニ生シタルトキハ限リ之ヲ給與ス

第十八條 脱退給與金ハ組合員組合ヲ脱退シタルトキ之ヲ給與ス

第十九條 年功給與金ハ三年以上繼續シテ組合員タル者組合ヲ脱退シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條ノ二 罹災給與金ハ組合員水火震災其ノ他非常災害

ニ遭遇シ財産上損害ヲ受ケタルトキ之ヲ給與ス

第二十一條 營林局長ハ負傷又ハ疾病ノ療養ニ關シ豫メ醫師ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ指定以外ノ醫師ニ付治療ヲ受クル必要アルトキハ營林局長ノ承認ヲ受ケタルトキハ營林局長ハ救済金ノ給與ニ關シ適當ナル療養費ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 救済金給與ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ救済金額ニ加ヘ又ハ之ヲ救済金額ヨリ減ス

第二十三條 組合員死亡シ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族其ノ他之ニ代ルヘキ者ヨリ遅滞ナク之ヲ營林局長ニ申告スヘシ

組合員脱退ノ際第一項ノ規定ニ依リ貸付ヲ受ケタル金額及利息ノ償還未済金アルトキハ當該組合員ノ受ケヘキ脱退給與金ハ第十八條第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ未済金額ヲ減シタルモノトス

第二十四條ノ三 組合員又ハ組合員タリシ者疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ健康保險法ニ依リ保險給付ヲ受ケヘキトキハ之ニ代ヘ之ニ相當スル給付ヲ爲ス

第二十四條ノ四 組合員其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 加入、脱退又ハ救済金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第四章 審査會

第二十五條 加入、脱退又ハ救済金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 審査會ハ之ヲ農林省ニ置キ會長一人委員十人ヲ以テ組織ス

第二十七條 會長ハ農林次官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ農林省高等官中ヨリ之ヲ命ス

第二十八條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス

第二十九條 審査會ニ幹事一人書記二人ヲ置キ記録ヲ整理シ庶務ニ從事セシム

第三十條 審査會ハ半数以上ノ委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第三十一條 審査會ノ決議ハ當該營林局長及審査請求者ニ之ヲ通知ス審査會ノ決議ハ當該營林局長及審査請求者ヲ羈束ス

附則 本則ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十二年五月農商務省令第十號) 本令ハ大正十二年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

第七條第二項ノ規定ニ該當スル組合員ハ本令施行後一箇月以内ニ限リ第九條第七號ノ規定ニ拘ラス脱退スルコトヲ得本令施行ノ際現ニ組合員タル者ニ付テハ第十五條第二項及第四項ノ規定ハ之ヲ適用セス

附則 (昭和六年八月農林省令第二十三號) 本則ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ貸付金ノ利息ニシテ本令施行ノ日ヨリ償還完了ノ日ニ至ル迄ノ分ニ付テハ從前ノ規程ニ依リ計算シタル額カ

第二十四條ノ二第二項ノ改正規程ニ依リ計算シタル額ヨリ小

ナルトキハ從前ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス

別表

年數	係數	年數	係數	年數	係數
一	一、〇〇	一	一、六三	一	二、六五
二	一、〇五	二	一、七一	二	二、七九
三	一、〇〇	三	一、八〇	三	二、九三
四	一、一六	四	一、八九	四	三、〇七
五	一、二二	五	一、九八	五	三、二一
六	一、二八	六	二、〇八	六	三、三五
七	一、三四	七	二、一八	七	三、四九
八	一、四一	八	二、二九	八	三、六三
九	一、四八	九	二、四一	九	三、七七
一〇	一、五五	一〇	二、五三	一〇	三、九一
		一一	二、六五	一一	四、〇五
		一二	二、七九	一二	四、一九

本表ニ依リ給與金ヲ計算スル方式左ノ如ク定ム

$C_1 + C_2 K_1 + C_3 K_2 + \dots + C_n K_{n-1}$

C_n ハ脱退ノ月ヨリ遡リ滿一年前迄ノ元金合計 C_0 ハ滿一年ヨリ滿二年迄ノ元金合計 C_1, C_2, \dots, C_n 等之ニ準ズ

K_1 ハ前表ニ於ケル一年ノ係數 K_2 ハ前表ニ於ケル二年ノ係數 K_3, K_4, \dots, K_n 等之ニ準ズ

林野現業員共濟組合事務取扱規程

大正八年六月 林第六五八號達

〔沿革〕 昭和六年九月林第三六三二號改正

第一章 通則

第一條 農林省又ハ營林局署ニ勤務スル官吏ハ政府ノ事務ニ準シ組合ノ事務ヲ取扱フヘシ

第二條 營林局長組合事務ノ取扱ニ關シ細則ヲ設ケ、之ヲ改廢シ又ハ例規トナルヘキ通牒ヲ發シタルトキハ遲滞ナク之ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第二章 組合員原票及組合員貸付原票

第三條 營林局長ハ第一號書式ニ依リ組合員毎ニ組合員原票ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ

第四條 營林局長ノ命シタル主任官吏又ハ營林署長ハ組合員原票ノ複本ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ

第三章 會計

第六條 營林局長ノ命シタル主任官吏又ハ營林署長ハ給料仕拂日ニ於テ掛金ヲ徵收スヘシ但シ給料力掛金ニ滿タサルトキハ次回給料仕拂ノトキニ徵收スルコトヲ得

第七條 營林局長ノ命シタル主任官吏又ハ營林署長掛金ヲ徵收シタルトキハ第二號書式ニ依リ組合員掛金徵收報告書ヲ作製シ現金ト共ニ遲滞ナク之ヲ營林局長ニ送付スヘシ

第八條 營林局長ハ毎月第三號書式ニ依リ組合員給料總括表ヲ作製シ翌月十五日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第九條 政府ノ給與金ハ之ヲ月割トシ毎月其ノ前月分ノ給料總額ノ百分ノ二(健康保險ノ被保險者ニ關シテハ百分ノ二)

第十條 救済金ヲ拂渡スヘキ事故發生シタルトキハ營林局長ノ命シタル主任官吏又ハ營林署長ハ救済金算定書ヲ添ヘ之ヲ營林局長ニ送付スヘシ

前項ノ送付アリタルトキハ營林局長ハ直ニ救済金額ヲ決定シ關係官吏ヲ經由シテ之ヲ權利者ニ通知スヘシ

第十一條 營林局長救済金ヲ支拂ヒタルトキハ領收證ヲ徵スヘシ

第十二條 貸付期間ハ一年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 貸付金ノ利息ハ毎月給料仕拂日ニ之ヲ徵收スヘシ第六條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 未納ニ屬スル利息アルトキハ年度ノ始ニ於テ之ヲ元金ニ繰入ルヘシ

第十五條 借受ノ申出アリタルトキハ營林局長ノ命シタル主任官吏又ハ營林署長ハ其ノ事情並意見ヲ具シ營林局長ニ上申スヘシ

第十六條 營林局長ノ命シタル主任官吏又ハ營林署長貸付金ヲ交付シタルトキハ領收證ヲ徵收シ之ヲ營林局長ニ、貸付金ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ第十三號書式ノ辨濟金受領報告書ヲ作製シ現金ト共ニ之ヲ營林局長ニ送付スヘシ

第十七條 本組合ノ財産ハ營林局長之ヲ管理ス

第十八條 營林局長其ノ保管ニ係ル組合財産ノ一部ヲ他ノ營林局長ノ保管ニ移サントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員他ノ營林局長ニ轉勤シタルトキニ於ケル脱退及年功給與資金ノ保管換ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 (削除)

第二十條 營林局長ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ組合財産及其ノ收支ヲ整理スヘシ

第二十一條 林野現業員共濟組合收支金總括簿(第五號書式)

第二十二條 林野現業員共濟組合收入金明細簿(第六號書式)

第二十三條 林野現業員共濟組合支出金明細簿(第七號書式)

第五章 北海道國有林野

●北海道國有林野及產物處分令

明治四十一年十一月二十八日 勅令第二百八十六號

〔沿革〕 昭和三年十月勅令第二三七號改正

第一條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂ヒ、讓與シ又ハ交換スルコトヲ得ス但公用又ハ公益事業ノ爲ニ必要アルトキハ此限ニ在ラス

第二條 北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ國有林野ヲ賣拂ヒ、貸付シ、讓與シ、交換シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲ニ必要ナルトキ

二 區町村其他公共團體ノ基本財産ニ充ツル爲賣拂フトキ

三 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其緣故者ニ賣拂フトキ

四 現ニ北海道ニ於テ鑛業又ハ北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ノ爲ニ必要ナル林野ヲ賣拂フトキ

五 民有地、道路、河川等ニ介在スル二十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ

六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其借地人ニ賣拂フトキ

四 林野現業員共濟組合證券明細簿(第八號書式)

五 林野現業員共濟組合脱退及年功給與資金調査簿(第四號書式)

六 林野現業員共濟組合貸付金出納簿(第十四號書式)

第七條 特別會計ニ關スル帳簿ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 營林局長ノ命シタル主任官吏及營林署長ハ第九號書式ニ依リ林野現業員共濟組合員掛金徵收簿ヲ備ヘ掛金ノ徵收ヲ整理スヘシ

第十六條 營林局長ハ毎年六月末日迄ニ前年度ニ屬スル組合ノ會計ニ關スル事項ニ付左ノ調書ヲ作製シ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

一 林野現業員共濟組合收支計算書(第十號書式)

二 林野現業員共濟組合財産明細書(第十一號書式)

但シ特別會計ニ關スル調書ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 營林局長林野現業員共濟組合規則第二十四條ノ四ニ依リ施設ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

本規程ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

書式(省略)

第四章 附屬事業

七 宅地、耕地、牧場、放牧地、植樹地又ハ海産干場ニ供スル爲貸付スルトキ

八 北海道廳長官ノ定メタル重要製産品製造業ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ

九 木材附帶ノ用ニ供スル爲貸付スルトキ

十 見積借地料一年金三百圓ヲ超エサル林野ヲ貸付スルトキ

十一 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ

第十二條 北海道廳長官ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ國有林野ノ產物若クハ土石ヲ賣拂ヒ又ハ無料採取セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲ニ必要ナルトキ

二 部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ

三 北海道廳長官ノ定メタル資格ヲ有スル重要製産品ノ製造業者ニ其原料ヲ賣拂フトキ

四 前號ノ場合ニ於テ原料以外ノ產物ヲ併セ處分スルニ非サレハ森林經營上支障アルニ因リ之ヲ同時ニ賣拂フトキ

五 施業案ニ基ク斫伐案ヲ施行スルニ際シ競争ニ付スルトキハ森林ノ更新ヲ障害スル虞アル場合ニ於テ其森林ノ產物ヲ北海道廳長官ノ定ムル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ

六 非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其罹災者ノ建築、營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

七 見積價格金六百圓ヲ超エサル產物又ハ土石ヲ賣拂フトキ

八 鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ

九 河、海、沼湖、濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣拂フトキ

十 國有林野ノ保護及更新上必要ト認ムル場合ニ於テ制限

ヲ附シ地元人民ニ其產物ヲ採取セシムルトキ
 十一 官廳ノ土木建築ニ必要ナル材料ヲ其ノ工事ノ請負人
 ニ賣拂フトキ
第四條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内
 ニ其用途ニ使用セス又ハ指定ノ期間内ニ其ノ使用ヲ廢シタ
 ルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十五年勅令第二百七號ハ之ヲ廢止ス

**北海道國有林野及產物
 處分令緣故者及重要品
 製造業者並木材業者ノ
 資格**

明治四十一年十一月十二日
 北海道廳令第九十七號

明治四十一年(十一月)勅令第二八六號第二條第三號ノ緣故者
 及同條第四號、第八號及第三條第三號ノ重要製產品ノ製造者
 並同條第五號ノ木材業者ノ資格左ノ通定メ發布ノ日ヨリ之ヲ
 施行ス
第一條 緣故者トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ
 一 部分林ニアリテハ其造林者
 二 官地民木ノ森林ニ在リテハ其ノ樹木ノ所有者
 三 開拓使設置以前入會ノ慣行アリタル林野ニ在リテハ其
 ノ入會ヲ爲シタル區町村又ハ區町村内ノ一部

- 第二條** 重要製產品ノ製造業者トハ左ニ掲クル物品ノ製造業
 者ヲ謂フ
 一 燐寸、其材料
 二 枕木
 三 紙、其材料
 四 經木、其材料
 五 石材、石灰、セメント、煉瓦、陶器、化學製產品、其
 材料
 六 下駄、其材料
 七 單寧、其材料
 八 藥品、樹脂、香水、香油、其他乾溜液
 九 包裝箱、其箱板
 十 漆器、其材料
 十一 椎茸
 十二 丸材、角材、板類、椽材
 十三 器具、機械、其材料
 十四 薪、木炭
第三條 重要製產品ノ製造業者ニシテ其事業ニ必要ナル國有

林野ノ賣拂、貸付、又ハ其原料ノ拂下ヲ受クル資格アル者
 トハ工場ヲ有シ又ハ工場ヲ建設セントスルモノニシテ左ノ
 各號ノ一ニ該當シ信用確實ナル者ヲ謂フ但事業ノ性質上工
 場ヲ要セサルモノニアリテハ之ヲ設備セサルモ妨ケナシ
 一 會社ニシテ資本金五萬圓以上ヲ有スルモノ
 二 會社ニアラスシテ地租、所得稅、營業稅ヲモ合セ年額
 五十圓以上ヲ納ムルモノ
第四條 木材業者ニシテ國有林野產物ノ拂下ヲ受クルノ資格
 アルモノトハ工場ヲ有シ又ハ工場ヲ建設セントスルモノニ
 シテ左ノ各號ノ一ニ該當シ信用確實ナルモノヲ謂フ但事業
 ノ性質上工場ヲ要セサルモノニアリテハ之ヲ設備セサルモ
 妨ケナシ
 一 會社ニシテ資本金十萬圓以上ヲ有スルモノ
 二 會社ニアラスシテ地租、所得稅、營業稅ヲ合セ年額百
 圓以上ヲ納ムルモノ

**北海道國有林野產物賣
 拂規則**

明治四十二年七月
 北海道廳令第六十五號

第一款 通則
 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ國有林野ノ產物及土石
 ノ賣拂ヲ受クルコトヲ得ス
 一 國有林野ノ產物ニ關スル損害ノ賠償若ハ違約金ノ納付
 ヲ終ヘサル者
 二 賣拂フヘキ國有林野ノ產物又ハ土石ニ關シ罪ヲ犯シタ

第二款 國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者指定ノ
 日限内ニ其代金ヲ完納セサルトキハ其賣拂ヲ取消スコトア
 ルヘシ此場合ニ於テハ契約保證金ヲ還付セス若契約保證金
 ナキトキハ賣拂代金ノ百分ノ十二ニ相當スル違約金ヲ徵收ス
第三款 國有林野ノ產物又ハ土石ハ其賣拂代金ヲ完納シタル
 後ニ非サレハ之カ引渡シヲ爲サス
 國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者買受代金ヲ完
 納シタルトキハ其ノ領收書ヲ示シ引渡ヲ受ケヘシ
 國有林野ノ產物又ハ土石ノ引渡ヲ受ケタル者ハ第六號書式
 ノ領收書ヲ差出スヘシ
第四條 賣拂ヒタル國有林野ノ產物又ハ土石ノ品質數量等ニ
 差異アリ又ハ瑕疵アルモ當該官廳ハ其責任ニ任セス
第五條 賣拂ヒタル國有林野ノ產物又ハ土石ニシテ引渡以前
 官廳又ハ公共ノ用ニ必要アルトキハ其賣拂ヲ取消スコトア
 ルヘシ
第六條 國有林野ノ產物又ハ土石ノ買受人ハ引渡ヲ受ケタル以
 前其買受物件ニ對シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 前項ニ違背シタルトキハ賣拂代金ノ百分ノ十二ニ相當スル違
 約金ヲ徵收シ尙其契約ヲ解除スルコトアルヘシ
第七條 買受人其國有林野ノ產物又ハ土石ノ引渡ヲ受ケタル
 トキハ二箇年以内ニ之ヲ搬出スヘシ但特ニ必要アルトキハ
 契約ヲ以テ其期間ヲ短縮スルコトアルヘシ
 買受人前項ノ期間ニ搬出シ終ラサルトキハ出願ニ依リ其ノ
 延期ヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ當該官廳ハ相
 當期間ヲ指定シ違約金トシテ左ノ金額ヲ徵收スルコトアル
 ヘシ
 一 賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一

二 賣拂代金百圓未滿ナルトキハ一日ニ付金拾錢
第八條 不可抗力ニ依リ產物又ハ土石ヲ搬出若クハ採取スルコト能ハサリシ期間ハ其障害ノ止ミタル後十四日以内ニ其事由ヲ具シテ當該官廳ノ承認ヲ受ケタルトキハ之ヲ搬出又ハ採取ノ期間ニ算入セス
第九條 買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ五日以内ニ其旨ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ
第十條 第七條ノ搬出期限ヲ過クルモ搬出ヲ終ラサル物件ハ國ノ所有トシ既納代金ヲ還付セス
第十一條 買受物件ハ許可ヲ受クルニ非サレハ搬出前之ヲ轉賣讓與スルコトヲ得ス
第十二條 國有林野ノ產物又ハ土石ノ買受人買受物件ノ伐採採取運搬等ニ際シ其林野ニ對シ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ損害ノ辨償ヲ終ル迄伐採搬出ヲ中止セシメ搬出未済ノ物件ヲ差押フルコトアルヘシ
第十三條 前條ノ辨償金ヲ指定ノ日限内ニ納付セサル場合ニ於テ差押ヘタル物件アリタルトキハ之ヲ官收シ其代金ハ還付セス
第十四條 特別ノ契約アルモノ、外國有林野產物ノ根株ハ賣拂以外トス
第十五條 二人以上共同シテ賣拂ヲ受ケムトスルトキハ代表者一人ヲ定メ當該官廳ニ届出又ハ賣拂願書ニ記載スヘシ其届出又ハ記載ナキトキハ各人互ニ全員ヲ代表スルモノト看做ス
第十六條 本則ニ依ル賣拂ノ取消又ハ契約ノ解除ニ由リ買入ニ損失ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セス
第十七條 競争ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ヲ賣拂ハントスルトキハ左ノ事項ヲ公示ス但シ郵便ヲ以テ入札ヲ爲スコトヲ許ス場合ニ於テハ入札書ヲ送達スヘキ場處及其到達ヲ要スル年月日時ヲ加フ

一 賣拂番號
 二 物件ノ所在
 三 物件ノ種類數量
 四 入札開札ノ場處及年月日時
 五 入札保證金ヲ定ムル率
 六 明細書契約書案等閱覽ノ場處
 七 契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ノ官職氏名
 八 其他必要ト認ムル事項
第十八條 入札人ハ第一號書式ニ依リ賣拂番號毎ニ入札書ヲ作り入札保證金ヲ保證金取扱官吏ニ示シ封緘ノ上之ヲ差出シタル後其ノ入札書ヲ入札函ニ投入スヘシ
第十九條 郵便入札書ハ其封ヲ二重トナシ内封ニハ入札スヘキ國有林野產物ノ賣拂番號ヲ記シ外封ニハ其表面ニ入札書ノ三字ヲ明記シ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出スヘシ
第二十條 入札人ハ入札書ヲ郵便ニ付スルトキハ入札保證金ヲ爲替ト爲シ若クハ金庫ニ寄託シ其ノ爲替證書又ハ金庫ノ保證書ヲ入札書ノ外封中ニ封入シ入札書ト共ニ之ヲ送付スヘシ
 郵便入札人ハ入札保證金ヲ金庫ニ寄託セムトスルトキハ便宜ノ營林區署又ハ營林區分署ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケケ之ニ現金又ハ有價證券ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付シ其保證書ヲ受クヘシ
 郵便入札人ハ第二十五條第一項郵便爲替證書又ハ金庫保管證書ノ還付若クハ返送ニ必要ナル郵便切手ヲ證書ト同時ニ送付スヘシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル賣拂ハ無効トス
 一 賣拂番號、入札金額、氏名若クハ名稱其他緊要ナル文字ノ不明瞭ナルトキ
 二 入札保證金不足ナルトキ
第二十二條 落札人ハ豫定價格以上ノ最高入札人トス
第二十三條 落札人定マリタルトキハ契約擔任官吏其旨ヲ落札人ニ通告ス
 落札人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ即時若クハ指定ノ期日内ニ契約擔任官吏ト第四號書式ノ契約書ヲ作製シ指定ノ契約保證金ヲ納付スヘシ
 落札人前項ニ依リ契約ヲ締結セサルトキハ其落札ヲ取消シ入札保證金ヲ還付セス
第二十四條 保證金取扱官吏ハ左ノ各號ニ依リ入札保證金ヲ還付スルモノトス
 一 競争ニ依ル入札ヲ取消シタルトキハ入札人全部ノ入札保證金
 二 入札無効トナリタルトキハ其入札人全部ノ入札保證金
 三 落札人定マリタルトキハ其他ノ入札人ノ入札保證金
 四 落札人契約ヲ締結シ契約保證金ヲ納付シタルトキハ其入札保證金
第二十五條 前條ニヨリ還付スヘキ入札金ニシテ郵便爲替證書ナルトキハ保證金取扱官吏ハ書留郵便ヲ以テ直チニ入札人ニ還付シ金庫保管證書ナルトキハ保證金寄託ノ取扱ヲナシタル營林區署又ハ營林區分署ニ返送シ其旨ヲ入札人ニ通知ス但第二十五條第三項ニ依ル郵便切手ノ送付ナキトキハ其送付アル迄保證金ノ證書ヲ還付又ハ返送セス
 入札人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ該通知書ヲ前項ノ營林區署又ハ營林區分署ニ差出シ保管證書ノ還付ヲ受クヘシ

第二十六條 入札人ノ連合若ハ不穩ノ舉動其他ノ事由ニ依リ正當ニ入札ヲ行フコト能ハスト認ムルトキハ競争ニ依ル賣拂ヲ取消スコトアルヘシ
 第三款 隨意契約
第二十七條 隨意契約ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ第二號書式ノ願書ヲ作り左記各號ニヨリ之ヲ差出スヘシ但シ年割ニ係ルモノハ其期間年割數量ヲ前書ニ明記シ且區域及四圍ノ狀況ヲ明示シタル地形圖ヲ添付スヘシ
 一 公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲メ出願スル者ハ其公共ノ利益トナルヘキ事業及之ニ必要ナル事由ヲ疎明スヘシ
 二 鑛業ニ必要ノ爲メ出願スル者ハ其鑛業者タルコトヲ疎明スヘシ
 三 北海道國有林野產物處分令ノ規定ニ依ル重要製産品製造業ニ必要ノ爲メ出願スル者及同令第三條第五號ノ木材業者ニ在リテハ其資格ヲ證スヘキ書類及第三號書式ノ工場調書ヲ添付スヘシ
第二十八條 隨意契約ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者ハ即時又ハ指定ノ期限内ニ契約擔任官吏ト第四號書式ノ契約書ヲ作製スヘシ但シ買受代金一千圓未滿ノモノニ在リテハ契約書ニ代ヘ第五號書式ノ證書ヲ徵スルコトアルヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ直ニ指定ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但買受代金一百圓未滿ノモノニ在リテハ此限ニアラス
 隨意契約ニ依リ國有林野ノ產物又ハ土石ノ賣拂ヲ受ケタル者第一項ノ契約書又ハ請書ヲ差出ササルトキハ其賣拂ハ無効トス此場合ニ於テハ其代金ノ百分ノ十二ニ相當スル違約金ヲ徵收ス但年割賣拂ニ係ルモノナルトキハ時價ニ應ジ賣拂

物件ノ金額ニ對スル見積價格百分ノ十以內ノ違約金ヲ徵收ス

第二十九條 國有林野ノ主産物ハ北海道國有林野及産物處分令第三條第三號乃至第五號及第八號ノ場合ノ外年期ヲ以テ賣拂ヲ爲サス

第三十條 國有林野ノ産物及土石ノ年期賣拂ハ主産物ニ在リテハ十箇年副産物及土石ニ在リテハ五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十一條 年期ヲ以テ國有林野ノ産物又ハ土石ヲ賣拂ヒタルトキハ毎年度其年割額ニ對シ時價ヲ以テ代金ヲ徵收ス

第三十二條 國有林野ノ産物又ハ土石ノ年期買受人ハ當該官吏立會ノ上其林野內所在ノ區域ニ標木ヲ建設シ買受物件ノ搬出ヲ終ル迄之ヲ存置スヘシ

第三十三條 國有林野ノ産物又ハ土石ノ年期買受人ハ當該年度內ニ其年割額ノ引渡ヲ受ケサルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第三十四條 國有林野製産物年期買受人北海道ニ於ケル鑛業木材業又ハ重要製産品ノ製造ヲ廢止シ若クハ一箇年以上休止シタルトキ其契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第三十五條 北海道國有林野及産物處分令第三條第一號第三號第六號第八號及第九號ニ依ル林野ノ産物又ハ土石ノ買受人ハ許可ナクシテ其使用目的ヲ變更シ又ハ轉賣讓與スルコトヲ得ス

第三十六條 前項ニ違背シタルトキハ違約金トシテ其使用目的ヲ變更シ又ハ轉賣讓與シタル數額ニ應スル賣拂代金ニ相當スル金額ヲ徵收シ尙其契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第三十七條 前項ニ依ル契約ノ解除及第二條第五條第六條

ノ取消又ハ解除ニシテ年期賣拂ニ係ルモノナルトキハ將來ニノミ其効力ヲ生スルモノトス

第三十七條 第二條及第六條ノ違約金ニシテ年期賣拂ニ係ルモノナルトキハ時價ニ應シ引渡未済ニ屬スル賣拂物件ノ金額ニ對シ見積リタル價格ノ百分ノ十以內トス

明治二十七年九月廳令第四十九號北海道官有森林原野産物特賣規程及同年同月廳令第五十號北海道官有森林原野産物公賣規程ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一號書式) 入札書

第何號 (公告ニ示シタル賣拂番號ヲ記ス)

右代金ヲ以テ買受可申北海道國有林野産物賣拂規則ヲ遵守シ入札書差出候也

年月日 住所 氏名 印

(第二號書式)

國有林(野)産物賣拂願 北海道何國何郡(區)何村(町)大字何字何(番地アルモノハ之ヲ掲ク)

何々國有林(年期ノモノニ在リテハ別紙圖面ノ箇所) 一、何々何程(年期ノモノニ在リテハ年割額ヲ掲記ス)

此代金何程(年期ノモノニ在リテハ代金ノ年割額引渡ノ都度賣人ノ定ムル處ニヨルト記ス) 右何々(賣拂ヲ受ケムトスル事由)ニ付賣拂相受度北海道國有林野産物賣拂規則ヲ遵守シ(添附書類アルモノハ別紙何々添附)此段奉願候也

年月日 住所 氏名 印

(第三號書式) 工場調書

一 工場ノ所在 一 原動力ノ種類(火力、電力、水力等ノ類) 一 馬力 公稱馬力何程、實馬力何程

一 汽機ノ種類數 一 汽機ノ種類數

一 剥出器械(何程) 何臺 一 刻器械(何程) 何臺

一 工場建物(何棟) 何棟 一 工場建物(何棟) 何棟

一 機關室(石造又ハ何) 何棟此建坪何程 一 工場(木造又ハ何) 何棟此建坪何程

一 乾燥室(煉瓦石造又ハ何) 何棟此建坪何程 一 木挽室(何) 何棟此建坪何程

一 倉庫(何) 何棟此建坪何程 一 其他何々(何) 何棟此建坪何程

一 創業年月 一 簡所、物件、數量其他ノ前書事項ハ第二號書式ニ準ス

年月日 住所 氏名 印

令第六十五號北海道國有林野産物賣拂規則及左記各項ヲ遵守スヘク仍テ本書二通ヲ作製シ各一通ヲ領有スルモノ也

一 契約保證金ハ何圓トス(保證金ヲ免除シタルモノハ本項ヲ除ク)

二 代金何程(年期ノモノニ在リテハ年割額代金)ハ明治年月日限り(年期ノモノニアリテハ年々指定ノ期限内)何金庫又ハ何收入官吏ニ納付スヘシ

三 賣拂物件ノ引渡ハ代金(年期ノモノニアリテハ年割額代金)完納後十日以內ニ何營林區署(又ハ營林區分署)ニ就キ之ヲ受クヘシ

四 其他必要ト認ムル事項ヲ列記ス

(第五號書式) 請書 一 簡所、物件、數量其他ノ前書事項ハ第二號書式ニ準ス

右賣拂相受候ニ付テハ明治四十二年七月十六日北海道廳令第六十五號、北海道國有林野産物賣拂規則及左記ノ各項ヲ遵守可致仍テ請書差出候也

年月日 住所 氏名 印 宛 (契約擔任官吏ノ官職氏名ヲ記ス)

一 何々 (本項以下各號ハ第四號書式ニ準ス) 北海道何國何郡(區)何村(町)何國有林

右物件(年期ノモノニ在リテハ年期買受ニ係ル何年分年割額) 御引渡相成領收候也

年月日 宛 (第二號書式ニ準ス) 買主 住所 氏 名 印

北海道國有未開地處分法

明治四十一年四月十五日 法律第五十七號

第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ

第二條 土地ノ賣拂ハ廳令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ儘使用セシトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 自ら耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス

第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民有地トノ交換ハ價格稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無償貸付 十五年

二 有償貸付 十年

第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 天災其他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十二條 前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ取消スルコトヲ得

第十五條 賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依リ前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十六條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依リ貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定ノ事業方法ニ違反シタルトキハ未

成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其

ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ

第十七條 前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リモノヲ除クノ外貸付又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ但シ借地料ハ之ヲ還付セス

一 第四條又ハ第五條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ニシテ一年以内ニ事業ニ着手セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セザ

ルトキ

第二條 第四條又ハ第五條ニ依リ付與又ハ有償ニテ貸付シタル土地ニシテ二年以内ニ事業ニ着手セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セザルトキ

第十六條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルモノハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ因リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定額ヲ以テ之ヲ買収シ且土地ニ對シテ費シタル直接

ノ費用ハ之ヲ辨償ス但シ第三條第二項ニ依リ貸付シタル土地ノ評定額其ノ土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多

キトキハ其ノ價額ニ依リテ辨償ス前項ノ處分ニ要スル費用ハ返還地ノ使用ヲ爲スヘキ者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第十七條 自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シ又ハ賣拂貸付若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在

スル工作物其他ノ物件アルトキハ所有者ニ於テ行政廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ除去セラレサルモノ

ハ國ノ所有ニ歸ス

第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處分若ハ付與ノ處分

ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ

素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ

其ノ登録稅ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第二十一條 拓殖上又ハ土地整理上必要アル場合ニ於テハ既ニ開墾セラレタル部分ヲ含ム土地ト雖本法ニ依リ處分スルコトヲ得

第二十二條 賣拂、貸付又ハ付與ノ處分ノ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ權利ハ消滅ス

第二十三條 賣拂ヒ又ハ付與シタル土地ノ返還ヲ命シタルトキハ行政廳ハ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ通知ノ事項ヲ登記用紙中甲區事項欄ニ記載シ不動產ノ表示、表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十四條 第十四條第一項又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十一年六月勅令第四百四十九號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ニ對シテハ本法ノ特

定地ニ關スル規定ヲ適用ス

舊法ニ依リ賣拂ヒ、交換若ハ付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

北海道國有未開地處分 法施行規則

昭和二年八月十五日
勅令第二百六十三號

〔沿革〕 昭和八年六月勅令第一五八號改正

- 第一條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ土地ハ之ヲ公示ス但シ第二條第一號及第三號ノ場合並ニ一區域五町步(四百九十五アル百二十一分ノ百五)未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二條 土地ノ賣拂又ハ貸付ハ競争ニ付シテ之ヲ行フ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セザルコトヲ得
 - 一 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セントスル土地ヲ賣拂ヒ又ハ貸付スルトキ
 - 二 二十町步(千九百八十三アル百二十一分ノ五十七)以內ノ土地ヲ賣拂ヒ又ハ貸付スルコト
 - 三 拓殖上特ニ必要ナル事業ニ供セントスル土地ヲ賣拂ヒ又ハ貸付スルトキ
 - 四 二回以上競争ニ付シテ競落者ナキ土地ヲ豫定價格以上ニテ賣拂ヒ又ハ貸付スルトキ
- 第三條 土地ノ賣拂又ハ貸付面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ前ニ賣拂ヲ受ケタル土地ノ事業ヲ成功シタル者ニ對シテハ其ノ面積ヲ通算セズ
 - 一 耕作ニ供スル土地
 - 二百町步(一萬九千八百三十四アル百二十一分ノ八十六)
 - 二 牧畜ニ供スル土地

- 五百町步(四萬九千五百八十六アル百二十一分ノ九十四)
 - 三 植樹ニ供スル土地
 - 五百町步(四萬九千五百八十六アル百二十一分ノ九十四)
 - 四 特 定 地
 - 十町步(九百九十一アル百二十一分ノ八十)
 - 五 其ノ他ノ目的ニ供スル土地
 - 十町步(九百九十一アル百二十一分ノ八十)
- 會社、組合其ノ他共同シテ事業ヲ經營セントスル者ニ對シテハ其ノ資産及人員ニ應ジ前項面積ノ五倍迄累加スルコトヲ得
- 特定地ハ其ノ狀況ニ依リ特殊ノ經營ヲ必要トスル場合ニ於テハ釧路國支廳管轄區域及根室支廳管轄區域ニ在リテハ第一項面積ノ二倍迄、其ノ他ノ支廳管轄區域ニ在リテハ第一項面積ノ一倍半迄累加スルコトヲ得
- 第四條 賣拂ヒ又ハ貸付シタル土地ノ事業成功期間ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ズ
 - 一 十町步(九百九十一アル百二十一分ノ八十九)未滿
 - 二 三十町步(二千九百七十五アル百二十一分ノ二十五)
 - 三 三十町步(二千九百七十五アル百二十一分ノ二十五)以上
 - 第五條 植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ付テハ前項期間ノ二倍トス
- 特定地ヲ設定シタルトキハ之ヲ公示ス

上ナル場合ニ限り二年以內ノ延納ヲ許可スルコトヲ得
公共團體ニ限り擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

附 則
本令ハ大正十年勅令第三百七十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(大正十年九月一日ヨリ施行)

北海道國有林野及未開 地並其ノ產物賣拂代金 延納ノ件

大正十年九月十三日
內務省令第二十四號

大正十年勅令第三百七十四號ニ依リ北海道國有林野及未開地並其ノ產物賣拂代金延納ノ件左ノ通定ム

北海道國有林野及未開地並其ノ產物ノ賣拂代金ハ一口千圓以

此項御料林係天保十一年... 御料林ノ御料ノ額...

御料ノ額

御料ノ額

御料ノ額

御料ノ額... 御料ノ額... 御料ノ額... 御料ノ額... 御料ノ額...

第四編 御料林野

第四編 御料林野 目次

○御料地貸付規程(大正二年第五〇一號ノ三)……………	四〇七
○御料林野疆界査定規則(明治四十四年宮内省令第一號)……………	四〇一
○不要存御料地處分令(大正七年皇室令第一六號)……………	四〇二
○不要存御料地處分令施行規則(同 宮内省令第一〇號)……………	四〇三
第一章 總 則……………	四〇三
第二章 隨意契約……………	四〇三
第三章 競争契約……………	四〇四
第四章 代金納付……………	四〇五
○御料地拂下規程(明治四十一年宮内省令第一〇號)……………	四〇五
○土地ノ產物、貯材及生産品ノ賣拂ニシテ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル場合ニ關スル件(同 四十五年宮内省令第七號)……………	四〇九
○拂下豫定御料地公賣規則(明治三十五年宮内省告示第五號)……………	四三〇
○帝室林野局請負及賣買規程(大正二年第五一〇號)……………	四三三
○御料林施業規程(明治四十三年宮内省訓令第一號)……………	四三九
○御料林施業案編成及檢訂手續(同 宮内省訓令第一七號)……………	四三三
○御料地事業豫定簿編成心得(同 三十九年第一八三五號)……………	四四一
○御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿調製心得(同 第一四八三號)……………	四四八

目次

○帝室林野局產物賣拂規程(昭和七年監七一四ノ二號)……………	四四九
○產物賣拂代金後納期間ニ關スル通牒(同 各支局長、試驗場長宛)……………	四五三
○帝室林野局產物調査規程(同 業第五五八號)……………	四五三

第四編 御料林野

●御料地貸付規定

大正十二年十二月二十五日
第五〇一ノ三號

(長官ヨリ支廳
出張所へ達)

〔沿革〕 大正十三年四月九日官報改正

第一章 總則

第一條 本規程ニ於テ御料地ト稱スルハ帝室林野局ニ於テ管理スル土地及林野ニシテ他部局ノ保管ニ屬セサルモノヲ謂フ

第二條 御料地ノ貸付ニ付別段ノ契約ヲ爲サザリシトキハ總テ賃借契約又ハ使用賃借契約ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條 本規程ハ御料地ニ對スル物權ノ設定移轉變更及消滅ニ付之ヲ準用ス

第四條 御料地ノ貸付ハ之ヲ分テ一時貸付及年期貸付ノ二種トス
一時貸付トハ貸付期間ノ十二箇月ヲ踰エサルモノヲ謂ヒ年期貸付トハ貸付期間ノ十二箇月ヲ踰ユルモノヲ謂フ但シ林業附帶ノ用途ニ供スル爲メ貸付スルトキハ十二箇月ヲ踰ユル場合ト雖之ヲ一時貸付ト看做ス

第五條 借地ニ關スル願書、請書其ノ他ノ書類ハ其ノ土地所轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所ニ差出スヘシ但シ時宜ニ依リ願書ハ其ノ出張所ノ屬スル帝室林野局支廳ニ其ノ他ノ書類ハ別段ノ指示ナキ場合ニハ各出張所ニ屬スル分擔區ニ差出スコトヲ妨ケス

第六條 借地人借地區域外ヲ使用シタル場合ニ於テ其ノ時期明瞭ナラサルトキハ損害ノ賠償ニ付テハ反證ナキ限り土地引渡ノ日ヨリ使用シタルモノト推定ス許可ヲ受ケスシテ借地ヲ目的外ニ使用シタルトキ亦同シ

第二章 契約

第七條 新ニ借地ヲ出願セムトスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ差出スヘシ
前項ノ願書ニハ其ノ位置及區域ヲ知り得ヘキ圖面ヲ添附スヘシ但シ位置及區域ノ明瞭ナルトキハ之ヲ省略セシムルコトアルヘシ

第八條 開墾植樹又ハ牧畜ノ爲メ借地セムトスル者ハ事業方法書ヲ添附スヘシ但シ時宜ニ依リ之ヲ省略セシムルコトアルヘシ
事業方法書ニ記載スヘキ概目左ノ如シ

- 一 土地ノ現狀
- 二 實測又ハ見込面積
- 三 事業計劃ノ大要
- 四 事業著手ノ時期
- 五 毎年開墾又ハ植栽スヘキ豫定面積及其ノ位置圖
- 六 開墾又ハ植栽ノ終了期限
- 七 其ノ他必要ト認ムル事項

第九條 借地ノ繼續ヲ出願セムトスル者ハ借地期間満了ノ日ヨリ六十日前ニ第二號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第十條 第七條及前條ノ出願ニ對シ條件ヲ附シテ許可ノ指令ヲ爲シタルトキハ指定ノ期限迄ニ第三號書式ノ請書ヲ差出

第十一條 借地出願ニ對シ條件ヲ附シテ許可シタルトキハ之ニ對スル請書ヲ受理シタル時ニ契約成立シタルモノト看做ス但シ使用貸借ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 競争ニ關スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十三條 契約保證金ハ初年ノ貸付料ヲ納入シタルトキ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第十四條 契約書ハ第四號書式ノ例ニ依ル

第三章 土地ノ引渡

第十三條 貸付地ノ引渡ハ貸借期間ノ初日ヨリ起算シ三十日以内ニ於テ之ヲ爲ス

第十四條 貸付地ノ引渡ハ實地ニ就キ借地人ト立會ヒ之ヲ爲ス但シ繼續貸付ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 借地人ニ於テ指定ノ期日ニ立會ハサルトキハ其ノ期日ニ於テ引渡ヲ了シタルモノト看做ス

第十六條 貸付地ノ區域明瞭ナル場合ニ於テ第一項ノ手續ヲ爲ササルトキハ貸付期間ノ初日ニ於テ引渡ヲ了シタルモノト看做ス

第十七條 貸付料ヲ前納セシムヘキ場合ニハ其ノ料金ノ納入アリタル後ニ非サレハ貸付地ノ引渡ヲ爲サス又借地人ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四章 借地人ノ義務

第十六條 數人共同シテ借地ヲ出願シタル場合ニ於テ借地人カ各自ノ借地面積其ノ他必要ノ條件ヲ區分セサルトキハ各借地人ハ借地ニ關スル債務ヲ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第十七條 前項ノ規定ハ借地人ノ死亡其ノ他ノ原因ニ由リ數人カ其ノ借地權ヲ承繼シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 借地ニシテ天災其ノ他不可抗力ニ因リ地盤ノ崩壞陷落其ノ他異狀ヲ生スルコトアルモ借地人ハ之カ修理ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十六條 借地ヲ其ノ目的外ニ使用シ又ハ之ヲ轉貸シ若ハ借地權ノ讓渡ヲ爲スハ契約上之ヲ禁止セサル場合ニ於テモ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 借地人ハ管理人又ハ保證人ノ選定ヲ求メラレタルトキハ指定期間内ニ之ヲ選ビ其ノ承諾書又ハ保證書ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ管理人又ハ保證人ノ改選ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第二十八條 前項ノ承諾書及保證書ハ第六號書式ノ例ニ依ル

第二十九條 代理人ハ借地ニ關スル一切ノ事項ニ付借地人ノ代理權ヲ有スルモノト看做ス

第三十條 連帶シテ其ノ責ニ任ス保證後ノ更定料金ニ付亦同シ

第三十一條 借地人ハ借地出願後其ノ住所氏名ヲ變更シ其ノ他戶籍上身分ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十二條 前條ノ規定ハ管理人及保證人ニ之ヲ準用ス

第三十三條 借地人ノ隱居、死亡其ノ他ノ原因ニ由リ借地權ヲ承繼シタル者ハ速ニ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ届出ツヘシ

第三十四條 借地人隱居又ハ入夫婚姻ノ場合ニ於テ借地權ヲ留保シタルトキハ相續人又ハ配偶者ト連署届出ツヘシ

第五章 貸付料

第三十三條 貸付料ハ貸借契約成立ノ年ヨリ起算シ五箇年ヲ經過シタルトキハ之ヲ更定スルコトアルヘシ更定ノ年ヨリ起算シ五箇年ヲ經過シタルトキ亦同シ特殊ノ事情ニ因リ別

第六章 契約ノ解除及期間ノ滿了

第三十六條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ相當ト認ムル期間ヲ指定シ貸付地ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十七條 借地人ハ借地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ周圍ノ主要點ニ標杭ヲ設置スヘシ但シ借地ノ區域明瞭ナルトキ又ハ實地ノ狀況ニ依リ設置シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 前項ノ外借地人ハ借地ノ段別及氏名ヲ記シタル木標ヲ借地内ニ建設スヘシ但シ鐵道、通路、水路、堤塘、電柱及建物ノ敷地トシテ使用スル場合並實地ノ狀況ニ依リ建設シ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 前條ノ標杭ハ徑一寸以上ノモノヲ地上ニ一尺以上表出セシムヘシ

第二十條 前項ノ標識ニシテ滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ之ヲ改設スヘシ

第二十一條 前二條ノ規定ハ一時貸付ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 借地區域内ニ在ル立木其ノ他ノ地上物件ニ付特約ヲ爲サザリシトキハ借地人カ其ノ保管ノ責ニ任ス

第二十三條 借地人ハ前項地上物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ速ニ第五號書式ノ保管證ヲ差出スヘシ

第二十四條 借地人ハ土地又ハ前條ノ地上物件ニ被害アリ又ハ被害ノ虞アルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ原因、數量及狀況等ヲ届出ツヘシ

第二十五條 借地人ハ其ノ保管ニ屬スル地上物件ヲ他人ニ讓渡シタル旨ヲ通知ヲ受ケタルトキハ讓受人カ其ノ物件ノ處理ニ必要ナル土地ノ使用ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 開墾ノ爲メ借地シタルトキハ借地人ハ其ノ毎年ノ墾成段別ノ翌年一月末日迄ニ届出ツヘシ

第二十七條 全部ノ開墾ヲ終リタルトキハ一箇月内ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十八條 借地人ハ借地ノ検査又ハ其ノ立會ヲ拒ムコトヲ得ス

段ノ契約ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前項ノ規定ニ依リ貸付料ヲ更定セムトスルトキハ三十日前ニ之ヲ借地人ニ通知スヘシ

第三十條 借地人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル後第四十一條ノ規定ニ依リ契約解除ノ請求ヲ爲ササルトキハ更定料金ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三十一條 第三十六條第一項ノ規定ニ依リ貸付地ノ一部ヲ返還セシムル場合ニ於テハ其ノ殘地ニ對スル貸付料ヲ更定シ同時ニ之ヲ借地人ニ通知スヘシ

第三十二條 借地人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル後殘地ノ返還ヲ爲ササルトキハ前項ノ更定料金ヲ承諾シタルモノト看做ス

第三十三條 前二項ノ規定ハ第二十五條ノ場合ニ於テ貸付料更定ノ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 貸付料ハ左ノ區別ニ從ヒ指定ノ時期ニ之ヲ納入スヘシ但シ特殊ノ事情ニ因リ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 一時貸付ノ場合ニ於テハ一時ニ全額ヲ納入シ年期貨付ノ場合ニ於テハ其ノ年分ヲ納入スヘシ

第三十六條 貸付期間ヲ年又ハ月ヲ以テ定メタル場合ニハ月割、日ヲ以テ定メタル場合ニハ日割ヲ以テ計算ス但シ土地ノ引渡ヲ爲シタルトキハ契約成立ノ月又ハ日、土地ノ引渡ヲ爲ササルトキハ契約成立ノ月又ハ日ハ之ヲ算入セス

第三十七條 次條ノ規定ニ依リ返地ノ場合ニハ特ニ返地セシムル月又ハ日ノ貸付料ハ之ヲ免除ス

一 皇室ノ用途又ハ事業ノ爲必要アルトキ
 二 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 三 通路、水路、溜池又ハ借地人共同便益事業ノ爲必要アルトキ
 前項ノ規定ニ依リ一部返還ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミ
 ニテハ借地ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキ又ハ
 貸付料ノ更定ニ對シ異議アルトキハ借地人ハ同時ニ其ノ殘
 地ノ返還ヲ爲スコトヲ得
第三十七條 前條第一項第一號ノ規定ニ依リ返地セシムル場
 合ニ於テ之カ爲直接ニ生スル損害アルトキハ相當ト認ムル
 補償額ヲ支給スヘシ
第三十八條 左ニ掲ケタル場合ニハ別段ノ催告ヲ爲サスシテ
 相當ト認ムル期間ヲ指定シ契約ヲ解除シ返地セシムルコト
 アルヘシ
 一 貸付料ノ納入ヲ怠リタルトキ
 二 貸借契約ノ成立後又ハ借地ノ目的變更ノ許可ヲ得タル
 後滿一箇年間借地ノ目的ニ從ヒ使用セサルトキ
 三 許可ヲ得ヌ又ハ契約上禁止シタル場合ニ於テ借地ヲ目
 的外ニ使用シ又ハ之ヲ轉貸シ若ハ借地權ヲ讓渡シタルト
 キ
 四 成功期限ヲ定メタル場合ニ於テ豫定ノ計劃又ハ工程ニ
 從ヒ實行セサルトキ
 五 管理人又ハ保證人ノ選定ヲ怠リタルトキ
 六 借地區域外ヲ使用シタルトキ
第三十九條 借地人カ引續キ二箇年ノ貸付料ヲ納入セザルシ
 トキハ契約ヲ解除シタルモノト看做スコトアルヘシ
第四十條 第二十五條ノ場合ニ於テ借地ヲ爲シタル目的ヲ達
 スルコト能ハサルトキ又ハ貸付料ノ更定ニ對シ異議アルト

キハ借地人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
第四十一條 借地人ハ第三十三條ノ更定料金ニ對シ異議アル
 トキハ其ノ更定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ於テ十
 箇月ヲ限度トシ相當ノ期限ヲ定メ契約ノ解除ヲ請求スルコ
 トヲ得
第四十二條 契約ノ解除ハ連帶債務者ノ一人ニ對シ之ヲ通知
 シタルトキハ他ノ債務者ニ對シテモ其ノ効力ヲ生ス
第四十三條 借地ニ關スル契約ノ解除ハ將來ニ向テノ其ノ
 効力ヲ生ス
第四十四條 契解除ノ場合ニ於テ還付スヘキ貸付料ニハ利
 息ハ之ヲ附セス
第四十五條 借地人返地ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ土地ヲ
 原狀ニ回復セシムルコトアルヘシ
第四十六條 植樹ノ爲貸付シタル區域內ニ借地前ヨリ存在シ
 又ハ借地期間內ニ生シタル根株ハ之ヲ掘取ルコトヲ得ス但
 シ別段ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス
第四十七條 借地人借地期間內ニ返地ヲ爲サルトスルトキハ
 六箇月前ニ出願シ許可ヲ受ケヘシ但シ別段ノ契約アルトキ
 ハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ場合ヲ除クノ外借地人返地ノ場合ニハ三十日前ニ第
 七號書式ノ届書ヲ差出スヘシ
第四十八條 返地ノ期限ヲ經過スルモ借地人ニ於テ前條ノ届
 出ヲ爲ササルトキハ其ノ期限ニ於テ返地ヲ爲シタルモノト
 看做スコトアルヘシ
 前項ノ規定ハ土地ヲ原狀ニ回復セザリシ爲生シタル損害賠
 償ノ請求ヲ妨ケス
第四十九條 返地ニ際シ取拂ハサル地上物件在ルトキハ借地
 人ニ於テ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ適宜之ヲ處分

スルコトアルヘシ
第五十條 借地人ハ土地ノ爲ニ要シタル費用ノ償還ヲ請求ス
 ルコトヲ得ス但シ別段ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス
 附則
第五十一條 本規程ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第五十二條 土地ノ引渡ヲ爲サスシテ一箇月ヲ踰エサル期間
 現狀ノ儘使用ヲ許ス場合ニハ本規程ニ依ルノ限ニ在ラス
 (書式省略)

御料林野疆界査定規則

明治四十四年十二月二十九日 宮内省令第十一號

第一條 (沿革) 大正十三年四月皇室令第八號改正
 御料林野ノ疆界査定ハ皇室財産令第八十七條ノ規定
 ニ基ツキ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ
第二條 疆界査定官吏隣接地所有者ノ立會ヲ求メムトスルト
 キハ五日日前ニ査定ノ日時及場所ヲ隣接地所有者ニ通告スヘ
 シ但シ隣接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾
 シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第三條 隣接地所有者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ
 期間前疆界査定官吏ニ事由ヲ具シテ延期ヲ出願スルコトヲ
 得
第四條 疆界査定ヲ終リタルトキハ帝室林野局長官ハ其ノ旨
 ヲ隣接地所有者ニ通告シ且同時ニ疆界簿及疆界圖ノ謄本ヲ
 土地所轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所
 ニ送付スヘシ
第五條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

郵便ニ依リテ通告書ヲ送付スルトキハ内容證明郵便又ハ配
 達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 郵便ニ依ラスシテ通告書ヲ送付スルトキハ受領ノ日時ヲ記
 載シタル受領證ヲ差出サシムヘシ
第六條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ因リ隣接地所
 有者ニ對シ通告書ヲ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ帝室林
 野局長官ハ官報ヲ以テ之等ノ事由及通告ヲ爲スヘキ事實ノ
 要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ翌日ヨリ起
 算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ通告ヲ受
 ケタルモノト看做ス
第七條 隣接地所有者ハ第四條ノ通告ヲ受ケタル後ハ土地所
 轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所ニ就キ
 疆界簿及疆界圖ノ謄本ヲ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
第八條 隣接地所有者ハ帝室林野局長官ニ對シ自己ノ所有地
 ノ下付ヲ申請スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ接續民有地ノ一筆毎ニ疆界簿ニ在リテ
 ハ金十錢疆界圖ニ在リテハ金二十錢ノ割合ヲ以テ調製費ヲ
 納付スヘシ
第九條 疆界簿又ハ疆界圖ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタ
 ルトキハ帝室林野局長官ハ直ニ其ノ旨ヲ隣接地所有者ニ通
 告シ且同時ニ抄本ヲ土地所轄ノ帝室林野局出張所又ハ帝室
 林野局支廳ノ出張所ニ送付シ疆界簿又ハ疆界圖ノ謄本ヲ訂
 正セシムヘシ
 附則
 本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●不要存御料地處分令

大正七年十二月二十七日
皇室令第十六號

〔沿革〕

大正十年八月皇室令第六號、同十二年七月同第一三號、同十三年四月同第八號、同十四年六月同第一九號、昭和五年六月同第一二號改正

- 第一條 御料地整理ノ爲ニ行フ土地ノ賣拂ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 土地ノ賣拂ハ一般入札ノ方法ニ依リ競争ニ付スヘシ
- 第三條 土地ノ賣拂ハ左ニ掲ケタル場合ニハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 一 公共用公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 - 二 本令公布前ヨリ引續キ年期ヲ以テ貸付スル土地若ハ其ノ換地トシテ貸付スル土地及其ノ殘地ヲ其ノ借受人又ハ土地ノ使用者ニ賣拂フトキ
 - 三 開墾又ハ植樹ノ爲年期ヲ以テ貸付スル土地及其ノ殘地ヲ其ノ事業ノ成功者ニ賣拂フトキ
 - 三ノ二 保安林ヲ其ノ直接利害關係者ニ賣拂フトキ
 - 四 產物特賣ノ慣行アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ特賣ヲ受ケル者ニ賣拂フトキ
 - 五 放牧ノ慣行アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ放牧人ニ賣拂フトキ
 - 六 本令公布前ヨリ部分木ノ仕付アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ仕付人ニ賣拂フトキ
 - 六ノ二 委託林野ヲ其ノ受託者ニ賣拂フトキ
 - 六ノ三 道路、鐵道、軌道、溜池、水路、堤塘又ハ發電所

- ノ敷地トシテ貸付スル土地ヲ其ノ借受人ニ賣拂フトキ
- 七 小面積ノ土地ヲ其ノ隣地ノ所有者ニ賣拂フトキ
- 八 地方團體ニ其ノ所在ノ土地ヲ賣拂フトキ
- 九 競争ニ付シタルモ競争者ナキトキ又ハ競争價格豫定價格ニ達セサルトキ
- 十 競落人ニ於テ義務ヲ履行セサルニ因リ賣拂ヲ爲スコトヲ得サル土地ヲ落札金額ヲ下ラサル價格ヲ以テ賣拂フトキ

- 第四條 前條第二號乃至第七號ノ關係アル土地ハ其ノ各號ノ一ニ該當スル資格者ニ賣拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ限り之ヲ隨意契約ニ依リ宮内大臣ノ定ムル所ニ從ヒ當該資格者ニ準スヘキ者ニ賣拂フトコトヲ得
- 第五條 賣拂代金ノ納付ヲ怠リタルニ因リ賣拂契約ヲ解除シタルトキハ買受人ヲシテ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ違約金ヲ納付セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ既納ノ賣拂代金アルトキハ之ヲ違約金ニ充當ス
- 第六條 賣拂代金ハ事情ニ依リ其ノ分納ヲ許可スルコトヲ得賣拂代金ノ分納ヲ許可シタル場合ニ於テハ買受人ヲシテ擔保ヲ提供セシムヘシ但シ立木ナキ土地ノ賣拂代金又ハ國若ハ地方團體ニ對スル土地ノ賣拂代金ニ付テハ擔保ヲ提供セシメサルコトヲ得
- 第六條ノ二 立木地ノ賣拂代金ニ付テハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り土地代金ト分離シテ立木代金ノ納付ヲ許可スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ立木地ノ立木代金ヲ完納シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ規定スル擔保ノ提供ニ關シテハ之ヲ立木ナキ土地ト看做ス
- 第七條 分納ヲ許可シタル賣拂代金ニハ利子ヲ附シ年賦又ハ

〔沿革〕

大正十年一月宮内省令第一號、同年八月同第九號、同十二年七月同第七號、同十三年四月皇室令第八號、同十四年六月同第六號、昭和五年六月同第六號改正

第一章 總 則

- 第一條 御料地整理ノ爲不要存御料地ヲ賣拂ハムトスルトキハ皇室林野局長官ハ其ノ所在、面積其ノ他必要ナル事項ヲ官報及其ノ土地所在地方ノ新聞紙又ハ適當ナル方法ニ依リ公告スヘシ但シ不要存御料地處分令第三條ノ規定ニ依リ賣拂ヲ爲ス場合ニ於テ公告ノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ公告シタル事項ノ外其ノ土地ニ關スル諸般ノ事項ハ公告ニ於テ指定シタル皇室林野局ノ支局、又ハ出張所ニ就キ承合スヘシ
- 第二條 本令ニ依リ皇室林野局長官ニ提出スヘキ書類ハ買受人出頭シテ之ヲ提出スル場合ヲ除クノ外書留郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ皇室林野局ニ提出スヘシ
- 第三條 書類ニシテ公告又ハ指定シタル期限内ニ皇室林野局ニ到達セサルモノハ之ヲ無効トス但シ皇室林野局長官已ムコトヲ得サル事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 (削除)
- 第五條 地方團體ヨリ提出スル拂下願書ニハ其ノ議決機關ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ
- 第六條 官國幣社以外ノ神社ヨリ提出スル拂下願書ニハ神職ハ氏子又ハ信徒總代三人ト連署シ之ニ地方長官ノ許可書ヲ添附スヘシ
- 寺院ヨリ提出スル拂下願書ニハ住職ハ檀徒又ハ信徒總代三

●不要存御料地處分令施行規則

大正七年十二月二十八日
宮内省令第十號

- 半年賦ノ方法ニ依リテ之ヲ納付スヘシ但シ公共用公用又ハ公益事業ノ爲土地ヲ賣拂フ場合ニ於テ宮内大臣必要アリト認ムルトキハ利子ヲ附セサルコトヲ得
- 第八條 賣拂地ノ所有權ハ賣拂代金ヲ完納シタル時又ハ擔保ヲ提供シタル時ニ於テ買受人ニ移轉ス但シ國又ハ地方團體ニ對シ擔保ヲ提供セシメサル場合ニ於テハ賣拂地ノ所有權ハ賣拂代金納付ノ割合ニ從ヒ之ヲ移轉スルコトヲ得
- 立木地ニ於ケル立木ノ所有權ハ立木代金ヲ完納シタル時買受人ニ移轉ス
- 擔保ヲ提供セシメシテ賣拂代金ノ分納ヲ許可シタル場合ニ在リテハ買受人ハ最初ノ分納金ヲ納付シタル後ハ無償ニテ其ノ土地ノ用法ニ從ヒ使用收益ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 (削除)
- 第十條 皇室會計令及附屬法令ノ規定ハ本令及附屬法令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ノ賣拂ニ準用ス
- 附 則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 附 則 (昭和五年六月皇室令第一二號)
- 本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 本令施行前ニ於テ世傳御料ヲ解除セラレタル土地ニ付テハ不要存御料地處分令第三條第二項ノ規定ハ仍其ノ効力ヲ有ス

人ト連署シ之ニ市町村長及宗派管長ノ與書ヲ受クヘシ
 第七條 代理人ヨリ提出スル拂下願書ニハ代理權ヲ證スル書
 面ヲ添付スヘシ
 第八條 二人以上連署シテ共同ニ拂下ノ出願ヲ爲シタル場合
 ニ於テハ一人ノ代理人ヲ定メ之ヲ帝室林野局長官ニ届出ツ
 ヘシ
 第九條 買受人又ハ代理人氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ
 之ヲ帝室林野局長官ニ届出ツヘシ代理人ノ變更又ハ代理權
 ノ變更若ハ消滅アリタルトキ亦同シ但シ氏名變更ノ届出ニ
 付テハ戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ
 前項ノ届出ナキトキハ其ノ變更又ハ消滅ヲ以テ帝室林野局
 長官ニ對抗スルコトヲ得ス
 第十條 本令ニ依リ提出スヘキ書類ニ不備又ハ錯誤アルトキ
 ハ帝室林野局長官ハ期限ヲ指定シテ其ノ訂正ヲ爲サシムル
 コトヲ得
 第十一條 拂下ヲ爲シタル土地附帶ノ義務ハ買受人ニ於テ之
 ヲ承継スヘシ
 第十二條 買受人ハ拂下ノ確定シタル後ニ於テハ買受ニ係ル
 土地ノ面積又ハ立木ノ蓄積ニ錯誤アリタルトキト雖帝室林
 野局長官ニ異議ヲ述フルコトヲ得ス拂下ノ確定シタル後ニ
 於テ不可抗力其ノ他帝室林野局長官ノ責ニ歸スヘカラサル事由
 ニ因リ生シタル土地又ハ立木ノ亡失毀損ニ付亦同シ
 第十三條 買受人ハ所有權移轉前ニ在リテハ帝室林野局長官
 又ハ土地所轄帝室林野局長官ノ支局長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ
 拂下物件ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二章 隨意契約

第十四條 隨意契約ニ依ル土地ノ賣拂ニ付テハ第一條ノ規定
 ニ依ル公告中ニ不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當
 スル者ノ出願期限ヲモ掲クヘシ
 第十五條 不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當スル者
 土地ノ拂下ヲ受ケムトスルトキハ帝室林野局長官ニ第一號
 書式ノ拂下願書ヲ出願期限内ニ提出スヘシ
 一團地トシテ公告シタル区域内ニ於ケル土地ノ拂下ヲ受ケ
 ムトスル者ハ不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當ス
 ル他ノ同一資格者ノ全部又ハ一部ト共同ニ拂下願書ヲ提出
 スルコトヲ得一團地内ノ一部ノ土地ノ拂下ヲ受ケムトスル
 者ニ付亦同シ
 第十六條 不要存御料地處分令第三條第二號乃至第八號ノ關
 係アル土地ハ其ノ各號ノ一ニ該當スル資格者ヨリ拂下ノ出
 願アリタルトキト雖之ヲ第一號ニ該當スル資格者ニ賣拂フ
 コトヲ得
 第十七條 不要存御料地處分令第三條第二號ノ規定ニ依ル土
 地使用者ニ土地ヲ拂下クルコトヲ得ルハ同號ノ規定ニ依ル
 借受人出願期限内ニ拂下願書ヲ差出ササルトキ、拂下ノ願
 書若ハ請書ヲ取テ下ケタルトキ、借受人ニ對シテ拂下ノ許可
 セサルトキ又ハ拂下許可其ノ效力ヲ失ヒタルトキニ限ル
 前項ノ規定ハ不要存御料地處分令第三條第二號乃至第六號
 ノ三ニ掲ケタル土地ヲ同第七號又ハ同第八號ニ掲ケタル者
 ニ拂下クル場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條 同一ノ土地ニ付出願者二人以上アル場合ニ於テ前
 條ノ規定ニ依リ難キ特殊ノ事情アルトキハ帝室林野局長官
 ハ前條ノ規定ニ拘ラス更ニ期限ヲ指定シテ各出願者ヲシテ協
 議ヲ爲サシメ第二號書式ノ拂下願書ヲ提出セシムルコトヲ
 得

第三章 競争契約

第二十五條 拂下地トシテ公告シタル土地ニシテ一般入札ノ
 方法ニ依リ賣拂フ爲サムトスル部分ニ付テハ帝室林野局長
 官ハ入札期日ヨリ少クトモ三十日前ニ適當ナル方法ヲ以テ
 左ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ
 一 土地ノ所在及面積
 二 契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名
 三 入札手續書及契約書案ヲ示スヘキ場所
 四 入札ノ場所及年月日時
 五 入札保證金ノ率
 六 前各號ノ外必要ナル事項

第四章 代金納付

第二十六條 拂下代金ニシテ一時ニ納付スヘキモノハ拂下ノ
 確定シタル日ヨリ六十日以内若ハ指定期限内ニ又分納金ハ
 毎回其ノ金額ヲ一時ニ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林
 野局長ノ支局長ノ指示ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ
 第二十七條 拂下代金分納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第四號
 書式ノ拂下代金分納願書ヲ帝室林野局長官ニ提出スヘシ
 前項ニ掲ケタル者ニ付御料地處分令第六條第二項但書ノ
 規定ニ依リ擔保提供ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ前項ノ願
 書提出ト共ニ其ノ旨ヲ出願スヘシ
 第二十八條 不要存御料地處分令第七條ノ規定ニ依ル分納ノ
 期間ハ拂下代金ニ利子ヲ附スル場合ニ在リテハ五年以内
 之ニ利子ヲ附セサル場合ニ在リテハ五年以内トス
 前項ノ規定ニ依ル年數ハ分納許可ノ日ヨリ曆ニ從ヒテ之ヲ
 計算ス

前項ノ協議調ハサルトキハ帝室林野局長官其ノ土地ノ處分
 ヲ決定ス
 第十九條 帝室林野局長官ハ一團地トシテ公告シタル區域内
 ニ於ケル土地ノ拂下ヲ受ケムトスル者ニ對シ區域及期限ヲ
 指定シテ不要存御料地處分令第三條各號ノ一ニ該當スル他
 ノ同一資格者ノ全部又ハ一部ト共同ニ拂下願書ヲ提出セシ
 ムルコトヲ得一團地内ノ一部ノ土地ノ拂下ヲ受ケムトスル
 者ニ付亦同シ
 第二十條 一團地ノ一部ニ付拂下ノ出願アリタル場合ニ於テ
 地形其ノ他ノ關係上必要アリト認メタルトキハ帝室林野局
 長官ハ區域及期限ヲ指定シ更ニ拂下願書ヲ提出セシムルコ
 トヲ得
 第二十一條 (削除)
 第二十二條 帝室林野局長官拂下ヲ許可シタルトキハ土地所
 轄帝室林野局長官又ハ出張所ヲ經テ指令書ヲ出願者ニ交
 付スヘシ
 第二十三條 出願者ハ拂下許可ノ指令書發送ノ日ヨリ三十日
 以内ニ其ノ土地所轄帝室林野局長官又ハ出張所長ニ第
 三號書式ノ拂下請書ヲ提出スヘシ
 拂下ハ前項ノ請書ヲ提出シタルトキニ確定シタルモノトス
 第二十四條 特定ノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケタル土地ヲ拂下ヲ
 受ケタル後十年以内ニ其ノ目的以外ニ使用シ又ハ之ヲ讓渡
 シ若ハ擔保ニ供セムトスルトキハ帝室林野局長官ノ承認ヲ
 受クヘシ
 買受人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ帝室林野局長官ノ指
 示スル所ニ從ヒ違約金トシテ拂下代金ノ半額以内ニ相當ス
 ル金額ヲ納付スヘシ

第二十九條 帝室林野局長官拂下代金ノ分納ヲ許可シタルトキハ土地所轄帝室林野局ノ支局又ハ出張所ヲ經テ指令書ヲ出願者ニ交付スヘシ

第三十條 拂下代金分納ノ許可ヲ受ケタル買受人擔保ヲ提供セムトスルトキハ其ノ期間内ニ毎回ノ分納金毎ニ擔保限ヲ指定シタルトキハ其ノ期間内ニ毎回ノ分納金毎ニ擔保證券ノ種類、記號番號、額面金額及數量ヲ記載シタル第五號書式ノ擔保品納付書ヲ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ニ提出スヘシ

第三十一條 拂下代金分納ノ擔保タルヘキ證券ハ無記名國債證券トス

第三十二條 (削除)

第三十三條 擔保品ハ分納金額以上ノ價格ヲ有スルコトヲ要ス

第三十四條 分納ノ利率及擔保品ノ擔保價格ハ帝室林野局長官宮内大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第三十五條 分納金ヲ納付シタルトキハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ハ之ニ對スル擔保ヲ還付スヘシ

第三十六條 買付人已ムコトヲ得サル事由ニ依リ拂下代金ヲ其ノ納期ニ納付スルコト能ハサルトキハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ハ買受人ノ出願ニ依リ相當期間ヲ指定シテ其ノ納付ヲ猶豫スルコトヲ得但シ拂下代金ニシテ一時ニ納付スヘキモノノ納付ヲ猶豫スル場合ニ在リテハ一年、分納金ノ納付ヲ猶豫スル場合ニ在リテハ其ノ分納ノ最後ノ納期ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ納付ヲ猶豫シタルトキハ其ノ猶豫期間ニ

對シテ利子ヲ徵收スヘシ

第三十七條 買受人納期ニ分納金ヲ納付セザルトキハ帝室林野局長官又ハ土地所轄帝室林野局ノ支局長ハ其ノ擔保品ノ全部又ハ一部ヲ賣却シ其ノ賣却代金ヲ以テ順次ニ賣却費用前條ノ利子及分納金又ハ違約金ニ充當スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ過剩アルトキハ之ヲ買受人ニ還付スヘシ但シ納期未達ノモノアルトキハ擔保品賣却代金ノ過剩ハ納期到來ノ際其ノ代金ニ充當スルコトヲ得

第三十八條 不要存御料地處分令第五條ニ規定スル違約金ハ帝室林野局長官ノ指示スル所ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

前項規定スル違約金ノ額ハ拂下代金ノ百分ノ十以上百分ノ三十以下トス

拂下代金分納ノ場合ニ於テハ分納金ノ總額ヲ以テ前項ノ拂下代金トス

附則
本令ハ不要存御料地處分令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(書式省略)

御料地拂下規程
明治四十一年十二月二十八日
宮内省令第十號

第一條 小町歩不要存御料地ノ拂下ハ本令ノ定ムル所ニ依リ拂下御料地ノ箇所及拂下出願期限ハ之ヲ告示ス

第二條 不要存御料地ハ左ニ掲ケタル各號ノ一ニ該當スル者ニ特ニ拂下ヲ爲スモノトス

一 草木刈伐ノ爲メ入會ノ慣行アル土地ニ付テハ其ノ入會部落

二 木竹土石其ノ他ノ產物ヲ本令公布以前ヨリ特賣スル慣行アル土地ニ付テハ其ノ特賣ヲ受クル者

三 社寺ニ於テ從來祭典法要ニ使用シタル土地ニ付テハ其ノ社寺

四 神祠、佛堂ノ存在スル土地ニ付テハ其ノ祠堂ノ主持者

五 祠宇其ノ他遺跡ノ存在シ又ハ墓碑等ノ建設シタル土地ニ付テハ其ノ緣故者

六 舊城趾、舊陣屋跡地ニ付テハ其ノ舊領主又ハ舊領主ノ相續者

七 部分木ノ仕付アル土地ニ付テハ其ノ仕付者

八 三年以上引續キ貸付シ現ニ貸付中ノ土地又ハ本令公布以前ヨリ三年以上ノ契約ヲ以テ貸付シタル土地ニ付テハ其ノ借受者

第三條 前條ニ掲ケタル關係ノ存セザル土地若ハ前條各號ノ一ニ該當スル者ニシテ拂下ヲ出願セズ又ハ出願スルモ拂下ヲ爲ササル土地ニ付テハ其ノ御料地ニ接續スル土地ノ所有者ニ特ニ拂下ヲ爲スモノトス

第四條 前二條ノ規定ニ依リ拂下ヲ爲ササル土地ニ付テハ其ノ所屬ノ市町村ニ拂下ヲ爲スコトヲ得

第五條 第二條及第三條ノ規定ニ依リ拂下ヲ出願セムトスルトキハ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支廳、帝室林野局出張所又ハ帝室林野局支廳ノ出張所ニ就キ其ノ土地ニ係ル義務ノ有無ヲ承合シ且實地ノ狀況ヲ熟覽シタル上出願期限内ニ甲號書式ノ拂下願書ヲ差出スヘシ

第六條 第四條ノ規定ニ依リ土地所屬ノ市町村ニ拂下ヲ爲サムトスルトキハ帝室林野局長官ハ出願期限ヲ指定シテ之ヲ其ノ市町村ニ通知スヘシ

第七條 拂下願書ハ其ノ出願期限迄ニ帝室林野局ヘ差出スヘシ

出願期限ヲ經過シテ差出シタル拂下願書ハ之ヲ受理セズ

第八條 同一ノ土地ニ付キ第二條ニ掲ケタル出願者二人以上アリタルトキハ帝室林野局長官ハ新ニ期限ヲ指定シ各出願者ヲシテ協定ヲ爲サシメタル上更ニ乙號書式ノ拂下願書ヲ差出サシムルコトヲ得

第三條ニ掲ケタル出願者二人以上アリタルトキ亦同シ

一團地又ハ一筆地ノ一部ニ付キ拂下ノ出願アリタル場合ニ於テ地形其ノ他ノ關係上拂下ヲ許可スヘカラスト認メタルトキハ帝室林野局長官ハ期限並拂下クヘキ區域ヲ指定シ更ニ拂下願書ヲ差出サシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ指定ノ期間内ニ更正シタル願書ヲ差出ササルトキハ其ノ拂下ハ之ヲ許可セズ

第九條 出願者ノ申立價格ニシテ不相當ト認メタルトキハ其ノ拂下ハ之ヲ許可セズ

第十條 拂下ヲ許可シタルトキハ指令書ヲ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支廳又ハ帝室林野局出張所ヲ經テ出願者ヘ送達スヘシ

第十一條 出願者ハ拂下許可ノ指令書ヲ受領シタル日ヨリ三十日以内ニ丙號書式ノ請書ヲ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支廳又ハ帝室林野局出張所ヘ差出スヘシ

前項ノ期間内ニ請書ヲ差出ササルトキハ帝室林野局長官ハ其ノ拂下許可ノ指令ハ効力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

第十二條 願書又ハ請書ニ不備若ハ誤謬アルトキハ帝室林野局長官ハ期限ヲ指定シテ之カ訂正ヲ爲サシムヘシ

出願者ニ於テ前項指定ノ期限内ニ訂正ヲ爲シテ差出ササルトキハ其ノ願書又ハ請書ハ之ヲ取下ケタルモノト看做スコトヲ得

トヲ得
第十三條 拂下代金ニシテ一時ニ納付スヘキモノハ請書ヲ差出シタル日ヨリ六十日以内ニ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支廳又ハ帝室林野局出張所ノ指示ニ從ヒテ之ヲ納付スヘシ
第十四條 拂下代金ニシテ金額千圓ヲ超ユルトキハ帝室林野局長官ハ左ノ制限ニ從ヒ分納ヲ許可スルトコトヲ得但シ最終ノ年ヲ除クノ外年割平均額ヲ下スコトヲ得ス
 金額二萬圓未滿ハ二年以内
 金額五萬圓未滿ハ四年以内
 金額七萬圓未滿ハ六年以内
 金額十萬圓未滿ハ八年以内
 金額十萬圓以上ハ十年以内
第十五條 前條ニ規定シタル年數ハ請書ヲ差出シタル日ヨリ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス
第十六條 拂下代金分納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ丁號書式ノ副願書ヲ差出スヘシ
第十七條 拂下代金ノ分納ヲ許可シタルトキハ拂受人ハ請書ヲ差出シタル日ヨリ六十日以内ニ又特ニ期限ヲ指定シタルトキハ其ノ期間内ニ拂下代金ノ金額以上ノ時價ヲ有スル國債證券ヲ擔保トシテ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支廳又ハ帝室林野局出張所ニ提供スヘシ但シ左ノ區別ニ從ヒ擔保品納付書ヲ添附スルトコトヲ要ス
 一 無記名證券又ハ拂受人ノ所有ニ屬スル記名證券ナルトキハ戊號書式ノ擔保品納付書
 二 拂受人ノ所有ニ屬セサル記名證券ナルトキハ己號書式ノ擔保品納付書
 前項國債證券ノ擔保價格ハ帝室林野局長官ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 拂下代金ノ分納ヲ許可シタルトキハ拂受人ハ其ノ土地所轄ノ帝室林野局支廳又ハ帝室林野局出張所ノ指示ニ從ヒ毎年其分納金ノ金額ヲ一時ニ納付スヘシ
第十九條 拂受人ニ於テ分納金ヲ納付スル毎ニ之ニ對スル擔保品ノ還付ヲ受ケムトスルトキハ毎回ノ分納額ニ擔保品ヲ區分シテ第十七條ノ手續ヲ爲スヘシ
第二十條 拂受人ニ於テ第十三條ノ期限内ニ拂下代金ヲ納付セス若ハ第十七條第一項ノ期限内ニ其ノ擔保品ヲ提供セザルトキハ帝室林野局長官ハ拂下許可ノ指令ヲ取消スコトヲ得
第二十一條 拂下代金ノ全部ヲ納付シ又ハ擔保品ノ全部ヲ提供シタルトキハ引渡ヲ要セスシテ拂下ヲ爲シタル御料地ノ所有權ハ拂受人ニ移轉シタルモノトス
第二十二條 第十七條及第十九條ノ規定ニ依リ提供シタル擔保品ハ拂下代金ヲ納付シタル場合ニ於テ之ヲ拂受人ニ還付ス可シ
第二十三條 第十八條ノ規定ニ依リ指示シタル期間内ニ分納金ノ納付ヲ爲ササルトキハ帝室林野局長官ハ擔保品ヲ賣却シ其ノ金額ヲ以テ納付スヘキ代金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ過剩アルトキハ之ヲ還付スヘシ
第二十四條 拂下ヲ爲シタル土地ニ屬スル權利義務ハ拂受人ニ於テ之ヲ繼承スヘシ
第二十五條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ帝室林野局長官ハ本令ノ規定ニ依ラスシテ適宜ニ拂下ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 第五條及第六條ノ規定ニ依リ期限内ニ拂下ノ出願ヲ爲ササルトキ
 二 第八條第三項及第九條ノ規定ニ依リ拂下ヲ許可セザルトキ

三 第十一條第二項ノ規定ニ依リ拂下許可ノ指令効力ヲ失ヒタルモノト看做シタルトキ
 四 第十二條第二項ノ規定ニ依リ願書又ハ請書ヲ取下ケタルモノト看做シタルトキ
 五 第二十條ノ規定ニ依リ拂下許可ノ指令ヲ取消シタルトキ
第二十六條 市町村又ハ市町村内ノ區ニ於テ拂下ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ願書ニ市町村會又ハ區會ノ決議書ノ謄本ヲ添附シ市參事會又ハ町村長ヨリ出願ヲ爲スヘシ
第二十七條 神社又ハ寺院ヨリ拂下ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ神社ニ在リテハ願書ニ神職及氏子總代三名以上氏子ナキトキハ信徒總代三名以上連署シ且地方長官ノ許可書ヲ添付シ寺院ニ在リテハ願書ニ住職及檀徒總代三名以上檀徒ナキトキハ信徒總代三名以上連署シ市町村長及宗派管長ノ與書ヲ受ケ差出スヘシ
第二十八條 代理人又ハ親權者若ハ後見人ヨリ拂下ヲ出願スル場合ニ於テハ代理人ニ在リテハ代理權ヲ證スヘキ書面親權者及後見人ニ在リテハ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ願書ニ添付スヘシ
 附 則
 本令ハ明治四十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (書式省略)

● 土地ノ產物、貯材及生產品ノ賣拂ニシテ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル場合ニ關スル件

明治四十五年七月十日
 宮内省令第七號

〔沿革〕 昭和六年六月宮内省令第七號改正
第一條 土地ノ產物ノ賣拂ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得
 一 皇族、王族、公族、官署、公署又ハ公共團體ニ賣拂フトキ
 二 神社又ハ寺院其ノ他宗教ノ用ニ供スル堂宇、會堂ノ類ノ營繕材料ヲ其ノ社寺又ハ宗教團體ニ賣拂フトキ
 三 社會事業、教育、學藝其ノ他公益事業ノ爲ニ必要ナル材料ヲ其ノ當事者ニ賣拂フトキ
 四 鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、水道、水害防備、電氣裝置、瓦斯裝置、耕地整理又ハ鐵業等ニ必要ナル材料ヲ其ノ當事者ニ賣拂フトキ
 五 第一號ニ掲ケタル者ノ工事又ハ其ノ材料ノ供給若ハ前號ノ工事又ハ材料ノ供給ヲ請負ヒタル者ニ賣拂フトキ
 六 非常災害アリタル場合ニ於テ營繕若ハ薪炭ノ材料又ハ食料ヲ其ノ罹災者ニ賣拂フトキ
 七 構寸、枕木、人造絹糸、經木、包裝箱、漆器、合板、木管、輸出向加工品、藥品、油脂、染料、乾溜液、液體

- 燃料、船艦、車輛其ノ他重要製造品ノ材料ヲ其ノ當業者ニ賣拂フトキ
 - 八 地元ノ生産業ニ必要ナル資材ヲ直接當業者ニ賣拂フトキ
 - 九 賣拂物件ヲ處理スル爲必要ナル材料ヲ其ノ買受人ニ賣拂フトキ
 - 十 請負ヲ爲サシメタル事業ノ爲必要ナル材料ヲ其ノ請負人ニ賣拂フトキ
 - 十一 林野經營上ノ障害ヲ除去シ又ハ土地ノ讓渡、貸付、使用許可等ヲ爲スニ付處分スルコトヲ必要トスル產物ヲ賣拂フトキ
 - 十二 利用開發ノ必要アル潤葉樹ヲ賣拂フトキ
 - 十三 賣拂物件ト併合處分スルニ非サレハ林野經營上不利ト認ムル產物ヲ其ノ買受人ニ賣拂フトキ
 - 十四 價行ニ依リ地元民ニ賣拂フトキ
 - 十五 委託林野ノ產物ヲ其ノ受託者ニ賣拂フトキ
 - 十六 部分林ノ產物ヲ其ノ造林者ニ賣拂フトキ
 - 十七 貸付地ノ產物ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
 - 十八 地元ノ狀況ニ依リ競争ニ付シ難キトキ
 - 十九 見積價格三千圓ヲ超エサルトキ
 - 二十 競争ニ付シタルモ競争者ナキトキ
 - 二十一 競争價格豫定價格ニ達セサルトキ
 - 二十二 競落人ニ於テ義務ヲ履行セサルニ因リ賣拂ヲ爲スコトヲ得サル物件ヲ豫定價格ヲ下ラサル額ヲ以テ賣拂フトキ
 - 二十三 他ノ會計ニ賣拂フトキ
- 前項ノ規定ニ依ルノ外特別ノ事由ニ因リ競争ニ付スルヲ不利ト認メタル場合ニ於テハ主管部局長官ハ宮内大臣ノ認可

● 拂下豫定御料地公賣規則

明治三十五年五月三十一日
宮内省告示第五號

- ヲ經テ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 第二條 貯材及生産品ノ賣拂ハ總テ隨意契約ニ依ルコトヲ得
 - 第三條 貯材及生産品ノ賣拂ハ當業者ニ委託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
- 附 則
本令ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (昭和六年六月宮内省令第七號)
本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第一條 拂下豫定御料地ノ公賣ハ本規則ニ依リ競争入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ
 - 第二條 競争入札ヲ行ハントスルトキハ入札期日ヨリ少ナクモ三十日以前ニ揭示又ハ官報若ハ新聞紙ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 - 一 公賣物件ノ所在
 - 二 公賣物件ノ賣拂番號、種類、面積、材積、數量
 - 三 入札保證金額
 - 四 土地ニ附帶スル義務ノ要領
 - 五 競争入札執行ノ場所
 - 六 入札及開札ノ年月日時
 - 七 保證金ニ充ツヘキ公債證書ノ種類及擔保價格
 - 八 公賣物件ノ明細書及契約書案等閱覽ノ場所

- 九 契約ノ取結ヲ擔當スル官吏ノ官氏名
- 十 前各項ノ外必要ト認ムル事項
- 第三條 左ノ事項ニ該當スルモノハ競争入札ニ加ハルヲ得ス
 - 一 御料局ノ所管ニ屬スル物件ノ買受代金又ハ借受料金息納中ノ者
 - 二 御料局ノ所管ニ屬スル損害賠償金、辨償金又ハ違約金ノ納入ヲ了ヘサル者
 - 三 公賣ニ付スヘキ物件ニ關シ罪ヲ犯シタル者
- 第四條 競争入札ニ加ハラントスル者ハ豫メ公賣物件及其ノ明細書、契約書案其ノ他契約ニ必要ナル條件ヲ熟覽シ置クヘシ
- 第五條 當該官吏ハ入札人ノ連合又ハ不穩ノ舉動其ノ他ノ事由ニ依リ正當ニ競争入札ヲ行フコト能ハスト認メタルトキハ開札前ニ公賣ノ執行ヲ取消スヘシ
- 第六條 入札人ハ入札前ニ現金又ハ利札附無記名公債證書ヲ以テ入札保證金ヲ納付スヘシ
- 第七條 入札保證金額ハ物件見積價格ノ百分ノ五以上トシ其ノ都度之ヲ定ム
- 第八條 入札人ハ入札保證金ヲ納ムルトキハ當該官吏ニ其ノ員數ヲ示シタル後之ヲ封緘シ其ノ封皮ニ金額及姓名ヲ記シ當該官吏ニ差出スヘシ
- 第九條 當該官吏ハ入札保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ヲ作り之ヲ入札人ニ交付スヘシ
- 第十條 入札人ハ賣拂番號毎ニ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作リ封緘ノ上其ノ封皮ニ賣拂番號及姓名ヲ記シ之ヲ入札函ニ投入スヘシ
- 第十一條 入札人ハ入札ノ後ニ至リ何等ノ事由アルモ入札金額ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

- 第十一條 入札函ハ入札締切時刻ニ之ヲ閉鎖スヘシ
- 第十二條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 第十三條 入札人ハ開札ノ場所ニ出席スルヲ要ス
- 第十四條 開札ヲ行フニハ入札書ト入札人トヲ照合シテ入札書ヲ開封シ賣拂番號、入札金額及氏名ヲ讀上ケ之ヲ筆記シ豫定價格以上ノ最高額入札人ヲ落札人ト定メ直ニ開札所ニ於テ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ
- 第十五條 前項ノ最高額ハ該入札書ニ記載セル合計金額ニ依リ之ヲ定ム
- 第十四條 左ノ事項ニ該當スル入札人ハ之ヲ無効トス
 - 一 入札人開札ノ場所ニ出席セサルトキ
 - 二 入札金額又ハ氏名ヲ認知シ難キトキ
- 第十五條 入札金額豫定價格ニ達セサルトキハ當該官吏開札所ニ於テ其ノ旨ヲ報告シ直ニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシムヘシ若シ再入札ヲ望ムモノナキトキ又ハ再入札ヲ爲サシムヘシ金額豫定價格ニ達セサルトキハ其ノ公賣ヲ取消スヘシ
- 第十六條 落札トナルヘキ同金額ノ入札ヲ爲シタル者二人以上ナルトキハ當該官吏ハ其ノ入札人ヲシテ増價ノ再入札ヲ爲サシムヘシ
- 第十七條 前項入札人ノ全員カ再入札ヲ爲ササルトキ又ハ再入札ヲ爲シタル者ノ入札最高金額同額ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ抽籤ヲ爲ササルモノハ其ノ入札ヲ取消シタルモノト看做ス
- 第十八條 落札人賣買契約ヲ結ハサルトキハ豫定價格以上ノ入札人中入札金額ノ高キモノヨリ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムヘシ
- 第十九條 前項ノ入札人落札人ノ確定セサル前ニ於テ開札場ヲ退席シ

第十八條 當該官吏ハ落札人賣買契約ヲ結ヒタル場合ニ限リ入札人ノ請求アルトキハ公賣物件ノ豫定價格ヲ示スコトヲ得

第十九條 當該官吏ハ左ノ區別ニ從ヒ入札保證金ヲ入札人ニ還付スヘシ

- 一 公賣ヲ取消シタルトキハ入札人全員ノ入札保證金
- 二 豫定價格以上ノ入札人アリタルトキハ其ノ他ノ入札人ノ入札保證金
- 三 落札人賣買契約ヲ結ヒタルトキハ豫定價格以上ノ入札人ノ入札保證金

第二十條 入札人入札保證金ノ還付ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ノ裏面ニ領收ノ旨ヲ記シ署名捺印シテ之ヲ當該官吏ニ差出スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ違約金トシテ收得スルモノトス

- 一 入札人其ノ入札ヲ取消シタルトキ
- 二 落札人賣買契約ヲ結ハサルトキ

第二十二條 前條ノ規定ニ依リ入札保證金ヲ違約金トシテ收得スル場合ニ於テ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納付シタル者ハ入札ノ日ヨリ起算シ十日以内ニ保證金額ト同額ノ現金ヲ差出スヘシ若シ之ヲ差出ササルトキハ當該廳ハ公債證書ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金ニ充當シ剩餘アルトキハ之ヲ入札人ニ證付シ不足アルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第二十三條 落札人賣買契約ヲ結ハントスルトキハ現金又ハ利札附無記名公債證書ヲ以テ契約金額ノ百分ノ十以上ニ相當スル保證金ヲ納付スヘシ

當該官吏契約保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ

預證書ヲ作り之ヲ落札人ニ交付スヘシ

第二十四條 契約擔當官吏ハ即日落札人ト共ニ第三號書式ニ依リ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領置スヘシ

第二十五條 買受人ハ契約保證金ト共ニ買受代金ノ全部又ハ一部ヲ納付スルコトヲ得

第二十六條 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ之ヲ買受代金ニ換納セシムヘシ

前項換納ノ場合ニ於テハ買受人第二號書式ニ依リ預證書ノ裏面ニ買受代金ニ換納ノ旨ヲ記シ署名捺印ノ上之ヲ當該官吏ニ差出スヘシ

第二十七條 公債證書ヲ以テ契約保證金ヲ納付シタル場合ニ於テ買受人買受代金ヲ完納シタルトキハ當該官吏ハ公債證書ヲ買受人ニ納付スヘシ

買受人公債證書ノ納付ヲ受ケタルトキハ第二號書式ニ依リ預證書ノ裏面ニ領收ノ旨ヲ記シ署名捺印ノ上之ヲ當該官吏ニ差出スヘシ

第二十八條 左ノ場合ニ於テハ賣買契約ヲ解除シ其ノ契約保證金ヲ違約金トシテ收得スルモノトス

- 一 買受人第三十條ニ規定シタル期間内ニ買受代金ヲ完納セザルトキ
- 二 買受人賣買契約ノ解除ヲ請求シタルトキ

第二十九條 前條ニ依リ契約保證金ヲ違約金トシテ收得スル場合ニ於テ公債證書ヲ以テ保證金トナシタルモノハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス但十日ノ期間ハ賣買契約解除ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第三十條 買受代金ハ賣買契約ヲ取結ヒタル日ヨリ六十日以内ニ當該廳ノ指揮ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

第三十一條 買受人買受代金ヲ完納シタルトキハ賣買物件ノ所有權ハ實地ノ引渡ヲ要セスシテ買受人ニ移轉スルモノトス

買受人ハ代金完納前ニ在リテハ當該廳ノ許可ヲ得ルニテアラサレハ賣買物件ニ對シ何等ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 賣買物件ノ面積、種類、數量、材積、品質及土地ニ附帶スル義務ニ差違アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三十三條 賣買地ニ係ル契約上其ノ他ノ義務ニシテ所有權取得以後ニ涉ルモノアルトキハ買受人ニ於テ之ヲ繼承履行スヘキモノトス

第三十四條 入札人、落札人又ハ買受人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ當該廳ニ差出スヘシ

第三十五條 本規則ニ依ル賣買物件ノ賣買契約ノ取結ハ御料局事務所長又ハ御料局出張所長之ヲ擔當ス

(書式省略)

● 帝室林野局請負及賣買規程

大正二年十二月二十五日 (長官ヨリ支廳)
第五一〇號 (出張所へ達)

第一章 總 則

第一條 帝室林野局ニ於ケル請負又ハ賣買ニ付テハ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 代理人ニ於テ請負又ハ賣買ヲ爲ストキハ其ノ代理權ヲ證スヘキ書面ヲ提出スヘシ

第三條 數人共同シテ請負又ハ賣買ヲ爲ス場合ニ於テ代理人ニ依ラサルトキハ代表者一人ヲ定メ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ各人互ニ代表スルモノト看做ス

第二章 競争契約

第四條 入札ニ加ハラムトスル者ハ豫メ入札手續、契約書案ノ外仕様書、圖面、標本其ノ他公告ニ示ス事項ヲ閱覽スヘシ

前項ノ規定ニ依リ閱覽ヲ爲サムトスル者ハ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シタル名刺ヲ提出スヘシ

第五條 皇室會計令施行規則第百條ノ規定ニ依リ入札人其ノ資格ノ證明ヲ爲スニハ營業所所在地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ハ皇室會計令施行規則第百四條第二項ノ規定ニ依リ定メタル資格ノ證明ニ之ヲ準用ス

第六條 入札保證金ヲ提供スルトキハ其ノ金額ヲ入札擔任ノ官吏ニ示シ其ノ面前ニ於テ之ヲ封緘シ其ノ封皮ニ入札物件ノ番號金額及住所氏名ヲ記載シテ差出スヘシ國債證券ヲ以テ保證金ニ代用スル場合ニ在リテハ尙證券ノ種類券面金額及枚數ヲ記載スヘシ

第七條 一件以上同時ニ入札ヲ爲サムトスル者ハ一件毎ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ時宜ニ依リ二件以上ノ入札保證金ヲ一括シテ提供セシムルコトアルヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ入札保證金ヲ區分スルノ必要生シタルトキハ公告ノ率ニ依リ之ヲ計算ス但シ圓位未滿ノ端數ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第八條 郵便ヲ以テ入札ヲ爲ス者ノ入札保證金ハ現金又ハ國債證券ノ外郵便爲替券ヲ以テ之ヲ提供スルコトヲ得

第九條 前條ノ入札保證金ハ郵便爲替券ヲ以テスルトキハ書留郵便又ハ配達證明郵便ニ依リ現金ヲ以テスルトキハ價格表記郵便其ノ他確實ナル方法ニ依リ之ヲ送付スヘシ國債證券ニ付キ亦同シ但シ郵便爲替券ヲ以テスル場合ニ限り封緘シタル入札書ト共ニ送付スルコトヲ得

第十條 郵便ヲ以テ入札ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ入札人ハ入札ノ當日午前三日内ニ限リ入札保證金ヲ直接提供スルコトヲ得

第十一條 入札人ハ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り之ヲ封緘シ其ノ封皮ニ入札物件ノ番號及氏名ヲ記載シ入札函ニ投入郵便ニ付スヘキ入札證ノ封皮ニハ前項ニ掲ケタル事項ノ外「入札書」ト記載シ更ニ之ヲ再封シ書留郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ送付スヘシ

第十二條 入札書及入札保證金送付ニ關スル郵便ハ別段ノ公告ナキ場合ニハ總テ契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ニ宛テ且其ノ封皮ニ入札事項ト記載シ入札場ヘ發送スヘシ

第十三條 入札書ヲ入札函ニ投入シタル後ハ其ノ入札書ノ引換又ハ變更ヲ爲スコトヲ得ス但シ追加入札ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條但書ノ規定ニ依リ追加入札ヲ爲サムトスル者ハ第二號書式ニ依リ入札書ヲ作り之ヲ封緘シ其ノ封皮ニ入札物件ノ番號及氏名ヲ記シ且追加入札ト附記スヘシ

第十五條 開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札人ニシテ出席スル者ナキトキハ他ノ官吏ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十六條 入札ヲ爲シタル者入札ノ執行ヲ終ルマテハ入札ノ場所ヲ退去シ皇室會計令施行規則第七條第二項ノ場合ニ抽籤ヲ爲ササルトキハ其ノ入札ハ之ヲ取消シタルモノト看做ス

第十七條 皇室會計令施行規則第七條第二項ノ規定ニ從ヒ抽籤ニ依リ競落人ヲ定ムヘキ場合ニ於テ郵便ヲ以テ入札ヲ爲シタル者アリタルトキハ入札擔任ノ官吏代ハリテ其ノ抽籤ヲ行フ

第十八條 入札函ハ公告ニ示シタル時限ニ閉鎖ス但シ入札人多數ニシテ閉鎖時限ニ入札ヲ終ルコト能ハサルトキハ閉鎖時限ニ入札場ヲ締切り其ノ入札ヲ爲サシムヘシ

第十九條 一日ノ内同一場所ニ於テ數回入札ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ毎回ノ入札及開札ノ時限ハ入札擔任官吏ノ指示スル所ニ依ルヘシ

第二十條 競落ノ通知ヲ受ケタル競落人直ニ契約ヲ締結セザルハ變更更ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 前項ノ規定ニ依リ契約保證金ヲ金庫ニ寄託セムトスルトキハ當該官廳へ申出テ寄託通知書ヲ交付ヲ受ケ之ヲ現金又ハ國債證券ニ添ヘ金庫ニ寄託シ金庫ヨリ保管證ヲ受領シテ之ヲ當該官吏ニ提出シ預リ證ノ交付ヲ受クヘシ

第二十二條 契約保證金ハ契約者契約條項ニ違背セスシテ其ノ義務ヲ完了シタルトキ之ヲ還付スヘシ

第二十三條 契約保證金ハ前項ノ場合ニ違反シタル場合又ハ其ノ履行ヲ爲ササル爲メ契約ヲ解除シタル場合ニハ違約金トシテ之ヲ收得ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テ國債證券アルトキハ其ノ提供者ハ違約金トシテ收得ノ旨通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ十日内ニ契約保證金額ニ該當スル現金ヲ提供シ其ノ還付ヲ求ムルコトヲ得若シ其ノ期間内ニ提供セサルトキハ國債證券ヲ賣却シ其ノ金額ヲ以テ收得金及賣却費用ニ充テ過剩アリタルトキハ之ヲ還付ス

第二十五條 請負人ハ仕様書、圖面及工事功程表ニ基キ契約ニ定メタル竣工期限迄ニ工事ヲ完成スヘシ

第二十六條 請負人ハ仕様書及圖面ニ明記セサル事項ト雖工事上必要缺クヘカラサルモノ又ハ仕様書ト圖面ト符合セサルモノアルトキハ當該官吏ノ指揮ニ從ヒ總テ請負金額ヲ以テ施行スヘシ

第二十七條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第二十八條 請負人ハ工事施行地ノ屬スル市町村又ハ其ノ附近

換又ハ變更更ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 請負人ハ仕様書、圖面及工事功程表ニ基キ契約ニ定メタル竣工期限迄ニ工事ヲ完成スヘシ

第三十條 請負人ハ仕様書及圖面ニ明記セサル事項ト雖工事上必要缺クヘカラサルモノ又ハ仕様書ト圖面ト符合セサルモノアルトキハ當該官吏ノ指揮ニ從ヒ總テ請負金額ヲ以テ施行スヘシ

第三十一條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十二條 請負人ハ工事施行地ノ屬スル市町村又ハ其ノ附近

第三十三條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十四條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十五條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十六條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十七條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十八條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第三十九條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十一條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十二條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十三條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十四條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十五條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十六條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十七條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

第四十八條 請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ其ノ指示スル様式ニ依リ工事内譯書ヲ差出シ其ノ承認ヲ經ヘシ當該官吏ニ於テ工事功程表ノ提出ヲ命シタルトキ亦同シ

ルトキハ第三號書式ノ請書ヲ提出スヘシ

第二十一條 第七條第一項但書ノ規定ニ依リ入札保證金ノ提供アリタル場合ニ於テ皇室會計令施行規則第十條第二號ニ該當スル入札アリタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ其ノ效力ヲ定ム

一 一時ニ入札ヲ行ヒタルトキハ其ノ入札物件ノ番號數ノ多キモノヨリ順次無効トス

二 數回ニ入札ヲ行ヒタルトキハ最後ノ入札ヨリ順次無効トス

第三節 契約

第一節 總則

第二十五條 契約保證金ヲ提供セムトスルトキハ金庫所在地ニ在リテハ金庫ニ寄託シ金庫所在地以外ニ在リテハ當該官吏ニ提供スヘシ入札保證金ヲ契約保證金ニ充當セムトスル場合ニ於ケル不足額ノ納付ニ付亦同シ

ニ住所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ定メ工事ニ著手スヘキ期日マテニ當該官吏ニ届出ツヘシ
 工事ニ著手シタル後他ノ市町村ヘ住所ヲ轉シタルトキハ工事施行地ノ屬スル市町村又ハ其ノ附近ニ假住所ヲ定メ速ニ届出ツヘシ
第三十三條 當該官吏ハ何時ニテモ工事ノ現場其ノ他ノ工作場ニ臨ミ工事ノ實況ヲ検査シ又ハ工事ニ關シ指揮スルコトアルヘシ
第三十四條 請負人ハ工事施行中日々工場ニ出頭シ工事ニ關スル諸般ノ事項ヲ處理スヘシ若シ請負人自ラ出頭シ難キトキハ適當ノ代理人ヲ選任シテ出頭セシメ速ニ其ノ者ノ住所氏名ヲ當該官吏ニ届出ツヘシ
 當該官吏ニ於テ前項ノ代理人ヲ不適當ト認メタルトキハ請負人ハ更ニ適當ノ代理人ヲ選任スヘシ
第三十五條 工事ニ使用スル職工人夫ニシテ當該官吏ノ命ニ從ハサル者又ハ不良ノ行爲アリタル者若ハ技能拙劣ナル者アル場合ニ於テ當該官吏ヨリ其ノ差替ヲ命セラレタルトキハ請負人ハ速ニ之ニ應スヘシ之カ増員ヲ命セラレタルトキ亦同シ
第三十六條 工事ニ使用スル材料ハ別段ノ契約アル場合ヲ除ク外總テ請負人ニ於テ提供スヘキモノトス
 材料ノ提供ヲ受ケ之ヲ工事ニ使用スル場合ニ於テハ請負人ハ當該官吏ノ指定スル日時及場所ニ於テ之カ引渡ヲ受ケ自己ノ費用ニ於テ伐採、掘探、造材、運搬其ノ他ノ行爲ヲ爲スヘシ
第三十七條 工事ニ使用スル材料中寸法又ハ品質等ノ定アルモノニ付テハ使用前ニ於テ當該官吏ノ検査ヲ受ケ合格シタルモノニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

検査ノ結果不合格ノ材料アリタルトキハ速ニ其ノ代品ヲ提供シ更ニ検査ヲ受クヘシ
第三十八條 材料中調査ヲ要スルモノアルトキハ請負人ハ調査ニ際シ當該官吏ノ立會ヲ受クヘシ水中又ハ地中ニ埋設スル工事其ノ他竣工後外面ヨリ検査スルコト能ハサル工事施行ノ場合亦同シ
第三十九條 當該官吏ハ材料、構造等カ仕様書又ハ書面ニ適合セスト認メタルトキハ何時ニテモ其ノ引換又ハ改造ヲ爲サシムルコトアルヘシ此ノ場合ト雖請負人ハ契約期間ノ延長ヲ請求スルコトヲ得ス
第四十條 當該官吏ハ必要ノ場合ニ於テハ何時ニテモ工事ノ變更又ハ中止ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ請負人ハ當該官吏ノ定メタル契約期間ノ變更ニ關シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
 工事變更ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ工事内譯書ニ基キ請負金額ヲ更正ス但シ之ニ依リ難キモノニ付テハ請負人ト協定シテ其ノ金額ヲ定ム
 前二項ノ場合ニ於テ請負人ニ損害ヲ生シタルトキハ當該官吏ハ自己ノ認定ニ依リ賠償額ヲ定ム
第四十一條 當該官吏ハ請負人ヨリ請求アリタルトキハ自己ノ認定ニ依リ其ノ出來高ニ對スル相當金額ノ十分ノ七以內ノ前拂ヲ爲スコトアルヘシ
第四十二條 天災事變其ノ他ノ不可抗力ニ因リテ工事ヲ妨ケラレタル場合ニ於テ請負人竣工期間ノ延長ヲ請ハムトスルトキハ速ニ其ノ事由ヲ具シ出願スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ其ノ事由ヲ正當ト認メタルトキハ自己ノ認定ニ依リ其ノ期限ヲ更正ス
第四十三條 竣工期間内ニ工事ヲ完成セサル場合ニ於テ第四

十九條ニ依リ契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ遅延賠償金トシテ遅延日數ニ應ジ一日ニ付請負金高千分ノ二ノ割合ヲ以テ請負金ヲ減額スルモノトス
 前項ノ遅延日數契約ニ定メタル竣工期間ノ十分ノ二以上ニ及ブトキハ當該官吏ハ契約ノ解除ヲ爲スコトアルヘシ
 前條ノ規定ニ依リ延期シタル日數ハ前項ノ竣工期間ニ之ヲ算入セス
第四十四條 工事完成シタルトキハ請負人ハ直ニ其ノ旨ヲ當該官吏ニ届出テ其ノ検査ヲ請求スヘシ
 前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ十日内ニ請負人ト立會ノ上検査ヲ爲シ其ノ完否ヲ定ム
第四十五條 検査ノ結果工事に不備ノ點アリト認メタルトキハ其ノ部分ヲ指示シ之カ修補ヲ命ス
 請負人前項ノ修補ヲ完了シタルトキハ更ニ検査ヲ請求スヘシ
第四十六條 前條ニ掲ケタル修補ノ爲要スル時日カ契約期限後ニ亘ルカ若ハ既ニ期限經過ナルトキハ其ノ検査ヲ求めタル日ヨリ修補ヲ命シタル日マテノ日數ハ之ヲ遅延日數ニ算入セス
第四十七條 工事完成後引渡ヲ要スルモノニ付テハ検査完了ノ時ヲ以テ引渡アリタルモノト看做ス
第四十八條 前條ノ引渡以前ニ生シタル損害ハ第四十一條ノ規定ニ依リ前拂金ヲ爲シタル場合ト雖總テ請負人ノ負擔トス其ノ引渡ヲ要セサルモノニシテ検査完了前ニ生シタル損害ニ付亦同シ
第四十九條 請負人カ第三十一條ノ規定ニ違背シタルトキ、工事ヲ自ラ施行セサルトキ又ハ契約ヲ履行セズ若クハ履行スルコト能ハスト認ムヘキ顯著ナル事實アルトキハ別段ノ催告ヲ爲サスシテ直ニ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第五十條 契約解除ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ自己ノ認定ニ依リ工事内譯書ニ基キ既成部分ニ相當スル價格ヲ算出シ其ノ金額ヲ請負人ニ支拂ヒ之ヲ引取ルコトアルヘシ現場ニ存在スル材料ニシテ工事に必要ナルモノニ付亦同シ
第五十一條 前條ノ金額ハ請負人次條第一項ノ義務ヲ履行シ又ハ當該官吏同條第二項ノ處分ヲ完了シタル後之ヲ支拂フ但シ既ニ前拂ヲ爲シタル金額アリタルトキハ之ヲ控除ス
第五十二條 契約解除ノ場合ニ於テ第五十條ノ規定ニ依リ既成部分ヲ引取ラサルトキハ請負人ハ當該官吏ノ指定シタル期間内ニ之ヲ撤去シ他ニ搬出スヘシ工事に必要ナラサル材料其ノ他ノ物件ニシテ現場ニ存在スルモノニ付亦同シ
 請負人前項ノ指定期間内ニ物件ノ搬出ヲ終ラサルトキハ搬出未済ノ物件ハ之ヲ抛棄シタルモノト看做シ當該官吏ニ於テ取得其ノ他ノ處分ヲ爲シ尙損害アル場合ニ於テハ其ノ賠償ヲ請求ムルコトアルヘシ
第五十三條 契約解除ノ場合ニ於テ第三十六條第二項ノ規定ニ依リ請負人ニ於テ加工其ノ他ノ行爲ヲ爲シタル材料ハ現狀ノ儘提供者之ヲ取得ス
 前項ノ場合ニ於テ請負人ヨリ請求アリタルトキハ當該官吏ノ認定ニ依リ其ノ費用ヲ償還ス但シ契約解除ノ翌日ヨリ三十日內ニ請求ヲ爲ササルトキハ請負人ハ其ノ請求權ヲ抛棄シタルモノト看做ス
第五十四條 第五十二條ノ規定ハ工事完成ノ場合ニ於ケル殘餘材料ノ搬出、引渡又ハ工事用假設物等ノ取拂ニ之ヲ準用ス
第五十五條 請負金ハ請負人ノ請求ニ基キ殘餘材料ノ搬出、引渡及工事用假設物等ノ取拂又ハ當該官吏ノ處分完了後之ヲ支拂フ

第五十六條 請負人又ハ其ノ代理人若ハ職工人夫等カ故意又ハ過失ニ因リ當該官吏ノ保管ニ屬スル物件ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ請負人ハ當該官吏ノ指定セル期間内ニ自己ノ費用ヲ以テ之ヲ原狀ニ回復スヘシ若シ原狀ニ回復スルコト能ハサルトキハ當該官吏ノ認定ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十七條 第四十條第五十條又ハ其ノ他ノ規定ニ因リ請負人ニ損害ヲ生スルコトアルモ請負人ハ特約アル場合ヲ除クノ外賠償ヲ求メ又ハ何等ノ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第五十八條 請負人ハ當該官吏ヨリ實地監督員ヲ派出シタルトキハ其ノ監督員ノ指示ニ從フヘシ

第三節 物件購入
第五十九條 賣上人ハ明細書、見本又ハ雛形ニ依リ目的物件ヲ調達シ契約期限迄ニ自己ノ費用ヲ以テ納付スヘシ
第六十條 賣上人ハ物件ノ納付前ニ於テ當該官吏ノ検査ヲ受ケ合格シタルモノニ非サレハ納付スルコトヲ得ス

第六十一條 賣上人カ契約期間内ニ物件ヲ完納セサルトキハ當該官吏ハ別段ノ催告ヲ爲サスシテ直ニ契約ヲ解除スルコトアルヘシ
前項ノ規定ニ依リ契約ノ解除ヲ爲ササル場合ニハ遅延賠償金トシテ遅延日數ニ應ジ一日ニ付代金總額千分ノ五ノ割合ヲ以テ代金ヲ減額スルモノトス

第六十二條 代金ノ支拂ハ物件ノ全部ヲ受領シタル後賣上人ノ請求ニ基ツキ之ヲ爲ス
第六十三條 賣上人ハ物件ノ納付完了シ又ハ契約解除ノ場合ニ於テハ速ニ見本又ハ雛形ヲ返還スヘシ又ハ賣上人ニ於テ之ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニハ第五十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十四條 物件ノ納付前ニ生シタル損害ハ特定物ノ場合ト雖總テ賣上人ノ負擔トス
第四節 物件賣拂
第六十五條 賣拂代金ハ當該官吏ノ指定ニ從ヒ之ヲ納入スヘシ
第六十六條 賣拂ヲ爲シタル物件ノ所有權ハ代金完納ノ時ヲ以テ拂受人ニ移轉スルモノトス
第六十七條 賣拂物件ハ代金ノ完納前ニハ之ヲ引渡ササモノトス
第六十八條 引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ其ノ種類、數量若ハ品質等ニ差異アリ又ハ隠レタル瑕疵アルモ拂受人ハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
第六十九條 拂受人契約期間内ニ代金ヲ完納セサルトキハ當該官吏ハ別段ノ催告ヲ爲サスシテ直ニ契約ヲ解除スルコトアルヘシ
第七十條 拂受人物件ノ搬出期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ搬出未済ノ物件ハ之ヲ拋棄シタルモノト看做シ當該官吏ニ於テ收得其ノ他ノ處分ヲ爲シ尙損害アル場合ニ於テハ其ノ賠償ヲ求ムルコトアルヘシ
前項ノ規定ハ拂受人カ契約ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサル場合ニ之ヲ準用ス
第七十一條 本節ノ規定ハ產物貯材及生産品ノ賣拂ニハ之ヲ適用セス

附 則
本規程ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式省略)

御料林施業規程

明治四十三年五月十八日 宮内省訓令第一號

〔沿革〕 大正二年十二月宮内省訓令第三八號改正

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ御料林ト稱スルハ皇室林野局長官ニ於テ主トシテ林業ヲ經營スヘキモノト認定シタル御料地ヲ謂フ
第二條 御料林ノ施業ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ行フヘシ
第三條 御料林ノ經營ハ生産保續ヲ旨トシ曷メテ收益ノ増殖ヲ圖ルヲ目的トスヘシ
第四條 長官ハ事業ノ緩急ヲ圖リ林業地ニ對シ施業案ヲ編成シ植伐事業ノ順序方法ヲ定ムヘシ
第五條 長官ハ事業ノ緩急ヲ圖リ林業地ニ對シ施業案ヲ編成シ植伐事業ノ順序方法ヲ定ムヘシ
第六條 長官ハ事業ノ緩急ヲ圖リ林業地ニ對シ施業案ヲ編成シ植伐事業ノ順序方法ヲ定ムヘシ
第七條 長官ハ事業ノ緩急ヲ圖リ林業地ニ對シ施業案ヲ編成シ植伐事業ノ順序方法ヲ定ムヘシ

第八條 長官ハ施業案ノ施行上搬路又ハ軌道ノ開設ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ箇所、延長、幅員、工事見込額ヲ記載シタル工事概定表ヲ作り宮内大臣ニ報告スヘシ
前項ノ土木工事ハ長官其ノ緩急ヲ圖リ之カ豫測ヲ行ヒ土木豫定案ヲ編成シ宮内大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第九條 支廳長ハ毎年事業豫定簿ヲ編成シ長官ノ認可ヲ經テ植伐其ノ他ノ事業ヲ執行スヘシ但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
第十條 施業案ニ依リ植伐事業ヲ執行シタルトキハ之カ照査成スヘシ
第十一條 施業案ニ依リ植伐事業ヲ執行シタルトキハ之カ照査ヲ行フヘシ
第十二條 支廳長ハ毎年植伐其ノ他ノ事業ヲ實行シタルトキハ其ノ結果ヲ長官ニ報告スヘシ
第十三條 施業案ノ編成及檢訂並土木豫定案ノ編成ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
第十四條 事業豫定簿ノ編成及施業ノ照査並第十一條ノ報告ニ關スル手續ハ長官之ヲ定ムヘシ

第二章 作 業

第十四條 御料林ハ一事業區ニ於テ各作業級ヲ通シ輪伐作業ヲ施スヘシ
第十五條 施業案未編成ノ御料林ハ一出張所部内ヲ通シ作業法ノ異ナル毎ニ輪伐期ヲ定メテ輪伐作業ヲ施スヘシ
第十六條 御料林ニ於テ施行スヘキ作業法ハ左ノ各種トス但シ中林ハ喬木ヲ主トスルトキハ喬林作業ニ、矮木ヲ主トスルトキハ矮林作業ニ準シテ施業スヘシ
第十七條 喬林作業
第十八條 矮林作業
第十九條 完伐作業

イ 皆伐作業
ロ 漸伐作業(區域擇伐作業)

第十六條 喬林ハ主トシテ皆伐作業ヲ施スヘシ但シ現在ノ樹種及土地ノ關係ニシテ天然更新ヲ行フニ適スルトキハ漸伐作業ヲ施スコトヲ得

第十七條 保安林ハ擇伐作業ヲ施スヘシ但シ施業上必要ナル場合ニ於テハ漸伐作業ヲ施スコトヲ得

第十八條 高山ノ頂嶺、暴風ノ衝路ニ在ル峯筋、絶嶮地又ハ土石崩落ノ虞アル箇所其ノ他國土保安上必要ナル箇所ハ保安林ニ準シテ作業スヘシ

第十九條 御造營材備林ハ御造營用材ニ充ツヘキ巨樹良木ヲ保護シ且其ノ成育ヲ促進スル目的ヲ以テ作業スヘシ

第三章 輪伐期及循環期

第二十條 用材林ハ其ノ收益最多ナル時期ヲ以テ正當輪伐期ト爲スヘシ

第二十一條 薪炭林ハ其ノ材積收額ノ最多ナル時期ヲ以テ正當輪伐期ト爲スヘシ

第二十二條 前二條ノ規定ニ依リ輪伐期ヲ計算スルニハ疎伐ノ收穫ヲ併算スヘシ

第二十三條 御造營材備林及特種ノ用材林ハ其ノ供用ノ目的ニ適スヘキ時期ヲ以テ正當輪伐期ト爲スヘシ

第二十四條 森林内ニ一定ノ豫備材量ヲ存置スル爲正當輪伐期ニ五年乃至二十年ヲ加算シテ施業上ノ輪伐期ト爲スヘシ

第二十五條 供用林ノ輪伐期ニシテ第二十二條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ算定シ難キトキハ左ノ標準ニ據リ施業上ノ輪伐期ヲ定ムヘシ

第四章 斫 伐

第三十一條 施業案ニ於テ施業期ヲ指定シタル箇所ハ其ノ施業期外ノ年度ニ於テ主伐ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 公用又ハ公益事業ニ供スル爲已ムコトヲ得ス斫伐ヲ要スルトキ

二 天災事變又ハ軍事上ニ關シ斫伐ヲ要スルトキ

三 家屋並運輸、交通、通信及送電機關ノ障礙トナリ又ハ危險ノ虞アル爲斫伐ヲ要スルトキ

四 土地ノ貸付又ハ讓渡ノ場合ニ於テ義務履行上障礙トナル爲斫伐ヲ要スルトキ

五 測量、砂防工事耕地及苗圃ノ障礙トナル爲斫伐ヲ要スルトキ

六 離伐、防火線ノ開設又ハ被害地整理ノ爲斫伐ヲ要スルトキ

七 御料事業上直接ノ用途ニ供スル爲已ムコトヲ得ス斫伐ヲ要スルトキ

八 調査又ハ檢證ノ爲斫伐ヲ要スルトキ

九 林産物ノ處理ニ附帶シ斫伐ヲ要スルトキ

十 入會又ハ特賣ノ慣行ニ依リ斫伐ヲ制止スルトキ能ハサルトキ

十一 交通不便ノ地方ニ在ル職員、雜仕、小者、請願巡查及傭役夫ニ自用ノ薪材トシテ採取セシムル必要アルトキ

十二 標本又ハ學術研究ノ材料トシテ採取セシムル必要アルトキ

第三十二條 喬林作業ノ年伐豫定額ハ施業照査ノ成績ニ依リ査定シタル年伐材積ヲ標準トシ尙ホ需要ノ多寡施業上ノ關係ヲ稽査シテ之ヲ定ムヘシ

第三十三條 第一施業期前半期ニ於テ斫伐スヘキ總材積ハ施業照査ノ成績ニ依リ査定シタル斫伐總材積ヲ超過スルトコトヲ得ス

第三十四條 矮林ノ年伐豫定額ハ施業案ニ指定シタル第一施業期前後各半期間ノ斫伐面積ヲ標準トシ各年度ニ於テ平分斫伐ヲ旨トシテ之ヲ定ムヘシ

第三十五條 第一施業期前後各半期ニ於テ斫伐スヘキ總面積ハ施業案指定ノ斫伐面積ヲ超過スルトコトヲ得ス

第三十六條 施業案未編成地又ハ林業外地ノ立木地ニ於ケル斫伐ハ施業案編成ニ關スル規定ヲ準用シ勉メテ過伐ノ虞ナキヲ期シ現在ノ林況ニ應シ施業上ノ便否及需要ノ多寡等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第三十七條 間伐(疎伐及掃除伐)ハ施業案指定外ノモノト雖

施業上必要ナリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ施行スルトコトヲ得

第三十六條 斫伐ノ事業ハ林産物販賣ノ關係及施業上必要ナリト認ムル場合ニ於テハ成ルヘク直營事業ニ依リ之ヲ施行スヘシ

間伐ノ事業ハ勉メテ直營事業ニ依リ之ヲ施行スヘシ

第五章 造 林

第三十七條 造林ハ主トシテ人工更新ノ方法ヲ用ウヘシ但シ擇伐作業、漸伐作業又ハ矮林作業ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 漸伐作業ヲ行フ森林ノ更新期ハ二十年以内ト爲スヘシ

第三十九條 伐採跡地ハ三箇年以内ニ造林スヘシ

第四十條 林業地内ノ未立木地ハ二十箇年以内ニ造林スヘシ但シ一出張所部内ニ於ケル未立木地ノ一箇年ノ平均面積ニシテ百町歩ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 未立木地又ハ伐採跡地ニ植栽又ハ播種スヘキ樹種ハ概ネ左記ノ種類中最モ其ノ地方ノ氣候及地質ニ適シタルモノニシテ且將來需要多ク收益最多ナルヘキモノヲ選擇スヘシ

一 針葉樹種 ヒノキ、スギ、サハラ、ヒバ、マツ、カラマツ、モミ、ツガ、シラベ、トウヒ、カウヤマキ、ネヅコ

一 闊葉樹種 クス、ケヤキ、クルミ、カシ、シホジ、ハリギリ、クリ、サハグルミ、ドロ、サクラ、ホホノキ、ナラ、クヌギ、カシハ

第四十二條 國土保安、風致保存、砂防、防火、境界目標又

ハ地力保護等ノ爲メ植栽スヘキ場合ニ於テハ前條ノ樹種ニ拘ラス所要ノ目的ニ適スヘキ樹種ヲ選擇スヘシ

第四十三條 造林樹種ハ三種以上ヲ混淆セシムヘシ但シ矮林又ハ特ニ施業上必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 造林地ニ生立スル針葉樹及樟樹其ノ他有用ナル潤葉樹ノ稚樹ハ成ルヘク之ヲ保育スヘシ

第四十五條 針葉樹ノ植栽ヲ行フニハ成ルヘク小苗木ヲ用キ且植栽本數ヲ多クスヘシ

第四十六條 造林地ニシテ新植木ノ枯損多數ナルカ又ハ稚樹ノ發生不良ナルカ爲空地ヲ生シタルトキハ適當ノ時期ニ於テ補植ヲ行フヘシ

第四十七條 各出張所ハ毎年植栽スヘキ苗數ニ應ジ適當ノ苗圃ヲ設ケテ苗木ヲ養成スヘシ

第四十八條 造林地ハ新植木又ハ稚樹ヲ保育スル爲其ノ梢頭雜草ヲ超出スルノ時期ニ至ルマテ毎年又ハ隔年ニ下刈ヲ行ヒ又必要アルトキハ掃除伐、枝打、蔓切等ノ手入ヲ施スヘシ

第四十九條 立木密ニ過キテ相互其ノ成長ヲ障碍シ又ハ風害雪害等ノ虞アルトキハ適當ノ疎伐ヲ施スヘシ

第五十條 野火延燒ノ虞アル森林ハ適當ノ防火線ヲ設置スヘシ防火線ニハ成ルヘク防火ノ効アル常綠潤葉樹ヲ植栽スヘシ

第五十一條 造林ノ事業ハ苗圃ノ開墾、造林地ノ地拵其ノ他土工ニ關スルモノヲ除クノ外成ルヘク直營事業ニ依リ之ヲ

施行スヘシ

第五十二條 施業案編成地ノ造林ハ施業案ノ指定スル樹種及順序方法ニ準據スヘシト雖施業上必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ變更スルコトヲ得

第六章 土地ノ利用

第五十三條 林業地ハ左ニ掲ケタル場合ニ非サレハ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

- 一 公用又ハ公益ノ用途ニ供スルトキ
- 二 法令ニ基ツク用途ニ供スルトキ
- 三 御料地經營上重大ナル利益アルトキ
- 四 林業附帶ノ用途ニ供スルトキ
- 五 慣行ニ依リ貸付ヲ要スルトキ
- 六 未立木地ニシテ植樹前之ヲ利用スルモ妨ナキトキ

第五十四條 林業外地ハ之ヲ左ノ各種ニ細別シ各利用ノ方法ヲ講スヘシ

- 一 林業附帶地(苗圃、官舎、區劃線、固定防火線及林道等ノ敷地)
- 二 施業制限地
- 三 禁伐林及砂防設備地
- 四 適當ノ林業ヲ施行シ得サル入會地
- 五 貸下地
- 六 雜種地(不生産地及池沼河川等)

第五十五條 御料林中耕地其ノ他開墾ニ適スヘキ土地ハ其ノ得失ニ鑑ミ林業經營上支障ナキ限り之ヲ林業外地ト爲スヘシ

林業地内ニ點在スル小面積ノ貸下地ニシテ林業經營上支障

ノ箇所アルトキハ適當ノ時期ニ於テ之ヲ林業地ニ回復スヘシ

第五十六條 植樹用ノ貸下又ハ部分林ノ設定ハ林業地外中荒廢ノ虞アル箇所又ハ其ノ利用集約ナラスト認ムル箇所ニ非サレハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第七章 雜種物ノ採收

第五十七條 雜種物ノ採收ハ土地ノ荒廢又ハ樹木ノ成育ニ障碍ヲ來ササル限度ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十八條 柴草採收ノ慣行アル土地ニシテ其ノ採收區域廣濶ニ過クルモノアルトキハ成ルヘク之ヲ縮少セシムヘシ

御料林施業案編成及檢訂手續

明治四十三年五月十八日 宮内省訓令第十七號

第一編 施業案編成

第一章 總則

第一條 施業案ハ御料林施業規程ニ基ツキ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ編成スヘシ

第二條 施業案編成ノ業務ヲ分テ左ノ三トス

- 一 施業案編成ノ豫業
- 二 施業案ノ編成

三 施業案説明書ノ調製

第二章 施業案編成ノ豫業

第一節 總則

第三條 施業案編成豫業ヲ分テ左ノ六トス

- 一 森林區劃
- 二 森林測量
- 三 林値調査
- 四 森林ニ關スル一般事項ノ調査
- 五 森林圖ノ調製
- 六 原簿ノ調製

第二節 森林區劃

第四條 森林ヲ區劃シテ事業區、輪伐區、區劃班及林相班ヲ設ケヘシ

第五條 事業區ハ森林配置ノ狀況、山谷形式ノ關係及施業上ノ便否ヲ稽査シ連年獨立シテ植伐ノ事業ヲ經營スルニ適當ナル區域ヲ選擇シテ之ヲ設定スヘシ

第六條 點在シタル小林地ハ大林地ニ合併シテ一事業區ト爲スヘシ但シ若干ノ小林地ヲ連合シテ獨立ノ經營ヲ爲スニ足ルモノハ之ヲ一事業區ト爲スコトヲ得

第七條 植伐ノ順序ヲ整理スル爲一事業區内ニ若干ノ輪伐區ヲ設ケヘシ

第八條 一輪伐區ノ面積ハ成ルヘク一事業區面積ノ十分ノ一以上ト爲スヘシ

第九條 森林ノ地況、林況及運材ノ關係ヲ稽査シテ一輪伐區ヲ若干ノ區劃班ニ區分スヘシ

第十條 一區劃班ハ成ルヘク行政區域ヲ跨ラシメサルコトヲ要ス

一區劃班ノ面積ハ平地又ハ低丘地ノ森林ニ在リテハ

二十町歩乃至五十町歩山地ノ森林ニ在リテハ二十町歩乃至百町歩ヲ以テ標準トスヘシ
 點在シタル林地ハ二十町歩未滿ト雖之ヲ一區劃班ト爲シ林業外地ハ其ノ界線又ハ地形ニ依リ適宜區劃班ヲ設クルコトヲ得

第十一條 一事業區内ニ於ケル林地ノ各區劃班ノ面積ハ成ルヘク均一ナラシムヘシ

第十二條 事業區、輪伐區及區劃班ハ山地ニ在リテハ主トシテ天然界又ハ道路ニ依リ平地ニ在リテハ主トシテ人工區劃線又ハ道路ニ依リ其ノ界線ヲ定ムヘシ

第十三條 人工區劃線ハ伐木、運材、造林及防火等ノ便宜ヲ圖リテ之ヲ設クヘシ

平地ノ區劃線中伐木ノ方向ニ並行スルモノヲ主線ト稱シ之ニ交叉スルモノヲ副線ト稱ス

第十四條 平地ノ區劃班ハ成ルヘク直方形ト爲シ其ノ副線ニ接スル邊ハ主線ニ接スル邊ノ二倍又ハ一倍半ヲ以テ標準トスヘシ

第十五條 人工區劃線ノ幅ハ地形、樹種、作業法及輪伐期ニ從ヒ主線ハ二間乃至四間、副線ハ一間乃至二間ヲ度トシ適宜之ヲ定ムヘシ但シ防火線又ハ撤路ニ兼用スヘキ人工區劃線ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 一區劃班内ニ於テ林相ヲ異ニシ又ハ施業上取扱ヲ異ニスヘキ部分アルトキハ各之ヲ區分シテ林相班ヲ設クヘシ

一區劃班内ニ於ケル林相同一ナルモ行政區域ヲ異ニスルトキハ特ニ其ノ區域ニ依リ林相班ヲ設クヘシ

前二項ノ規定ニ依リ林相班ヲ設クルコトヲ要セサル區劃班ハ之ヲ林相班ト看做スヘシ

第十七條 林地ノ林相班ハ左ノ標準ニ據リ之ヲ區分ズヘシ但シ其ノ面積一區劃班ノ二十分ノ一ヲ超エサルトキハ之ヲ區分セサルコトヲ得

一 樹種ノ異ナルトキ
 二 作業法ノ異ナルトキ
 三 林齡ノ著シク異ナルトキ
 四 地位又ハ區位ノ著シク異ナルトキ

第十八條 林地ノ各其ノ種別ニ依リ林相班ヲ分ツヘシ搬路、人工區劃線、固定防火線及河川等ニシテ數區劃班ニ跨ルモノハ林相班ヲ設ケスシテ別ニ其ノ區域ヲ劃スヘシ

第十九條 現在林地ナルモ將來林地ト爲スヘキ見込ノ箇所ハ之ヲ林地トシ現在林地ト爲スヘキ見込ノ箇所ハ之ヲ林地トシテ適當ノ施業ヲ爲スヘキ見込ノ箇所ハ之ヲ林地トシテ取扱フコトヲ得

第二十條 事業區ノ名稱ハ主要ナル地名又ハ著名ナル通稱、山嶽名等ニ依ルヘシ

第二十一條 輪伐區ハ一事業區ヲ通シ羅馬數字ヲ以テ番號ヲ附スヘシ

第二十二條 區劃班ハ一事業區ヲ通シ輪伐區番號ノ順序ニ依リ輪伐區毎ニ亞刺比亞數字ヲ以テ番號ヲ附スヘシ

點在シタル區劃班ハ成ルヘク一事業區内又ハ一輪伐區内ニ於ケル終尾ノ番號ヲ附スヘシ

第二十三條 林地ノ林相班ハ片假名、林地外ノ林相班ハ平假名ヲ以テ區劃班毎ニ記號ヲ附スヘシ

第二十四條 人工區劃線ハ一事業區ヲ通シ主線ハ羅馬數字、副線ハ亞刺比亞數字ヲ以テ順次番號ヲ附スヘシ

第三節 森林測量

第二十五條 森林測量ハ境界測量ノ成績ニ基キ左ノ事項ヲ測定スヘシ

- 一 事業區界
 - 二 輪伐區界
 - 三 區劃班界
 - 四 林相班界
 - 五 地形
 - 六 林業上ニ關係ヲ有スル森林内外ノ地物（鐵道、道路、河川、池沼其ノ他建設物等）
- 第二十六條** 事業區界、輪伐區界及區劃班界ノ主要點ハ石標木標又ハ立木ヲ以テ之ヲ表示スヘシ
- 第二十七條** 區劃班ノ界線ヲ表示スル石標又ハ木標ハ其ノ側面ニ區劃線ノ番號及四圍ノ區劃番號ヲ記入スヘシ
- 立木標ハ目通ノ表皮ヲ帶狀ニ剥キ白ペンキ又ハ白堊ヲ以テ其ノ下部一半ヲ塗抹シ其ノ上部ノ前項ノ各番號ヲ記入シ又ハ目通ニ其ノ番號ヲ記入シタル板ヲ釘附スヘシ
- 第二十八條** 區劃線ノ標識ハ其ノ交叉點ノ東北側ニ設置スヘシ
- 未開設ノ區劃線ニ在リテハ豫定ノ幅ニ應シ前項ニ準シテ標識ヲ設置スヘシ
- 第二十九條** 森林測量ニ關スル事項ニシテ本節ニ規定セサルモノニ付テハ長官之ヲ定ムヘシ
- 第四節 林值調査**
- 第三十條** 林值調査ヲ分テ左ノ三トス
- 一 地況調査
 - 二 林況調査

三 施業見込ノ調査

第三十一條 地況調査ハ林相班毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 地性
 - 二 地勢
 - 三 地形ノ狀況
 - 四 傾斜ハ左ノ五種ニ區別スヘシ
 - 一 平坦 五度以下
 - 二 緩斜 十五度以下
 - 三 急斜 三十度以下
 - 四 峻斜 四十五度以下
 - 五 絶險 四十六度以上
- 第三十二條** 地勢ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ
- 一 方位
 - 二 傾斜
 - 三 傾斜ノ狀況
- 第三十三條** 土性ニ關シテハ左ノ事項ヲ調査スヘシ
- 一 土壌ノ種類 土壌ノ種類ハ粘土、砂礫及腐植土ノ分量ニ依リ埴土、壤土、砂土、礫土及埴土ノ五種ニ區別スヘシ
 - 二 土壌ノ性質 土壌ノ性質ハ深度、結合度及濕度ノ三ニ大別シ尙ホ深度ハ深、中、淺ニ結合度ハ堅、軟、鬆ニ濕度ハ乾、適、濕ニ再別スヘシ
- 第三十四條** 地位ハ左ノ五區ニ區別スヘシ
- 一 上
 - 二 中
 - 三 下
- 第三款 林況調査**
- 第三十五條** 林況調査ハ林相班毎ニ左ノ事項ヲ調査スヘシ
- 一 樹種
 - 二 作業法

三 前各號ニ關スル摘要
第五十五條 林值簿ハ林值調査ノ成績ニ基ツキ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 地況調査ノ成績
 二 林況調査ノ成績
 三 施業ノ見込
 四 前各號ニ關スル摘要
第五十六條 面積簿及林值簿ノ様式ハ長官之ヲ定ムヘシ

第三章 施業案ノ編成

第一節 總則
第五十七條 施業案編成豫業ヲ終了シタルトキハ將來ニ於ケル施業見込ニ基ツキ作業級ヲ確定シ施業案ヲ編成スヘシ
第五十八條 施業案ハ一事業區ヲ通シ作業級ヲ異ニスル毎ニ之ヲ編成シ尙ホ輪伐區毎ニ口取ヲ設クヘシ
第五十九條 施業案ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
 一 斫伐ノ順序
 二 一輪伐期又ハ一循環期間ニ於ケル各施業期ニ主伐スヘキ位置及其ノ面積
 三 第一施業期間ニ主伐スヘキ樹種、平均伐期及材積
 四 第一施業期前中間ニ間伐スヘキ位置、面積、樹種及材積
 五 二十箇年間ニ植栽又ハ播種スヘキ位置及其ノ面積
 六 將來施業上ニ關スル摘要
第六十條 施業案編成上必要アルトキハ一事業區ヲ通シテ齡級表ヲ調製スヘシ
第六十一條 施業案ノ様式ハ長官之ヲ定ムヘシ

第六十二條 作業級ハ一事業區内ニ於テ同一ノ作業法及輪伐期又ハ循環期ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ森林ヲ集合シテ之ヲ設クヘシ但シ漸伐作業ト皆伐作業トハ之ヲ合併シテ一作業級ト爲スコトヲ得
第六十三條 一事業區内ニ於テ作業法又ハ輪伐期若ハ循環期ヲ異ニスル森林アルモ其ノ面積狭少ニシテ一作業級ヲ設定スルニ足ラサルトキハ之ヲ類似ノ作業級ニ合併スヘシ
第六十四條 作業級ハ作業法ノ種類ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ名稱ヲ附シ尙ホ一事業區ヲ通シ第一第二等ノ番號ヲ冠スヘシ
 一 喬林完伐(又ハ皆伐、漸伐)作業
 二 喬林擇伐作業
 三 矮林作業

第三節 施業期

第六十五條 喬林作業ニ在リテハ二十年、矮林作業ニ在リテハ十年ヲ以テ一施業期トス
第六十六條 施業期ハ之ヲ前後兩半期ニ區分スヘシ
第六十七條 施業期ノ前半期ハ亞刺比亞數字1後半期ハ2ヲ其ノ番號ニ附記スヘシ
第六十八條 第一施業期前中間ニ間伐シ直ニ植栽スヘキ箇
 一 林相不良又ハ過疎ニシテ速ニ改良ヲ要スルモノ
 二 既ニ輪伐期ニ達シ又ハ一作業級中ニ於テ最モ老齡ニ達シタルモノ
 三 斫伐順序ヲ整理スル爲速ニ斫伐ヲ要スルモノ
 四 風害豫防其ノ他施業上必要ノ爲速ニ斫伐ヲ要スルモノ

所ハ斫伐ノ順序ヲ整理スル爲必要ナル場合ニ限り更ニ之ヲ同一輪伐期間ノ施業期ニ編入スルコトヲ得
第六十九條 一作業級内ニ在ル未立木地ニシテ第一施業期間ニ造林ノ見込確實ナルモノハ之ヲ當該輪伐期間ノ施業期ニ編入スルコトヲ得

第七十條 樹種ノ改良ヲ必要トスル森林ニ於テハ將來ノ作業級ニ相當スル輪伐期ノ半以上ノ施業期ヲ以テ改良期間トシ施業案ヲ編成スルコトヲ得
第七十一條 一作業級ヲ通算シタル平均林齡ニシテ未タ輪伐期ノ半ニ達セサルトキハ該年齡ニ達スルマテ主伐ノ施業期ヲ指定セサルコトヲ得

第七十二條 御造營材備林ノ施業案ハ御造營用材ニ充ツヘキ林木ニ對シテハ其ノ主伐ノ施業期ヲ指定セサルコトヲ得

第四節 斫伐額

第七十三條 喬林ノ斫伐額ハ成長量法ニ依リ計算シタル主伐材積ヲ標準トシテ第一施業期前後兩半期間ノ主伐材積ヲ平均シ第二施業期以後ハ各期ノ伐採面積ヲ平均スヘシ但シ輪伐期四十年以下ノ喬林又ハ樹種改良ヲ要スル喬林ニ於テハ面積平分法ニ依ルコトヲ得
第七十四條 矮林ノ斫伐額ハ面積平分法ニ依リテ各施業期ノ伐採面積ヲ平均スヘシ
第七十五條 成長量法ニ依ル一施業期間ノ主伐材積(F)ハ左式ノ如ク其ノ總材積(M)ヲ輪伐期(U)ニテ除シ之ニ總平均成長量(Z)ノ半數ヲ加ヘタルモノニ一施業期ノ年數ヲ乘シ

タルモノヲ以テ標準トス
 施業上ノ便宜ニ依リ主伐標準材積ノ十分ノ二以内ハ之ヲ増減シテ斫伐額ヲ定ムルコトヲ得

$$E = \left(\frac{M}{U} \right) \times \frac{1}{2} \times Z$$

第七十六條 面積平分法ニ依ル一施業期間ノ主伐面積(f)ハ左式ノ如ク其ノ總面積(F)ヲ輪伐期(U)ニテ除シ之ニ一施業期ノ年數ヲ乘シタルモノヲ以テ標準トス
 施業上ノ便宜ニ依リ主伐標準面積ノ十分ノ二以内ハ之ヲ増減シテ斫伐額ヲ定ムルコトヲ得

$$f = \left(\frac{F}{U} \right) \times \frac{1}{2}$$

第七十七條 喬林擇伐作業ノ一擇伐區域内ノ擇伐額(P)ハ左式ノ如ク該區域上ノ總面積(m)ノ二倍ヲ循環期ト輪伐期トノ倍數(n)ニ一ヲ加ヘタルモノヲ以テ除シタル數量ヲ超過スルコトヲ得ス

$$P = \frac{2m}{n} + 1$$

第七十八條 第一施業期前後兩半期ニ屬スル主伐材積ハ現在材積ニ其ノ施業期ノ中央年度ニ至ル年間ノ成長量ヲ加算シテ算定スヘシ

第五節 斫伐順序

第七十九條 斫伐順序ハ暴風ノ方向ニ反對シテ進行スルヲ定メテ算定スヘシ
第八十條 斫伐順序ヲ定ムルニハ左ノ事項ニ注意スヘシ
 一 各輪伐區ノ齡級ヲ整理スルコト

- 二 伐木後ニ於ケル造林上ノ利益ヲ圖ルコト
- 三 各種ノ危害殊ニ風害及火災ヲ豫防スルコト
- 四 運材ノ便ヲ圖ルコト
- 五 接續地域ノ斫伐順序ヲ妨ケ又ハ其ノ成林ヲ害ハサルコト

第四章 施業案説明書ノ調製

- 第八十一條 施業案説明書ハ一事業區毎ニ之ヲ調製スヘシ
- 第八十二條 施業案説明書ニハ概ネ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ其ノ記載スヘキ事項ニシテ他ノ事業區ト同一ノ關係ヲ有スルモノハ之ヲ共通シテ記載スルコトヲ得
- 第一 位置、土地及氣候上ノ關係
- 第二 森林ニ關スル沿革
- 第三 既往ノ施業（既往十箇年間ニ於ケル斫伐ノ狀況及造林ノ成績並收入、事業費等）
- 第四 現在ノ林況（林業地ト林業外地ノ各種類ニ區分シタル面積、各作業級及各種類ニ區分シタル面積、材積其ノ他各樹類別ノ面積、材積等）
- 第五 森林ノ區劃（事業區、輪伐區、區劃班ノ設置又ハ變更ノ程度並其ノ理由等）
- 第六 施業ノ意見
- 一 作業法、輪伐期又ハ循環期ノ選定又ハ變更ノ理由
- 二 收額ノ算定（各作業級ニ對スル斫伐面積及材積算定ノ理由並主伐、間伐及樹類別ニ區分シタル斫伐額等）
- 三 斫伐ノ順序
- 四 造林ノ方法（更新ノ方法、造林ノ樹種、本數及手入ノ方法等）
- 第七 搬路、徑路及區劃線等ノ開設ニ關スル意見

- 第八 將來ノ收入及事業費ノ概算額
- 第九 林地ノ整理（境界ノ整理、土地ノ交換賣買、入會權、地上權及地役權等ノ解除又ハ整理）ニ關スル意見
- 第十 森林ノ管理及保護ニ關スル意見
- 第十一 雜記（前各號ノ外林業經營上必要ト認メタル事項）

第二編 施業案ノ檢訂

- 第八十三條 施業案檢訂ノ業務ヲ分テ左ノ四トス
- 一 舊施業案ノ施行ニ關スル檢査
- 二 新施業案編成ノ豫業
- 三 新施業案ノ編成
- 四 新施業案説明書ノ調製
- 第八十四條 舊施業案ノ施行ニ關シテハ既往ノ施業期間ニ於ケル左ノ事項ヲ調査シ其ノ適否及之カ成績ヲ檢査スヘシ
- 一 土地ノ異動
- 二 各林相班ノ斫伐額ト施業案豫定額トノ比較
- 三 事業區及各作業級ニ對スル實際ノ主伐額ト施業案ノ指
- 四 斫伐額トノ毎年及總計ノ比較
- 五 施業案指定外ノ林相班ニ於ケル臨時斫伐額
- 第六 造林事業ノ成績
- 第八十五條 新施業案編成ノ豫業ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フ
- 一 土地ニ異動アリタルトキ又ハ一部ノ森林區劃ニ變更ヲ要スルトキハ其ノ部分ニ對シテ區劃及林値ノ調査ヲ爲シ原簿及森林圖ヲ補修スヘシ
- 二 森林區劃ニ著シキ變更ヲ要スルトキハ新ニ區劃及林値ノ調査ヲ爲シ原簿及森林圖ヲ調査スヘシ
- 三 既往ノ林値調査ニシテ著シク實地ニ適合セサルモノア

御料地事業豫定簿編成

心得

明治三十九年四月十六日 (局長ヨリ地方部局ヘ達)

第一章 通則

- 第一條 御料地事業豫定簿ヲ分テ左ノ各種トス
- 一 第一收入ニ關スル豫定簿
- 二 木竹收額豫定簿
- 三 雜種物收額豫定簿
- 四 貸地豫定簿
- 五 建物貸與豫定簿
- 六 農產物收額豫定簿
- 七 造材收額豫定簿
- 八 製品收額豫定簿
- 九 貯藏產物收額豫定簿
- 十 木材留置收入豫定簿
- 十一 第二支出ニ關スル豫定簿
- 十二 造林豫定簿
- 十三 營農豫定簿
- 十四 造材及運材豫定簿
- 十五 製品豫定簿
- 十六 產物貯藏豫定簿
- 十七 木材留置豫定簿
- 十八 營繕豫定簿

- ルトキハ新ニ林値調査ヲ爲シ原簿ヲ調製シ尙ホ必要アルトキハ施業圖ヲ補修又ハ調製スヘシ
- 四 前各號以外ノ場合ニ於テハ森林ノ現況ヲ概査シ既往ノ施業成績ニ基ツキテ原簿ヲ補修シ尙ホ必要アルトキハ施業圖ヲ補修又ハ調製スヘシ
- 第八十六條 原簿及森林圖ノ補修方法ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
- 一 分割シタル區劃ノ名稱ハ原區劃ノ支番號ヲ附シ新ニ増設シタル區劃ノ名稱ハ順次ニ終尾ノ次番號ヲ附シ又刪除シタル區劃ハ缺番號ト爲シテ原簿及森林圖ヲ修正スヘシ但シ新ニ森林圖ヲ調製スヘキ場合ハ總テ區劃ノ番號ヲ改訂スヘシ
- 二 新ニ一部ノ林値調査ヲ爲シタルトキハ他ノ部分モ同時ニ林値調査ヲ爲シタルモノト看做シテ林値簿ニ記載シタル樹齡、林齡及材積等ヲ修正スヘシ
- 三 既往ノ作業法又ハ斫伐順序ヲ變更セサルトキハ林業圖ニ圖示シタル施業期及林相班ハ之ヲ修正セサルコトヲ得
- 第八十七條 新施業案ハ既往ノ施業案施行ニ關スル成績ニ鑑ミ森林ノ現況ヲ參酌シテ作業法、輪伐期、斫伐順序又ハ更新方法等ニ變更ヲ要スルモノナキカ否ヲ稽査シテ之ヲ編成スヘシ但シ舊施業案ニシテ將來ノ施業上支障ナシト認ムル場合ニ於テハ尙ホ十箇年間之ヲ繼續セシムルコトヲ得
- 第八十八條 新施業案ノ説明書ニハ舊施業案ノ説明書ニ記載セル事項中異動アリタルモノ及變更ヲ要スル施業意見等ヲ補足記載スヘシ
- 第八十九條 施業案ノ檢訂ニ關シ本編ニ別段ノ規定ナキモノニ付テハ第一編ノ規定ヲ準用ス

第十八 物件買上豫定簿
 第二條 事業豫定簿ハ地方支部局若ハ地方部局毎ニ編成シ其ノ地方支部局毎ニ編成セルモノハ當該地方部局ヲ通シテ別ニ總括表ヲ調製スヘシ
 第三條 事業豫定簿ニハ事業ノ種別毎ニ其ノ豫定額ヲ前年度ノ豫定簿ト對照シ之カ増減ノ事由ヲ説明スヘシ
 第四條 事業豫定簿ニ掲記スル面積ハ畝ニ數量ハ單位ニ、金額ハ錢位ニ止メ其ノ所要ノ數位以下ハ四捨五入スヘシ、但單位ニ對スル金額位未滿ナルトキハ其ノ單位ヲ百進若ハ千進シタルモノニ對スル金額ヲ以テ單位トナスヘシ
 第五條 事業豫定簿ニ掲記スル金額ニシテ歳入ニ測定セサルモノ及前年度ノ支出ニ屬スルモノハ之ヲ朱書スヘシ
 第六條 事業豫定簿ノ記載方ハ各様式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ

第二章 木竹收額豫定簿

第七條 木竹收額豫定簿ハ施業案編成地及施業案編成外地ニ分テ其ノ施業案編成地ニ係ルモノハ第一號甲様式ニ依リ施業案編成外地ニ係ルモノハ第一號乙様式ニ依リ調製スヘシ
 第八條 施業案編成地ニ係ル豫定簿ハ事業區毎ニ別冊トナスヘシ、但施業案編成地ニ係ル豫定簿ハ各作業級及林業外地ニ區別シテ口取ヲ設ケ更ニ各作業級ヲ施業案指定内外ニ再別シテ記載シ且其ノ表紙ニハ施業案ニ定メタル年伐面積、材積及施業案照査ノ成績ニ據リテ査定シタル當該年度ノ喬林、材積額ヲ掲記スヘシ
 第九條 豫定簿ハ一林相班内ニ於ケル斫伐區域ヲ以テ一記入番號ト爲スヘシ
 但施業案編成外地ニ在リテハ一斫伐箇所ヲ以テ一記入番號ト爲スヘシ

トナスヘシ
 第十條 面積ハ全面積（一林相班又ハ臺帳一筆地ノ面積）、斫伐面積（斫伐區域ノ面積）及占領面積（斫伐木ノ占領スル見込面積）ニ分テ記載スヘシ
 第十一條 主收額ト間收額トノ區別ハ左ノ各項ニ據ルヘシ
 一 伐期ニ達シタルタメ斫伐ヲ要スル樹木又ハ伐期ニ達セサルモ事業上斫伐ヲ要スル主林木及豫備伐、下種伐、終伐若ハ離伐等ノタメ斫伐ヲ要スル樹木其ノ他總テ皆伐スヘキ樹木並ニ竹木ノ收額ハ之ヲ主收額トス
 二 主林木ノ生育ヲ補クタルタメ疎伐又ハ掃除伐ヲ要スル樹木及被害木ニシテ點々伐採スルモノハ之ヲ間收額トス
 第十二條 枝木、末木、灌木及幼樹等ニシテ束ヲ以テ數量ヲ計算スヘキモノ並ニ根株ハ主收額ト間收額トノ間ハス枝條及根株欄ニ記載スヘシ
 第十三條 被害木竹、部分林又ハ入會林等ノ收額ニシテ豫メ斫伐箇所及材積ヲ定メ難キモノハ既往ノ收額ヲ參酌シ概算ヲ以テ其ノ見込額ヲ記載スヘシ
 第十四條 斫伐ノ事由及斫伐跡地更新ノ方法等ハ其ノ要領ヲ備考欄ニ記載スヘシ
 第十五條 木竹收額豫定總括表ハ第二號様式ニ據リ調製スヘシ
 第三章 雜種物收額豫定簿
 第十六條 雜種物收額豫定簿ハ第四號様式ニ據リ調製スヘシ、地方支部局又ハ地方部局ハ第三號様式ニ據リ雜種物收額豫定總括表ヲ調製シ豫定簿編成ノ基礎トナスヘシ

第十七條 雜種物ヲ類別シテ左ノ八類トス

- 一 柴
 - 二 草
 - 三 實
 - 四 葉
 - 五 皮
 - 六 樹皮類
 - 七 石
 - 八 雜類
- 第十八條 豫定簿ハ年期拂下及一時拂下ニ區別シテ記載スヘシ
 第十九條 雜種物收額豫定總括表ハ第五號様式ニ據リ調製スヘシ

第四章 貸地豫定簿

第二十條 貸地豫定簿ハ第七號様式ニ據リ調製スヘシ、地方支部局又ハ地方部局ハ第六號様式ニ據リ貸地豫定明細表ヲ調製シ豫定簿編成ノ基礎トナスヘシ
 第二十一條 貸地ヲ類別シテ左ノ十類トス
 一 建物敷地
 二 田
 三 畑
 四 牧畜用地
 五 樹竹植栽地
 六 林業附帶地
 七 鑛業用地
 八 道路敷地
 九 池沼及用水敷地

十 雜

第二十二條 豫定簿ハ年期貸及一時貸ニ區別シテ記スヘシ
 第二十三條 貸地豫定總括表ハ第八號様式ニ據リ調製スヘシ
 第五章 建物貸與豫定簿
 第二十四條 建物貸與豫定簿ハ第九號様式ニ據リ調製スヘシ
 第二十五條 豫定簿ニハ家屋及倉庫等ニシテ有料貸與ヲ爲スヘキモノニ限り記載スヘシ

第六章 農產物收額豫定簿

第二十六條 農產物收額豫定簿ハ第十號様式ニ據リ調製スヘシ
 第二十七條 農產物ヲ類別シテ左ノ各種トス
 第一 農耕產物
 一 穀類
 二 蔬菜類
 三 薯類
 四 雜草
 五 園藝產物
 一 實物
 二 木
 三 畜
 四 馬
 五 仔
 六 飼料
 七 雜種
 八 雜
 九 雜
 第十號様式ニ據リ調製スヘシ
 第二十八條 豫定簿ハ農場毎ニ農耕產物、園藝產物及飼畜ノ

三部ニ區別シテ口取ヲ設ケ且當該年度ノ生産物ト前年度ヨリ繰越スヘキ生産物トニ再別シテ記載スヘシ
第二十九條 農産物收額豫定總括表ハ第十一號様式ニ據リ調製スヘシ

第七章 造材收額豫定簿

第三十條 造材收額豫定簿ハ第十二號様式ニ據リ調製スヘシ
第三十一條 豫定簿ハ事業區及施業案編成外地毎ニ官行伐木官行間伐及官行伐竹ニ係ル收額ヲ區別シテ口取ヲ設ケ且當該年度ニ收額スヘキ新材ト前年度ヨリ繰越スヘキ古材トヲ再別シテ其ノ收額ト當該年度ニ處分スヘキ見込額及翌年度ニ繰越スヘキ見込額トヲ記載スヘシ
前項ノ收額ニシテ其ノ代金ヲ歳入ニ測定セスシテ貯藏所又ハ製品所等ニ引渡スヘキ見込ノモノハ相當價格ヲ附シ處分欄ニ掲記スヘシ
第三十二條 造材收額豫定總括表ハ第十三號様式ニ據リ調製スヘシ

第八章 製品收額豫定簿

第三十三條 製品收額豫定簿ハ第十四號様式ニ據リ調製スヘシ
第三十四條 豫定簿ハ製品場毎ニ製品ノ種別ニ依リテ口取ヲ設ケ當該年度ノ製品ト前年度ヨリ繰越スヘキ製品トニ區別シ其ノ收額ト當該年度ニ處分スヘキ見込額及翌年度ニ繰越スヘキ見込額トヲ記載スヘシ
前項ノ製品ニシテ其ノ代金ヲ歳入ニ測定セスシテ貯藏所ニ引渡スヘキ見込ノモノハ相當價格ヲ附シ處分欄ニ掲記スヘシ

第三十五條 製品豫定總括表ハ第十五號様式ニ據リ調製スヘシ

第九章 貯藏産物收額豫定簿

第三十六條 貯藏産物收額豫定簿ハ第十六號様式ニ據リ調製スヘシ
第三十七條 豫定簿ハ貯木所毎ニ造材及製品ノ二部ニ區別シテ口取ヲ設ケ當該年度ノ貯藏産物ト前年度ヨリ繰越スヘキ貯藏産物トニ再別シ其ノ簿藏額ト當該年度ニ處分スヘキ見込額及翌年度ニ繰越スヘキ見込額トヲ記載スヘシ

第十章 木材留置收入豫定簿

第三十八條 木材留置收入豫定簿ハ第十七號様式ニ據リ調製スヘシ
第三十九條 豫定簿ハ地方支部局毎ニ口取ヲ設ケ且綱場、杭所及土場(陸揚)ノ三部ニ區別シテ記載スヘシ

第十一章 運材收入豫定簿

第四十條 運材收入豫定簿ハ第十八號様式ニ據リ調製スヘシ

第十二章 造林豫定簿

第四十一條 造林豫定簿ハ造林及苗圃ノ二部ニ分チ各別冊ニ編成スヘシ
第一款 造林ノ部
第四十二條 造林豫定簿造林ノ部ハ第十九號様式ニ據リ調製スヘシ
第二款 苗圃ノ部
第四十三條 造林事業ヲ分チ左ノ七種トス
一 植栽

下改補手間保

第一 新植ノ事業ハ植栽トス
第二 人工下種及天然下種ノ事業ハ下種トス
第三 植栽又ハ下種ヲ爲シタル林地ニシテ火災其ノ他ノ原因ニ依リ當初ノ目的ヲ達セサルカ爲メ更ニ植替又ハ播替ヲナス事業ハ改植トス
第四 植栽又ハ下種ヲ爲シタル林地ニシテ其ノ造林ノ成績不良ナル部分ニ之カ補充ノ爲メ植苗若ハ播種ヲ爲シ又ハ林地保護等ノ爲メ下木植栽ヲナス事業ハ補植トス
第五 下刈、蔓切、枝打ニ係ル事業ハ手入れトス
第六 收入ヲ目的トセサル掃除伐又ハ疎伐ニ係ル事業ハ間伐トス
第七 防火線ノ新設及修繕、獸虫害ノ豫防及驅除其ノ他ノ被害防衛並ニ巡視小屋、藩籬及森林ノ看守等ニ係ル事業ハ保護トス

第四十四條 前條事業ノ種類ヲ區別スルハ左ノ各項ニ據ルヘシ

第四十五條 豫定簿ハ各事業區及施業案編成外地ニ區別シテ口取ヲ設ケ更ニ各事業ノ種類ニ細別シテ記載スヘシ
第四十六條 豫定簿ハ一林相班内ニ於ケル事業箇所ヲ以テ一但保護ノ事業ハ一事業ヲ以テ一記入番號トナスヘシ
第四十七條 植栽又ハ下種ノ事業ニシテ當該年度ニ地帯ノミ

ヲ施行スルトキハ其ノ施業面積ヲ朱書スヘシ
第四十八條 苗圃ニ於テ養成シタル苗木ヲ林地ニ移植スルトキハ其ノ苗木栽培ノ成績ニ基キ算出シタル見込價格ヲ朱書スヘシ

第四十九條 造林豫定總括表造林ノ部ハ第二十號様式ニ據リ調製スヘシ

第二款 苗圃ノ部

第五十條 造林豫定簿苗圃ノ部ハ第二十一號様式ニ據リ調製スヘシ

第五十一條 各所ニ散在スル苗圃ハ各之ヲ一苗圃班トシ適宜數多ノ苗圃班ヲ集合シテ一苗圃名ヲ附スヘシ

但シ一分擔區内ニ在ル苗圃ハ成ルヘク一苗圃名ヲ附スヘシ

附 苗圃班ノ名稱ハ番號又ハ字名ヲ用フヘシ

第五十二條 豫定簿ハ苗圃毎ニ口取ヲ設ケ且事業ノ種類ニ依リ新墾、播種、床替、山出及雜ノ五項ニ區別シテ記載スヘシ

第五十三條 前條事業ノ種類ヲ區別スルハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一 新規開墾ハ新墾トス

二 種子ノ採收又ハ購入及播種ヨリ第一回床替ニ至ルマテノ事業ハ播種トス

三 第一回床替ヨリ山出ニ至ル迄ノ事業ハ床替トス

四 林地移植ノ爲メ苗木掘取及撰苗等ニ係ル事業ハ山出トス

五 苗圃ノ藩籬、小屋掛、器具機械、苗圃番人及借地料等ハ雜トス

第五十四條 苗木ノ年齢ハ滿年ヲ以テ數フヘシ

第五十五條 新墾ノ面積ニシテ播種又ハ床替ノ面積ト重複スルトキ又ハ翌年度ニ於テ播種スヘキ種子ニシテ其ノ前年度

ニ購入若ハ採收スルトキハ其ノ面積又ハ數量ヲ朱書スヘシ
第五十六條 造林豫定總括表苗圃ノ部ハ第二十二號様式ニ據
リ調製スヘシ

第十三章 營農豫定簿

第五十七條 營農豫定簿ハ第二十三號様式ニ據リ調製スヘシ
第五十八條 豫定簿ハ農場毎ニ別冊トシ農耕、園藝及飼畜ノ
三部ニ口取ヲ設ケ更ニ農耕及園藝ハ各開墾、栽培、耕畜、
用具及雜ノ五項ニ飼畜ハ飼畜、用具及雜ノ三項ニ細別シテ
記載スヘシ

第五十九條 新墾ノ面積ニシテ栽培ノ面積ト重複スルモノハ
之ヲ朱書スヘシ

第六十條 營農豫定總括表ハ第二十四號様式ニ據リ調製スヘ
シ

第十四章 造材及運材豫定簿

第六十一條 造材及運材豫定簿ハ第二十五號様式ニ據リ調製
スヘシ

第六十二條 豫定簿ハ各事業區及施業編成外地ニ區別シテ口
取ヲ設ケ更ニ官行伐木、官行間伐及官行伐竹ノ三事業ニ大
別シ各事業ヲ造材、運材及雜ノ三ニ細別シテ記載スヘシ

第六十三條 前條官行事業ノ區別ハ左ノ各項ニ據ルヘシ
一 主伐又ハ主伐ト合同シテ執行スル疎伐ノ官行事業ハ官
行伐木トス

第六十四條 木材留置豫定簿ハ第三十號様式ニ據リ調製スヘ
シ
第七十五條 豫定簿ハ地方支部局毎ニ口取ヲ設ケ更ニ網場、
杭所及土場(陸揚)ノ三項ニ區別シテ記載スヘシ

第十七章 木材留置豫定簿

第七十三條 豫定簿ハ官行斫伐事業又ハ製品事業ヨリ引渡
ヲ受クヘキ貯藏産物ノ原價ヲ朱書スヘシ

第七十四條 木材留置豫定簿ハ第三十號様式ニ據リ調製スヘ
シ
第七十五條 豫定簿ハ地方支部局毎ニ口取ヲ設ケ更ニ網場、
杭所及土場(陸揚)ノ三項ニ區別シテ記載スヘシ

第十八章 營繕豫定簿

第七十六條 營繕豫定簿ハ經常費ニ屬スルモノト臨時費ニ屬
スルモノトニ分テ別冊トシ第三十一號様式ニ據リ調製スヘ
シ

第七十七條 營繕事業ヲ分テ左ノ四種トス
一 建物
二 搬路
三 徑路
四 雜路

第七十八條 前條事業ノ種類ヲ區別スルニハ左ノ各項ニ據ル
ヘシ

一 廳舎、官舎、倉庫、物置所、休泊所、其ノ他永久ニ保
存スヘキ家屋及其ノ附屬營造物トス
二 御料地ノ利用ノ爲メ開設スル事道及鐵路ハ搬路トス
三 苗木運搬又ハ林内巡視等ノ爲メ開設スル歩道ハ徑路ト
ス
四 砂防工、排水工、護岸工等ハ雜トス

第七十九條 豫定簿ハ事業ノ種別毎ニ口取ヲ設ケ更ニ新營ト
修繕トニ區別シテ記載スヘシ

二 前項以外ノ疎伐及掃除伐等ノ官行事業ハ官行間伐トス
三 伐竹ノ官行事業ハ官行伐竹トス
第六十四條 造材及運材事業ハ成ルヘク一斫伐個所ヲ以テ一
事業トナスヘシ

但事業上ノ都合ニ依リ數多ノ斫伐個所ヲ合同シテ一事業ト
ナスコトヲ得

第六十五條 造材事業ハ木材收額豫定簿ニ掲クル一記入番號
毎ニ區別シテ材積ヲ記載シ且其ノ原木價格ヲ朱書スヘシ

第六十六條 造材及運材豫定總括表ハ第二十六號様式ニ據リ
調製スヘシ

第十五章 製品豫定簿

第六十七條 製品豫定簿ハ第二十七號様式ニ據リ調製スヘシ
第六十八條 豫定簿ハ製品場毎ニ製品ノ種別ニ依リテ口取ヲ
設ケ更ニ原料、製作及雜ノ三項ニ區別シ且其ノ原料ハ直接
ニ造材及運材ヲ執行スヘキモノト他ヨリ受入ルヘキモノノ及
前年度ヨリ繰越スヘキモノトニ細別シテ記載スヘシ

第六十九條 製品原料ノ價格ハ直接ニ造材及運材ヲ執行シタ
ルモノハ原木價格ヲ、他ヨリ受入レタルモノ又ハ前年度ヨ
リ繰越シタルモノハ其ノ造材見積價格ヲ朱書スヘシ

第七十條 製品豫定總括表ハ第二十八號様式ニ據リ調製スヘ
シ

第七十一條 産物貯藏豫定簿ハ第二十九號様式ニ據リ調製ス
ヘシ

第十六章 産物貯藏豫定簿

第七十二條 豫定簿ハ貯木場毎ニ口取ヲ設ケ並積、輸送及雜
ノ三項ニ區別シテ記載スヘシ

營造物ノ新設又ハ増設ヲ要スル工事ハ新營トシ其ノ復舊工
事又ハ一部ノ模様替工事ハ修繕トナスヘシ

第八十條 新營又ハ大修繕工事ニシテ建物、搬路及雜ノ事業
ニ係ルトキハ工事仕様書、經費内譯書及平面圖ヲ調製シ尙
建物ニ在リテハ側面圖、搬路ニ在リテハ縦斷面圖及横斷面
圖、雜工事ニ在リテハ工事設計上必要ナル圖面ヲ調製シ之
ヲ豫定簿ニ添附スヘシ
但豫定金額千圓ヲ超エサル工事ニ付テハ工事仕様書、經費
内譯書及圖面ヲ添附ヲ省略スルコトヲ得

第八十一條 御料地ノ利用上必要ナル公道又ハ私道等ニ對シ
企業者ニ補助金ヲ下付シテ新營若クハ修繕ノ工事ヲ執行セ
シムヘキ場合ニハ當局ノ工事ニ準シテ之ヲ豫定簿ニ記載ス
ヘシ

第八十二條 營繕事業ニ要スル敷地及土地ノ定著物ニシテ買
上クヘキモノハ其ノ價格ヲ朱書スヘシ

第八十三條 營繕豫定總括表ハ第三十二號様式ニ據リ調製ス
ヘシ

第八十四條 物件買上豫定簿ハ經常費ニ屬スルモノト臨時費
ニ屬スルモノトヲ分テ別冊トシ第三十三號様式ニ據リ調製
スヘシ

第八十五條 各地方支部局ハ主要ナル御料地ノ位置、形狀及各
年度ニ於ケル伐木、造林ノ個所並ニ搬路、徑路設置ノ位置
等ヲ記入シタル事業一覽圖ヲ調製シテ事業豫定簿ニ添附ス
ヘシ

第十九章 物件買上豫定簿

第二十章 附 則

第八十五條 各地方支部局ハ主要ナル御料地ノ位置、形狀及各
年度ニ於ケル伐木、造林ノ個所並ニ搬路、徑路設置ノ位置
等ヲ記入シタル事業一覽圖ヲ調製シテ事業豫定簿ニ添附ス
ヘシ

但事業一覽圖ニシテ施業案編成地ニ係ルモノハ林業圖ノ副本ヲ應用シ施業案編成外地ニ係ルモノハ二萬分ノ一乃至十萬分ノ一ノ縮尺ヲ用ヒテ之ヲ調製スヘシ
第八十六條 臨時費ニ屬スル營繕事業及重要ナル事業ノ創始ハ其ノ設計前事業ノ要領ヲ具シ豫メ本局長ノ認可ヲ受クヘシ
第八十七條 各地方部局長ハ收入ニ關スル事業豫定簿ヲ前年五月末日迄ニ、支出ニ關スル事業豫定簿ヲ前年六月末日迄ニ本局長ニ進達スヘシ
(様式)省略

御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿調製心得

明治三十九年三月十五日 (局長ヨリ地) 第一四八三號 (方部局ヘ達)

- 第一條 御料地ノ事業施行ニ關スル處分簿及實行簿ヲ分テ左ノ各種トス
- 第一 處分簿
 - 木竹處分簿
 - 雜種物處分簿
 - 貸地處分簿
 - 建物貸與處分簿
 - 農產物處分簿
 - 七、八 (消滅)

- 九 木材留置處分簿
- 十 運材收入處分簿
- 十一 營農實行簿
- 十二 造林實行簿
- 十三 營農實行簿
- 十四 製材實行簿
- 十五 產物貯藏實行簿
- 十六 木材留置實行簿
- 十七 營繕實行簿
- 十八 物件買上實行簿
- 十九 農產物ノ處分ニ關シテハ處分原簿ヲ又造林、營農、製材及運材、製品及產物貯藏ノ實行ニ關シテハ別ニ實行原簿ヲ設クヘシ
- 第二十條 建物貸與處分簿、運材收入處分簿及物件買上實行簿ハ各地方部局長ニ於テ適宜ニ之ヲ調製シ其ノ他ノ處分簿、實行簿及處分原簿、實行原簿ハ各様式ニ據リ調製シ其ノ記載方ハ様式ニ示セル記載例ニ準據スヘシ
- 第二十一條 處分簿及實行簿ニ掲記セル面積ハ歩ニ、數量ハ各種類ノ總額ニ於テ單位以下一位ニ、金額ハ厘位ニ止メ其ノ所要ノ數位以下ハ四捨五入スヘシ
- 第二十二條 一旦拂下又ハ貸下等ノ處分ヲナシタルモノニ對シ爾後契約ノ解除ヲナシ該拂下又ハ貸下等ヲ取消シタルトキハ其ノ處分簿ニ記載セル事項ヲ朱線ヲ以テ抹消シ且之ニ關スル月末又ハ年度末ノ計ヲ訂正シ各其ノ要領ヲ備考欄ニ記載スヘシ
- 第二十三條 處分簿及實行簿ハ直接ニ事業ヲ施行スル當該部局(地方支部局長若ハ地方部局長)ニ於テ之ヲ調製スヘシ

帝室林野局產物賣拂規程

昭和七年一月十一日 (長官ヨリ局) 6 監第七一四ノ二號 (中一般ニ達)

- 第七條 處分簿及實行簿ニ掲載スル收支ノ關係ハ精確ニ會計書類ト照合一致セシムルヲ要スルモノトス
- 第一節 總則
- 第一條 本規程ニ於テ產物ト稱スルハ帝室林野局ノ保管ニ屬スル土地ノ產物、貯材及生產品ヲ謂フ
- 第二條 產物ノ賣拂ハ皇室會計令及附屬令ノ規定ニ依ルノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 產物ノ買受ニ關スル書類ハ當該產物所管ノ帝室林野局出張所ニ提出スヘシ但シ時宜ニ依リ關係分擔區員ヲ經由スルコトヲ妨ケス
- 第四條 二人以上共同シテ買受ヲ爲ス場合ニ於テハ買受人ハ各自連帶シテ其ノ債務ヲ負擔スルモノトス
- 第五條 買受人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書類ヲ提出スヘシ
- 第六條 賣拂ニ關スル承諾、通知、催告其ノ他ノ書類ノ送達ハ買受人又ハ其ノ代理人ノ申込當時ノ居住地若ハ其ノ後居出居住地ニ對シ之ヲ行フ
- 第七條 隨意契約ニ依リ買受ヲ爲サムトスル者ハ第一號書式ノ買受申込書ヲ提出スヘシ
- 第八條 明治四十五年宮内省令第七號第一條第二號乃至第六號ニ依リ買受ヲ爲サムトスル者ハ前條ノ買受申込書ニ左ノ

- 書類ヲ添附スヘシ
- 一 工事ノ材料及數量ノ必要ヲ認ムルニ足ルヘキ書類
 - 二 工事ニ付官廳其ノ他ノ機關ノ認可、承認又ハ決議ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ認可、承認又ハ決議ヲ證スヘキ書類
 - 三 工事又ハ其ノ材料ノ供給ヲ請負ヒタル者ニ於テ買受ヲ爲サムトスル場合ハ之ヲ請負ハシメタル者ノ證明書
- 第九條 賣拂物件ノ數量及材積ノ計算方法ハ帝室林野局ノ定ムル所ニ依ル
- 第十條 契約ハ入札又ハ買受ノ申込ニ對シ落札ノ通知又ハ賣拂ノ承諾ヲ發シタルトキ確定ス但シ條件ヲ付シテ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ買受人之ニ對スル請書ヲ發シタルトキ、又契約書ノ作成ヲ要件トシタル場合ニ於テハ之カ作製アリタルトキ確定スルモノトス
- 第十一條 契約確定ノ後ハ其ノ產物ニ付種類數量又ハ品質ニ於テ差異アリ若ハ隠レタル瑕疵アリトモ特約ヲ爲シタル場合ノ外買受人ハ異議ヲ述ブルコトヲ得ス
- 第十二條 代金ノ納付及物件ノ引渡
- 第十三條 賣拂代金ハ契約確定ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ次條ノ規定ニ依リ代金後納ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四條 賣拂代金後納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ契約確定ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ手續ヲ爲シ許可アリタルトキハ同ク六十日以内ニ擔保ヲ提供スヘシ
- 第十五條 賣拂代金ノ後納ハ競争契約ノ場合ニ於テハ公告又ハ指示ニ明示セザリシトキハ之ヲ許可セズ
- 第十六條 擔保ハ利札付無記名國債證券ニシテ賣拂代金ト同額以上ノ時價ヲ有スルコトヲ要ス

第十四條 賣拂代金ノ納付又ハ代金後納擔保ノ提供アリタルトキハ其ノ納付又ハ提供アリタル日ヨリ二十日以内ニ賣拂物件ノ引渡ヲ爲スモノトス
買受人ハ皇室會計令第五十八條ニ規定スル領收書ヲ提出シ代金ノ納了ヲ證スルコトヲ得
第十五條 貯材又ハ生産品ヲ賣拂フ場合ニ於テハ賣拂代金又ハ代金後納擔保ハ之カ分割納付又ハ提供ヲ許可スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ賣拂代金二萬圓ヲ超ユルトキニ限り買受人ハ第十二條及第十三條第一項ノ規定ニ拘ラス最終ノ分割代金又ハ擔保ハ契約確定ノ日ヨリ百日以内ニ於テ之ヲ納付又ハ提供スルコトヲ得
第一項ノ場合ニ於テハ納付又ハ提供シタル分割代金又ハ擔保ニ對スル相當價格ノ物件ノ分割引渡ヲ爲スモノトス
第十六條 賣拂物件ノ引渡ハ買受人ニ豫メ通告ヲ爲シタル日ニ於テ實地ニ付之ヲ行フ但シ双方ノ間ニ於テ物件ノ所在範圍等明確ナルトキハ次條ニ規定スル授受書ニ依リ引渡ヲ了スルコトアルヘシ
買受人正當ト認ムヘキ事由ナクシテ前項ノ實地引渡ニ立會ハサルトキハ其ノ期日ニ於テ引渡ヲ了シタルモノト看做ス
第十七條 賣拂物件ノ引渡ヲ了シタルトキハ第二號書式ノ引渡授受書ヲ作製スヘシ
第十八條 買受人代金ノ後納許可期間内ニ代金ヲ納付セサルトキハ契約擔任官吏ハ其ノ擔保ヲ適宜ノ方法ヲ以テ換價シ之ヲ以テ代金及換價費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ過剩アルトキハ之ヲ還付ス
買受人ハ後納許可期間經過後十日以内ハ仍代金ヲ納付シテ擔保ノ還付ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ其ノ遲延日數ニ應ジ一日付代金ノ一萬分ノ三ノ割合ヲ以テ延滞料ヲ前納スルコトヲ要ス
第十九條 第三節 物件ノ採取、搬出及轉賣
買受人ハ買受物件ノ引渡ヲ受クルニ非サレハ之カ採取、加工又ハ搬出ヲ爲スコトヲ得ス
第二十條 立木竹ノ根株ハ特約ヲ爲シタル場合ノ外賣拂外トス
第二十一條 賣拂立木ニシテ根株ニ極印ノ錐記アルトキハ買受人ハ該極印ノ上部ヨリ伐採スヘシ若シ過テ極印ヲ滅失毀損シタルトキハ遲滞料ヲ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
第二十二條 買受人ハ契約ニ定メタル搬出期間内ニ買受物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ
貸付地内ニ在ル產物ヲ其ノ借地人ニ賣拂ヒタル場合ニ於テハ特約ヲ爲シタル場合ノ外其ノ貸付期間ヲ以テ搬出期間ト看做ス
第二十三條 買受人搬出期間内ニ買受物件ノ搬出ヲ終ラサルトキハ搬出期間ノ延長ヲ出願スヘシ
前項ノ出願ニ對シテハ其ノ延長期間ニ付左ノ延滞料ヲ前納スルニ非サレハ之ヲ許可セス但シ天災地變其ノ他ノ不可抗力ニ基因シ搬出ヲ爲スコト能ハサリシ場合ハ其ノ期間ニ對シテ延滞料ヲ免除スルコトアルヘシ
一 賣拂代金百圓以下ノ場合ハ一日ニ付五錢
二 賣拂代金百圓ヲ超ユル場合ハ一日ニ付其ノ二千分ノ一
第二十四條 搬出期間ノ再延長ハ之ヲ許可セス但シ天災事變其ノ他ノ不可抗力ニ基因シ又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ採取加工又ハ搬出ヲ中止セシメラレタル爲買受物件ヲ搬出スルコト能ハサリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第二十五條 買受人搬出期間ノ滿了後許可ナクシテ買受物件

ヲ搬出シタルトキハ第二十三條ニ規定シタル延滞料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ違約金トシテ徵收ス
第二十六條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出未済ノ物件ヲ拋棄シタルモノト看做シ當該官吏ニ於テ收得シ尙損害アル場合ニ於テハ其ノ賠償ヲ求ムルコトアルヘシ
一 搬出期間滿了ノ翌日ヨリ起算シ十日以内ニ期間延長ノ出願ヲ爲ササルトキ
二 搬出期間再延長ニ付許可ヲ得サルトキ
第二十七條 買受人ハ買受物件ノ採取、加工又ハ搬出等ノ爲テ其ノ指揮ニ從フヘシ必要ノ事由止ミタルトキ之カ撤去ニ付亦同シ
當該官吏ノ指示シタル期間内ニ於テ前項設備ノ撤去ヲ爲ササル場合ハ之ヲ拋棄シタルモノト看做シ收得スルコトアルヘシ
第二十八條 買受人ハ其ノ代理人、使用人、請負人其ノ他ノ關係者ニ對シテモ入林中御料地又ハ其ノ產物ノ保護ニ付注意セシメ若シ被害又ハ其ノ虞アルコトヲ發見シタル場合ハ遲滞料ノ之ヲ届出ツヘシ
第二十九條 買受人又ハ其ノ代理人、使用人、請負人其ノ他ノ關係者ニ於テ入林中御料地又ハ其ノ產物ニ損害ヲ與ヘタルトキハ買受人ニ於テ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ
前項ノ損害ニシテ故意ニ基クモノト認メタルトキハ買受物件ノ爾後ノ採取、加工又ハ搬出等ヲ中止セシムルコトアルヘシ買受人ハ之カ爲損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
第三十條 買受人未タ搬出ヲ終ラサル買受物件ヲ他ニ讓渡セムトスルトキハ第三號書式ノ願書ヲ當該契約擔任官吏ニ提出シ其ノ許可ヲ受クヘシ
前項ノ許可ヲ得シテ讓渡ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ當該官吏ニ對抗スルコトヲ得ス
第三十一條 明治四十五年宮内省令第七號第一條第一號乃至第十號ノ規定ニ依リ用途ヲ限定シ隨意契約ヲ以テ買受ケタル物件ハ當該契約擔任官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ目的外ニ使用シ又ハ讓渡若ハ交換ヲ爲スコトヲ得ス
買受人前項ノ規定ニ違背シタルトキハ賣拂代金ノ三割ニ相當スル金額ヲ違約金トシテ徵收ス許可ヲ得テ讓渡ヲ爲シタル者ニ付亦同シ
第三十二條 買受人買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ遲滞料ヲ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
第三十三條 買受人當該官吏ヨリ跡地検査ニ立會ヲ求メラレタルトキハ故ナク之ヲ拒絶スルコトヲ得ス
第四節 契約ノ解除
第三十四條 左ノ場合ニ於テハ契約擔任官吏ハ別段ノ催告ヲ爲サスシテ契約ヲ解除スルコトヲ得
一 買受人指定ノ期間内ニ代金ヲ納付セス又ハ代金後納ノ擔保ヲ提供セサリシトキ
二 前號ノ外買受人契約事項ニ違反シタルトキ
三 法令關係ニ依リ產物ノ採取ヲ制限スル必要ヲ生シタルトキ
前項ノ契約解除ハ解除當時既ニ採取ヲ了シ又ハ搬出ヲ終リタル物件ニ對シテハ其ノ効力ヲ及ホスコトナシ
第三十五條 前條ニ規定スル契約解除ノ場合ニ買受人ニ於テ採取又ハ搬出ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタル物件ニ就テハ契約擔任官吏ノ計算シタル相當金額ヲ既納代金中ヨリ還付ス

(書式略)

● 產物賣拂代金後納期間 ニ關スル通牒

(昭和七年一月十二日
各支局長、試驗場長宛)

土地以外ノ物件ヲ賣拂ヒタル場合其ノ代金後納ノ許可期間ハ
皇室會計令施行規則第二百二十四條ノ三ノ規定ニ依リ一年以内
ト相成居候處土地ノ產物、貯材及生産物ノ賣拂ニ關スル後納
期間ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ左記ノ通御處理相成度
一 貯材ノ場合ハ賣拂許可ノ日ヨリ七月以内
二 其ノ他ノ場合ハ賣拂許可ノ日ヨリ一年以内、但シ翌年
三月二十五日ヲ超エサルコト

● 皇室林野局產物調查規 程

昭和七年十二月二十八日
長官達業第五五八號

〔沿革〕 昭和八年八月業第三八八號改正
第一條 產物ヲ賣拂フ爲之カ數量其ノ他ヲ調査スルハ本規程
ノ定ムル所ニ依ル
第二條 立木ノ長ハメートル、直徑、周圍ハセンチメートル
材積ハ立方メートルヲ以テ單位トス但シ長ハ一メートル、

直徑又ハ周圍ハ二センチメートル未満ノ端數ヲ切捨テ材積
ハ各品位徑級毎ニ單位以下一位ニ止メ二位以下四捨五入ス
尙簡々ノ計算ニ當リテハ單位以下二位ニ止メ三位以下四捨
五入スヘシ

第三條 立木ノ材積ハ地上ヨリ梢頭マテノ幹材材積ト枝條ノ
材積トニ區分シテ調査スヘシ但シ枝條ニシテ價格ヲ有セザ
ルモノハ調査ヲ省略スルコトヲ得

第四條 立木ハ毎木調査ヲ爲シ夫々番號ヲ付シ之ヲ第一號書
式ノ實查野帳ニ掲記シ第二號書式ノ計算表ニ依リ其ノ本數
及材積ヲ集計スヘシ但シ伐採後材積調査ヲナスヘキ立木又
ハ燃料トナスヘキ立木ハ毎木調査ヲ省略シ標準地法ニ依リ
本數及材積ヲ調査スルコトヲ得

第五條 毎木調査ノ場合ニ於ケル立木ノ幹材材積ハ全長及胸
高(地上ヨリ一・二メートル位置)直徑若ハ周圍ヲ測リ別
表ノ立木幹材材積表又ハ形數表ニ依リ之ヲ算定スヘシ但シ胸
高直徑六センチメートル超エサルモノハ適宜ノ方法ニ依
リ其ノ材積ヲ算定スルコトヲ得

第六條 標準地調査法ニ依リ標準地ハ調査スヘキ區域中ニ於
テ疎密及成長ノ狀態中庸ヲ得タル場所ニ就キ概ネ左ノ制限
ニ依リ之ヲ選定スヘシ但シ調査スヘキ區域中林相著シク異
ナルモノアル場合ハ各別ニ調査區域ヲ定メテ標準地調査ヲ
行フヘシ

一 調査區域十ヘクタール未満ナルトキハ其ノ五十分ノ一
ノ規格ノ定ムル所ニ依ル
一 造材ノ長ハメートルヲ單位以下一位ニ止メ以下端數ヲ
切捨テ直徑、周圍、厚、幅ハセンチメートルヲ單位トシ
且ツ二センチメートル毎ニ止メ未満ノ端數ヲ切捨ツ
造材ノ長ニシテ別ニ定尺ヲ定メタルモノハ其ノ長ニ依リ
造材ノ材積ハ立方メートルヲ以テ單位トシ單位以下二位
ニ止メ三位以下四捨五入ス
二 穂付丸太ノ檢尺徑ハ元口ヨリ一・二メートルノ部分ニ
於ケル最小徑トス
多數ノ穂付丸太ニシテ檢尺徑二十センチメートル未満ノ
モノノ材積ヲ計算スル場合ニハ檢尺徑毎ニ總本數ヲ區分
シ各徑級毎ニ數本ノ標準木ヲ選定シテ平均中央徑並ニ長
ニ依リ平均材積ヲ求メ之ニ各本數ヲ乘シテ總材積ヲ算定
スルコトヲ得

三 造材ニシテ突割ノ爲著シク直徑ヲ減シタル部分アルト
キハ其ノ缺材部ヲ切斷遺棄シタルモノト看做シテ材長ト
ナスコトヲ得
空洞材又ハ引抜材ハ其ノ利用シ得ル部分ノ材積ヲ算定シ
其ノ材積ニ相當スル圓材ノ檢尺徑ヲ以テ其ノ檢尺徑ト看
做スコトヲ得

四 大割材ノ太ハ檢尺徑ニ於ケル最大最小兩直徑ノ相乘積
ノ平方根ト同一ノ檢尺徑ヲ有スル圓材ト看做ス其ノ他異
形ノ造材ハ其ノ形狀ニ從ヒ適宜算定スヘシ

第十二條 燃料ハ層積立方メートルヲ以テ單位トシ單位以下
一位ニ止メ二位以下四捨五入ス

第十三條 層積ヲ實積ニ又ハ實積ヲ層積ニ改算スルニハ技條
魚朶及之ニ準スヘキモノハ〇・四立方メートル、其ノ他ハ
〇・七立方メートルヲ以テ層積一立方メートルト推定ス但

乃至二十分ノ一ノ面積ヲ有スル標準地二箇所以上
二 調査區域十ヘクタール以上ナルトキハ其ノ百分ノ一乃
至五十分ノ一ノ面積ヲ有スル標準地三箇所以上
第七條 標準地内ノ立木材積ハ第五條ノ每木調査法又ハ左ノ
方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ但シ特ニ精密ヲ要スル場合若ハ
別表立木幹材材積表又ハ形數表ニ依リ難キ場合ハ標準地内ニ
於テ各徑級毎ニ標準木ヲ伐採シテ材積又ハ形數ヲ求メ之ニ
基キテ標準地内ノ材積ヲ算出スヘシ
一 每木ニ就キ胸高直徑ヲ測定シテ之ヲ第三號書式ノ實查
野帳ニ掲記シ同樹種ニシテ同徑ノ立木ノ數ヲ集計スヘシ
二 各直徑毎ノ立木中ニ於テ各數本ノ標準木ヲ選定シ其ノ
長ヲ測定シテ平均長ヲ算定シ別表立木幹材材積表又ハ形數
表ニ依リ其ノ材積ヲ求メ之ニ各直徑ノ本數ヲ乘シ其ノ和
ヲ標準地ノ材積トス

第八條 標準地内ノ立木材積ヲ算定シタルトキハ第四號書式
ノ計算表ニ依リ各標準地毎一ヘクタールニ對スル樹種別本
數材積ヲ算出シ更ニ之ヲ平均シタル本數及材積ニ基キ全區
域ノ本數及材積ヲ算出スヘシ
第九條 末木又ハ倒木ノ材積ハ穂付丸太ニ準シテ算定スヘシ
但シ中央直徑ヲ測定シ得サル場合又ハ燃料トナスヘキモノ
ノ材積ハ立木ニ準シテ算定シ造林疎伐木ニシテ利用價值少
キモノノ數量ハ本ヲ以テ表シ其材積ハ見込ニ依ルコトヲ得
第十條 立竹ノ太ハ胸高周圍ヲ調査シセンチメートルヲ單位
トシテ之ヲ表ハシ數量ハ本又ハ束(一メートル繩メ)ヲ以テ
表ハス

第十一條 造材及製材ノ調査ハ左ノ各項ニ定ムルモノノ外ハ
大正十五年十月二十六日商工省告示第三十號ニ掲タル木材
生產品調査

シ特ニ實積ト層積トノ係數ヲ實驗シタル場合ニ於テハ其ノ係數ニ依リ改算スルコトヲ得

第十四條 丸太、穂付丸太及柚角ハ各其ノ直徑又ハ厚幅及長等ヲ第一號書式ノ實查野帳ニ掲記シ第二號書式ニ依リテ其ノ本數及材積ヲ計算スヘシ

第十五條 本炭ハ俵又ハキログラムヲ以テ單位トシ單位以下ハ之ヲ切捨ツ

第十六條 農産物ハキログラムヲ以テ單位トシ單位以下四捨五入ス但シ必要アル場合ハ單位以下一位ニ止メ二位以下四捨五入ス

第十七條 雜種物ハ左ノ單位ヲ用フ
一 柴草、樹葉ハ束(一メートル繩メ)又ハキログラム(單位以下四捨五入)
二 菌茸ハキログラム(單位以下四捨五入)
三 樹實ハキログラム又ハリットル(單位以下四捨五入)
四 樹皮ハ束(一メートル繩メ)キログラム又ハ平方メートル(單位以下四捨五入)

第十八條 產物ノ調査ニシテ本規定ニ定メナキモノハ從來ノ慣例又ハ適宜ノ方法ニ依リ調査ヲ行フヘシ

第一 直徑ニシテ三個以内ノモノハ品等一等ヲ上ス
第二 左ノ各號ノ場合ハ品等ヲ下スコトヲ得
第三 直徑二十センチメートル未満ノ小曲材ハ相當等級ヨリ一等、大曲材又ハ重曲材ハ二等以内
第四 腐朽、あて、胴打又ハ突割材ハ腐朽、損傷等缺點ノ程度ニ應シテ三等以内

第十九條 貯木場ニ收容スヘキ造材並ニ之ト同一伐出地ノ造材ノ品等標準並ニ定尺ハ當分ノ内左記各項ノ定ムル所ニ依ル
前項以外ノ造材ニシテ業務上又ハ賣拂上直ニ商工省告示木材規格品等區分ニ依リ難キモノアルトキハ當分ノ内從來ノ慣行ニ依ルコトヲ得
第一 造材ノ品等ハ節及曲ノ狀況ニ依リ左表ノ通上中並下ノ四等ニ分ツ

節	曲		
	直材	小曲材	大曲材
無節	上	上	並
三方無節	上	中	並
同	上	中	並
二方無節	中	並	下
一方無節	中	並	下
一方無節	並	並	下
三方小節	並	並	下
四方小節	並	下	下
四方大節	下	下	下

第二 節ヲ定ムル標準ハ次ノ如シ
一 直徑二十センチメートル未満ノ材ニアリテハ長徑一・五センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
二 直徑三十センチメートル未満ノ材ニアリテハ長徑二

三 センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
四 直徑六十センチメートル以内ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
五 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
六 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
七 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
八 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
九 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十一 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十二 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十三 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十四 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十五 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十六 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十七 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十八 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
十九 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス
二十 直徑六十センチメートル以上ノ材ニアリテハ長徑三センチメートル以内ノ節ヲ小節トス

第一 直徑ニシテ三個以内ノモノハ品等一等ヲ上ス
第二 左ノ各號ノ場合ハ品等ヲ下スコトヲ得
第三 直徑二十センチメートル未満ノ小曲材ハ相當等級ヨリ一等、大曲材又ハ重曲材ハ二等以内
第四 腐朽、あて、胴打又ハ突割材ハ腐朽、損傷等缺點ノ程度ニ應シテ三等以内

第一 目廻材ハ日廻ノ程度ニ應シ二等以内
第二 木口割材又ハ引抜材ニシテ深サ材長ノ十分ノ一以上ニ及フモノハ一等
第三 顯著ナル入皮、空洞、振、蟲喰、干割材又ハ之ニ準スル缺點アルトキハ其ノ程度ニ應シテ二等以内
第四 品等ヲ下シタル爲品位以下トナルモノハ次品トス
第五 業務上又ハ賣拂上品等ヲ區別セサルヲ有利ト認メタル場合ハ之ヲ省略シ品位込トシテ處理スルコトヲ得
第六 造材ノ定尺ハ左ノ如ク定ム但シ注文ニ依リタルトキ又ハ造材上或ハ賣拂上有利ト認メタルトキハ定尺ニ依ラサルコトヲ得

尺	樹種
一・〇	一般樹種
一・九	ヒノキ、カウヤマキ、サハラ以外ノ樹種
二・二	ヒノキ、サハラ、カウヤマキ
二・四	主トシテ潤葉樹
三・一	一般樹種
三・七	主トシテ潤葉樹並ニ關東向製板用モミ、タウヒ、ヒメコマツ、ネズコ等
四・〇	一般樹種
四・六	同
五・五	ヒノキ、アスナロ、カウヤマキ、ケマキ
六・三	同
七・三	同

八・二 同
九・一 同

以上〇・九毎ニ階級ヲ設ク
尙造材ノ定尺ニ對シテハ兜巾代其ノ他ヲ除キ六メートル未滿ノ材ハ十センチメートル以内、六メートル以上ノ材ハ二十センチメートル以内ノ延寸ヲ付スルコトヲ得

第二十條

木炭ノ調査ハ當分ノ間左記標準ニ依ルコトヲ得

第一

木炭ハ其ノ製造法ニ依リテ之ヲ次ノ二種ニ區分ス
一 白炭、白消法（通常窯外消火法即チ炭窯又ハ炭窯ト

看做スヘキ裝置ヨリ取出シテ消火スル法）ニ依リ製造シタルモノ
二 黒炭、黒消法（通常窯内消火法即チ炭窯又ハ炭窯ト

看做スヘキ裝置内ニテ消火スル方法）ニ依リ製造シタルモノ

第二

木炭ハ其ノ形狀ニ依リテ之ヲ次ノ四種ニ區分ス
一 丸、横斷面圓狀ニシテ長六センチメートル以上ノモ

但シ徑八センチメートル以上ハ割炭ト看做ス丸炭ハ其ノ

徑ニ依リ更ニ次ノ如ク區分ス
黒炭ニシテ徑三センチメートル以上八センチメートル

以下ハ丸トシ徑三センチメートル未滿ハ小丸トス白

炭ニシテ徑二センチメートル以上八センチメートル

以下ハ丸トシ徑二センチメートル未滿ハ小丸トス

割、横斷面圓狀ニシテ長六センチメートル以上ノ

モノ但シ割炭ノ各横斷面各邊ハ一〇センチメートル以上ノ

エザルコト
三 荒、長六センチメートル未滿ノモノニシテ二センチ

メートル角ノ孔ヲ有スル金篩ニ止マリタルモノ
四 粉、二センチメートル角ノ孔ヲ有スル金篩ヨリ落ち

タルモノ
第三 木炭ハ其ノ品質ニ依リテ之ヲ次ノ二種ニ區分ス

上 いぶり、はね、たちぎえ、しめり其ノ他ノ缺點ナキ

モノ
並 前記ノ缺點少ナキモノ

第四 木炭ノ取引ニ用フル重量ノ單位ハキログラムトス包

裝シタルモノニ在リテハ其ノ一箇ノ正味重量ハ一五キロ

グラムトス但シ製產地元ノ習慣ニ依リ一〇キログラ

ム、二〇キログラム、二五キログラム又ハ三〇キログラ

ムトスルコトヲ得

第五 包裝シタル木炭ニシテ輸送中ニ生シタル破砕量一割

ヲ超ユルモノハ之ヲいたみト稱スルコトヲ得

第六 木炭ノ稱呼ハ原料樹種名ヲ冠シ第一及第二ノ種別名

ヲ併稱ス但シ場合ニ依リ雜ヲ以テ樹種名ニ代フルコトヲ

得
樹種又ハ種別ノ混合シタルモノハ其ノ込ト稱ス

第七 木炭ノ包裝ニハ燒印其ノ他ノ方法ニ依リ製地名、

稱呼、品質、正味重量及出張所名ヲ表示スルモノトス

第八 賣拂上木炭ノ形狀區分ヲ必要トセサル場合ハ之ヲ區

分セサルコトヲ得
（書式略）

第五編 諸法令

第五編 諸法令 目次

第一章 牧 野

- 牧野法(昭和六年法律第三七號)…………… 四五七
- 牧野法施行期日ノ件(同 勅令第二六四號)…………… 四五九
- 牧野法施行令(同 勅令第二六五號)…………… 四六〇
- 牧野法施行規則(同 農林省令第二六號)…………… 四六〇
- 牧野改良獎勵規則(同 農林省令第二八號)…………… 四六二
- 牧野組合登記取扱手續(同 司法省令第三一號)…………… 四六四

第二章 國立公園及史蹟名勝天然紀念物

- (一) 國立公園
 - 國立公園法(昭和六年法律第三六號)…………… 四六六
 - 國立公園法施行期日ノ件(同 勅令第二四一號)…………… 四七〇
 - 國立公園法施行令(同 勅令第二四二號)…………… 四七〇
 - 國立公園法施行規則(同 內務省令第二五號)…………… 四七二
 - 風景保護ニ關スル件(同 七年內務省發衛第一一〇號)…………… 四七六
 - 風景保護ニ關スル件(同 林第五一七二號)…………… 四七六
 - (二) 史蹟名勝天然紀念物
 - 史蹟名勝天然紀念物保存法(大正八年法律第四四號)…………… 四七七
 - 史蹟名勝天然紀念物保存法施行令(同 勅令第四九九號)…………… 四七七
 - 史蹟名勝天然紀念物保存法施行規則(同 內務省令第二七號)…………… 四七八

- 史蹟名勝天然紀念物ノ指定類別(同 九年內務省告示第五一號)…………… 四七九
- 史蹟名勝天然紀念物保存要目「拔萃」(同 二月十六日官報)…………… 四七九
- 史蹟名勝天然紀念物調査委員會規程(昭和八年文部省訓令第一〇號)…………… 四八〇
- (三) 其ノ他
 - 寺院佛堂境内官有地木竹管理規則(明治三十六年內務省令第二號)…………… 四八〇
 - 官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件「拔萃」(大正二年內務省令第二號)…………… 四八一

第三章 砂防、河川、水利、鑛業

- (一) 砂 防
 - 砂防法(明治三十年法律第二九號)…………… 四八二
 - 第一章 總 則…………… 四八二
 - 第二章 土地ノ制限及砂防設備…………… 四八三
 - 第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等…………… 四八三
 - 第四章 警察、監督及強制手續…………… 四八五
 - 第五章 附 則…………… 四八六
 - 第六章 附 則…………… 四八七
 - 砂防法施行規程(同 勅令第三八二號)…………… 四八七
 - 砂防行政監督令(大正十五年勅令第二九一號)…………… 四八八
 - (二) 河川及水利
 - 河川法(明治二十九年法律第七一號)…………… 四八八
 - 第一章 總 則…………… 四八八

七四號).....五七三

○預金部資金運用規則(大正十四年勅令第五五號).....五七三

○預金部普通地方資金融通規則(昭和七年大藏省令第三〇號).....五七三

第一章 總則.....五七三

第二章 融通先.....五七三

第三章 資金ノ用途.....五七三

第四章 資金ノ割當.....五七三

第五章 資金ノ融通.....五七三

第一節 總則.....五七三

第二節 地方公共團體ニ對スル資金ノ融通.....五七三

第三節 地方公共團體以外ノ者ニ對スル資金ノ融通.....五七三

第六章 償還及利子拂.....五七三

第七章 雜則.....五七三

○預金部普通地方資金融通規則實施取扱規程(同 藏預第七五一號).....五七三

第一章 道府縣六大都市水利組合及北海道土功組合.....五七三

第二章 六大都市以外ノ市町村市町村組合及町村組合.....五七三

第三章 地方公共團體水利組合及北海道土功組合以外ノモノ.....五七三

○抵當證券法(同 六年法律第一五號).....五九〇

第八章 租稅及關稅

(一) 租稅

○地租法(昭和六年法律第二八號).....五九五

第一章 總則.....五九五

第二章 土地ノ異動.....五九五

第一節 有租地及無租地ノ轉換.....五九五

第二節 分筆及合筆.....五九六

第三節 開墾.....五九八

第四節 地目變換及地類變換.....五九八

第五節 荒地免租.....六〇〇

第三章 災害地免租.....六〇〇

第四章 自作農地免租.....六〇〇

第五章 地租徵收.....六〇一

第六章 雜則.....六〇一

○地租法施行規則(同 勅令第四七號).....六〇一

第一章 總則.....六〇一

第二章 土地ノ異動.....六〇一

第三章 災害地免租.....六〇一

第四章 地租徵收.....六〇一

第六章 雜則.....六〇一

○地租法施行細則(同 大藏省令第六號).....六〇七

○土地賃借價格調查法(大正十五年法律第四五號).....六〇七

○所得稅法「拔萃」(同 九年法律第一一號).....六〇七

○所得稅法施行規則「拔萃」(同 勅令第二二六號).....六〇七

○砂防法第十一條ノ地租其ノ他公課減免ニ關スル件(明治三十二年勅令第三七四號).....六〇七

○登錄稅法「拔萃」(同 二十九年法律第二七號).....六〇七

○登錄稅法施行規則(同 三十二年勅令第二〇五號).....六〇七

○御料地拂下地ノ地租及登錄稅免除ニ關スル件(昭和二年法律第一八號).....六〇七

○營業收益稅法(大正十五年法律第一一號).....六〇七

○營業收益稅法施行規則(同 勅令第三〇三號).....六二七

○地方稅制限ニ關スル件(明治四十一年法律第三七號).....六三〇

(二) 關稅

○關稅定率法「拔萃」(明治四十三年法律第五四號).....六三二

○關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件「拔萃」(大正十年勅令第二三八號).....六三四

○釐澤品等ノ輸入稅ニ關スル件「拔萃」(同 十三年法律第二四號).....六三五

○輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件「拔萃」(昭和七年法律第四號).....六三六

○昭和七年法律第四號ヲ朝鮮ニ施行スルノ件(同 勅令第八五號).....六三六

○昭和七年法律第四號ヲ臺灣及樺太ニ施行スルノ件(同 勅令第八六號).....六三六

○關稅法施行規則第七十七條ニ依ル稅關所屬ノ土地建設物ノ使用料(拔萃).....六三六

第九章 會計

○會計法(大正十年法律第四二號).....六三七

第一章 總則.....六三七

第二章 豫算.....六三七

第三章 收入.....六三七

第四章 支出.....六三七

第五章 決算.....六三六

第六章 歲計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入.....六三六

第七章 契約.....六三六

第八章 時效.....六三六

第九章 出納官吏.....六三九

第十章 雜則.....六四〇

○會計規則(同 十一年勅令第一號).....六四〇

第一章 總則.....六四〇

第一節 會計年度所屬區分.....六四〇

第二節 國庫金ノ出納.....六四一

第二章 豫算.....六四一

第一節 總豫算.....六四一

第二節 歲入豫算明細書.....六四一

第三節 豫定經費要求書.....六四一

第四節 支拂豫算.....六四一

第五節 豫備金支出.....六四一

第六節 翌年度ニ亙ル契約.....六四一

第三章 收入.....六四二

第一節 徵收.....六四二

第二節 收納.....六四二

第三節 報告.....六四二

第四章 支出.....六四三

第一節 總則.....六四三

第二節 小切手ノ振出.....六四三

第三節 支拂.....六四三

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費.....六四三

第五節 繰替拂.....六四三

第六節 年度開始前支出.....六四三

第七節 報告.....六四三

第五章 決算.....六四四

第一節 總決算.....六四四

第二節 歲入決算明細書、各省決算報告書及收.....六四四

入支出計算書	六四六
第三節 國債計算書	六四六
第六章 定額繰越及定額戻入	六四七
第一節 定額繰越	六四七
第二節 定額戻入	六四七
第七章 契約	六四七
第一節 總則	六四七
第二節 一般競争契約	六四八
第三節 指名競争契約	六四九
第四節 隨意契約	六五〇
第八章 保管金及有價證券	六五一
○内國旅費規則(明治四十三年勅令第二七四號)	六五一
○内國旅費規則第二條ノ鐵道賃船賃(大正九年大藏省令第一六號)	六五四
○内國旅費規則別表ニ定ムル甲地方指定(同 十三年大藏省令第二八號)	六五五
○内國旅費規則第九條ノ二ノ規定ニ依ル費用支給規程(同 十四年農林省令第四號)	六五五
第十章 規格	
○木材規格(大正十五年商工省告示第三〇號)	六五六
○木材規格ニ關スル件(昭和八年山第三二八一號)	六六九
○木炭規格(同 四年商工省告示第一三號)	六六九
○木炭規格統一ニ關スル件(同 山第五五四號)	六七〇
第十一章 重要物産検査	
○道府縣手数料令(明治四十三年勅令第二一九號)	六七〇
○重要物産ノ検査手数料ニ關スル件(同 農商務省令)	六七〇

第六號)	六六一
○重要物産ノ検査ニ關スル取扱方ノ件(同 農第八一八六號)	六七三
第十二章 狩獵及害蟲驅除豫防	
(一) 狩 獵	
○狩獵法(大正七年法律第三二號)	六七四
○狩獵法施行規則(同 八年農商務省令第二八號)	六七六
(二) 害蟲驅除豫防法	
○害蟲驅除豫防法(明治二十九年法律第一七號)	六八二
○害蟲驅除豫防法取扱手續(同 農商務省令第六號)	六八二
○病蟲害豫防獎勵規則(同 四十四年農商務省令第一三號)	六八三
○病蟲害豫防獎勵規則取扱ニ關スル件(同 農第一二二六號)	六八四
○害蟲發生ノ際報告様式各地方長官へ通牒ノ件(同 三十六年農發第一二五號)	六八六
第十三章 雜 則	
○土地收用法「拔萃」(明治三十三年法律第二九號)	六八七
第一章 總 則	六八七
第二章 事業ノ準備	六八八
第三章 事業ノ認定	六八八
第四章 收用ノ手續	六八八
第五章 收用審査會	六八九
第六章 損失ノ補償	六九〇
第七章 收用ノ効果	六九〇
第八章 費用ノ負擔	六九一

第九章 監督、強制及罰則	六九一
第十章 訴願及訴訟	六九一
○索道事業規則「拔萃」(昭和二年逓信省令第三六號)	六九二
○開墾助成法(大正八年法律第四二號)	六九三
○重要産業ノ統制ニ關スル法律(昭和六年法律第四〇號)	六九四
○労働者災害扶助法(同 法律第五四號)	六九五
○労働者災害扶助責任保險法(同 法律第五五號)	六九七
○労働者災害扶助責任保險特別會計法(同 法律第五六號)	六九八
○労働者災害扶助責任保險審査會規程(同 勅令第二〇九五號)	六九八
○労働者災害扶助法施行ニ關スル件(同 山第五一九號)	六九九
○供給労働者扶助令(同 七年勅令第二號)	七〇〇
○後作業ニ労働者災害扶助法適用ノ有無ニ關スル件(同 勞第二七號)	七〇〇
○貯木場ニ於ケル木材取扱事業ニ労働者災害扶助法適用ノ件(同 二月十日)	七〇一
○入營者職業保障法(同 六年法律第五七號)	七〇一
○入營者職業保障法施行期日ノ件(同 勅令第二六〇號)	七〇二

第五編 諸法令

第一章 牧野

● 牧野法

昭和六年三月三十一日
法律第三十七號

第一條 本法ニ於テ牧野ト稱スルハ牛馬ノ生産飼育ノ爲放牧
 又ハ採草ヲ爲スル目的トスル土地ヲ謂フ
第二條 地方公共團體ハ其ノ所有スル牧野ニ付命令ノ定ムル
 所ニ依リ管理方法ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ
 受ケタル管理方法ヲ廢止又ハ變更セントスルトキハ同ジ
 行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ管理方法ノ變更ヲ
 命ズルコトヲ得
第三條 牧野ノ荒廢防止、害蟲ノ驅除豫防其ノ他牧野ノ保護
 ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外牧野ニ於テ放牧
 又ハ採草ヲ爲ス者ハ協同シテ牧野ノ維持又ハ改良ヲ圖ル目
 的ヲ以テ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得
第五條 牧野組合ハ法人トス
第六條 牧野組合ハ其ノ名稱中ニ牧野組合ナル文字ヲ用フベ
 シ
第七條 牧野組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ牧野組合タルコトヲ
 示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ
第八條 牧野組合ハ一定ノ牧野ヲ以テ其ノ地區トス
 牧野組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコト
 ヲ得

第五編 諸法令

一 牧野ノ維持又ハ改良ニ必要ナル共同設備ノ設置

二 草生ノ改良

三 荊棘、土石其ノ他障害物ノ除去

四 害蟲ノ驅除豫防

五 牧野ニ關スル利用統制

六 前各號ニ掲グルモノノ外牧野ノ維持又ハ改良ヲ圖ルニ
必要ナル施設

第九條 政府ハ牧野組合ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ
交付スルコトヲ得牧野ノ改良ニ關スル施設ヲ爲ス地方公共
團體、畜産組合、畜産組合聯合會又ハ主務大臣ノ指定スル
團體ニ付亦同ジ

第十條 牧野組合ヲ設立セントスルトキハ組合ノ地區タルベ
キ牧野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者三分ノ二以上ノ同意
ヲ得テ定款ヲ作成シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 牧野組合成立シタルトキハ其ノ地區タル牧野ニ付
組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ特別
ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラ
ズ

第十二條 牧野組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 名稱

二 地名

三 事務所ノ所在地

四 事務所ノ所在地

五 組合員タル資格ニ關スル規定

六 事業及其ノ執行ニ關スル規定

七 牧野ノ利用統制ノ定ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル
規定

八 役員ニ關スル規定

九 經費ノ分擔方法
 十 組合ガ公告ヲ爲ス方法
 十一 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
 前項ニ規定スルモノノ外定款ニ定ムルコトヲ要スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 牧野組合ハ第十條ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立ノ登記ヲ爲スベシ
 登記スベキ事項ハ左ノ如シ
 一 前條第一項第一號乃至第三號、第十號及第十一號ニ掲グル事項
 二 事務所
 三 設立認可ノ年月日
 四 理事ノ氏名、住所
第十四條 牧野組合ノ理事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得
 組合設立當時ノ理事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ
 理事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
第十六條 第一項及第二項ノ規定ハ理事ノ選任又ハ解任ニ之ヲ準用ス
第十五條 牧野組合ハ牧野ノ改良事業ヲ行ハントスルトキハ其ノ改良計畫ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケベシ認可ヲ受ケタル改良計畫ヲ廢止又ハ變更セントスルトキ亦同ジ
第十六條 牧野組合ノ定款ノ變更ハ總會ニ於テ總組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ決ス定款ノ變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

定款ノ變更ガ地區ノ増減ニ關スルトキハ第一項ノ規定ニ依ル決議ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラレベキ地區タル野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス
第十七條 牧野組合ノ組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス但シ組合員ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ
第十八條 牧野組合ノ總會ノ決議ニ依リ解散ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ
第十九條 行政官廳ハ牧野組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類帳簿、業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款又ハ經費ノ分擔方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第二十條 牧野組合ノ總會ノ召集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 前項ノ場合ニハ商法第六十三條第二項第三項及第六十三條ノ四ノ規定ヲ準用ス
第二十一條 牧野組合ノ行爲又ハ總會ノ決議ガ法令又ハ定款ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ行政官廳ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ理事、監事若ハ清算人ヲ解任シ、組合ノ業務ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得
第二十二條 民法第四十四條、第四十五條、第四十六條第二項、第四十七條、第四十八條、第五十條乃至第六十四條、第六十五條第一項第三項、第六十六條、第六十八條乃至第七十條、第七十二條乃至第七十五條、第七十七條乃至第八十一條及第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項、

第九百十七條、第九十九條乃至第二百二十二條、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百十二條乃至第五百七條、第六百七十五條、第七百七十六條及第九百九十五條ノ二ノ規定ハ牧野組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條、第四十六條第二項第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス
第二十三條 牧野組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ
第二十四條 牧野組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得
第二十五條 第十五條ノ規定ハ牧野ヲ設置スル畜産組合、畜産組合聯合會及主務大臣ノ指定スル團體ニ之ヲ準用ス
第二十六條 左ノ場合ニ於テハ牧野組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
 一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ
 二 本法ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ
 五 本法ニ依リ總會ノ召集ヲ怠リタルトキ
 六 組合ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタルトキ
 七 本法ニ依リ事務所ニ備ヘ置クベキ書類ヲ備ヘズ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其閲覧ヲ拒ミタルトキ
 八 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ

九 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
 十 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨償ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
第二十七條 牧野ヲ設置スル畜産組合若ハ畜産組合聯合會ノ役員又ハ牧野ヲ設置スル主務大臣ノ指定スル團體ノ代表者第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケザルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

● 牧野法施行期日ノ件

昭和六年十月三十一日
勅令第二百六十四號

● 牧野法施行令

昭和六年十月三十一日
勅令第二百六十五號

第一條 農林大臣又ハ地方長官ハ牧野ノ荒廢ヲ防止シ又ハ荒廢シタル牧野ヲ回復スル爲必要アリト認ムルトキハ區域及期間ヲ指定シ命令ノ定ムル所ニ依リ放牧又ハ採草ヲ禁止シ

又ハ制限スルコトヲ得
第二條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ牧野組合、牧野ヲ設置スル者又ハ牧野ニ於テ放牧若ハ採草ヲ爲ス者ニ對シ害蟲ノ驅除豫防ヲ命ズルコトヲ得
 附則
 本令ハ牧野法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 牧野法施行規則

昭和六年十月三十一日 農林省令第二十六號

第一條 牧野法第二條ノ規定ニ依ル牧野ノ管理方法ニハ左ニ掲グル事項ヲ定ムベシ
 一 牧野ノ位置、區域及地積
 二 牧野ノ種類別區域及地積
 三 混牧林地アルトキハ其ノ種類別區域及地積
 四 牧野ニ放牧又ハ採草ヲ爲ス者ノ範圍
第二條 森林法第九條ノ規定ニ依リ施業案若ハ施業要領ヲ定メタル土地又ハ同法施行規則第二條ノ規定ニ依リ森林トシテ管理スヘキモノト區分シタル土地ニ付テハ牧野法第二條ノ規定ニ依リ牧野ノ管理方法ヲ定ムルコトヲ要セズ
第三條 牧野法第二條ノ規定ニ依ル牧野ノ管理方法ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面、牧野ノ實況圖及第一條第一號乃至第三號ニ掲グル事項ヲ明ニスベキ圖面ヲ添附スベシ
 一 牧野ニ關スル沿革ノ概要
 二 牧野ノ現況及利用狀況
第四條 牧野ノ荒廢ヲ防止シ又ハ廢荒シタル牧野ヲ回復スル

爲必要アリト認ムルトキハ農林大臣ハ國有地タル牧野ニ付地方長官ハ其ノ他ノ牧野ニ付牧野保護區域ヲ設クルコトヲ得
第五條 牧野保護區域ニ於テハ農林大臣又ハ地方長官ノ指定スル禁止又ハ制限ニ反シ放牧又ハ採草ヲ爲スコトヲ得ズ
第六條 農林大臣又ハ地方長官牧野保護區域ヲ設ケタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ告示スベシ
 一 區域
 二 存續期間
 三 指定シタル禁止又ハ制限
 四 牧野保護區域ヲ廢止シ又ハ告示シタル事項ヲ變更シタルトキハ之ヲ告示スベシ

第七條 地方長官牧野法施行令第二條ノ規定ニ依リ害蟲ノ驅除豫防ヲ命ゼントスルトキハ豫メ驅除豫防スベキ害蟲ノ種類及驅除豫防法ヲ定メ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
第八條 牧野組合ノ設立認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面、牧野ノ實況圖及左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ主タル事務所設置豫定地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スベシ
 一 牧野ノ位置、區域及地積
 二 牧野ノ種類別區域及地積
 三 混牧林地アルトキハ其ノ種類別區域及地積
 四 牧野ノ所有者別地積
 五 牧野ノ現況及利用狀況
第九條 牧野組合ノ設立ノ認可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク總會ヲ召集シ初年度ノ經費ノ收支豫算ヲ議決シ組合ノ負擔ニ歸スベキ設立費及其ノ償却方法ノ承認ヲ經ベシ
第十條 左ニ掲グル事項ハ牧野組合ノ總會ノ議決ヲ經ベシ

第一條 經費ノ收支豫算
第二條 牧野ノ改良計畫
第三條 左ニ掲グル事項ハ牧野組合ノ總會ノ承認ヲ經ベシ
 一 經費ノ收支決算
 二 事業報告
 三 財產目錄
第四條 牧野組合ノ總會ノ議長ハ議事録ヲ作り左ニ掲グル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名又ハ記名捺印スベシ
 一 開會ノ日時及場所
 二 組合員ノ總數
 三 出席者ノ員數
 四 議事ノ要領
 五 議決シタル事項及贊否ノ數
第五條 牧野組合ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第六條 牧野組合ハ定款、總會ノ議事録、事業報告書、經費收支豫算書及經費ノ收支決算書ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クベシ尙牧野ノ改良計畫ヲ定メタル牧野組合ニ在リテハ改良計畫ヲ記載シタル書面及改良計畫圖ヲ備ヘ置クベシ
第七條 牧野組合ノ組合員名簿ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
 一 組合員ノ氏名及住所
 二 組合員ガ二箇以上ノ議決權ヲ有スルトキハ其ノ議決權ノ數
第八條 牧野組合ノ理事選任ノ認可申請書ニハ總會ノ議事録ノ謄本及履歷書ヲ添附スベシ組合員ニ非ザル者ヨリ理事

ヲ選任シタトキハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スベシ
第七條 牧野組合ノ理事選任ノ認可申請書ニハ總會ノ議事録ノ謄本及解任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
第八條 牧野組合ノ定款變更ノ認可申請書ニハ總會ノ議事録ノ謄本及變更ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
第九條 定款ノ變更ガ地區ノ増減ニ關スルトキハ前項ノ書類ノ外法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面及左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
 一 地區ノ增加ノ場合ニ在リテハ新ニ編入セラル地區タル牧野ノ實況圖及第八條各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面
 二 地區ノ減少ノ場合ニ在リテハ削除セラルベキ地區タル牧野ノ實況圖及第八條第一號乃至第四號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面
第十條 牧野法第十五條ノ規定ニ依リ改良計畫ノ認可ヲ受クベキ牧野ノ改良事業左ノ如シ
 一 隔離物、水飲場、牧舎、灌漑排水設備又ハ牧道ノ設置
 二 牧野樹林ノ造成
 三 前二號ニ掲グルモノノ外農林大臣ノ指定スルモノ
第十一條 農林大臣前項第三號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス
第十二條 牧野法第十五條ノ規定ニ依ル改良計畫ノ認可申請書ニハ改良計畫ヲ記載シタル書面、改良計畫圖、現況説明書、牧野ノ實況圖及經費概算書ヲ添附スベシ尙牧野ノ改良事業ノ施行ニ付牧野ノ所有者其ノ他ノ者ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ
第十三條 牧野法第十五條ノ規定ニ依ル改良計畫ノ廢止又

ハ變更ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ尙變更ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ準ズル書類ヲ添付スベシ

第二十二條 牧野組合ノ總會ノ決議ニ依ル解散ノ認可申請書ニハ總會ノ議事録ノ謄本及解散ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

第二十三條 牧野組合ハ經費ノ收支豫算、經費ノ收支決算、事業報告及財産目録ニ付總會ノ議決又ハ承認アリタル後遲滞ナク地方長官ニ之ヲ報告スベシ

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ牧野組合ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スベシ

一 定款ノ施行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 監事ヲ選任シ又ハ解任シタルトキ

第二十五條 農林大臣牧野法第二十五條ノ規定ニ依リ團體ヲ指定シタルトキハ之ヲ告示ス

第二十六條 第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ牧野法第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル同法第十五條ノ規定ニ依ル認可ニ之ヲ準用ス

第二十七條 左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ報告スベシ

一 牧野法第二條第二項ノ規定ニ依リ牧野ノ管理方法ノ變更ヲ命ジタルトキ

二 牧野組合ノ設立又ハ解散ヲ認可シタルトキ

三 牧野法第十九條ノ規定ニ依リ命令若ハ處分ヲ爲シ又ハ同法第二十一條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ

四 牧野法第二十二條ノ規定ニ依リ準用スル民法第七十七條第一項又ハ第八十三條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ

第二十八條 牧野法第二條、第十條、第十一條、第十五條、第十六條第二項及第十八條並ニ同法第十四條第四項ノ規定ニ依リ準用スル同法第十六條第二項ノ規定ニ於テ行政官廳ト稱スルハ地方長官トス

牧野法第二十二條ノ規定ニ依リ準用スル民法第五十九條、第七十二條、第七十七條及第八十三條ニ於テ主務官廳ト稱スルハ地方長官トス

牧野法第十九條及第二十一條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ農林大臣及地方長官トス

第二十九條 本則中牧野組合ニ關スル規定ニ於テ地方長官ト稱スルハ第八條ノ場合ヲ除クノ外牧野組合ノ主たる事務所所在地ヲ管轄スル地方長官トス

第三十條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

本令ハ牧野法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 牧野改良獎勵規則

昭和六年十二月一日 農林省令第二十八號

〔沿革〕 昭和七年九月農林省令第二一號改正

第一條 牧野法第九條ニ規定スル獎勵金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ牧野組合、地方公共團體、畜産組合、畜産組合聯合會又ハ牧野法第九條ノ規定ニ依リ農林大臣ノ指定スル團體ノ左ニ掲グル費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ別ニ國庫ヨリ獎勵金又ハ補助金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 馬ノ牧野改良獎勵ニ關スル道府縣ノ專任職員設置ニ要スル費用

二 馬ノ牧野改良ニ關スル牧野組合ノ設立費

三 馬ノ牧野改良ニ關スル講習會、講習會、表彰其ノ他馬ノ牧野改良ニ關スル知識ノ普及向上ノ爲適當ト認ムル施設ニ要スル費用

四 馬ノ牧野改良ニ關スル模範地又ハ模範設備ノ設置ニ要スル費用

五 馬ノ牧場ニ於ケル荆棘、土石其ノ他ノ障害物ノ除去、隔障物、水飲場、牧舎、灌漑排水設備、牧道其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル工作物ノ新設、改設若ハ移築、又ハ牧野樹林ノ新植若ハ補植ニ要スル費用

六 前號ニ掲グル費用ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

七 馬ノ牧野ノ管理方法ノ設定又ハ改定ニ要スル地方公共團體ノ費用

前項第二號ノ設立費ハ之ヲ牧野組合ガ其ノ地區タル馬ノ牧野ニ付テ最初ノ改良事業ノ計畫ニ關スル調査設計ニ要スル費用ニ限ル

第三條 獎勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス

一 前條第一項第一號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ範圍内

二 前條第一項第二號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ同條第二項ノ調査設計ヲ爲シタル牧野一ヘクタールニ付金五十錢以内

三 前條第一項第三號及第四號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ三分ノ二以内

四 前條第一項第五號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ其ノ費用ノ五分ノ二以内但シ荆棘、土石其ノ他ノ障害物ノ除

去ニ要スル費用ニ對シテハ其ノ費用ノ二分ノ一以内トス

第五條 前條第一項第六號ノ補助金ニ對スルモノニ在リテハ同條同項第五號ノ費用ノ五分ノ二以内ニシテ道府縣ノ補助金ノ範圍内但シ荆棘、土石其ノ他ノ障害物ノ除去ニ要スル費用ニ對シテ交付スルモノニ對シテハ其ノ費用ノ二分ノ一以内ニシテ道府縣ノ補助金ノ範圍内トス

六 前條第一項第七號ノ費用ニ對スルモノニ在リテハ管理方法ヲ設定又ハ改定シタル牧野一ヘクタールニ付金三十錢以内

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添付シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

一 事業計畫書

二 經費豫算書

前項ノ書類ノ外第二條第一項第四號又ハ第五號ノ費用ニ對スル獎勵金ノ交付申請書ニハ設計要領書ヲ、同條同項第六號ノ費用ニ對スル獎勵金ノ交付申請書ニハ補助ニ關スル規程ヲ添付スベシ

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第五條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條第一項各號又ハ第二項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 第二條第一項第一號ノ費用ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度六月三十日迄ニ、同條同項第三號ノ費用ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ事業終了後遲滞ナク事業成績書及收支決算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第七條 第二條第一項第二號及第四號乃至第七號ノ費用ニ對

スル獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ請求セ
ントスルトキハ設備又ハ事業ノ完了後請求書ニ精算書ヲ添
附シ農林大臣ニ之ヲ提出スベシ

第八條 第二條第一項第四號又ハ第五號ノ費用ニ對スル獎勵
金ノ交付ヲ受ケテ設置シタル建物工物及牧野樹林ハ獎勵
金ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ五年間農林大臣ノ認可ヲ受クル
ニ非ザレハ之ヲ讓渡シ又ハ其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得ズ
第九條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ
經由スベシ

第十條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ
受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣
ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ
全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ

一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ
二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
四 支出額ガ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四條中二月末日迄トアルハ昭和六年度ニ限り十二月三十一
日迄トス

附 則 (昭和七年九月農林省令第二十一號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四條中二月末日迄トアルハ第二條第一項第七號ノ費用ニ對
スル獎勵金ノ交付申請書ニ付テハ昭和七年度ニ限り十月三十
一日迄トス

牧野法第九條ニ規定スル獎勵金ニシテ農業土木費ニ依リ交付
スルモノハ當分ノ内牧野改良獎勵規則ニ拘ラズ之ヲ交付スル

コトヲ得

● 牧野組合登記取扱手續

昭和六年十月二十四日
司法省令第三十一號

第一條 牧野組合ニ關スル事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ
於テ之ヲ取扱フ

第二條 牧野組合登記簿ハ附錄第一號様式ニ依リ地方裁判所
長ニ於テ之ヲ調製シ登記所ノ請求ニ因リ交付スベシ

第三條 登記簿ニハ豫メ丁數ヲ記入スベシ

第四條 受附帳ハ附錄第二號様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第五條 受附帳ハ毎年更新スベシ

第六條 登記所外ニ持出シタルトキハ登記官吏ハ速ニ其ノ旨ヲ司
法大臣ニ具申スベシ

第七條 裁判所又ハ豫審判事ヨリ申請書其ノ他ノ附屬書類提
出ノ命令又ハ送付ノ囑託アリタルトキハ登記官吏ハ其ノ關
係アル部分ニ限り之ヲ送付スベシ

第八條 登記簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタルトキハ登記官吏
ハ遅滞ナク其ノ事由、年月日、滅失シタル登記簿其ノ他登
記ノ回復ニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且回復登記期間ヲ
豫定シ地方裁判所長ニ申報スベシ但シ區裁判所出張所ノ申
報ハ管轄區裁判所ノ經由スベシ

第九條 登記簿又ハ申請書其ノ他ノ附屬書類滅失ノ虞アルト
キハ詳細其ノ狀況ヲ調査シ且適當ナル處理方法ヲ具シ前條

ノ例ニ準ジ申報及具申ヲ爲スベシ

第九條 登記所ニハ印鑑簿、受附帳、申請書類送込帳及謄本
抄本證明書交付帳其ノ他必要ナル帳簿ヲ備フベシ

第十條 申請書、囑託書、通知書、許可書、管轄轉屬ニ因リ
移送ヲ受ケタル登記簿謄本其ノ他附屬書類ハ受附番號ノ順
序ニ依リ申請書類送込帳ニ之ヲ編綴スベシ

第十一條 印鑑簿ハ附錄第三號様式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第十二條 印鑑簿調製ノ様式及貼付ノ方法等ハ地方裁判所長
之ヲ定ムベシ

第十三條 印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スベシ

受附帳及申請書類送込帳ハ十年間其ノ他ノ帳簿ハ三年間之
ヲ保存スベシ

第十四條 登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セ
ントスルトキハ目録ヲ作り地方裁判所長ニ申報スベシ但シ
區裁判所出張所ノ申報ハ管轄區裁判所ノ經由スベシ

第十五條 登記ノ申請人又ハ其ノ代理人登記所ニ出頭
シテ之ヲ爲スベシ

第十六條 代理人ニ依リテ申請又ハ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ
其ノ權限ヲ證明スル書類ヲ添付スベシ

第十七條 理事其ノ他法律ニ依リ登記ノ申請ヲ爲スベキ者ハ
就職後遅滞ナク其ノ印鑑ヲ登記所ニ提出スベシ改印ヲ爲シ
タルトキ亦同ジ

第十八條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其ノ他登記ニ關スル書類ヲ
作ルニハ字畫ヲ明瞭ニスベシ

年月日及番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用フベシ
文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ズ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シ
タルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧

ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍讀ミ得ベキ爲字
體ヲ存スベシ

第十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ
契印スベシ

第二十條 登記ノ申請書ニ添付シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請
求スル場合ニ於テハ申請人ハ其ノ原本ト共ニ原本ニ相違ナ
キ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添付スベシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其ノ謄本ニ原本還
付ノ旨ヲ記載シテ捺印スベシ

第二十一條 行政官廳ノ認可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スル
ニハ申請書ニ其ノ認可書ノ到達シタル年月日ヲ記載スベシ

第二十二條 登記簿若ハ申請書其ノ他ノ附屬書類ノ閱覽又ハ
登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出
スベシ

第二十三條 登記簿又ハ申請書其ノ他ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請
求スル場合ニ於テハ申請書ニ閱覽セントスル登記事項又ハ
書類ヲ記載シ申請人之署名捺印スベシ

第二十四條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ
於テハ申請書ニ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル登記及手數
料ノ金額ヲ記載シ申請人之署名捺印スベシ

抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲グル
事項ノ外其ノ請求スル部分ヲ記載スベシ

第二十五條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スル場合ニ
於ケル郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スベシ

第二十六條 登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキ

コトノ證明ヲ請求スル者ハ申請書二通ヲ提出スベシ
 前項ノ申請書ニハ證明ヲ請求スル事項ヲ記載シ申請人之ニ
 署名捺印スベシ
 登記官吏ハ申請書ノ一通ニ證明文ヲ附シ年月日ヲ記載シテ
 署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ申請人ニ交付スベ
 シ

第二十七條 登記ノ申請人ハ申請書ヲ提出シテ登記済證ノ交
 付ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ申請書ニハ登記ノ件名ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印
 スベシ
 登記官吏ハ附録第四號様式ニ依リ登記済證ヲ作製シ之ヲ申
 請人ニ交付スベシ

第二十八條 組合ガ其ノ事務所ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタ
 ル場合ニ於テ新所在地ノ登記所ニ移轉ノ登記ヲ申請スルト
 キハ申請書ニ舊所在地ニ於ケル登記簿ノ謄本ニシテ一用紙
 ノ全部ヲ謄寫シタルモノヲ添附スベシ
 前項ノ規定ハ新所在地ノ登記所ノ管轄内ニ他ノ事務所アル
 場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十九條 登記官吏ガ申請又ハ囑託ニ關スル書類ヲ受取り
 タルトキハ遲滞ナク總テ事項ヲ調査スベシ

第三十條 登記官吏ガ申請書ヲ受取りタルトキハ受附帳ニ登
 記ノ目的、申請人ノ氏名受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ
 申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スベシ
 前項ノ規定ハ登記官吏ガ第十條ニ掲グル書類ヲ受取りタル
 場合ニ之ヲ適用ス

第三十一條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ多
 數ナルトキハ申請書ニ揚ゲタル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ
 人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十二條 登記ヲ爲スニハ登記用紙中相當欄ニ登記事項及
 登記ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スベシ
 登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載スルコトナクシテ登記ヲ
 完了シタルトキハ其ノ空欄ニ朱線ヲ交又スベシ但シ後日登
 記スルコトアルベキ事項ノ爲設ケタル欄ニ付テハ此ノ限ニ
 在ラズ

登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載シタル場合ニ於テ同欄内
 ニ餘白アルトキハ其ノ餘白ニ朱線ヲ交又スベシ
 豫備欄又ハ變更欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ左側ニ縦線
 ヲ劃シテ餘白ト分界スベシ

第三十三條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記
 簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第三十四條 登記用紙中或欄ガ登記ヲ爲スベキ餘白ナキニ至
 リタルトキハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其ノ番號ノ第二ナ
 ルコト竝ニ前用紙ヲ編綴スル登記簿ノ冊數、丁數及其ノ繼
 續用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號ノ左側ニ第一
 ノ文字竝ニ新用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及之ニ繼
 續スル旨ヲ記載スベシ
 前用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其ノ欄ニ登記スヘキ事項
 ニ付テハ仍之ニ登記ヲ爲スヘシ
 前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準
 用ス

第三十五條 組合ノ設立ノ場合ヲ除ク外牧野法第十三條第二
 項ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙中豫備欄ニ其
 ノ事由ヲ記載スベシ
 破産法第二百二十二條及和議法第八條ノ規定ニ依ル登記ハ豫
 備欄ニ之ヲ爲スベシ

第三十六條 更正又ハ抹消ノ登記ノ申請アリタルトキハ其ノ

登記用紙中變更欄ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第十七條 行政區劃若ハ字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルト
 キハ登記官吏ハ登記用紙中變更欄ニ新舊ノ名稱及變更アリ
 タル旨ヲ記載シ之ニ捺印シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第三十八條 牧野法第二十二條ニ於テ準用スル非訟事件手續
 法第五十一條ノ第一項ノ規定ニ依リ通知書ニハ登記ヲ
 爲シタル事件ノ表示及其ノ登記ガ牧野法ノ規定ニ依リ許ス
 ベカラザルモノナルコトヲ記載スベシ

第三十九條 牧野法第二十二條ニ於テ準用スル非訟事件手續
 法第五十一條ノ四ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲ス場合ニ於
 テハ其ノ事由ヲ記載スベシ

第四十條 牧野法第二十二條ニ於テ準用スル非訟事件手續法
 第五十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲ス場
 合ニ於テハ許可アリタル旨及其ノ年月日ヲ記載スベシ

第四十一條 變更、更正又ハ抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ變
 更、更正又ハ抹消スベキ登記事項ヲ朱抹スベシ但シ抹消ノ
 登記ヲ爲シタルニ因リ登記用紙ヲ閉鎖スベキ場合ハ此ノ限
 ニ在ラズ

抹消ノ登記ヲ更正スル場合ニ於テハ抹消セラレタル登記ヲ
 復活スベシ

第四十二條 決議無効ノ登記ノ囑託アリタルトキハ登記用紙
 中變更欄ニ決議無効ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及其ノ
 判決ノ確定シタル年月日ヲ記載シ抹消ニ係ル登記アルト
 キハ其ノ登記ヲ復活スベシ
 前項ノ場合ニ於テハ決議ニ因リテ爲シタル登記ヲ朱抹スベ
 シ

第四十三條 組合ガ其ノ事務所ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタ
 ル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ登記用紙ヲ

閉鎖スベシ
 前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ仍他ノ事務所アル場合ニハ
 之ヲ適用セズ

第四十四條 事務所ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中豫備欄ニ之ヲ
 爲シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スベシ
 前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ仍他ノ事務所アル場合ニハ
 之ヲ適用セズ

第四十五條 破産手續終結ノ登記ヲ爲シタルトキハ其ノ登記
 用紙ヲ閉鎖スベシ但シ強制和議認可決定ニ因リ破産手續終
 結シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 甲登記所ノ管轄地ノ一部ガ乙登記所ノ管轄ニ轉
 屬シタルトキハ甲登記所ハ其ノ部分ニ屬スル登記簿ノ謄本
 及申請書其ノ他ノ附屬書類又ハ其ノ謄本ヲ乙登記所ニ移送
 スベシ
 前項ノ場合ニ於テハ甲登記所ノ登記用紙中豫備欄ニ乙登記
 所ニ管轄變更シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印
 シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スベシ

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本及申請書其ノ他
 ノ附屬書類又ハ其ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ乙登記所
 ハ登記簿ノ謄本ニ依リ抹消ニ係ラザル部分ノミノ登記ヲ移
 スベシ
 登記簿ニ登記ヲ移スニハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記
 簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左
 側ニ前登記管轄ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載シ豫備欄ニ
 管轄變更ニ因リ登記ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登
 記官吏捺印スベシ

第四十八條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ登記番號ヲ朱抹スベシ

第四十九條 登記ノ公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ

之ヲ爲スベシ
第五十條 登記簿又ハ申請書其ノ他ノ附屬書類ノ閱覽ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムベシ
第五十一條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其ノ末ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ毎葉ノ綴目ニ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スベシ
 此ノ謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り其ノ認證文ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス
 前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但シ抄本ノ用紙ハ半紙算紙ヲ用フベシ
第五十二條 登記簿ノ謄本ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ルベシ但シ請求ニ因リ抹消ニ係ラザル登記ノミヲ謄寫シテ之ヲ作ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ認證文ニ其ノ旨ヲ附記スベシ
 登記簿ノ謄本ニ餘白アルトキハ其ノ部分ニ朱線ヲ交叉シ又ハ餘白ナルコトヲ表示スベシ
第五十三條 登記官吏ガ其ノ職務上過料ニ處セラルベキ者アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク其ノ事件ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スベシ

本令ハ牧野法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 附 則
 錄 (省略)

第二章 國立公園及史蹟名勝
 天然紀念物
 一 國立公園
 國立公園法
 昭和六年三月三十一日
 法律第三十六號

第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ指定ス
第二條 本法ニ於テ國立公園計畫ト稱スルハ國立公園ノ保護又ハ利用ニ關スル統制及施設ノ計畫ヲ謂ヒ國立公園事業ト稱スルハ國立公園計畫ニ基キ執行スベキ事業ニシテ道路、廣場、苑地、運動場、野營場、宿舍其ノ他命令ヲ以テ指定スル施設ニ關スルモノヲ謂フ
第三條 國立公園計畫及國立公園事業ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣之ヲ決定ス
第四條 國立公園事業ハ行政官廳之ヲ執行ス
 主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲシテ國立公園事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
第五條 國立公園事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

行政官廳國立公園事業ヲ執行スル場合ニ於テ主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ得
第六條 國立公園事業ノ執行ニ依リ生ジタル施設ハ其ノ事業ヲ執行シタル者之ヲ管理ス
 主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ公共團體ヲ指定シテ行政官廳ノ執行スル國立公園事業ニ依リ生ジタル施設ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ管理者ヲ定メタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第七條 第一項及第二項ノ規定ニ依ル管理ノ費用ハ行政官廳之ヲ管理スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス
第八條 行政官廳又ハ公共團體ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付占用又ハ使用ヲ許可スルコトヲ得但シ前條第三項ノ規定ニ適用アル場合ヲ除ク
 前項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ徵收金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス
第九條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得
 特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲サントスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 一 工作物ノ新築、改築又ハ増築

三 水面ノ埋立又ハ于拓
 四 鐵物ノ試掘若ハ探掘、砂鐵ノ採取又ハ土石ノ探掘
 五 木竹ノ伐採
 六 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
第九條 特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得
第十條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行為ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ一定ノ行為ヲ禁止セラレ又ハ措置ヲ命ゼラレタルガ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ通常生ズベキ損害ニ限リ國庫之ヲ補償ス
 勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ハ第一項ノ規定ニ依リ一定ノ行為ヲ著シク制限セラレタル爲損害ヲ被リタル私人ニ對シ其ノ損害ヲ補償スルコトヲ得
第十一條 前二項ノ規定ニ依ル補償金額ハ主務大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ
第十二條 主務大臣ハ第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ付シタル條件又ハ前條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得
第十三條 長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得但シ行政官廳ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第一項ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ同項但書ノ場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲シタル者之ヲ補償スベシ
前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議整ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル地方長官之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ
第一項但書ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ國庫之ヲ補償ス

第九條 第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十二條 國立公園委員會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ
第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第十五條 第八條第二項ノ規定同條同項ノ許可ニ付シタル條件又ハ第九條第一項ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第十六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●國立公園法施行期日ノ件
昭和六年九月十八日
勅令第二百四十一號

●國立公園法施行令
昭和六年九月十八日
勅令第二百四十二號

國立公園法ハ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ具シ内務大臣ニ申請スベシ
一 起業目論見書
二 一般平面圖
三 施設ノ創設ニ關スル經費概算書
四 施設ノ經營ニ關スル收支概算書
五 其ノ他内務大臣ニ於テ必要ト認ムル書類又ハ圖面
第二條 内務大臣ハ國立公園事業ノ特許ニ關シ圖面計畫上其ノ他公益上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得
第三條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定スル期間内ニ施設ノ供用ヲ開始スベシ
内務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得
第四條 内務大臣ハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ニ對シ期間ヲ指定シ工事施行ノ認可ヲ申請セシムルコトヲ得
前項ノ工事施行ノ認可ヲ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スベシ

一 工事設計書
二 工事設計圖
三 工事豫算書
四 特許ヲ受ケタル者會社ノ發企人ナルトキハ會社設立登記ノ謄本
第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ
前條第二項ノ規定ハ第一項及前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第五條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者第一條又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル書類又ハ圖面ニ記載セル事項ヲ變更セシトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第六條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ其ノ特許ヲ受ケタル者法人ナル場合ニ於テ總會ノ決議又ハ總社員ノ同意ニ因リ解散ニ付亦同ジ
第七條 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ讓渡ニ付テハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ
國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ會社合併ニ因リ承繼ニ付テハ合併前内務大臣ノ許可ヲ受クベシ
國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ヲ承繼ス
第八條 内務大臣ハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ニ對シ事業ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第九條 左ノ場合ニ於テハ國立公園事業ノ特許ハ當該範圍ニ付其ノ効力ヲ失フ
一 特許ヲ受ケタル者會社ノ發企人ナルトキハ施設ノ供用

開始期間内(工事施行ノ認可ヲ申請セシムル場合ニ在リテハ其ノ認可申請期間内)ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ
二 工事施行ノ認可申請期間内ニ其ノ認可ヲ申請セザルトキ
三 工事施行ノ認可申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ
四 事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
五 事業ヲ營ム法人解散シタルトキ
第十條 國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分又ハ特許ノ許可若ハ認可ニ付シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得
第十一條 前二條ノ規定ニ因リ國立公園事業ノ特許ノ効力消滅シタル場合ニ於テハ内務大臣ハ特許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀回復其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
第十二條 内務大臣ハ國立公園事業ノ執行ヲ命ゼラレタル公共團體ニ對シ工事施行ノ認可ヲ申請セシムルコトヲ得
第十四條 第一項ノ認可申請書ニ添附シタル書類又ハ圖面ニ記載セル事項ヲ變更セントスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ
第十三條 行政官廳國立公園事業ヲ執行セントスルトキハ内務大臣ニ協議ヲ爲スベシ
第十四條 左ニ掲グル國立公園區域内ノ國有地ハ之ヲ内務大臣ノ管理ニ移スベシ
一 國有林野中國立公園ノ施設ノ敷地及其ノ附屬地ヲ包含スル集團施設地區並ニ國立公園事業上必要ナル自動車道路ノ敷地
二 不要存置國有林野ニ屬スル土地ニシテ國立公園計畫上

重要ナルモノ但シ部分林、保管林、委託林、豫約開墾地及長期貸付地ヲ除ク

三 前二號ニ掲グルモノノ外雜種財產タル土地但シ所管大臣ニ於テ管理スルヲ要スル特別ノ事由アルモノヲ除ク

四 營林財產及雜種財產ヲ除クノ外國立公園計畫上重要ナル土地ニシテ內務大臣ノ管理ニ屬セシムルヲ適當トスルモノ

前項ノ土地ハ內務大臣所管大臣ト協議シテ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ國有財產法施行令第三條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十五條 行政官廳ニ非ザル者ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付テハ其ノ管理者管理方法ヲ定メ遲滞ナク內務大臣ニ届出ツベシ其ノ管理方法ヲ變更シタルトキ亦同シ

內務大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ管理方法ヲ變更ラ命ズルコトヲ得

第十六條 國立公園法第八條又ハ第九條ノ規定ニ基キ內務大臣ノ許可ヲ受クベキ行為ヲ行政官廳ニ於テ爲サントスルトキハ內務大臣ニ協議ヲ爲スベシ

國立公園法第九條ノ規定ニ基キ內務大臣ニ届出ヲ爲スベキ行為ヲ行政官廳ニ於テ爲シタルトキハ內務大臣ニ通知スベシ

附 則

本令ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國立公園法施行規則

昭和六年九月十九日
內務省令第二十五號

〔沿革〕 昭和八年九月 內務省令第二十七號改正

第二條 內務大臣國立公園ノ指定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス其ノ區域ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二條 左ノ施設ハ國立公園法第二條ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

一 自動車、車庫、自動車道其ノ他自動車ニ關スル運輸施設、航空機、格納庫、飛行場其ノ他航空機ニ關スル運輸施設、船舶、埠頭、棧橋其ノ他船舶ニ關スル運輸施設及橋梁

二 水道、下水道、汚物處分施設、公衆浴場、水泳場及釣魚場

三 博物館、植物園、動物園及水族館

四 造林施設及養魚施設

五 砂防施設及防火施設

第三條 內務大臣國立公園計畫又ハ國立公園事業ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ要領ヲ告示ス其ノ計畫又ハ事業ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條 國立公園事業ノ特許申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ

一 會社發企人ニ在リテハ定款

二 會社ニ在リテハ定款及會社登記ノ謄本並ニ國立公園事業ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ總會ノ同意書ノ謄本

三 會社以外ノ法人ニ在リテハ定款、寄附行為又ハ規約及法人登記ノ謄本並ニ總會ノ決議錄ノ謄本

四 組合ニ在リテハ其ノ契約書ノ謄本及國立公園事業ニ關スル總會ノ同意書ノ謄本

第五條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 起業ノ種類

二 起業ノ目的

三 起業資金ノ總額及其ノ出資方法

四 施設ノ位置及規模ノ概要

五 工事ヲ施行スル場合ニ在リテハ工事ノ概要及工事施行期間

第六條 一般平面圖ハ起業ノ種類ニ從ヒ縮尺五萬分一乃至千分一ノ平面圖トシ施設ノ位置及其ノ附近地ノ現況ヲ記載スベシ

第七條 施設ノ創設ニ關スル經費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、建物費、設備費、總係費、豫備費等ノ各項ニ分チ數量、單價及金額ヲ記載スベシ

第八條 施設ノ經營ニ關スル收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、內譯並ニ其ノ計算ノ基ヲ示シ且起業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スベシ

第九條 工事設計書ニハ工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、方法其ノ他工事ノ實施ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スベシ

第十條 工事設計圖ハ工事ノ種類ニ從ヒ平面圖、側面圖、斷面圖、構造圖又ハ意匠色圖ニ分チ縮尺二千五百分一以上トス

平面圖ハ一般平面圖ヲ補足スルモノタルベク平面圖、側面圖及斷面圖ニハ工事ノ施行ニ依リ附近地ニ變化ヲ及ボス程度ヲ併セ記載スベシ

第十一條 工事費豫算書ニハ第七條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、單價、金額及內譯ヲ示スベシ

第十二條 國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ讓渡ノ許可申請書ニハ當事者連署シ左ノ書類ヲ添付スベシ

一 讓渡契約書ノ謄本

二 讓受人ガ會社發企人ナル場合ニ於テハ定款

三 讓渡人又ハ讓受人ガ法人ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關ス

ル總會ノ決議錄又ハ總會ノ同意書ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總會ノ同意書ノ謄本

四 讓受人ガ國立公園事業ノ經營者ニ非ザル法人ナル場合ニ於テハ定款、寄附行為、又ハ規約及法人登記ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ其ノ契約書ノ謄本

第十三條 前條ノ規定ハ國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ會社合併ニ因ル承繼ニ之ヲ準用ス

第十四條 國立公園事業ヲ營ム法人ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且解散ニ關スル總會ノ決議錄又ハ總會ノ同意書ノ謄本ヲ添付スベシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ國立公園事業ノ特許ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク之ヲ內務大臣ニ届出ツベシ

一 工事ニ著手シ又ハ之ヲ竣功セシメタルトキ

二 施設ノ供用ヲ開始シタルトキ

三 會社設立ノ登記ヲ爲シタルトキ (工事施行ノ認可ヲ申請セシムル場合ヲ除ク)

國立公園事業ノ特許ニ因リテ生ズル權利義務ノ讓渡終了シタルトキハ遲滞ナク當事者連署ノ上之ヲ內務大臣ニ届出ツベシ國立公園事業ヲ營ム會社ノ合併終了シタルトキ亦同シ

第十六條 內務大臣特別地域ノ指定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス其ノ地域ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十七條 國立公園法第八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ具シ內務大臣ニ申請スベシ

一 設計書又ハ施行方法書

二 行爲ノ種類ニ從ヒ設計又ハ施行方法ノ表示ニ必要ナル
 圖面
 設計書又ハ施行方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一 行爲ノ種類
 二 行爲ノ目的
 三 行爲ノ所在地、地目、地番及面積
 四 行爲ノ種類ニ從ヒ工作物(廣告物、看板其ノ他之ニ關
 スル物件ヲ含ム)ノ設計又ハ行爲ノ施行方法
 五 著手及完了ノ期日
 第六項ノ書類又ハ圖面ニ記載セル事項ヲ變更セントスルト
 キハ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ
 第十八條 左ニ掲グル行爲ハ國立公園法第八條第二項ノ規定
 ニ依ル許可ヲ受クルコトヲ要セズ
 一 井溝、井堰、水樋、水車、風車、水槽等ノ新築、改築
 又ハ増築
 二 門、生垣、圍牆、圍舍、禽舍等ノ新築、改築又ハ増築
 三 社寺境内地又ハ墓地ニ於ケル鳥居、燈籠、墓碑等ノ新
 築、改築又ハ増築
 四 炭竈、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜舍、納屋、
 肥料溜等ニシテ公道其ノ他公衆ノ自由ニ出入シ得ル場所
 ヨリ二十メートル以上ノ距離ヲ有スルモノノ新築、改築
 又ハ増築
 五 飰、漢、網納屋、漁具干場等ノ新築、改築又ハ増築
 六 工用假工作物(宿舍ヲ除ク)ノ新築、改築又ハ増築
 七 宅地内ニ於ケル土石ノ採掘
 八 宅地内ニ於ケル木竹ノ採掘
 九 宅地内ニ於ケル木竹ノ採掘
 十 自家用ノ爲ニスル木竹ノ採掘(塊狀採伐ヲ除ク)
 十一 桑、茶、栝、三桠、杞柳、桐、果樹其ノ他農業用栽

培木竹ノ伐採
 十二 枯損木竹又ハ危險木竹ノ伐採
 十三 森林保育ノ爲ニスル刈、蔓切又ハ間伐
 十四 牧野改良ノ爲ニスル荆棘、灌木等ノ除去
 十五 軒下ニ於ケル廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ
 設置
 十六 非常災害ノ爲必要ナル應急施設
 十七 施業計畫ニ付豫メ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ
 其ノ施業計畫ニ基ク行爲
 第十八條 特別地域指定ノ際既ニ著手セル行爲
 第十九條 特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ
 爲サントスル者ハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前ニ內務大臣
 ニ届出ヅベシ
 一 開墾其ノ他土地ノ形質ノ變更
 二 木竹ノ植栽
 三 家畜ノ放牧
 第二十條 左ニ掲グル行爲ハ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコ
 トヲ要セズ
 一 土地ノ掘鑿、切取、盛土等土地ノ形質ノ變更ニシテ地
 貌ノ變化ヲ來サザルモノ
 二 宅地内ニ於ケル木竹ノ植栽
 三 農業用栽培木竹ノ植栽
 四 現存木竹ト同一種類ノ木竹ノ植栽
 五 施業計畫ヲ豫メ內務大臣ニ届出タルトキハ其ノ施業計
 畫ニ基ク行爲
 六 特別地域指定ノ際既ニ著手セル行爲
 第二十一條 國立公園法第八條第一項ノ規定ニ依リ特別地域
 ニ指定セラレザル國立公園内ノ地域ハ之ヲ普通地域トス

第二十一條

普通地域内ニ於テ國立公園法第八條第二項各號ノ一ニ該當
 スル行爲ヲ爲サントスル者ハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前
 ニ內務大臣ニ届出ヅベシ
 第二十二條 普通地域内ト雖モ內務大臣ノ指定スル地區
 内ニ於テハ左ニ掲グル行爲ヲ除クノ外前條第二項ノ規定ニ
 依ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ
 一 左ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築
 (イ) 常時三十人以上ノ職工ヲ使用シ又ハ常時使用スル原
 動機馬力數ノ合計五ヲ超過スル工場
 (ロ) 惡臭ヲ發散シ、有害物(動植物ニ對シ有害ナルモノ
 ヲ含ム)ヲ排泄シ又ハ危險物ヲ取扱フ工場、倉庫其ノ
 他ノモノ
 (ハ) 水力發電所又ハ出力百五十キロワットアンペア以
 上ヲ有スル變電所
 (ニ) 道路、橋梁、鐵道、軌道、索道其ノ他ノ交通運輸施
 設
 二 水面ノ埋立又ハ干拓
 三 礦物ノ試掘若ハ採掘又ハ石材ノ採掘
 四 廣告物其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
 第二十三條 左ニ掲グル行爲ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依
 ル届出ヲ爲スコトヲ要セズ
 一 第十八條第一號乃至第十六號各號ノ一ニ該當スル行爲
 施業計畫ヲ豫メ內務大臣ニ届出タルトキハ其ノ施業計
 畫ニ基ク行爲
 三 國立公園指定ノ際既ニ著手セル行爲
 第二十四條 第十九條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ依ル届
 出書ニハ設計書又ハ施行方法書ヲ添付スベシ
 第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ設計書又ハ施行方法書ニ之

ヲ準用ス
 第一項ノ設計書又ハ施行方法書ニ記載セル事項ヲ變更セン
 トスルトキハ其ノ行爲ノ日ヨリ十四日以前ニ內務大臣ニ届
 出ヅベシ
 第二十四條 國立公園法第十一條第一項ノ行爲ヲ爲ス者ハ地
 方長官ノ許可證、同條同項但書ノ行爲ヲ爲ス當該吏員ハ其
 ノ證ヲ携帶シ關係者ノ請求アリタルトキハ之ヲ示スベシ
 第二十五條 國立公園法第十一條第四項ノ規定ニ依リ裁定ヲ
 受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書(正副二通)
 ヲ地方長官ニ提出スベシ
 一 申請人及相手方ノ氏名、住所又ハ名稱所在地
 二 請求ノ内容及理由
 三 地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送
 附シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ
 四 指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ地方長官ハ申請
 書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ノ送附ヲ爲スコト
 能ハザルトキ亦同シ
 第二十六條 裁定書ニハ理由ヲ附シ地方長官之ヲ當事者雙方
 ニ送附スベシ裁定書ノ送附ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方
 官ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スベシ
 前項ノ告示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ裁定書ノ送
 附アリタルモノト看做ス
 第二十七條 國立公園法、國立公園法施行令又ハ本則ノ規定
 ニ依リ內務大臣ニ提出スル書類ハ地方長官ヲ經由スベシ但
 シ二府縣以上ニ關スル事項ニ付テハ關係地方長官ノ一ヲ經
 由シ別ニ其ノ副本ヲ他ノ關係地方長官ニ提出スベシ
 附 則
 本則ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

風景保護ニ關スル件

昭和七年十月十八日 (内務次官ヨリ關係) 内務省發衛第一一〇號 (地方長官宛通牒)

本月八日開會ノ國立公園委員會ニ於テ國立公園候補地ヲ國立公園ノ箇所トシテ選定ノ上當省大臣ニ答申有之候處之ガ區域ニ關シ調査ト相當ノ日子ヲ要スル儀ト存シ候ニ付テハ其ノ間萬一風景ノ破壞ヲ見ルガ如キ事有之候テハ遺憾ニ不堪候條今後同地ノ風景保護ニ付テハ一層御留意相成候様致度特ニ國立公園法第八條第二項及同法施行規則第十九條ニ掲グル行爲ニシテ風致維持上重大ナル關係ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ現ニ他ノ法令ニ依リ要許可(認可)事項ナル場合ハ之ガ許否ノ處分ニ當リ配意セラルルハ固ヨリ然ラザルモノニ付テモ關係當事者ノ理解自覺ヲ促ス等適當ナル措置ヲ講ゼラレ度尙同地ニ於テ道路、橋梁、運動場、野營場、宿舎、店舗、防火及砂防施設等風景ノ保護並利用施設ノ計畫有之候場合ハ公私何レノモノタルトモ問ハズ他ノ法令ニ依リ當省大臣ノ認可(許可承認)ヲ受クベキモノヲ除クノ外風致上重要ト認メラルモノニ付テハ其ノ計畫ニツキ豫メ當省衛生局長ニ御協議相成度取敢風景ノ保護ヲ要スル區域ハ大略別紙圖面ニ表示シタル地域ト御諒承相成度申添候

風景保護ニ關スル件

昭和七年十二月二十四日 (山林局長ヨリ) 林第五一七五號 (營林局長へ通牒)

標記ノ件ニ關シ別紙甲號寫ノ通内務省ヨリ照會アリ之ニ對シ當省ヨリ別紙乙號寫ノ通回答致置候處國立公園候補地内ノ國有林野ノ處分ニ關シテハ豫メ當省ト御打合相成度此段及通牒候也
追而別紙甲號寫ニ記載アル「客年十月十六日附内務省發衛第一一九號照會」ハ本年二月八日林第四一〇號ヲ以テ其ノ寫送附シアルニ付御參照相成度申添候
(乙號)
林第五一七五號
昭和七年十二月二十四日
農林次官 石黒忠篤
内務次官 潮惠之輔殿
風景保護ニ關スル件
十月二十六日附内務省發衛第一一二號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處候補地内ノ風景ノ保護ニ付テハ當省ニ於テモ充分留意致シ居ル次第ニ有之且保安林ノ編入解除ニ付テハ今般關係地方長官ニ對シ別紙寫ノ通牒致シ一層取扱ノ慎重ヲ期スルコトニ致候ニ付指定ニ至ル迄ノ間ニ於テ客年十月十六日附内務省發衛第一一九號照會事項中第五、第六ニ準ジ取扱フノ要ハ無之義ニ思料セラレ候條右御諒承相成度此段及回答候也
甲號
内務省發衛第一一二號
昭和七年十月二十六日
農林次官殿
内務次官

風景保護ニ關スル件

今般國立公園委員會ニ於テ別紙十二國立公園候補地ヲ國立公園ノ箇所トシテ選定ノ上當省大臣ニ答申有之候處之ガ區域ニ關シ調査ト相當ノ日子ヲ要スル儀ト被存候ニ付テハ其ノ間萬一風景ノ破壞ヲ見ルガ如キ事有之候テハ遺憾ニ不堪候條當省ニ於テモ關係地方長官ヲ獎勵シ之ガ保護ニツキ萬全ヲ期スル所存ニ有之候處貴省ニ於テモ右目的達成上御配慮相煩度尙指所至ル迄ノ間同地ニ付テハ「客年十月十六日附内務省發衛第一一九號照會」事項中第五及第六ニ準ジ「處理致度此段及照會候
追而公園ノ區域ニ關シテハ調査ノ上決定スル見込ナルモノ不取敢風景ノ保護ヲ要スル區域ハ大略別紙圖面ニ表示シタル地域ト御諒承相成度申添候

史蹟名勝天然紀念物保存法

大正八年四月九日 法律第四十四號

第一條 本法ヲ適用スヘキ史蹟名勝天然紀念物ハ内務大臣之ヲ指定ス
前項ノ指定以前ニ於テ必要アルトキハ地方長官ハ假ニ之ヲ指定スルコトヲ得
第二條 史蹟名勝天然紀念物ノ調査ニ關シ必要アルトキハ指定ノ前後ヲ問ハズ當該吏員ハ其ノ土地又ハ隣接地ニ立入り土地ノ發掘障礙物ノ撤去其ノ他調査ニ必要ナル行爲ヲ爲ス

史蹟名勝天然紀念物保存法施行令

大正八年十二月二十九日 勅令第四百九十九號

コトヲ得
第三條 史蹟名勝天然紀念物ニ關シ其ノ現狀ヲ變更シ又ハ其ノ保存ニ影響ヲ及ボスヘキ行爲ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
第四條 内務大臣ハ史蹟名勝天然紀念物ノ保存ニ關シ地域ヲ定メテ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令若ハ處分又ハ第二條ノ規定ニ依リ行爲ノ爲損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス
第五條 内務大臣ハ地方公共團體ヲ指定シテ史蹟名勝天然紀念物ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ管理ニ要スル費用ハ當該公共團體ノ負擔トス
第六條 第三條ノ規定ニ違反シ又ハ第四條第一項ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
附則
本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年五月勅令第四百六十一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)
古社寺保存法第十九條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔沿革〕 大正十三年十一月勅令第二八五號、昭和三年十一月同第二六九號、同六年九月同第二四〇號改正

第一條 當該吏員史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依ル行爲ヲ爲サルトスルトキハ少クトモ三日前ニ關係土地物件ノ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依ル行爲ヲ爲ス當該吏員ハ其ノ證票ヲ携帶シ關係者ノ請求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ

日出前又ハ日没後ニ於テハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二條 行政廳史蹟名勝天然紀念物保存法第三條ニ規定セル行爲ヲ爲サルトスルトキハ地方長官ノ承認ヲ受クヘシ

第三條 史蹟名勝天然紀念物保存法第二條ノ規定ニ依リ古墳ヲ發掘スル場合ニ於テハ當該吏員ハ地方長官ヲ經由シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

史蹟名勝天然紀念物保存法第三條又ハ前條ノ規定ニ依リ古墳ヲ發掘セムトスル場合ニ於テ地方長官認可又ハ承認ヲ與フルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ニ依リ文部大臣認可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ宮内大臣ニ協議スヘシ

第四條 史蹟名勝天然紀念物保存法第四條第二項ノ規定ニ依リ補償ハ通常生スヘキ損害ニ限リ之ヲ爲ス

前項ノ補償ノ額ハ地方長官ト損害ヲ被リタル私人トノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ文部大臣鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條 史蹟名勝天然紀念物ニシテ國有地ニ屬スルモノハ文部大臣之ヲ管理ス但シ官用地又ハ國有林ニ屬スルモノニ就テハ主管ノ大臣ト文部大臣ト協議シテ其ノ管理大臣ヲ定ム

第六條 文部大臣ハ史蹟名勝天然紀念物ニシテ國有ニ屬スルモノヨリ生スル收益ヲ管理ノ費用ヲ負擔スル地方公共團體ノ所得ト爲スコトヲ得

第七條 史蹟名勝天然紀念物ノ管理ノ費用ヲ負擔スル地方公共團體ハ其ノ管理スル史蹟名勝天然紀念物ニ付觀覽料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則
本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年十二月二十九日
內務省令第二十七號

史蹟名勝天然紀念物保存法施行規則

〔沿革〕 昭和三年十二月文部省令第一七號改正

第一條 文部大臣史蹟名勝天然紀念物ノ指定ヲ爲シ又ハ其ノ指定ヲ解除シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス地方長官假指定ヲ爲シ又ハ其ノ假指定ヲ解除シタルトキ亦同シ但シ指定セラレタル物ノ保存上必要ト認メタルトキハ告示セサルコトヲ得

第二條 史蹟名勝天然紀念物保存法第四條第一項ノ禁止若ハ制限ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス但シ指定セラレタル物ノ保存上必要ト認メタルトキハ告示セサルコトヲ得

第三條 史蹟名勝天然紀念物ノ所有者、管理者又ハ占有者ニ變更アリタルトキハ十日以内ニ新ナル所有者、管理者又ハ占有者ヨリ之ヲ地方長官ニ申告スヘシ

史蹟名勝天然紀念物ノ所有者、管理者又ハ占有者其ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ之ヲ地方長官ニ申告スヘシ

第四條 土地ノ所有者、管理者又ハ占有者古墳又ハ舊蹟ト認ムヘキモノヲ發見シタルトキハ其ノ現狀ヲ變更スルコトナク發見ノ日ヨリ十日以内ニ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ニ申告スヘシ

一 發見ノ年月日
二 所在地
三 現狀

第五條 文部省ニ史蹟名勝天然紀念物ノ臺帳ヲ備フ

第六條 第三條及第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

附 則
本則ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

史蹟名勝天然紀念物ノ指定類別

大正九年六月二十一日
內務省告示第五十一號

史蹟名勝天然紀念物保存法第一條第一項ノ規定ニ依ル史蹟名勝天然紀念物ノ指定ハ左ノ二類ニ別チ之ヲ行フ

第一類 國家的ノモノ

第二類 地方的ノモノ

史蹟名勝天然紀念物保存要目「拔萃」

大正九年二月十六日
官報

史蹟名勝天然紀念物ニシテ保存スヘシト認ムヘキモノノ種類大要左ノ如シ(本要目ニ掲ケタル例ハ説明ノ便宜ノ爲ニセルモノニシテ直ニ之ヲ指定スルノ趣旨ニアラス)

史蹟 省略

名勝ニシテ保存スヘシト認ムヘキモノ左ノ如シ

一 著名ナル公園及庭園

二 松林アル砂丘、砂嘴ニシテ著名ナルモノ

天然紀念物

天然紀念物ニシテ保存スヘシト認ムヘキモノ左ノ如シ

其ノ一

一 植物ニ關シ保存スヘシト認ムヘキモノ左ノ如シ

社叢、著シキ竝木、名木、巨樹、老樹

二 代表的原始林、稀有ノ林相

三 代表的高山植物帶

七 野生ノ樹木ニシテ著シキ奇態ヲ現ハセルモノ(例セハ信州ノ枝垂栗)

十二 海岸又ハ河湖ノ岸邊ノ砂丘ニシテ固有ナル砂防植物ノ發生セル所(例セハ常陸國太田ノ砂山ノ一部)

其ノ二

保護スヘキ天然紀念物ニ富メル一定ノ區域(天然保護區域)

● 史蹟名勝天然紀念物調査 委員會規程

昭和八年四月十一日
文部省訓令第十號

- 第一條 史蹟名勝天然紀念物調査委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ史蹟名勝天然紀念物ノ保存ニ關スル事項ヲ調査審議ス
- 第二條 史蹟名勝天然紀念物調査委員會ハ會長一人及委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 第三條 會長、委員及臨時委員ハ文部大臣之ヲ依囑シ又ハ之ヲ命ズ
- 第四條 會長ハ會務ヲ統理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ具申スベシ會長事故アリタルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得
- 第六條 文部大臣ハ必要ニ依リ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得
- 第七條 史蹟名勝天然紀念物調査委員會ノ議事ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 史蹟名勝天然紀念物調査委員會ニ幹事若干名ヲ置キ文部大臣之ヲ命ズ
- 第九條 史蹟名勝天然紀念物調査委員會ニ書記若干名ヲ置キ幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

文部大臣之ヲ命ズ
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十條 文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ會長、委員、臨時委員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ史蹟名勝天然紀念物ノ保存ニ關スル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

三 其ノ他

● 寺院佛堂境内官有地

木竹管理規則

明治三十六年三月二十六日
内務省令第二號

- 第一條 寺院佛堂ニ於テ其ノ境内官有地ノ木竹ヲ採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノトス
- 第二條 枯損木竹又ハ障害木竹ヲ採取セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必要ナル木竹ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得但寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除クノ外樹木ニ付テハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ハ其ノ一割以内
 - 一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ二割以内
- 前項ニ該當セザル建築物ト雖古社寺保存法ニ依リ特別保護建築物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建築物及寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建築物ノ造修用

材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條 前條ノ建築物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラヌ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採ルコトヲ得

- 第五條 林藪ノ經營上必要ナル拔伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 前三條ニ該當スル者ト雖モ寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之レヲ伐採スルコトヲ得ス
- 第七條 境内地ノ林藪五町歩以上ニ涉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但五町歩以下ト雖モ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規程ニ依ラシムルコトヲ得
- 第八條 境内地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得但シ寺院佛堂ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ非ス
- 第九條 地方長官ニ於テ境内地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキ其他境内地ノ林況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
- 第十條 境内地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ三日以前ニ警察署ニ届出テ境内ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲ爲スヘシ
- 警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ火入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
- 第十一條 寺院佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 第十條第一項ニ違背シ又ハ同條第二項ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 第十三條 削除
- 第十四條 明治十五年八月二日内務省番外示達社寺境内伐木取扱規則ハ之ヲ廢止ス
- 第十五條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 官國幣社以下神社ノ祭神、 神社名、社格、明細帳、境内、 創立、移轉、廢合、參拜、拜 觀、寄附金、講社、神札等ニ 關スル件「拔萃」

大正二年四月二十一日
内務省令第六號

- 〔沿革〕 昭和二年三月内務省令第一四號改正
- 第十五條 神社ハ地方長官ノ指揮ヲ受ケ境内ニ管轄地方廳名ノ制札ヲ建設スルコトヲ得
- 制札ニ記載スヘキ禁止事項ノ概目左ノ如シ
- 一 車馬ヲ乘入ルコト
 - 一 魚鳥ヲ捕ルコト
 - 一 竹木ヲ伐ルコト
- 第十六條 境内地ノ木竹ニシテ由緒アルモノ及風致ニ必要ナルモノハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス
- 第十七條 境内地ニ於テ枯損木竹ヲ採取セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ

管内及市ノ區域ニ在ル神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十八條 官國幣社ノ本殿及其周圍ノ垣、幣殿、拜殿、鳥居、神饌所、社務所又ハ府縣社以下ノ神社ノ本殿、幣殿、拜殿、鳥居ノ造修用材ニ必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ境内地ノ木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ神社ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除クノ外樹木ニ付テハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ノ一割
一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ノ二割
前項ニ該當セサル建築物ト雖古社寺保存法ニ依リ特別保護建築物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建築物及特別ノ由緒ヲ有スル建築物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第十九條 前條ノ建築物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ムヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十條 民有借地境内地ノ木竹ニシテ地主ノ所有タル確證アルモノハ地主ヨリ神社ニ要求シ神社ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキニ限リ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十一條 境内地ノ林藪經營上必要ナル間伐ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十二條 境内地ノ林藪ニシテ五町歩以上ニ渉ルモノニ付テハ特ニ保護並施設ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ五町歩以下ノモノト雖地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ニ於テ境内地ノ林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十四條 境内地ニ於テ土石、切芝又ハ樹根ノ採取ヲ爲サ

工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲ニ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲ニ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

ムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ但シ北海道廳支廳長ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル神社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ニ届出ツルモノトス

行政廳前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ由緒又ハ風致上必要ト認ムルトキハ其ノ採取ヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條 境内地ニ接續スル土地ニ火入ヲ爲サムトスル者ハ境内ニ對スル防火ノ設備ヲ爲シ警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 境内地ニ近接シ風致上必要ナル社有林ニ付テハ地方長官ニ於テ其ノ區域ヲ指定シ境内地ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得

第三章 砂防、河川、水利、鑛業

(二) 砂防

明治三十年三月三十日
法律第二十九號

〔沿革〕 大正十三年七月法律第三號改正

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設セルモノヲ謂ヒ砂防

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ニ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモノ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ
 國庫ノ負擔トス
 前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分
 ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得前項ニ依リ府縣ノ負擔ス
 べき金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム
第十五條 地方行政廳ハ其ノ管內ノ下級公共團體ヲシテ砂防
 ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行為ニ因
 リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生
 スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行為ニ關
 シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ
 河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體
 ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノアルトキハ其ノ府縣若ハ其
 ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムル
 コトヲ得
第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ
 行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ必要ナル費用ハ特別ノ
 規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔
 トス
 主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ
 自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタ
 ル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得
第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄
 付ヲナスコトヲ得
第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ
 區域內ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得
第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ

厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域內ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコ
 トヲ得
第二十二條 砂防工事ノ爲ニ必要ナルトキハ地方行政廳ハ管內
 ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金
 額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運
 搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサ
 ルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキ
 ハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲ
 ナサシムルコトヲ得
第二十三條 砂防ノ爲ニ必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ
 主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立チ入
 リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキ
 ハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得
 前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三
 箇月以內ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得
第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有
 者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其
 ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコト
 ヲ拒ムコトヲ得ス
第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工
 事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ
 其ノ損害ヲ賠償スヘシ
第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金
 若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔
 トス
第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方
 行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土
 地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ砂防設備ノ施設者

ニ下付スルコトヲ得
第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方
 行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有
 者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一
 定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ム
 ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ
 其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若
 ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル
 害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得
第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政
 廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ
 且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル
 設備ヲナスヘシ
第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタ
 ル土地監視ノ爲砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定
 員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ
 以テ之ヲ定ム
第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス
 地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令
 ヲ以テ之ヲ定ム
 此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳
 ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體若ハ私人ヲシ

テ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定
 ム
第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行
 セシムルコトヲ得
第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發
 スル命令ニ依リ義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ
 期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ
 得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又
 ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發ス
 ル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ
 一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履
 行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以內ニ於テ指定シタル過
 料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得
第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規
 定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ
 行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スル
 コトヲ得
第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依
 リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ
 民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯
 納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
 前項ノ費用及過料ニ付行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス
 ルモノトス
 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體
 ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事
 訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ

必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決

第六章 附則

ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタルトキハ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規定ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除ク外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クル場合ヲ除ク外此ノ法律ノ規程ニ依ル

砂防法施行規程

明治三十年十月二十六日 勅令第三百八十二號

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ、第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前第二項ノ例ニ依ル

第五條 內務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、

芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定マリタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖モ內務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

砂防行政監督令

大正十五年八月二十六日
勅令第二百九十一號

- 第一條 砂防法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス
- 第二條 左ニ掲クル事項並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 砂防法第三條ノ規定ニ依ル準用
- 二 砂防法第四條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲
- 三 砂防法第七條ノ規定ニ依ル砂防工事ノ施行ニ關スル府縣知事ノ處分但シ輕易ナル修繕工事ニ關スルモノヲ除ク
- 四 砂防法第十三條ノ規定ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫但シ設計内ニ於ケル變更ニシテ當初計畫ノ目的ヲ達シ得ヘキモノヲ除ク
- 五 砂防法第十五條ノ費用ノ負擔方法但シ砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ係ルモノヲ除ク
- 六 砂防法第十六條ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法
- 七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止
- 第三條 左ニ掲クル事項並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 砂防法第二十三條ノ規定ニ依リ下級行政廳ノ爲スヘキ

- 二 障害物ノ除却
- 第四條 本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限り認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

河川及水利

明治二十九年四月八日
法律第七十一號

〔沿革〕 大正四年六月法律第四號、昭和二年三月同第三號改正

第一章 總 則

- 第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ
- 第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依リ流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ
- 第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス
- 第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
- 堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタル

- モノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
- 第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

- 第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ主務大臣カ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シタルモノニ付必要ト認ムルトキ又ハ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得
- 第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス
- 第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得
- 第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

- 第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得
- 他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得
- 第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得
- 第十二條 河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得
- 第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ヲ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス
- 第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限

竝警察

第十六條 舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因

リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規定ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項ノ費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以內ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以內ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徵收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リテ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲケ妨ス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條 依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ区域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收ハハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ得但シ其ノ年額ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前

以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設ケルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發ル命令ニ依リ義務ヲ履行セシムルハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルヲ見込キトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期間ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ

行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收ハハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ得但シ其ノ年額ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂ヲ止メ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發ル命令ニ依リ義務ヲ履行セシムルハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルヲ見込キトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期間ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ

民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得
第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス
第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得
第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ノ罰則ヲ設クルコトヲ得
第六十條 此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得
第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前項ノ手續ニ依リ其ノ違背シタルコトヲ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス
第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ金額ヲ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章程ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ
第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クとも五日以前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ
第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クとも五日以前ニ又ハ之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物等ヲ除却セントスルトキハ少クとも十五日以前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ
第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失ハス
第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ依リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占有ヲ許可スヘシ
第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占有ヲ許可セサルトキハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ
公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲メ前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス
河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ
第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム
此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

河川法施行規程

明治二十九年六月三日 勅令第二百三十六號

〔沿革〕 明治三十二年六月勅令第二八六號改正
第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若クハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ
第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ
第四條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ
第五條 前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ
第六條 河川法第六條但書ニ依リ內務大臣ニ於テ河川ノ管理

許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現在スルモノハ
河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモ
ノト看做ス但シ其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ
於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニア
ラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ
發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ
規定ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法
施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ
其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以
下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關
シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ
附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第
十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リ
テ發スル命令ハ府縣知事ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テ
ハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テ
スルコトヲ得

河川行政監督令

大正十五年八月二十六日
勅令第二百九十號

第一條 河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市

町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル
河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ
第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之
ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ內務大
臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ノ區域、河川ノ支川及派川並ニ河川ノ附屬物ノ認
定

二 河川（支川及派川ヲ含ム）又ハ河川ノ附屬物ノ全部又
ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基ク改良工事及河川
又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アル工事ノ計
畫並ニ施行

三 河川法第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル許可ニシテ河
川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ
四 河川法第二十條ノ規定ニ依ル處分ニシテ內務大臣ノ認
可ヲ經テ許可シタル事項ニ關スルモノ

五 河川法第二十九條ノ費用ニシテ河川法第八條第一項又
ハ本條第一項第二號ノ工事ニ關スルモノノ負擔方法

六 河川法第三十二條第一項ノ費用ニシテ國ニ於テ施行ス
ル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七 河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料又ハ占用料ノ徵
收ニシテ發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノ

前項第二號及第三號ノ範圍ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條 河川法第二十二條及第四十六條第一項ノ規定ニ依ル
下級行政廳ノ處分並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ
認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ內務大臣ノ定
ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認可ヲ受ケシメサルコト

ヲ得

河川行政監督令第二條第

二項ノ規定ニ依リ認可ヲ

要スルモノノ範圍ニ關ス

ル件

大正十五年八月二十七日
內務省令第四十三號

第一條 左ニ掲クル事項、並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ內務大
臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ些少ナル變更ニ付テハ此
ノ限ニ在ラス

一 河川法第十七條ノ工作物ニ關スル工事ノ許可ニシテ左
ニ掲クルモノ但シ河川法準用河川（水流水面ヲ含ム）以下
同シニ付テハ第三號ニ該當スル事項ニ限ル

(一) 橋梁ノ新設及其ノ改築工事ニシテ徑間、最大高水
位ヨリ桁下端迄ノ空間隔又ハ流水斷面積ヲ縮小スルモ
ノ埋設

(二) 河川又ハ其ノ附屬物ノ敷地内ニ於ケル家屋其ノ他
ノ建物、電柱、鐵塔ノ築設及電纜、瓦斯管、水道管等
ノ埋設

(三) 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ河川ニ注水スル
爲ニ施設スル工作物ノ新築、改築又ハ除却ニシテ河川
又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノ

(四) 閘門、水門、樋門、陸閘其ノ他之ニ類スルモノノ
新設

(五) 其ノ他河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホス
ノ虞アル工事

二 河川法第十八條ニ依ル河川ノ敷地又ハ流水ノ占用ノ許
可ニシテ左ニ掲クルモノ

(一) 發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノニシテ左記
各號ノ一ニ該當スルモノ

1 河川法施行河川又ハ其ノ流域ニ屬スル河川法準用
河川ニ付理論馬力百馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスル
モノ

2 前號以外ノ河川法準用河川ニ付理論馬力一千馬力
以上ノ水力發生ノ爲ニスルモノ及理論馬力百馬力以
上ノ水力發生ノ爲ニスルモノニシテ左記各號ノ一ニ
該當スルモノ

イ 掘鑿土砂二千坪以上ノモノ
ロ 貯水ヲ爲シ又ハ主トシテ落差ヲ得ル目的ヲ以テ
堰堤ヲ築造スルモノ

ハ 甲河川ヨリ引水シ乙河川ニ放水スルモノニシテ
治水上利害關係ノ著シキモノ
ニ 堰堤以外ニ於テ舟筏ノ通航木材ノ流下若ハ魚族
ノ遡上ニ關シ特別ノ施設ヲ爲スモノ

ホ 灌溉其ノ他ノ水利事業ニ著シク障害ヲ及ホスノ
虞アルモノ

其ノ他河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホス
ノ虞アルモノ

第二條 河川ニ關スル工事、河川法第十七條ノ工作物ニ關ス
ル工事又ハ同法第十八條ニ依ル流水ノ占用ニシテ對岸他府

縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ連接スル場所ニ係ルモノ及他府縣ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノニ付テハ關係府縣知事ニ協議ヲ爲スヘシ
前項ノ協議調ハサルモノハ前條ニ拘ラス内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

●河川ニ關スル行政監督ノ件

大正十五年八月二十七日 (各府縣知事宛)
發土第四三號 (木局長依命通牒)

本日勅令第二九〇號河川行政監督令並内務省令第四三號(河川行政監督令第二條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ要スルモノノ範圍ニ關スル件)公布相成候處

- 一 河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ認定ハ一應貴官ニ於テ決定セラルヘキハ勿論ノ義ナレモ之レカ認定正鵠ヲ得サルトキハ河川行政監督上甚遺憾ノ義ニ付慎重調査ノ上認可ヲ受クヘキモノト然ラサルモノトノ間ニ荷モ正鵠ヲ失セサル様御留意相成度
- 二 河川法第十八條ニ依ル流水占用ノ許可ニシテ發電ノ爲ニスルモノニ付新ニ省令ヲ以テ認可ヲ要スル範圍ヲ規定セラレ候處其ノ稟請ノ手續及報告ニ關シテハ從前ノ通大正十五年十二月十六日發土第九五號及大正六年三月三十日發土第一九號並之ニ關聯スル通牒ニ據ラルヘク又河川法施行及準用河川以外ノ河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ニシテ水力發生ノ爲ニスルモノニ關シテハ全然從前ノ通ニシテ何等變更無之候

●發電ノ原動力ノ用ニ供スル水利使用ノ件

明治四十二年八月七日
逕信省訓令第一號

發電ノ原動力ノ用ニ供スル水力發生ノ爲出願セル水ノ使用ヲ許可セムトスルトキハ水力百馬力未滿ノモノヲ除ク外電氣起業ノ目的並水力ニ關スル設計ノ大要及圖面ヲ具シ本大臣へ稟伺スヘシ
使用權ノ讓渡其他事業ニ著シキ變更ヲ許可セムトスルトキ亦同シ

●電氣事業法

昭和六年四月一日
法律第六十一號

- 第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
 - 一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業
 - 二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業
- 第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具、機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用フル電氣導體

第三條 電氣事業ヲ營マントスル者ハ左ノ書類ヲ具シ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 起業目論見書
- 二 工事設計書
- 三 工事費概算書
- 四 事業上ノ收支概算書
- 五 電氣事業者前項ノ書類ニ掲グル事項中重要ナルモノヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ
- 第六條 電氣事業者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り電氣工作物ノ施設ニ關スル測量ヲ爲シ又ハ工事ノ爲他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クとも五日以前ニ市町村長ニ其ノ日時及場所ヲ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ
電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ズ
- 第七條 電氣事業者ハ必要アルトキハ電線路ノ施設又ハ保守ニ障害ヲ及ボスベキ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得

- 前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ植物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザリシトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨ヲ植物ノ所有者ニ通知スベシ
- 危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出テ且植物ノ所有者ニ之ヲ通知スベシ
- 第八條 電氣事業者ハ道路、橋梁、溝渠、河川、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セララル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムベシ
管理者正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得
- 第九條 電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ゲザル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セザル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得
電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所有者及占有者ト協議スベシ協議調ハズ

又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第十條 第六條、第七條及前條ノ場合ニ於テ現ニ生ジタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スベシ
前項ノ補償金額ハ當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル行政官廳之ヲ裁定ス裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十一條 電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ第九條ノ規定ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用法ヲ變更スル爲メ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

第十二條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲メ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十四條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ
主務大臣ハ主任技術者ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第十六條 電氣事業ノ會計ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 行政官廳ハ電氣事業者ニ對シ電氣工作物及其ノ工事並ニ業務及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 電氣事業者ハ電氣工作物其ノ他ノ工事、業務並ニ會計ニ關シ電氣事業者ニ對シ改善、改善其ノ他監督上必要ナル事項ヲ

命ズルコトヲ得

命ズルコトヲ得

第十九條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ電氣工作物ノ施設、變更若ハ共用、電氣ノ流用又ハ工事ニ關スル期間ノ伸縮ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 電氣事業者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スコトヲ得ズ

第二十一條 電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ第三條ノ許可ハ當該範圍ニ付其ノ効力ヲ失フ

一 指定ノ期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請セズ、工事ニ著手セズ又ハ事業ヲ開始セザルトキ
二 工事施行ノ認可ヲナキトキ
三 供給事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

第二十三條 電氣事業會社ガ解散シタルトキ
若ハ一部ヲ取消シ又ハ會社ノ取締役其ノ他ノ役員ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 電氣事業者ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分又ハ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ
二 電氣事業者カ其ノ供給區域内ノ一部分ニ供給ヲ開始シ

張ノ場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電

力ヲ生ゼズ

第十七條 電氣事業會社電燈料其ノ他供給條件ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第十八條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電

タル後久シキニ互リ其ノ殘餘部分ニ對シ電線路其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲サザルトキ

三 電氣事業者ガ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ主務大臣ハ前項第一號ノ場合ニ電氣事業者ノ計算ニ於テ他ノ電氣事業者ヲシテ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條 國ハ公益上ノ必要ニ因リ第一條第一號又ハ第三號ノ事業ヲ買収スルコトヲ得

公共團體ハ公益上ノ必要ニ因リ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ノ事業ノ買収ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ヲ買収セラルルニ因リテ殘存事業ノ全部又ハ一部ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルトキハ電氣事業者ハ國又ハ公共團體ニ對シ殘存事業ノ全部又ハ一部ノ買収ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ買収範圍其ノ他買収ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定中買収價格ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 第一條ニ掲グル事業ヲ除クノ外電氣施設ヲ爲スモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ規定スルモノノ中重要ナル産業又ハ公共ノ利益ト爲ルベキ事業ノ爲電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第三十一條 國ニ於テ電氣事業ヲ營マントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ト協議スベシ第三條第二項ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

國ニ於テ營ム電氣事業ニ關シテハ第三條乃至第五條、第十五條乃至第二十三條、第二十五條乃至前條及第三十五條乃至

至第三十八條ノ規定ヲ適用セズ

第三十二條 第二十四條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ依リ命令又ハ處分其ノ他電氣事業ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲電氣委員會ヲ置ク

電氣委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 電氣工作物ヲ損壞シ、之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十四條 電氣事業者ノ承諾ヲ得ズシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 本法若ハ本法ヲ以テ發スル命令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタル者又ハ第十七條第二項若ハ第二十四條第一項ニ依リ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ依リ檢査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ其ノ他行政官廳ノ命ジタル事項ヲ爲サザルトキ

第三十七條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ電氣事業者ニ適用スベキ罰則ハ電氣事業者法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産

者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ未成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年十一月勅令第三五三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

本法ニ依リ新ニ許可又ハ認可ヲ受クベキモノト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

發電ノ原動力ノ用ニ供スル水力發生ノ爲ニスル河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ニ關スル件

大正五年十二月十六日 (各地方長官宛土) 本局長依命通牒

發土第九五號

● 水利使用許可ニ關シ木材運搬關係調査ヲ遂クルノ件

大正四年七月二十六日 (逓信省電氣局) 電監甲一第一六六一號

發電ノ水利使用許可ニ關シテハ從來流筏其他水運ノ關係等ニ付テモ調査相成居候義ト被存候得共國有林野又ハ御料地内産出ノ木材運搬ニ關係アル箇所ニ於テハ之カ支障ノ有無特ニ精細調査ヲ遂ケタル上稟伺手續相成候様致度當該官署ヨリノ照會ノ次第モ有之候ニ付爲念此段及通牒候也

發電ノ原動力ニ供スル百馬力以上ノ水力發生ノ爲河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ヲ認可セントスルトキハ當省大臣ノ認可ヲ受ケラレ度尙今後同様ノ出願ヲ受理セラレタルトキハ直ニ其ノ要領及受理ノ年月日ヲ報告相成度

追テ本文同様ノ事件ニシテ從來受理セラレ未タ處分ノ運ニ至ラサルモノニ付テハ其ノ要領及受理ノ年月日ヲ、又嘗テ許可セラレタルモノニシテ權利ノ現存スルモノニ付テハ左記ノ事項ヲ本年內ニ到著スル様夫々御報告相成度

一 起業者

二 河川其ノ他公有水面ノ名稱並入口及吐口、地名

三 引用水量及引用期間

四 引箇所ニ於ケル河川其ノ他公有水面ノ渇水時及平時ニ於ケル流量

五 落差

六 許可ノ年月日及許可ノ條件

七 工事竣功シタルモノハ其ノ竣功ノ時期、工事中又ハ未著手ノモノハ其ノ著手及竣功ノ時期

八 一般平面圖
九 堰堤其ノ他引入箇所ニ於ケル設備ノ構造圖
十 水路ノ橫斷面圖及縱斷面圖

●大正五年十二月發土第九

十五號依命通牒ニ依ル水

ノ使用ニ關スル稟伺其ノ

他ノ手續ノ件

大正六年三月三十日 (各地方長官宛)
發土第一九號 (土木局長通牒)

〔沿革〕 大正七年七月發土第一三三號改正
標記ノ件左ノ通り被定候條爾今右ニ準據シ御處理相成度

第一條 使用許可ノ稟伺書ニハ左ノ事項ヲ具備シタル圖書及
命令書案ヲ添附シ起業ノ確否、起業者ノ信用及資産ノ狀態
掘鑿土砂處理方法、切取、盛土法面ノ保護及山地崩壞防止
ノ方法及第四號ノ事項ニ付テハ特ニ調査ノ上意見ヲ詳具セ
ラルヘシ
第一 起業ノ概要
一 起業者ノ住所職業及氏名(會社ナルトキハ其ノ會社
名)
二 起業ノ目的
(例、電燈ノ供給事業ナルトキハ何縣何郡何町村内ノ燈
火用、電力ノ供給事業ナルトキハ何鐵道何軌道何鑛山

何工場用、其ノ他電氣化學工業ノ用ニ供スルモノナル
トキハ何所在地何製造所何工場用ノ類)
三 取水河川(他ノ公有水面ヲ含ム以下同シ)名並取水口
及放水口ノ位置
(例、取水河川、幹川河川支(派)河川、取水口何縣何郡
何町村大字何字何)
四 使用水量(毎秒時間何立方尺)
五 有效落差(曲尺ニテ示スコト)
六 馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算シタル理論馬
力及發電力)(キロワット數)
七 水ノ使用期間
第二 水路工事
一 水路一覽圖
縮尺五萬分一トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、
放水口等ノ位置及取水箇所ニ於ケル流域境界線ヲ記載
シ尙附近ニ於テ灌溉其ノ他既許可ノ水利事業アルトキ
ハ其ノ位置ヲ記入スルコト特ニ貯水池又ハ河水ノ調整
池ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ位置ヲ記載スルコト
二 水路豫測縱斷面圖
縮尺六千分一縱二百分一以上トシ堰堤、取水口、隧
道、開渠、發電所、放水口其ノ他主要工作物ノ位置、
取水口及發電所附近ニ於ケル最高水位、平水位、最低
水位ヲ記入シ高低ノ基準ハ可成陸地測量部ノ水準標ニ
準據スルコト
三 堰堤及水路ノ定規圖
縮尺ハ適宜トシ形狀、材質及構造ノ大要ヲ示スコト
四 計畫說明大要
取水河川ノ狀態及勾配、取水方法ノ大要、使用水量決
定ノ理由、水路斷面算定ノ方法、水車ノ種類箇數、掘

鑿土砂ノ數量及處理方法、切取盛土法面ノ保護及山地
崩壞防止ノ方法ハ必ス之ヲ記載スルコト
特ニ貯水池又ハ河水ノ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ
其ノ計畫ノ大要ヲ記載スルコト
第三 取水河川ノ水量測定
一 流域面積(方里ヲ示スコト)
二 取水口附近ニ於ケル流水水量及其ノ測定ノ方法時期並
測定場所ノ橫斷面圖
橫斷面圖ノ縮尺ハ適宜トシ濁水、低水及最高水位ヲ記
入スルコト
水量測定ハ數種ノ方法ニ依リ可成濁水時ニ於テ數回之
ヲ行フコト
第四 起業ト治水其ノ他公益事業等ノ關係
一 灌溉其ノ他既許可ノ水利事業ニ及ホス影響並ニ之ニ
關スル施設ノ大要
(例、取水口放水口間及其ノ上下附近ニ於テ本起業ノ爲
影響スルモノナシ又ハ何々堰灌溉段別何町歩ノ灌溉ノ
爲濁水時ニ於テ何所ヨリ灌溉時期何立方尺ノ分水ヲ爲
ス等ノ類)
二 舟筏ノ通航、流木及漁業ニ及ホス影響並ニ之ニ關ス
ル施設ノ大要
(例、舟筏ノ通航或ハ流木ノ慣行ナシ若ハ漁業ノ利ナシ
又ハ堰堤ニ舟筏路若ハ魚道ヲ設クル等ノ類)
三 名勝風景等ニ及ホス影響並ニ之ニ關スル施設ノ大要
(例、取水口堰堤ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因ス
ル影響ノ程度並ニ之ニ關スル設備ノ大要)
四 影響ノ程度並ニ之ニ關スル設備ノ大要
(例、洪水時ニ於ケル水面ノ隆起、堰堤ニ於テ何尺嵩水
ノ影響約何間、何々縣道ノ上置工事ヲ爲シ何橋ヲ高ム
ル計畫等ノ類)

五 貯水池設置ニ因リ流出水量ニ増減ヲ來タス結果取水
河川ノ下流ニ於ケル用惡水路並舟筏ノ通航及流木ニ及
ホス影響ノ程度並ニ之ニ關スル施設ノ大要
六 放水口ヲ他ノ河川ニ設クル場合關係河川ノ治水及水
利上ニ及ホス影響ノ程度並ニ之ニ關スル設備方法ノ大
要
第五 工事費概算書(別紙様式ニ據ル)
水路工事ニシテ二府縣以上ニ跨ルモノニ付テハ關係府
縣知事ノ連署ヲ以テ稟伺セラルヘシ但シ關係府縣知事
ノ間ニ協議ノ調ハサルモノニ在リテハ許可セントスル
府縣知事ニ於テ前項ニ掲ケタル書類ノ外協議ノ顛末ヲ
知ルニ足ルヘキ書類ヲ添附稟伺セラルヘシ
第一項ノ命令書案ハ別紙様式ニ準シ河川ノ狀態及地方
ノ狀況等ヲ斟酌シテ之ヲ調製セラルヘシ
第二條 稟伺ノ上許可スヘキ水ノ使用ニ關シ左ニ掲ケル事項
ヲ許可若ハ認可シ又ハ之ヲ命セントスルトキハ稟伺ノ上處
分セラルヘシ
一 河川法施行河川及其ノ流域ニ屬スル河川其ノ他特ニ
指定スル河川ニ關スル工事ノ實施設計及其ノ變更ハ此
ノ限ニ在ラス
二 使用水量ノ變更ニ伴フ工事ノ變更但シ第二號乃至第
四號ニ該當セサル事項ノ變更
三 取水口放水口若ハ貯水池ノ位置又ハ其ノ構造ノ變更
但シ些少ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス
四 其ノ他著シキ工事ノ變更
五 命令書案ハ認可ヲ經タル命令書案ノ變更但シ左ニ掲
ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
イ 水利權者又ハ出願者會社又ハ會社發起人ニ非サル

場合ニ於テ其ノ全員ノ脱退若ハ除名ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

六 専ラ電氣ニ關スル事業取締上ノ必要ニ基キ命令書案中ノ水ノ使用水量ヲ減少シ若ハ其ノ使用ノ目的ヲ制限シ又ハ許可年限ヲ短縮スルコト

七 水ノ使用權ノ讓渡

第三條 前條ノ實施設計認可ノ稟何書ニハ左ノ圖書、其ノ他ノ稟何書ニハ第一條又ハ本條ニ準シ調製シタル書類ヲ添附シ意見ヲ詳具セラルヘシ

一 水路實測圖

イ 平面圖

縮尺六千分一以上トシ水路ノ中心線、測點番號、水路及附帶工作物ノ位置ヲ記入シ附近ノ地形ヲ明ナラシムルコト

ロ 縱斷面圖

縮尺横六千分一以上縦二百分一以上トシ測點番號基準線(高ハ可成陸地測量部水準標ニ準據スルコト)距離、遞加距離、地盤高、切取盛土ノ高、計畫水位(水面勾配ヲ記入スルコト)並實測平面圖ニ示シタル水路及附帶工作物ノ位置等ヲ記入シ尙取水口及放水口ニハ最高水位、平水位、最低水位ヲ記入スルコト

ハ 橫斷面圖

縮尺二百分一以上トシ切取盛土面坪、計畫水位、法勾配、法面保護工事等ヲ記入シ各斷面圖ノ距離ハ土坪計算ニ必要ナル程度ト爲スコト

二 構造圖

イ 堰堤(流木路、舟筏路、魚道、土砂吐等ヲ含ム)取水口、沈砂池、土砂吐、餘水路、制水門、隧道、開

渠、木樋、水路管、水路橋、水槽、放水路、水壓管、吸出管、水車、發電所並貯水池、河水ノ調整池等ノ構造圖

縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入スルコト

ロ 水路開設ニ伴ヒ施設スヘキ各種工作物ノ構造圖シタルハ之ヲ記入シ尙水路ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖ヲ添附スルコト

掘鑿土砂捨場附屬工作物ノ構造ハ特ニ之ヲ記載スルコト

三 工事説明書

水路ノ選定ノ理由、水路實測圖及構造圖ニ示シタル各種工事設計ノ要領(算式ヲ以テ計算シタルモノハ其ノ計算書ヲ添附スルコト)工事施行ノ順序、作業方法ノ掘鑿土砂處理方法(土坪計算表及土砂捨場圖ヲ添附シ各箇所ノ面積及土砂包容量ノ計算ヲ明示スルコト)等ヲ記載シ尙堰堤ニ付テハ地質ノ説明(試鑽ヲ行ヒタルモノハ其ノ成績表ヲ添附スルコト)ヲ爲シ且洪水時ニ於ケル水面ノ隆起及高水ノ影響ヲ圖示スルコト

貯水池及河水ノ調整池ヲ設ケル場合ニハ貯水容量(立方尺トシ其ノ計算書ヲ添附スルコト)及其ノ使用方法ヲ記載スルコト

四 工事費豫算書

工事費概算書中水路工事費ニ關スル各費目ヲ細別シ工事種類、長、數量、單價、金額及工法ノ摘要ヲ示スコト但シ特種ノモノニ付テハ別ニ設計書ヲ添附スルコト他府縣ニ關係アル事項ニ付テハ第一條第二項ニ準シ處理セラルヘシ

第四條 出願中ニ係ル水ノ使用ニ關スル事業ニシテ利害相反スルモノニ二箇以上アル場合ニ於テ其ノ事件ヲ許可セムトスルトキハ他ノ事件ニ付テモ調査ヲ遂ケ同時ニ稟何ノ上處分セラルヘシ

第五條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ遲滞ナク報告セラルヘシ

一 水ノ使用ヲ許可シタルトキ

二 命令書ノ規定ニ依リ左ニ掲ケル期間伸長ノ認可ヲ爲シ又ハ期間ノ指定ヲ爲シタルトキ

イ 工事實施認可申請期間伸長ノ認可

ロ 工事ノ著手又ハ竣功期間伸長ノ認可又ハ其ノ期間ノ指定

ハ 電氣事業經營ノ許可又ハ電氣工作物施設認可申請期間伸長ノ認可

三 工事實施ノ認可ヲ與ヘタルトキ

四 第二條第一號但書ニ依リ工事實施設計變更ニ關スル處分ヲ爲シタルトキ

五 第二條第五號但書ニ依リ命令書又ハ命令書案ヲ變更シタルトキ

六 工事ニ着手シ又ハ竣功シタルトキ

七 水ノ使用權消滅シタルトキ

命令書案

何 株式會社發起人

(各發起人ノ住所職業及氏名ヲ連記スルコト)

今般右ノ者ニ對シ河川ノ水ノ使用及水路開設並其ノ附屬物ノ施設ヲ許可スルニ付本命令書ヲ下付ス

第一條 水ノ使用ノ目的ハ何々ノ爲發電ノ用ニ供スルモノトス

第二條 使用水量ハ一秒時間何立方尺以內トス

第三條 取水口及放水口ノ位置ハ左ノ如シ

取水口 何縣何郡何村大字何字何

放水口 何縣何郡何村大字何字何

第四條 許可年限ハ大正何年何月何日迄トス

第五條 許可ヲ受ケタル者ハ本命令書交付ノ(本命令書交付ノ日マテニ)翌日ヨリ起算シ何

氣事業經營ノ出願ヲ爲ササルモノニ付)翌日ヨリ起算シ何

テハ電氣事業經營ノ出願ヲ爲シタル日)翌日ヨリ起算シ何

筒年(大體ニ於テ六箇月乃至一箇年以內ヲ標準トシ事)内ニ

左ノ各號ニ準據シ水路實測圖(平面圖ハ縮尺六千分一以上

縱斷面圖ハ縮尺二百分一以上横六千分一以上横斷面圖ハ二百

分一以上トス)構造圖工事説明書及工事費豫算書ヲ調製シ

何縣知事ニ對シ工事實施ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セム

トスルトキ亦同シ

一 水路ノ流量ハ一秒時間何立方尺ヲ標準トス

二 取水口ニハ制水門ヲ設ケ且量水設備ヲ爲スヘシ

三 水路中適當ノ箇所ニ放水ノ設備ヲ爲シ定量外ノ水量ノ排出ヲ爲スヘシ

四 取水口若ハ放水口ニ接續スル河川ノ沿岸ニ對シテハ本事業ニ起因シテ生スル損害ヲ防止スル爲相當ノ工事ヲ施スヘシ

五 水路開設ノ爲水路經過地域ニ於テ山地ノ崩壞ヲ來ササ

ル様相當ノ設備ヲ爲スヘシ

六 堰堤ニハ流木路(舟筏路)及魚道ノ設備ヲ爲スヘシ

七 工事ニ因リテ生スル土砂ノ捨場ヲ定メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第六條 認可ヲ與ヘタル事項ト雖モ何縣知事ニ於テ公益上其ノ他必要アリト認ムルトキハ之レカ變更ヲ命スルコトアル

第七條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ第五條ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ翌日ヨリ起算シ六箇月内ニ著手シ著手ノ日ヨリ何箇年内ニ竣功スヘシ

又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ認可ヲ受ケタル者ハ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ天災事變ノ止ミタル日ノ翌日ヨリ起算シ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期間内ニ工事ニ著手シ又ハ竣功シ難キトキハ期間經過前ニ延期ヲ申請スルコトヲ得延期ノ期間ハ通シテ何箇年(大體ニ於テ一箇年以内トスル場合ハ其ノ事由ヲ慎重ニ調査セラレタシ)ヲ超ユルコトヲ得ス

何縣知事ノ命ニ依リ設計ヲ變更シタルトキハ更ニ期間ノ指定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ何縣知事ノ命ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出ツヘシ

第五條及第十九條第一號ノ期間ニ付テハ本條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第八條 本事業ノ爲河川道路橋樑用水路其ノ他公共ノ既設工作物ノ變更ヲ要スルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ關係者ト協議シ其ノ顛末ヲ具シ何縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第九條 本事業ノ爲灌漑其ノ他ノ水利及漁業ニ支障ヲ來シ又ハ其ノ虞アルトキハ許可ヲ受ケタル者ハ關係者ト協議シ水路ノ改築其ノ他適當ノ方法ヲ講スヘシ

前項ニ依リ工事ヲ爲サントスルコトキハ關係者ト協議シ顛末ヲ具シ何縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第十條 何縣知事ニ於テ本事業ノ爲風致ヲ毀損シ又ハ其ノ虞アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ植樹其ノ他適當ノ施設ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條 何縣知事ニ於テ本事業ニ因リ治水上障害ヲ來シ又ハ其ノ虞アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ障害ヲ除却セシメ又ハ之ヲ豫防スル爲必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十二條 何縣知事ニ於テ工事施行ノ爲必要ナル假締切假道其ノ他ノ設備又ハ其ノ作業方法危害ヲ生スルノ虞アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ危害ヲ豫防スル爲必要ナル施設又ハ措置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十三條 公益ノ爲必要ナル工事又ハ他人ニ於テ何縣知事ノ許可ニ基キテ施行スル工事ニ因リ本事業ニ障害ヲ來シ若ハ變更ヲ生セルシムルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 工事竣功シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ

第十五條 通水ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出ツヘシ

第十六條 何縣知事ニ於テ公益上必要アリト認めタルトキハ期限ヲ指定シ引水ヲ停止シ若ハ引水量ヲ制限スルコトアルヘシ

第十七條 何縣知事ハ水路及附屬工作物並ニ本事業ニ伴ヒ施設シタル護岸其ノ他ノ工作物ヲ監査シ必要アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ相當ノ工事若ハ設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

路ノ改築其ノ他適當ノ方法ヲ講スヘシ

前項ニ依リ工事ヲ爲サントスルコトキハ關係者ト協議シ顛末ヲ具シ何縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第十條 何縣知事ニ於テ本事業ノ爲風致ヲ毀損シ又ハ其ノ虞アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ植樹其ノ他適當ノ施設ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條 何縣知事ニ於テ本事業ニ因リ治水上障害ヲ來シ又ハ其ノ虞アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ障害ヲ除却セシメ又ハ之ヲ豫防スル爲必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十二條 何縣知事ニ於テ工事施行ノ爲必要ナル假締切假道其ノ他ノ設備又ハ其ノ作業方法危害ヲ生スルノ虞アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ危害ヲ豫防スル爲必要ナル施設又ハ措置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十三條 公益ノ爲必要ナル工事又ハ他人ニ於テ何縣知事ノ許可ニ基キテ施行スル工事ニ因リ本事業ニ障害ヲ來シ若ハ變更ヲ生セルシムルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 工事竣功シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出テ検査ヲ受ケヘシ

第十五條 通水ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク何縣知事ニ届出ツヘシ

第十六條 何縣知事ニ於テ公益上必要アリト認めタルトキハ期限ヲ指定シ引水ヲ停止シ若ハ引水量ヲ制限スルコトアルヘシ

第十七條 何縣知事ハ水路及附屬工作物並ニ本事業ニ伴ヒ施設シタル護岸其ノ他ノ工作物ヲ監査シ必要アリト認めタルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ相當ノ工事若ハ設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十八條 左ノ場合ニ於テハ何縣知事ハ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ工事ノ變更中止ヲ命スルコトアルヘシ

一 公益上必要アリト認めタルトキ

二 許可ヲ受ケタル者ニ於テ法律命令又ハ本命令書若ハ本命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違背シタルトキ

三 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要アリト認めタルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一 電氣事業經營ノ許可ヲ得サルトキ若ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキ(本命令書交付ノ日マテニ電氣事業經營ノ交付ノ翌日ヨリ起算シ六箇月内電氣事業經營ノ出願ヲナササルトキ又ハ其ノ許可ヲ得サルトキ若ハ其ノ許可ヲ取消シタルトキ)

二 第五條ノ期間内ニ同條ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ許ササルトキ

三 第七條第一項ノ期間内ニ工事ニ著手又ハ竣功セサルトキ

四 電氣事業ノ工事施行認可ヲ得サルトキ又ハ其ノ認可ヲ取消サレタルトキ

五 中途ニシテ工事ヲ廢シタルトキ

六 全部ノ營業ヲ廢止シタルトキ

七 會社解散シタルトキ

八 營業滿期ノトキ

九 許可年限滿了ノトキ

十 第五條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキ

十一 創立總會ニ於テ本命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決セサルトキ

第二十條 許可ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ何縣知事ハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ既設工作物ノ全部若ハ一部ヲ除却シ原形ニ復セシムルコトアルヘシ但シ何縣知事ハ既設工作物ノ全部若ハ一部ヲ現形ノ儘無償ニテ官有ト爲スコトアルヘシ

第二十一條 何縣知事ニ於テ公益上其ノ他必要アリト認めタルトキハ本命令書ノ條項ヲ變更シ若ハ追加スルコトアルヘシ

第二十二條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ義務ヲ履行セス若ハ履行スルモ必要ノ期間内終了スル見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キヲ得サルトキハ何縣知事ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

何縣知事ニ於テ急迫ノ事情アリト認めタルトキハ第十一條、第十二條又ハ第十七條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ命スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第二十三條 本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依ル義務ノ爲要スル費用及前條ノ費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

本命令書又ハ本命令書ニ基キテ爲ス處分ニ因リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十四條 本許可ニ因リテ生スル權利義務ハ之ヲ他人ニ移轉シ又ハ貸付スルコトヲ得ス但シ左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

一 工事竣功シタルトキ

二 事業相當ニ進行シ成功ノ見込アリト認ムルトキ
 三 會社合併ニ因ルトキ
 四 會社ノ組織變更ニ因ルトキ
 前項但書ニ依リ權利義務ノ移轉ヲ許可スル場合ト雖本命
 令書ニ規定スル期間ハ之ヲ伸長セス
第二十五條 許可ヲ受ケタル者ハ連帶責任ヲ以テ本命令書及
 本命令書ニ基キテ爲ス處分ニ因リテ生スル義務ヲ負擔スヘ
 シ
 (備考)
 本命令書案ハ株式會社ノ發起人ニ對シ下付スヘキモノノ様
 式ナルヲ以テ其ノ他ノ者ニ下付スヘキモノハ相當變更スル
 コトヲ要ス

發電ノ原動力ノ用ニ供スル水ノ使用ニ關スル件

大正七年九月二十八日 (各地方長官宛)
 發土第一三四號 (木局長依命通牒)
 發電ノ原動力ニ供スル百馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスル水ノ
 使用ニ關スル事件ハ當省ヘ稟伺ノ上處分方大正五年十二月十
 六日發土第九五號ヲ以テ依命及通牒候次第モ有之候處右ノ内
 左記各項ノ一ニ該當スルモノノ外ハ自今稟伺ヲ要セス候條貴
 官限リ處分ノ上直ニ左ノ要領ヲ具シ報告相成度
 追テ本文ニ依ル報告後變更認可等ノ爲報告ノ内容ニ異動ヲ
 來タスモノハ是亦其ノ處分ノ都度報告相成度
 一 河川法施行河川ノ流域ニ係ルモノ

水利使用ニ關シ林產物運搬關係調査方ノ件

大正七年五月二十日 (農商務省山
 林第一四〇二號 (林局長通牒)
 方今電氣事業ノ進展ニ伴ヒ發電用水利使用ノ著シク増加セル
 ハ邦家ノ爲喜フヘキ現象ニ有之候處爲ニ往々獨リ我國古來ノ
 慣習タルノミナラス世界各國ニ於テモ現時尙經濟上必要トセ
 ル木材ノ河川輸送ニ對シ障害ヲ及ホス虞アルハ遺憾ノ義ニ有
 之義ニ大正四年七月選信省電氣局長ヨリ發電用水利使用許可
 ニ關シテハ從來其ノ他水運ノ關係ニ付テモ調査相成居ル義
 ト被存候モ國有林產物ノ運搬ニ關係アル個所ニ於テハ之カ支
 障ノ有無特ニ精細調査ヲ遂ケラレ度旨通牒セラレタル次第モ

有之從來國有林ニ關係アル河川水利使用ニ付意願アリタル場
 合ハ豫メ當該大林區署ニ御協議相成居候得共間々協議漏レノ
 向モ有之ヤニ承知致候ニ付テハ今後ハ漏レナク御協議相成以
 テ一層兩事業間ノ調和ヲ圖ラレ候様致度此段申進候也

發電用水利使用ノ工事ニ伴フ魚梯設備ニ關スル件

大正十五年九月十五日 (各地方長官宛)
 長土第六三號 (土木局長通牒)
 發電用水利使用工事中魚梯ノ設備ニ關シ農林省ニ於テ之カ認
 可ヲ稟伺セシメ居候モノ有之候處將來斯種設備ニ關シ同省ニ
 稟伺ヲ要スルカ如キモノニ付テハ同省ヨリ直接當省ヘ協議ヲ
 受ケ相當協定スヘク地方長官ヨリ稟伺ハ爾今之ヲ廢止スル
 様本日同省ヘ及照會置候條右御了知相成度

發電用水利使用ノ工事ニ伴フ魚梯設備ニ關スル件

大正十五年十一月二十五日 (各地方長官宛)
 長土第六三號 (土木局長通牒)
 標記ノ件ニ關シテ本年九月十五日長土第六三號ヲ以テ及通
 牒置候處別紙ノ通農林次官ヨリ内務次官ニ照會アリ本日更ニ
 農林省ニ對シ魚梯ノ設備並其ノ設計ニ付テハ地方長官ニ於テ
 篤ト調査ヲ遂ケ稟伺スルモノニシテ當省ニ於テハ之ヲ其礎ト
 シテ調査ヲ爲スモノナルヲ以テ何等支障ナシト認ムルモ尙要

發電用水利使用ノ工事ニ伴フ流木路設備ニ關スル件

昭和三年五月九日 (各地方長官宛)
 內務省一四岩土第三二號 (木局長依命通牒)
 標記設備ニ關シ農林省ニ於テ地方廳ヲシテ協議ヲ受ケシメ居
 候モノ有之候處將來斯種設備ニ關シテハ大正十五年九月十五
 日長土第六三號及同年十一月二十五日同號本官通牒ノ趣旨ニ
 依リ魚道ニ關スル取扱ト同様處理スルコトトシ本日農林省ニ
 及照會置候條御了知相成度

發電水利使用ノ工事ニ伴フ流木路設備ニ關スル件

昭和三年十二月十一日 (內務次官宛)
 林第三〇一六號 (農林次官)
 首題ノ件ニ付五月九日付內務省一四岩土第三二號ヲ以テ御申
 越ノ次第モ有之候處發電用水利使用ニ當リ林產物搬出ノ支障
 除去ニ關スル施設ノ計畫ヲ事前ニ樹立シ置キ以テ將來ノ紛爭

ヲ防止スルハ膏ニ林業保護ノ上ニ於テ必要ナルノミナラス水
力電氣事業ニ於テモ亦有利ナルコトハ最近ノ實例ニ徴シ御承
知ノ通りニ有之候從テ林産物搬出ニ支障ノ虞アリト認ムル場
合ハ從來ノ如ク速ニ地方長官ヲシテ當省ニ協議セシメ適切ナ
ル計畫ヲ樹テシムル途ヲモ開キ置ク必要有之候右申進候也

三三 鑛業

鑛業法

明治三十八年三月八日
法律第四十五號

沿革

明治四十年四月法律第四一號、同四十三年三月同
第一〇號、同四十四年三月同第九號、大正十三年
七月同第二二號、昭和二年三月同第三六號、同六
年七月同第六五號改正

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ
附屬スル事業ヲ謂フ
第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、
鋅鑛、格魯鐵鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫
鐵鑛、格魯鐵鑛、滿庵鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、
黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ
此ノ限ニ在ラス
含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做
ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單一一家ノ自
用ニ供スルモノハ本法ヲ適用セス

第三條 未タ採掘セサル鑛物 廢鑛及鑛滓ヲ含ムルハ國ノ所有
トス
第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ
鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及
之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テ
ハ鑛業者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サ
レハ鑛業權者ト爲ルコトヲ得ス

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共
ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願
セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關
係人ノ承繼ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスル
トキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出
ハシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表
ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者
ト看做ス

第八條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ従事スル勞役者ヲ
謂フ

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土
地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限ト
ス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在
リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ
鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超

ユルコトヲ得
同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス
但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此
ノ限ニ在ラス

第十條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内並要塞地
帶第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ
周圍三百間以内並要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄
官廳ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受ケタルニ非サレ
ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鐵道、軌道、道路、運河、河川、沼池、堤塘、社
寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下
トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、
所有者及關係人ノ承諾ヲ受ケタルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコト
ヲ得ス但シ所有者關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ
拒ムコトヲ得ス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ
付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂
フ

第十四條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適
用ス

第十四條ノ二 農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依
ル職權ノ一部ヲ鑛山監督署長ニ委任スルコトヲ得

第二章 鑛業權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但

シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的
タルト爲スコトヲ得

第十七條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二箇年トス
前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルコトナ
ス

第十八條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分
ノ制限ハ鑛業原簿ニ登録ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦
同シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲
スコトヲ得ス

第十九條 鑛業權ハ登記ニ代ルモノトス
前項ノ登録ハ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ
因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合
ヲ除クノ外登録ヲ爲スニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第二十一條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試
掘ニ付テハ鑛山監督署長、採掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願
ス

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長、採掘ニ付テハ農商
務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第二十三條 採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物
ノ存在スルコトヲ證明ス

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノ
ト認メタルトキハ採掘ヲ出願ヲ命ス

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ採掘ノ
出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シテ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ採掘出願ハ之ヲ許可セズ

第二十六條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シテ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セズ

第二十九條 採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セズ但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セズ

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ鑛業ノ價値ヲシテ認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セズ

第三十三條 試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セズ

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二 試掘權者試掘權ノ存続期間満了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付テハ其ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘權區ニ係ル部分ニ付テハ他ノ出願人ニ對シテ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ出願ヲ爲シタル者ヲ以テ鑛業權者ト看做ス

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付テハ採掘出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ試掘權者ニ對シテ優先權ヲ有ス

願書發送ノ日時ニ於テ試掘出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付テハ試掘出願ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セズ

第三十五條 採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

採掘權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ採掘權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ隣接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲増區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ隣接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利ヲ保護スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ鑛區圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第三十八條 第一項ノ規定ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十

日以内ニ出願ヲ爲ササルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セズ若ハ一箇年以上休業シタルトキハ鑛業權ヲ取消スルコトヲ得

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スルコトヲ得

第四十二條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ採掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依リ採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

採掘權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存続スルモノト看做ス

競賣ニ依リ賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權ニ對スル辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ採掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

採掘權者ハ施業案ニ依リニ非サレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命

スルコトヲ得
 前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ク
 ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
第四十六條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及
 鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督署長ニ
 差出スヘシ
第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル
 明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ
第四十八條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許
 可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
第四十九條 隣接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區
 ニ付鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得
 出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章 土地使用

第五十條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五
 十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關
 シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セ
 ル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ
第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ
 他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金
 ヲ總稱ス
第五十二條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲ニ必要アルトキハ鑛業ヲ
 出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署
 長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコ
 トヲ得
 前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入りラムトスルトキハ
 豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲ニ必要アルト
 キハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得
 前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ
 其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ
第五十四條 鑛業上急迫ノ危険ヲ防ク爲ニ必要アルトキハ鑛業
 權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り
 又ハ之ヲ使用スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滞ナク之ヲ土地占有者ニ通
 知スヘシ
第五十五條 第三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ
 對シテハ其ノ請求ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘシ
第五十六條 鑛業權者ハ左ニ掲クル目的ノ爲ニ必要アルトキハ
 他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得
 一 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ
 置場ノ設置
 二 鑛場、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ
 三 選鑛場又ハ製鍊場ノ建設
 四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道
 又ハ電線ノ開設
 五 其他鑛業上必要ナル工作物ノ施設
 前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルト
 キハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ
 鑛山監督署長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者
 及關係人ニ通知スヘシ
 前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得ス
 ル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ
第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形
 質ヲ變更スルトキハ其ノ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キ
 タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全
 部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關
 係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價
 格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償
 金ヲ拂渡スヘシ
第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、
 橋樑其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ
 必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作
 物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増
 置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督署長
 ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ
 關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス
第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタ
 ルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛
 業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ
 付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ
 判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキ
 ト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ
 供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得
第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔
 保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ルコ
 トヲ拒ムコトヲ得

第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權
 ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
 土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權
 者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セ
 ラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス
第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ
 原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ
 補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ
第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用
 又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ
 行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關ス
 ル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察

第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ
 依リ農商務大臣及鑛山監督署長之ヲ行フ
 一 建設物及工作物ノ保安
 二 生命及衛生ノ保護
 三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護
第七十二條 鑛業上危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリ
 ト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛
 業ノ停止ヲ命スヘシ
 急迫ノ危険ヲ防ク爲ニ必要アルトキハ鑛山監督署長ハ前項ノ
 處分ヲ爲スコトヲ得
第七十三條 農商務大臣ハ探掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ
 選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
 管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛夫

第七十五條 探掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ニ與フヘシ

第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女幼者ノ勞役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

金鑛、銀鑛、鉛鑛及鐵鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス

自己ノ探掘シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併

シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ探掘シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス

第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、探掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第三十五條 第一項ニ依ルモノヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ千分ノ五トス

第八十六條 鑛產稅ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモノハ之ヲ檢定ス

第八十七條 鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十八條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第八十九條 北海道、府縣及市町村ハ鑛產稅ニ對シ左ノ制限内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

一 北海道、府縣

試掘鑛區稅 千分ノ三十

探掘鑛區稅 千分ノ七十

鑛產稅 千分ノ二百

二 市町村

試掘鑛區稅 千分ノ三十

探掘鑛區稅 千分ノ七十

鑛產稅 千分ノ二百

前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴訟、訴訟及裁決

第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 土地ノ使用若ハ收用ノ補償金又ハ擔保ニ付協議ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十三條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ探掘シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ探掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ探掘シタル鑛物ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ

又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰前項ニ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第百條 第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免ハレムトシタル者ハ此ノ脱稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第百二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用キス

第百三條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スベキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故チ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第百五條 本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第百六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

第百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百八條 鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

第百九條 日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依リ探掘ノ特許ハ探掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第百十條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ探掘區域ハ探掘權區トシテ本法施行ノ日ニ於テ探掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第百十一條 鑛業條例ニ依リ探掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第百十二條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ探掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第百十四條 明治三十八年分ノ鑛區稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第百十五條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リ之ヲ適用セス

第百十六條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百十七條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第百十八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ探掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第百十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ探掘スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物探掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ探掘區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ探掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ探掘ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第百二十條 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ探掘スル者ハ同條但書ニ該當セサル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛區監督署長ニ届出ルトキハ其ノ届出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス

昭和六年法律第六十五號 鑛業法中改正法律施行期日ノ件

昭和七年十一月十一日 勅令第三百五十二號
昭和六年法律第六十五號ハ昭和七年分ノ鑛業稅及之ニ對スル附加稅ヨリ之ヲ施行ス

第四章 農山漁村經濟更生 農山漁村經濟更生計畫 助成規則

昭和七年十月六日 農林省令第三十號

第一條 農林大臣ハ農山漁村ノ經濟更生計畫ノ助成ヲ爲ス爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス

第二條 助成金ハ左ニ掲グル道府縣又ハ團體ノ費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ國庫ヨリ獎勵金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クベキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 農山漁村經濟更生ニ關スル委員會ヲ道府縣ニ設置スル爲要スル費用

二 農山漁村經濟更生ニ關スル事務ニ從事スル專任職員ヲ道府縣ニ設置スル爲要スル費用

三 農山漁村經濟更生計畫樹立ノ爲要スル町村又ハ町村農會其ノ他町村ノ區域ヲ地域トスル産業團體(特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村内ノ部落又ハ之ニ準ズル區域ヲ地域トスル産業團體)ノ費用ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

四 農山漁村經濟更生ヲ促進スル爲農會、水産會其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル産業團體ノ行フ經濟更生活動ノ爲要スル費用又ハ之ニ對シ交付スル道府縣ノ補助金

第三條 助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スベ

- 一 事業計畫書
- 二 收支豫算書
- 三 前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
- 第四條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者前條第一項ノ各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 第五條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績書及收支決算書ヲ翌年六月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スベシ
- 第六條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者助成金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハザル場合ニ於テ其ノ殘額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ翌年四月十五日迄ニ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 第七條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經山スベシ
- 第八條 助成金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ助成金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ
 - 一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
 - 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
 - 四 支出額ガ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第三條中二月末日迄トアルハ昭和七年度ニ限り十一月十五日迄トス

●農山漁村經濟更生計畫 二關スル件

昭和七年十月六日
農林省訓令第二號

農山漁村疲弊ノ現狀ニ鑑ミ其ノ不況ヲ匡救シ産業ヲ振興ヲ圖リテ民心ノ安定ヲ策シ進ンデ農山漁村ノ更生ニ努ムルハ刻下緊急ノ要務タリ

政府ハ曩ニ之ガ救済ニ關スル應急的匡救策ヲ樹テ今ヤ其ノ實行ニ付キ最善ノ努力ヲ竭シツツアリト雖モ之等ノ施設ヲシテ當面ノ一時的效果ニ止マラシメズ農山漁家ノ經濟生活ヲ安定セシメ更ニ將來ニ向ツテ其ノ福利ヲ増進セシムルガ爲ニハ現下農村疲弊ノ由來セル素因ガ當ニ輓近内外經濟界ノ異常ナル不況ニ職由スルノミナラズ深ク農村經濟ノ運營及組織ノ根柢ニ横ハルモノアル實狀ヲ明ニシ農山漁家ノ自醒ヲ促スト共ニ其ノ禍因ノ艾除ニ努力セシムルノ要アリ之ガ爲ニハ農林省ニ於ケル固有ノ美風ノ隣保共助ノ精神ヲ活用シ其ノ經濟生活ノ上ニ之ヲ徹底セシメ以テ農山漁村ニ於ケル産業及經濟ノ計畫的組織的刷新ヲ企圖セザルベカラズ

政府ガ今回新ニ農林省ニ經濟更生部ヲ設置シ經濟更生計畫ニ關スル諸般ノ方策ヲ實施セントスルノ趣旨モ亦茲ニ存ス其ノ綱要トスル所ハ單ニ農林漁業各個ノ經營技術ノ改善ヲ指導普及スルニ止マラズ農山漁村經濟全般ニ亘リ計畫的且組織的ニ整備改善ヲ圖ルニ在リ就中農林經營ノ基本要素ノ整備活用、生産販賣購買ノ統制、金融ノ改善、産業組合ノ刷新普及、

産業諸團體ノ連絡統制、備荒共濟施設ノ充實等ハ其ノ主要ナル事項ニ屬ス而シテ之等ニ關シ指導上必要ナル具體的方針ニ關シテハ今後隨時指示スル所アラントス

今ヤ各地方自奮更生ノ意氣熾ナルモノアリ此ノ秋叙上ノ趣旨ノ徹底ヲ圖リ農山漁村ヲシテ其ノ經濟更生ニ邁進セシムルハ眞ニ恰好ノ機會ナリトス然リト雖モ此ノ事タルヤ永年ニ亘リ逐次其ノ效果ヲ收ムベキモノナルヲ以テ計畫ノ當初ニ於テ一歩ヲ誤ランカ徒ラニ畫餅ニ歸スルノ虞アリ仍テ地方當局ニ於テハ經濟更生計畫ノ當事者ヲシテ素リニ理想ニ走ラズ性急ニテハ經濟更生計畫ノ當事者ヲ得堅實適切ナル計畫ノ樹立實行ヲ爲サシムルト共ニ他面之ニ參畫スベキ各種産業團體ニ對シテハ其ノ本質ニ應ズル分野ニ於テ充分其ノ機能ヲ發揮セシムル様指導督勵セラレベク更ニ又精神教化運動ノ連絡協調ヲ密ニシ官民一致大ニ自奮更生ノ民風ヲ興起シ組織的統制的地方經濟生活ノ整備振作ヲ圖リ以テ農山漁村更生ノ目的達成上遺憾ナキヲ期セラレベシ

昭和七年十月七日

農林大臣 後藤 文夫

●農山漁村經濟更生督勵 二關スル件

昭和八年十月六日
農林省訓令第四號

政府ハ農山漁村ノ不況匡救ノ爲昨年來臨時應急ノ施設ヲ講ズルト共ニ其ノ困憊ノ根本原因ヲ艾除シ將來ニ向ツテ其ノ福利

農林大臣 後藤 文夫

●農村經濟更生中央委員會規程

昭和七年十一月十六日官報

- 第一條 農村經濟更生中央委員會ハ農林大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ農村經濟更生ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス
- 第二條 委員會ハ會長一人及委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 第三條 會長ハ農林大臣ヲ以テ之ヲ充ツ
委員及臨時委員ハ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ農林大臣之ヲ命ジ又ハ囑託ス
- 第四條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ農林大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 委員會ニ幹事若干名ヲ置ク農林大臣之ヲ命ジ又ハ囑託ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第六條 委員會ニ書記ヲ置ク農林大臣之ヲ命ズ
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

●農村負債整理組合法

昭和八年三月二十八日
法律第二十一號

第一章 總則

- 第一條 本法ハ農山漁村ニ居住スル者ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ精神ニ則リ其ノ者ヲシテ負債整理組合ヲ組織セシメ組合ノ樹立シタル負債整理計畫及經濟更生計畫ヲ履行セシメ以テ其ノ負債ノ整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トス
- 第二條 本法ニ於テ負債トハ負債整理組合員ノ負擔スル私法上ノ金錢債務ニシテ組合設立前ニ生ジタルモノヲ謂フ但シ本法施行後ニ生ジタルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル
- 第三條 負債整理組合ノ組合員本法ニ依リ負債整理ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ負債整理組合ニ對シ其ノ旨ヲ申出ツベシ
- 負債整理組合前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其ノ他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ニ付斡旋ヲ爲スベシ
- 第四條 前條ノ斡旋ニ依リ協定成ラザル負債ニ付テハ負債整理組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村負債整理委員會ニ對シ其ノ協定ノ斡旋ヲ請求スルコトヲ得
- 市町村負債整理委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 前條ノ市町村負債整理委員會ノ斡旋ニ依リ協定成ラ

- 第一條 農山漁村ニ居住スル者ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ精神ニ則リ其ノ者ヲシテ負債整理組合ヲ組織セシムルコトヲ目的トス
- 第二條 負債整理組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
- 第三條 第一項ノ規定ニ依リ負債整理ノ申出アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依リ調停事件繫屬スルトキハ裁判所又ハ調停委員會ハ第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依リ斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得
- 第六條 第三條第一項ノ規定ニ依リ負債整理ノ申出アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依リ調停事件繫屬スルトキハ裁判所又ハ調停委員會ハ第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依リ斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得
- 第七條 負債整理組合ヨリ負債整理資金ノ貸付ヲ受ケタル組合員其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル負債整理組合ノ不動産其ノ他ノモノノ取得ニ關シテハ地方稅課スルコトヲ得ズ
- 第八條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケ第十一條ノ事業ヲ行フモノハ本章ノ適用ニ關シテハ之ヲ負債整理組合ト看做ス但シ第二條中組合設立前トアルハ行政官廳ノ認可前トス
- 第九條 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
期間ハ本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十條 負債整理組合員ハ組合ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ精神ニ則リ組合員ヲシテ其ノ負債整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トス
- 第十一條 負債整理組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

第二章 負債整理組合

- 一 組合員ノ負債償還計畫及經濟更生計畫ノ樹立
- 二 債務者タル組合員及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋
- 三 組合員ニ對スル負債整理資金ノ貸付
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外組合員ノ負債整理ニ必要ナル事業
- 負債整理組合ハ組合員ガ負債整理ノ爲其ノ所有地ヲ處分スル場合ニ於テ組合員タル小作人其ノ他ノ者ガ其ノ土地ヲ購入セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 負債整理組合ハ法人トス
- 第十三條 負債整理組合ハ一定ノ地區内ニ居住スル者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第十四條 負債整理組合ノ組織ハ無限責任及保證責任ノ二種トス
無限責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ連帶責任ヲ負擔シ保證責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額保證金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス
- 第十五條 負債整理組合ヲ設立セントスルトキハ設立者ハ規約ヲ作成シ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ
- 規約ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ニ掲グル事項ヲ

記載シ設立者之署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 名目
- 二 組織
- 三 事務所所在地
- 四 組合員ノ加入脱退ニ關スル規定
- 五 事業ノ執行ニ關スル規定
- 六 役員ニ關スル規定
- 七 損失分擔ニ關スル規定
- 八 組合ガ公告ヲ爲ス方法
- 九 在立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
- 十 無限責任ノ組合ニ在リテハ組合費ノ分擔ニ關スル規定
- 十一 保證責任ノ組合ニ在リテハ出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法並ニ保證金額ニ關スル規定
- 十二 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 十三 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十四 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十五 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十六 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十七 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十八 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第十九 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十一 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十二 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十三 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十四 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十五 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十六 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十七 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十八 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第二十九 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十一 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十二 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十三 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十四 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十五 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十六 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十七 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十八 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第三十九 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十一 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十二 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十三 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十四 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十五 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十六 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十七 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十八 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第四十九 本法施行ノ日ヨリ三年間トス
- 第五十 本法施行ノ日ヨリ三年間トス

前項ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第十八條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十九條 負債整理組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セズ

第二十條 負債整理組合ノ設立登記ノ申請書ニハ無限責任ノ組合ニ在リテハ産業組合法第十六條ノ五第一項第三號ニ掲グル事項ヲ、保證責任ノ組合ニ在リテハ同條同項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項ヲ記載シタル組合原簿ヲ添付スベシ

第二十一條 組合員ノ加入ニ因ル變更登記ノ申請書ニハ無限責任ノ組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任ノ組合ニ在リテハ加入者ノ氏名、住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ添付スベシ

第二十二條 第十七條第三項及第十八條並ニ産業組合法第十六條ノ四第一項及第十六條ノ五第二項ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス但シ同法第十六條ノ四第一項中地方長官トアルハ事務所所在地ノ登記所トス

第二十三條 負債整理組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ヲシテ組合ノ負債償還ノ一部ニ充ツル爲積立金ヲ醸出セシムルコトヲ得

第二十四條 前項ノ積立金ノ管理、處分其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 負債整理組合ノ組合員ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總組合員三分ノ二以上ノ同意アルニ非ザレバ脱退スルコトヲ得ズ

第二十六條 脱退シタル組合員ハ脱退前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付第十條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第二十三條 負債整理組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦第十四條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第三章 負債整理事業資金特別

融通及損失補償

第二十四條 産業組合法第三條、第四條、第六條、第七條、第二十三條、第二十五條乃至第三十一條ノ二、第三十二條乃至第三十八條、第三十九條、第四十九條、第六十條第一項(清算ニ關スル規定ヲ除ク)、第六十條ノ二、第六十一條(清算ニ關スル規定ヲ除ク)、第六十二條、第六十五條、第六十八條、第六十九條、第七十四條ノ二第一項及第九十三條ノ二、民法第四十七條、第四十八條、第六十條、第七十三條乃至第八十二條及第八十四條第一號並ニ非訟事件手續法第三十五條第二號、第三十六條、第三十七條ノ二、第七十七條、第九十九條乃至第一百二十二條、第三百六條乃至第七百三十八條、第四百二十二條、第四百三十三條、第四百四十七條乃至第五百五十七條、第七百五十五條乃至第七百七十七條及第七百六條乃至第七百八條ノ規定ハ負債整理組合ニ之ヲ準用ス但シ産業組合法第九十三條ノ二中三百圓トアルハ二百圓トシ民法第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ二週間トス

第二十五條 産業組合法第十一條、第十二條、第十七條第一項、第十八條乃至第二十一條、第四十條乃至第四十二條、第四十五條、第四十八條、第五十三條、第五十六條及第五十七條ノ規定ハ保證責任ノ負債整理組合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 負債整理組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ハ之ヲ適用セズ

第二十六條 市町村ハ負債整理事業ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ負債整理組合又ハ第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 市町村ガ前條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ五年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十八條 北海道府縣ハ第二十六條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失ヲ受ケタルトキ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以内ノ金額(損失補償金)ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ前條ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ其ノ補償金額ノ半額ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得但シ補給金ノ總額ハ三萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十一條 第三十條ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テ北海道府縣ノ損失補償金中其ノ四分ノ一ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テ負擔スベキ旨ヲ定ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 第三十六條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村ノ受ケタル損失及其ノ額ハ負債整理事業資金特

別融通損失審査會之ヲ決定ス
 負債整理事業資金特別損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十二條 第二十九條ノ契約ニ基キ政府ガ北海道府縣ニ對シテ支拂フベキ補給金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得
第三十三條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得
第三十四條 本法ニ依リ交付スル國庫債券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**●農村負債整理組合法
 施行期日ノ件**

昭和八年七月二十九日
 勅令第二百四號
 農村負債整理組合法ハ昭和八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●農業動産信用法

昭和八年三月二十八日
 法律第三十號

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ農業トハ耕作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務ヲ謂フ
 水産動植物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務及之ニ附隨

スル業務ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ農業ト看做ス
第二條 本法ニ於テ農業用動産トハ農業ノ經營ノ用ニ供スル動産ヲ謂フ
第三條 本法ノ先取特權又ハ農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人ニ限ル
第二章 農業經營資金貸付ノ先取特權
第四條 信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ガ農業ヲ爲ス者ニ對シ左ニ掲グル行爲ヲ爲スニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ其ノ債權ノ元本及利息ニ付債務者ノ特定財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス
 一 農業用動産又ハ農業生産物ノ保存
 二 農産物又ハ肥料ノ購入
 三 蠶種又ハ桑葉ノ購入
 四 薪炭原木ノ購入
 五 命令ヲ以テ定ムル水産養殖用ノ種苗又ハ餌料ノ購入
 六 前項ノ法人ガ農業實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シ其ノ農業用動産ヲ保存シ又ハ購入スル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ
第五條 農業用動産保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル農業生産物ヲ保存シタル農業用動産ノ上ニ存在ス
第六條 農業用動産購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル農業用動産ノ上ニ存在ス
第七條 種苗又ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル

ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス尙桑樹ノ肥料購入資金貸付ノ先取特權ニ在リテハ其ノ果實タル桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス
第八條 蠶種又ハ桑葉ノ購入資金ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル蠶種又ハ桑葉ノ上ニ存在ス
第九條 薪炭原木購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル薪炭原木ヨリ生産シタル薪炭ノ上ニ存在ス
第十條 水産養殖用種苗購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗ヲ養殖シタル物ノ上ニ存在ス
第十一條 水産養殖用餌料購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル餌料ヲ用ヒテ養殖シタル物ノ上ニ存在ス
第十二條 農業生産物ノ保存資金貸付ノ先取特權ハ農業用動産又ハ動産買入ノ先取特權トハ薪炭原木ノ購入資金貸付ノ先取特權トハ動産買入ノ先取特權トハ種苗若ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權トハ水産養殖用種苗若ハ餌料ノ購入資金貸付ノ先取特權トハ種苗肥料供給ノ先取特權ト看做ス
第三章 農業用動産ノ抵當權
第十三條 農業用動産ハ農業用動産ノ抵當權ノ得喪及變更ハ其ノ登記ヲ爲

スニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
 前項ノ規定ハ登記ノ後ト雖モ民法第九十二條乃至第九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケズ
第十四條 抵當權ノ口約タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ讓受人ニ對シ抵當權ノ存在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス
第十五條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス
第十六條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者ガ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滞ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス
第十七條 抵當權ノ目的タル農業用動産ニ付第三者ガ差押ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス
第十八條 先取特權ト農業用動産ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ掲グル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス
第十九條 農業用動産ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四章 罰 則
第二十條 抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ於テハ刑法ニ依ル
第二十一條 抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ該動産ニ關シ讓渡、質入其他抵當

區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス
第十條ノ二 法人ハ産業組合ノ組合員タルコトヲ得ス但シ農業實行組合、養蠶組合其ノ他命令ヲ以テ定ムル法人ハ此ノ限ニ在ラス
 前項但書ノ法人ノ産業組合ノ組合員ト爲ルニ付必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十條ノ三 農事實行組合ハ一定ノ地區内ノ農業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 農事實行組合ハ法人トス
第十條ノ四 蠶絲業組合法第二十條乃至第二十六條及第四十條ノ規定ハ農事實行組合ニ之ヲ準用ス
第十條ノ五 組合員タル法人カ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テハ法人ノ組合員ノ全員ハ其ノ法人カ産業組合ニ對シ負擔スル一切ノ債務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス
第十條ノ六 組合員タル法人ハ其ノ組合員カ脱退シタルトキハ遲滞ナク産業組合ニ之ヲ通知スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ脱退シタル組合員モ亦其ノ通知ヲ爲スコトヲ得
第十條ノ七 組合員タル法人ノ組合員カ其ノ法人ヨリ退脱シタル場合ニ於テハ脱退シタル組合員ハ前條ノ脱退ノ通知前ニ生シタル法人ノ産業組合ニ對スル債務ニ付其ノ脱退ノ通知後二箇年間第十條ノ五ノ規定ニ依リ責任ヲ負擔ス
第十條ノ八 組合員タル法人ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル法人ノ産業組合ニ對スル債務ニ付テモ亦第十條ノ五ノ規定ニ依リ責任ヲ負擔ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ
第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ
第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ
第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ
 一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
 二 設立ノ許可ノ年月日
 三 理事及監事ノ氏名、住所
 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第十五條 行政區劃又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ノ記載ハ變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルヲ妨ケス
第十六條 民法第四十五條第二項第三項及第四十八條ノ規定ハ期間ヲ除クノ外産業組合ニ之ヲ準用ス
第十六條ノ二 第十二條ノ拂込アリタルトキハ組合員ハ二週間内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出テ同時ニ組合原簿ヲ提出スヘシ
 前項ノ規定ニ依リ届出及提出アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク各事務所ノ所在地ノ登記所ニ設立ノ登記ヲ囑託シ且主タル事務所ノ所在地ノ登記所ニ組合原簿ヲ送付スヘシ
第十六條ノ三 第十四條第一項ニ掲ケタル事項中變更ヲ生シタルトキハ組合員ハ二週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スヘキ事項ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ登記ノ事由カ地方長官ノ認可其ノ他ノ處分ニ因リテ生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ届出アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク各事務所ノ所在地ノ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スヘシ前項但書ノ場合亦同シ
第十六條ノ四 組合ハ主タル事務所ノ移轉又ハ組織變更ニ關スル登記ヲ爲スト同時ニ組合原簿ヲ地方長官ニ提出スヘシ但シ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 地方長官ハ主タル事務所ノ所在地ノ登記所ニ前項ノ登記ヲ囑託スルト同時ニ組合原簿ヲ送付スヘシ

ニ付テハ總組合員ノ同意ヲ以テ定款ニ之ヲ定メタル場合ニ限ル
第三章 組合員ノ權利義務
第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ
 組合員ノ有スヘキ出資口數ハ三十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ五十口迄之ヲ增加スルコトヲ得
第十八條 組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス
第十九條 組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス
 組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ
第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス
第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス
第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス
第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得
第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ヲ取消シ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第十六條ノ五 組合原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 出資ノ總口數
 二 拂込ミタル出資ノ總額
 三 無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所
 四 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名、住所及保證金額
 登記所ノ受理シタル原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス
第十四條第二項及第十五條ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス
第十六條ノ六 第十六條ノ三ノ規定ハ組合原簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス
 組合員ノ加入ノ場合ニ於テハ無限責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任組合ニ在リテハ加入者ノ氏名、住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ加入ノ日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ提出シ地方長官ハ遲滞ナク之ヲ主タル事務所所在地ノ登記所ニ送付スヘシ
 組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ届出又ハ組合原簿ノ提出ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ事業年度ノ終ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ組合員ノ脱退又ハ保證金額ノ減少

第四章 管理
第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半数以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

第三十條 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 各組合員ノ氏名、住所
- 二 各組合員ノ出資口數
- 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
- 四 出資各口ノ取得ノ年月日
- 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第三十二條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

第三十三條 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十四條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十五條 產業組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

第三十六條 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到着シタルモノト看做ス

第三十七條 理事ハ少クトモ毎事業年度一回通常總會ヲ開クコトヲ要ス

第三十八條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條及第六十一條第一項ノ規定ハ產業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十九條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第四十條 民法第五十九條ノ規定ハ產業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第四十一條 理事カ第二十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會ヲ召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ召集スヘシ

第四十二條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ノ理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第四十三條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十四條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第四十五條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ產業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總會ヲ設クルコトヲ得

第三十九條 總會ニ關スル規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第四十一條 定款ノ變更ハ地方官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十二條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

第四十三條 組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シテ異議アラハ一定ノ期限内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ニ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十四條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

第四十五條 債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨償ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十六條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ相當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ但シ取扱ヒタル物ノ數量價格其ノ他事業ノ分量ニ對シテ相當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 組合員ニ相當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ

第四十八條 前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム

第四十九條 第一條第四項ノ規定ニ依ル貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻金ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第五十條 有限責任又ハ保證責任ノ組合第一條第四項ノ規定ニ依リ時金ニ關スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辨償スルノ責ニ任ス

第五十一條 前項ノ規定ニ依ル理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存續ス

第五十二條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス但シ定款ヲ以テ六箇月ト爲スコトヲ得

第五十三條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五十四條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第五章 加入及脱退

第四十九條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合

員ノ同意アルコトヲ要ス
 前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラ
 ハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告
 スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサル
 者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問
 ハス組合員ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シ事業年度ノ終ニ於テ脱
 退スルコトヲ得但シ第四十七條但書ノ規定ニ依リ事業年度
 ヲ六箇月ト爲シタル組合ニ在リテハ豫告ハ三箇月前ニ之ヲ
 爲スヲ以テ足ル

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二
 箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ依リ脱退ス
 一 組合員タル資格ノ喪失
 二 死亡
 三 破産
 四 禁治産
 五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
 除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ
 通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ
 得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ
 分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業
 年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定
 ムル所ニ依リ脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ
 爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月
 内ニ之ヲ爲スヘシ
 持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハ
 サルニ因リテ消滅ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ
 債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ
 負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済ス
 ル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シ
 タル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合原
 簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依ル期間ハ總組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ
 以テ之ヲ延長スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セ
 サル限り之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條
 及第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及北海道廳支廳
 長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事又ハ清算人ヲシテ組合
 ノ事業、財産又ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲サシメ組合ノ
 事務、財産又ハ清算事務ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要
 ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
 監督官廳ハ組合清算ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ組合

ニ對シ其ノ財産ノ供托ヲ命スルコトヲ得
第六十條ノ二 理事ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ
 地方長官ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業
 ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款又ハ
 法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スル虞アルトキハ主務大臣又
 ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ理事、監事、清算人ノ改
 選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ
 得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス
 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
 二 總會ノ決議
 三 組合ノ合併
 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
 五 組合ノ破産

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ニ之ヲ準用ス但シ無限責任
 組合カ合併セントスルトキ又ハ保證責任組合若ハ有限責任
 組合カ合併ニ因リテ組織變更ト同一ノ結果ヲ生スヘキトキ
 ハ其ノ合併ニ付總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條 組合定款ニ定メタル存立時期ノ滿了ニ因リ
 テ解散シタル場合ニ於テハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ
 以テ組合ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ存立時期滿
 了ノ日ヨリ一箇年内ニ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ繼續ニ同意セサル組合員ハ組合繼續ノ時ニ於テ脱退
 シタルモノト看做ス
第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除

タノ外各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ
第六十四條 第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ
 準用ス

第六十三條ノ二 合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ
 定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シ
 タル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ選任ニ之ヲ準用ス
第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之
 ヲ準用ス

第六十五條 總會ノ決議ニ因リ解散又ハ合併ハ地方長官ノ認
 可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ各事務所ノ所在地
 ニ於テ合併後存続スルニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ
 因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ
 因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタ
 ル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス
第六十八條 組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更ス
 ルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四
 十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ
第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準
 用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權
 利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供托スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務ヲ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十五條 重要ナル事由アルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十六條 清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ヲ登記スヘシ

第七十七條 第十四條第二項及第十六條ノ三ノ規定ハ清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第七十八條 清算決了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第七十九條 第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十條 民法第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

第九章 産業組合聯合會及産業組合

中央會

第七十六條 産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

- 一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合聯合會)
 - 二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合聯合會)
 - 三 所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ之ニ加工セシメテ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト(購買組合聯合會)
 - 四 所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト(利用組合聯合會)
- 産業組合聯合會ハ産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス但シ信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行フ聯合會ヲ以テ、販賣組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行ハサル産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得
- 第七十六條** 信用組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道殖産銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ信用組合聯合會ハ銀行又ハ産業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得
- 第七十七條** 道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬組合又ハ所屬聯合會ニ對シ手形ノ割引ヲ爲スコトヲ得
- 第七十八條** 産業組合聯合會ハ社団法人トス
- 第七十九條** 産業組合聯合會ノ組織ハ保證責任トス
- 第八十條** 産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任ハ其ノ出資總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第八十一條** 産業組合又ハ産業組合聯合會ハ産業組合聯合會ニ加入シ又ハ脱退セントスルトキハ總會ノ決議ニ依ルヘシ
- 第八十二條** 前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條 産業組合聯合會ノ區域ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスル二個以上ノ産業組合聯合會ヲ合併セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十條 産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ理事及監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八十一條 産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ有スヘキ出資口數ハ百口ヲ超ユルコトヲ得但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ五百口迄之ヲ増加スルコトヲ得

第八十二條 産業組合聯合會ニハ本章ニ規定アルモノ及第十條ノ五乃至第十條ノ八ノ規定ヲ除クノ外産業組合ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第七條中七人以上トアルハ之ヲ二人以上トシ第六十二條第一項第四號中七人未滿トアルハ之ヲ二人未滿トス

第八十三條 産業組合中央會ハ産業組合及産業組合聯合會ノ普及發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ設立スルコトヲ得

産業組合中央會ハ社団法人トス

産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十四條 産業組合中央會ノ名稱中ニハ産業組合中央會ノ文字ヲ用フヘシ

- 産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合中央會タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得
- 第八十四條** 産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一個トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八十五條** 産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得
- 前項以外ノ者ト雖モ定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得
- 第八十六條** 産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 名稱
 - 二 事務所
 - 三 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
 - 四 會員ノ權利義務ニ關スル規定
 - 五 資産ニ關スル規定
 - 六 役員ニ關スル規定
 - 七 會議ニ關スル規定
 - 八 事業ノ執行ニ關スル規定
 - 九 定款ノ變更ニ關スル規定
 - 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
 - 十一 定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス
- 第八十七條** 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主務大臣ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ
- 登記スヘキ事項左ノ如シ

産業組合中央金庫法

大正十二年四月五日 法律第四十二號

昭和六年五月法律第六三號、同七年九月同第三一號改正

第一章 總 則

- 第一條 産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
- 第二條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 産業組合中央金庫ハ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得
- 第四條 産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得
- 第五條 産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得
- 第六條 産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬圓ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス
- 第七條 産業組合中央金庫ハ資本金全額ノ拂込前ト雖モ出資者總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ增加スルコトヲ得
- 第八條 政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得
- 第九條 産業組合聯合會ノ有スヘキ出資口數ハ千口ヲ、産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ五百口ヲ超ユルコトヲ得

テハ本法施行ノ日ヨリ五箇年ヲ限リ第二條第一項但書及第七十七條ノ改正規定ニ依ラス仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 前條ノ組合ハ同條ノ期間内ニ總會ニ於テ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テスル決議ニ依リ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

第四條 附則第二條ノ組合又ハ聯合會ニシテ同條ノ期間内ニ其ノ組織ヲ變更シテ左ニ掲クル組織ト爲ササルモノハ其ノ期間満了ノ日ニ於テ解散ス

第五條 聯合會ニ在リテハ保證責任又ハ無限責任

第六條 第十條ノ改正規定ニ依リ産業組合員タルコトヲ得サル法人ニシテ本法施行ノ際現ニ産業組合ノ組合員タルモノハ當分ノ内仍其ノ組合員タルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十條ノ五乃至第十條ノ八ノ規定ヲ適用セス

第七條 蠶絲業組合法第二十三條第二項第一號中「第一號乃至第三號、第十號及第十一號」ヲ「第一號、第二號及第四號」ニ改メ同條同項中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トシ第四號ヲ第三號トス

第八條 蠶絲業組合法第二十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

第九條 蠶絲業組合法第二十七條中「一週間トアルハ之ヲ二週間トス

有スヘキ出資口數ハ五百口ヲ超ユルコトヲ得

第六條 政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス

第七條 政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間に其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

第八條 産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 産業組合中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノ及産業組合法第十條ノ五乃至第十條ノ八ノ規定ヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第十條 産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第三章 業 務

- 第十三條 産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス
 - 一 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト
 - 二 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ三十箇年以内ノ年賦償還貸付ヲ爲スコト但シ其ノ金額ハ拂込出資金及産業債券發行額ノ二分ノ一ヲ超ユサルモノトス
 - 三 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト
 - 四 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト
 - 五 産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト
 - 六 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ有價證券ノ保護預リヲ爲スコト
 - 七 所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ有價證券ノ委託賣買ヲ爲スコト
- 第十四條 産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於

第二章 役 員

- 第九條 産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事、監事各三人以上ヲ置ク
- 第十條 理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス
- 第十一條 副理事長ハ理事事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
- 第十二條 副理事長及理事ハ理事長ヲ補佐シ定款ニ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス
- 第十三條 監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス
- 第十四條 理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號乃至第三號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條 産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國庫證券、地方債券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入ヲ爲スコト

二 大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ヲ爲スコト

三 産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

前項ノ餘裕金運用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 産業債券

第十七條 産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第十八條 産業債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條 産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十七條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇

月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十條 産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 産業債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五箇年利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條 産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第二十三條 産業組合中央金庫ノ事業年度ハ六箇月トス

第二十四條 産業組合中央金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第五節 計算

第六章 監督及補助

第二十五條 主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農林大臣及大藏大臣トス

第二十六條 産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條 産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度内ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十一條 主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ

第三十二條 産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ監視上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ産業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

産業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十三條 産業組合中央金庫ハ創立當初ヨリ十五箇年間政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ産業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三 第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第十七條第一項及第十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十六條 主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル出資者ヲ募集ス

第三十八條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十九條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

第四十條 産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (昭和七年九月法律第三一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第二十三條ノ改正規定ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(昭和七年九月勅令第二七七號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

第六章 重要物産同業組合

重要物産同業組合法

明治三十三年三月六日 法律第三十五號

第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

〔沿革〕 大正五年三月法律第一五號改正

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此限ニ在ラズ

第五條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

第六條 同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 同業組合及同業組合聯合會ハ法人トシテ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組長 一名
 一 副組長 一名
 一 評議員 若干名
 一 前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ

農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ必要アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

第九條 組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔比ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ補佐シ組長故障アルトキ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應ジ及業務施行ノ狀況ヲ監督スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

第十條 同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査員ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十一條 前條第一項ノ検査ヲ行フ同業組合及同業組合聯合會ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ

検査員ノ選任及解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ前條ノ検査員ノ職務ニ關スル規程ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 農商務大臣ハ重要輸出品ニ關スル同業組合又ハ同業組合聯合會ノ申請アルトキ又ハ必要ト認ムルトキハ其ノ役員又ハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル役員ノ解任ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

重要輸出品ノ種類ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第十四條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收法ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ

受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ毎年少クトモ一回組合員ニ公示シ

第十五條 農商務大臣ニ報告スヘシ

第十六條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮問アルトキハ答申スヘシ

第十七條 農商務大臣ハ同業組合又ハ同業組合聯合會ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ經費ノ豫算又ハ其ノ徵收法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類若ハ定款ノ變更ヲ命シ又ハ同業組合聯合會ヘノ加入若ハ同業組合聯合會ヨリノ脱退ヲ命スルコトヲ得

第十九條 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 同業組合若ハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二 役員ノ解職

三 決議ノ取消

第二十條 同業組合若ハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條 第四條ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 同業組合及同業組合聯合會ノ役員第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ命令ニ違背シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處スヘシ

第二十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ役員検査員其ノ他事務ニ從事スル者正當ノ理由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ本法ニ依リ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ之ヲ忌避シタルトキ又ハ職務ノ執行ヲ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十三條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十五條 前條第一項ニ掲ケル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰

金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
第二十條ノ四 第二十條ニ掲クル罪ハ刑法第三條ノ例ニ第二十條ノ二ニ掲クル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正五年勅令第百二十三號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)
本法施行前選任セラレタル検査員ニ付テハ本法施行後一月内ニ其ノ選任ノ認可ヲ申請スヘシ
前項ノ期間内ニ認可ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ期間満了ノ日、申請ニ對シ不認可ノ指令アリタルトキハ其ノ指令ノ日ニ於テ検査員ハ解任セラレタルモノト看做ス
検査員ハ前項解任ノ日迄前ノ例ニ依リ職務ヲ行フコトヲ得
前三項ノ規定ハ本法ニ依リタル他ノ法律ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ニ關シ之ヲ準用ス

刑法施行法第二十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム
二 削除

重要物産同業組合法施行規則

大正五年五月二十五日
農商務省令第八號

〔沿革〕 大正七年七月農商務省令第二四號、同九年八月同第二五號改正

- 第一條 同業組合ノ名稱中ニハ同業組合ナル文字ヲ用フヘシ同業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ同業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス
- 第二條 組合ノ地區ハ一郡市以上一府縣以下ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 組合ヲ設立セムトスルトキハ五名以上ノ營業者發起人ト爲リ組合地區ヲ管轄スル地方長官ニ發起ノ認可ヲ申請スヘシ
- 前項ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
 - 一 組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類
 - 二 組合ノ地區
 - 三 組合ノ目的及業務ノ概目
 - 四 組合設置ノ事由
 - 五 組合員タルヘキ者ノ數但シ組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ其ノ營業ノ種類毎ニ之ヲ區別スヘシ
- 第六條 組合ノ創立費及收支ノ概算
- 第四條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ組合員タルヘシ

者ニ前條第二項ニ掲クル事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

第五條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遅滞ナク創立總會ヲ召集スヘシ

創立總會ヲ召集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第六條 通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第七條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類二種以上ナルトキハ前項ノ同意ハ種類毎ニ三分ノ二以上ナルコトヲ要ス

第八條 創立總會ニ於テハ役員ヲ選舉シ最初ノ事業年度ノ經費ノ豫算及徵收法ヲ議決スヘシ

第九條 組合ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十條 第十九條第一項、第二十條、第二十二條第二項第三項及第二十七條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第十一條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

第十二條 發起人發起ノ認可アリタル後一年内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十三條 農商務大臣組合ノ設置ヲ命シタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ其ノ氏名及住所ヲ公告スヘシ創立委員ハ定款ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

組合ノ設置アリタルトキハ創立委員ハ遅滞ナク組合員ノ總會ヲ召集スヘシ
第五條第二項、第七條、第八條、第十九條第一項、第二十二條及第二十二條第二項第三項ノ規定ハ前項總會ニ之ヲ準用ス

第十三條 組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 名 業 務 的
- 二 地 區 及 組 合 員 ノ 營 業 ノ 種 類
- 三 主 要 事 務 所 及 從 事 事 務 所 ノ 所 在 地
- 四 組 合 員 ノ 加 入 及 脫 退 ニ 關 ス ル 規 定
- 五 組 合 員 ノ 權 利 義 務 ニ 關 ス ル 規 定
- 六 役 員 ノ 定 數 權 限 及 任 免 ニ 關 ス ル 規 定
- 七 業 務 ノ 施 行 ニ 關 ス ル 規 定
- 八 會 議 ニ 關 ス ル 規 定
- 九 仲 裁 判 斷 又 ハ 調 停 ヲ 爲 ス 組 合 ニ 在 リ テ ハ 之 ニ 關 ス ル 規 定 ヲ 定 款 ニ 記 載 ス
- 十 聯 合 會 ヲ 組 織 ス ル 組 合 ノ 定 款 ニ ハ 代 表 員 ノ 選 舉 ニ 關 ス ル 規 定 ヲ 記 載 ス
- 十一 記 載 ス
- 十二 記 載 ス
- 十三 記 載 ス
- 十四 記 載 ス
- 十五 記 載 ス

第十六條 組合ノ業務ハ組合會ノ決議ニ依リ組長之ヲ行フ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 組長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度少クとも一回一定ノ時期ニ於テ組合會ヲ召集スヘシ

組長必要ト認ムルトキハ組合會ヲ臨時ニ召集スルコトヲ得

代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ召集ノ理由ヲ示シ組合會ヲ召集ヲ請求シタルトキハ組合會ハ之ヲ召集スヘシ

評議員會カ第二十四條第二號ノ規定ニ依リ報告ヲ爲ス爲組合會ヲ召集ヲ請求シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ組合會ヲ召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ召集スルコトヲ得

第十八條 組合會ヲ召集スルニハ少クとも一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シテ定款ノ定ムル方法ニ依リ其ノ通知ヲ發スヘシ

組合會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ期間ハ定款ノ規定ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十九條 組合會ニ於テハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

前項ニ定メタル員數ノ代議員出席セサルトキハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各代議員ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一月内ニ第二回ノ組合會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二回ノ組合會ニ於テハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第二十條 組合會ノ議決ハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ爲スヘシ

第二十一條 組合會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ組長ハ書面ニ依リ代議員ノ表決ヲ以テ組合會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第二十二條 定款ノ變更ハ組合會ニ於テ代議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

地區又ハ組合員ノ營業ノ種類ノ増減ニ關スル定款ノ變更ハ前項ノ決議ノ外編入又ハ削除セラルヘキ區域若ハ營業ノ種類ニ屬スル組合員タルヘキ者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

定款變更ノ認可申請書ニハ其ノ變更ノ理由ヲ記載シタル書面及決議録ノ謄本並第二項ノ場合ニ於テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添付スヘシ

第二十三條 組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得

總會ニ於ケル各組合員ノ表決權ハ平等トス

總會ニ出席セサル組合員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第二十四條 組合ニ關スル規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第二十五條 組合ニ評議員會ヲ置ク但シ組合員少數ナル組合ニ在リテハ評議員會ヲ置カサルコトヲ得

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十六條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一 組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト

二 組合ノ財産及業務ノ狀況ヲ監査シ毎事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト

三 組長ノ諮詢ニ應スルコト

四 其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項

第二十五條 評議員會ハ組長之ヲ召集ス

評議員ノ三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及其ノ召集ノ理由ヲ示シ評議員會ヲ召集ヲ請求シタルトキハ組長ハ之ヲ召集スヘシ

前項ノ場合ニ於テ組長一週間内ニ評議員會ヲ召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ召集スルコトヲ得

第二十六條 第十九條乃至第二十條ノ二ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第二十七條 組合會、總會及評議員會ノ議長ハ決議録ヲ作り左ノ事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ記名捺印スヘシ

一 開會ノ日時及場所

二 代議員若ハ評議員ノ定數又ハ組合員ノ數

三 出席者ノ員數

四 議事ノ要領

五 議決シタル事項

六 贊否ノ數

第二十八條 組合ノ役員及検査員選任ノ認可申請書ニハ履歴書ヲ添付スヘシ

第二十九條 組合ノ検査員ノ資格、選任、解任及給與ニ關スル規定ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十條 組合ノ検査員ノ服務ニ關スル規程中ニハ服務規律及懲戒ニ關スル規定ヲ設クヘシ

組合ノ検査員ノ職務ヲ停止シ又ハ給與ヲ減額セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 組合ノ役員及検査員ノ解任認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十二條 組合ノ事業年度ハ一年トス

第三十三條 組合經費ノ豫算及徴收法ノ認可申請ハ事業年度二月前ニ、經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後三月内ニ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 組合ニ於テ定款ノ施行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第三十六條 組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ組合會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 清算人ハ其ノ氏名住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條 清算人ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第三十九條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四十條 聯合會ヲ設置若ハ解散シ之ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退スルニハ組合會ノ決議ニ依ルヘシ

前項ノ決議ハ代議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

脱退ニ關スル組合會ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

スルモノ及其ノ他ノ蠶絲業組合ニ付テハ打合ヲ要セス此ノ場合ニ於テハ設置認可申請書進達ノ際左記事項ヲ報告スルコト

特別ノ事情アルモノヲ除クノ外組合地區内ニ於ケル各品種一年ノ生産、製造又ハ販賣額三十萬圓ニ滿タサル場合ハ發起認可ヲ爲ササルコト

(一) 組合ノ豫定地區

(二) 組合員タルヘキ者ノ營業ノ種類

(三) 同業者ノ員數但シ營業毎ニ區別スルコト

(四) 豫定地區内ニ於ケル物産ノ最近三年間ニ於ケル毎年ノ生産、製造又ハ販賣ノ數量價額並主ナル販路及其ノ各地ヘ仕向ケタル數量價額

(五) 豫定地區内ニ於ケル地方經濟上重要ノ程度

(六) 組合ノ設置ヲ必要トスル理由現ニ營業上ノ弊害アルモノニ在リテハ其ノ事實及之ヲ矯正スヘキ方法

(七) 營業ノ概目

(八) 營業品ノ検査ヲ行ハムトスルモノニ在リテハ其ノ検査ノ方法、検査員ノ數及之ニ要スル費用ノ概算

(九) 創立費及經費ノ概算並收入ノ財源

(十) 發起人タルヘキ者ノ員數、營業ノ種類及其ノ主ナル者、同業者間ニ於ケル地位、經歷並性行ノ概要

第二 設置認可申請ニ關スル事項

一 設置認可申請書ニ添附スヘキ書類中法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書類ニハ組合員タルヘキ者ノ總數並同意ヲ表示シタル者ノ數ヲ記載シ當該行政廳ノ證明ヲ得タルモノヲ添附スルコト

二 同意表示書ノ正本ヲ添附スル場合ニ於テハ同意ヲ表示シタル者ノ數ニ付テハ行政廳ノ證明ヲ要セサルコト

同業組合定款ノ規定ニ付テハ左記事項ニ注意スルコト

一 組合員ハ地區内ニ於テ營業ヲ爲ス限リハ脱退スルコトヲ得ヘキモノニアラサルヲ以テ組合員カ單ニ住所ヲ地區外ニ移轉シタルノ事實ヲ以テ脱退ノ理由トナスヲ得ス故ニ住所ノ如何ニ依リテ組合員タルノ資格ヲ定ムル規定ヲ爲ササルコト

二 新加入者カ組合ノ從來ノ施設ニ付利益ヲ受クル場合ニ於テ加入金等ノ名義ヲ以テ特別ノ負擔ニ任セシムルハ不可ナク又組合カ組合員ノ行爲ニ依リ責任ヲ負フヘキ規定ヲ有スル場合ニ於テ信託金ヲ納入セシムルハ不可ナシト雖加入ノ要件トシテ過重ノ負擔ニ任セシムルカ如キハ法律ニ於テ加入義務ヲ負ハシメタル趣旨ニ對シ妥當ナラサルニ依リ其ノ金額及其ノ納期等ニ付慎重ノ注意ヲ爲スコト

三 外國貿易上ニ於ケル賣崩ノ弊ヲ防クタメ必要ナル場合ノ外商品ノ價格ヲ組合ニ於テ定ムル規定ヲ設ケシメサルコト

四 極メテ特別ノ事情アル場合ノ外口錢、手数料又ハ賃金等ヲ組合ニ於テ定ムル規定ヲ設ケシメサルコト

五 違約者ニ對シテ爲ス商取引ノ停止ハ其ノ事由ヲ具體的ニ規定セシメ且其ノ停止ノ最長期間ヲ規定セシムルヲ要ス若シ期間ヲ定メ難キモノニ在リテハ事故ノ止ミタルトキ又ハ評議員會又ハ役員會ニ於テ改換ノ狀アリト認ムルトキハ之ヲ解除スヘキ規定ヲ設ケシムルコト

六 組合員ノ使用スル職工又ハ雇人ヲシテ直接ニ組合ニ對スル義務ヲ負ハシムル規定ヲ設ケルハ定款ヲ以テ組合員外ノ者ヲ羈束セムトスルモノナルニ依リ不可ナルコト

七 既ニ解雇セラレタル職工又ハ雇人ト雖前雇主ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ他ノ組合員ハ之ヲ使用スルコトヲ得サル旨ヲ規定シ之ニ違背シタル者ヲ違約處分ニ附セムトスルカ如キ規定ヲ設ケシメサルコト

八 組合員ニ對シ職工又ハ雇人ノ使用ヲ停止セシメントスルトキハ其ノ事由ヲ具體的ニ規定シ且相當ノ停止期間ヲ定メシムルヲ要ス若シ其ノ期間ヲ定メ難キ場合ニ於テハ事故ノ止ミタルトキ又ハ改換ノ狀アリト認ムルトキハ之ヲ解除スヘキ規定ヲ設ケシムルコト

九 副組長又ハ評議員ヲシテ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌セシメムトスル組合ニ對シテハ分掌セシムヘキ事務ノ種類ヲ定款中ニ明記セシムルコト

九ノ二 會計役ヲ置ク組合ニ於テハ其ノ會計役ハ評議員ヲ兼スルコトヲ得サル旨ノ規定ヲ設ケシムルコト (大正六年二月二十日)

九ノ三 組長及副組長ト代議員ヲ兼ネシムル規定ヲ設ケシメサルコト (商第一六九七七號次官通牒追加)

一〇 仲裁判斷ニ付テハ當事者雙方ノ請求ニ依リ評議員會若ハ役員會ノ決議又ハ評議員若ハ役員會ニ於テ選定シタル委員之ヲ行フヘキ旨ノ規定ヲ設ケシムルコト

一一 組合ニ對シテ不正ノ行爲アル役員ノ解任ヲ總會又ハ組合會ニ於テ決議セムトスル場合ニ在リテハ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テスル等其決議ヲ慎重ナラシムル規定ヲ設ケシムルコト

一二 役員ノ職務懈怠等ニ對シ違約處分ヲ爲サムトスルカ如キ規定ヲ設ケシメサルヲ可トスルコト

一ノ二 組合會ヲ置ク組合ニ於テハ總會ノ制ヲ設ケサルコト (大正六年六月八日)

一ノ三 單ニ會議ノ議長ハ組長ヲ以テ之ニ充ツ決議ハ過半數ノ同意ニ依リ可同數ナルトキハ議長之ヲ決ストノ規定ヲナシ何等例外規定ヲ設ケサルトキハ業務成績及經費決算報告ノ認定等自ラ執行シタル事項ノ認否自ラ決スル場合アルヘク不條理ニ陥ルヲ以テ相當例外規定ヲ設ケシムルコト

一ノ四 評議員會ノ議長ハ評議員中ヨリ互選セシムル旨ノ規定ヲ設ケシムルコト (大正六年二月二十日)

一ノ五 不正行爲、信用ヲ害スル行爲、組合ノ目的ヲ防クル行爲又ハ定款、諸規則若ハ組合會又ハ總會ノ決議ニ反スル行爲等ノ如キ漠然タル規定ノ違反ニ對シ違約處分ヲ爲サムトスルハ不可ナルヲ以テ違約事項ハ具體的ニ之ヲ規定セシムルコト但シ之ヲ具體的ニ規定スルコトノ困難ナル事項ニ付テハ抽象的ニ規定シ之ニ違反シタル者ヲ違約處分ニ付スル場合ハ評議員會ニ於テ議決スル旨ノ規定ヲ設ケルハ差支ナシ (商第一六九七七號次官通牒追加)

一ノ六 營業品ノ検査ヲ行ヒ検査證ヲ付スヘキ規定ヲ設ケタル場合ニ於テハ如何ナルモノヲ合格品トナシ如何ナルモノヲ不合格品ト爲スヘキヤノ標準ハ明確ニ之ヲ規定セシムルコト

一ノ七 組合ニ於テ検査ヲ爲シ合格又ハ不合格ヲ示ス證印ヲ押捺スル場合ニ於テハ官立又ハ公立ノ検査所ニ於テ使用スル證印ト判然區別シ得ル證印ヲ使用セシムルコト

一ノ八 二 検査規定 (但シ施行細則ヲ除ク) ハ定款中ニ規